

郷クボタ遺跡 2

2014

石川県野々市市教育委員会

郷^{ごう}クボタ遺跡 2

2014

石川県野々市市教育委員会



A区 西側全景（上空から）



A区 東側全景（上空から）



B区 全景（上空から）



C区 全景（上空から）



D区 北側全景（上空から）



D区 南側・F区 全景（上空から）



E区 全景（上空から）



郷クボタ遺跡 遠景（南西から）

例 言

- 1 本書は、郷クボタ遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は、石川県野々市市郷町地内である。
- 3 調査原因は、野々市市北西部土地区画整理事業にともなうものである。
- 4 調査は、野々市市北西部土地区画整理組合からの依頼を受けて野々市市教育委員会が実施した。
- 5 調査にかかる費用は、野々市市北西部土地区画整理組合と野々市市が負担した。
- 6 現地調査の年度・期間・面積・担当者は以下のとおりである。

平成 18 年度 第 2 次

期 間 平成 18 年 10 月 2 日～平成 19 年 1 月 12 日
面 積 2,249㎡
担当者 徳野裕子 野々市町教育委員会文化振興課職員

平成 19 年度 第 3 次

期 間 平成 19 年 8 月 21 日～平成 19 年 9 月 26 日
面 積 662㎡
担当者 横山貴広 野々市町教育委員会文化振興課職員

平成 20 年度 第 5 次

期 間 平成 20 年 9 月 16 日～平成 21 年 2 月 5 日
面 積 2,132㎡
担当者 横山貴広

平成 23 年度 第 8 次

期 間 平成 23 年 11 月 15 日～平成 23 年 12 月 21 日
面 積 452㎡
担当者 徳野裕子

- 7 報告書の刊行は平成 25 年度に野々市市教育委員会文化振興課が実施した。担当及び執筆・編集は田村昌宏（野々市市教育委員会文化振興課職員）、執筆・編集補助を多間聖（野々市市教育委員会文化振興課職員）、編集補助・遺物写真撮影・レイアウトは菊地由里子（野々市市教育委員会臨時職員）が行った。
- 8 本書についての凡例は以下のとおりである。
 - (1) 方位は座標北を指し、座標は国土交通省告示の平面直角座標第Ⅶ系に準拠している。
 - (2) 水平基準は海拔高であり、T. P.（東京湾平均海面標高）による。
 - (3) 出土遺物番号は、本文・観察表・挿図・写真に対応する。
 - (4) 挿図の縮尺は図に示すとおりである。また、写真図版における遺物の縮尺は統一していない。
 - (5) 土層図の注記は、農林水産省農林水産技術会事務局・財団法人 日本色彩研究所監修『新版標準土色帖』に拠った。
 - (6) 遺構名称の略号は以下のとおりである。
掘立柱建物・布掘建物：S B 溝：S D 竪穴建物、竪穴状遺構：S I
土坑：S K 小穴：P 性格不明遺構：S X
- 9 調査に関する記録と出土遺物は、野々市市教育委員会が一括して保管・管理している。

目 次

第1章	調査の経過	1
	第1節 調査に至る経緯	1
	第2節 発掘作業の経過	1
第2章	遺跡の位置と環境	4
	第1節 地理的環境	4
	第2節 歴史的環境	4
第3章	調査の方法と成果	8
	第1節 調査区の設定	8
	第2節 調査の方法	8
	第3節 層序	8
	第4節 遺構	9
	第5節 遺物	121
第4章	総括	153
	遺物観察表	155
	写真図版	

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

本書収録の郷クボタ遺跡が所在する野々市市北西部地域は、整然とした水田が広がる農業振興地域であった。しかし、近年における周辺地域の都市化に伴い、本地域も住生活環境の変化が必要となり宅地化の促進が図られることになった。そこで、平成11年に野々市町北西部土地区画整理事業が施行されることが決定した。

北西部土地区画整理施行区域65.4ha内には、埋蔵文化財の存在する可能性があり、詳細な確認調査を行う必要が生じた。そこで、平成11年8月25日付で野々市町産業建設部長から野々市町教育委員会教育長宛に土地区画整理事業区域内の埋蔵文化財の分布調査についての依頼が出され、同年8月31日付けで同区域での分布調査を行う旨の回答をした。これに基づき、北西部土地区画整理施行区域内に試掘坑352箇所を設定し、宅地化など掘削作業できない箇所を除いた337箇所を、同年9月27日～10月19日にかけて試掘調査を実施した。その結果、以前より存在が確認されていた二日市イシバチ遺跡の南側の範囲が確定したほか、新たに、三日市ヒガシタンボ遺跡、三日市A遺跡、郷クボタ遺跡、徳用クヤダ遺跡を発見した。

この結果から、野々市町北西部土地区画整理組合、野々市町都市計画課、野々市町教育委員会と協議を重ね、埋蔵文化財包蔵地のうち、道路等恒久化する工事箇所と、民有地内で十分な遺跡の保護層が確保できない箇所については、発掘調査を行うことで合意した。平成12年4月13日付けで、野々市町と野々市町北西部土地区画整理組合との間で野々市町北西部土地区画整理事業地区内埋蔵文化財に関する協定書が交わされた。

二日市イシバチ遺跡、三日市ヒガシタンボ遺跡、三日市A遺跡、郷クボタ遺跡、徳用クヤダ遺跡に関する文化財保護法第57条の3に基づく届出については、北西部土地区画整理組合から文化庁長官宛に提出されたものを、平成12年3月29日付けで野々市町教育委員会教育長から石川県教育委員会教育長宛に進達した。これを受けて、同年3月30日付けで石川県教育委員会教育長から野々市町教育委員会教育長宛に埋蔵文化財発掘調査の届出に関する通知がなされた。

以上の手続きを終えて、平成13年度より上記5遺跡の発掘調査が開始された。

第2節 発掘作業の経過

第2次（平成18年度調査）

第2次発掘調査は、土地区画整理地区内の区画道路工事、及び民有地内で十分な遺跡の保護層が確保できない箇所に伴う箇所の調査である。

平成18年4月3日、野々市町北西部土地区画整理組合（当時 以下、北西部組合と呼称する。）から野々市町（当時）に当該地域における発掘調査の依頼があった。同月同日、野々市町は本開発予定地における埋蔵文化財発掘調査の実施計画書を北西部組合に提出し、その計画書に基づいて、野々市町と北西部組合との間で委託契約を締結した。野々市町教育委員会は、同年9月26日に文化財保護法第99条1項に基づく発掘調査報告を石川県教育委員会に提出して、本格的な調査に取り掛かった。発掘調査は10月2日より始め、翌平成19年1月12日に完了した。

第3次（平成19年度調査）

第3次発掘調査は、土地区画整理地区内を流水する郷用水の河川水路工事事業に伴う仮設水路の設置を調査原因とする。

野々市町教育委員会は、平成19年8月10日に文化財保護法第99条1項に基づく発掘調査報告を石川県教育委員会に提出して、調査に取り掛かった。

発掘調査は8月21日より開始し、9月26日に完了した。

第5次（平成20年度調査）

第5次発掘調査は、土地区画整理地区内の民有地内で、十分な遺跡の保護層が確保できない箇所での調査である。

平成20年4月1日、北西部組合から野々市町に当該地域における発掘調査の依頼があった。同月同

日、野々市町は本開発予定地における埋蔵文化財発掘調査の実施計画書を北西部組合に提出し、その計画書に基づいて、野々市町と北西部組合との間で委託契約を締結した。野々市町教育委員会は、同月同日に文化財保護法第99条1項に基づく発掘調査報告を石川県教育委員会に提出して、調査の準備に取り掛かった。

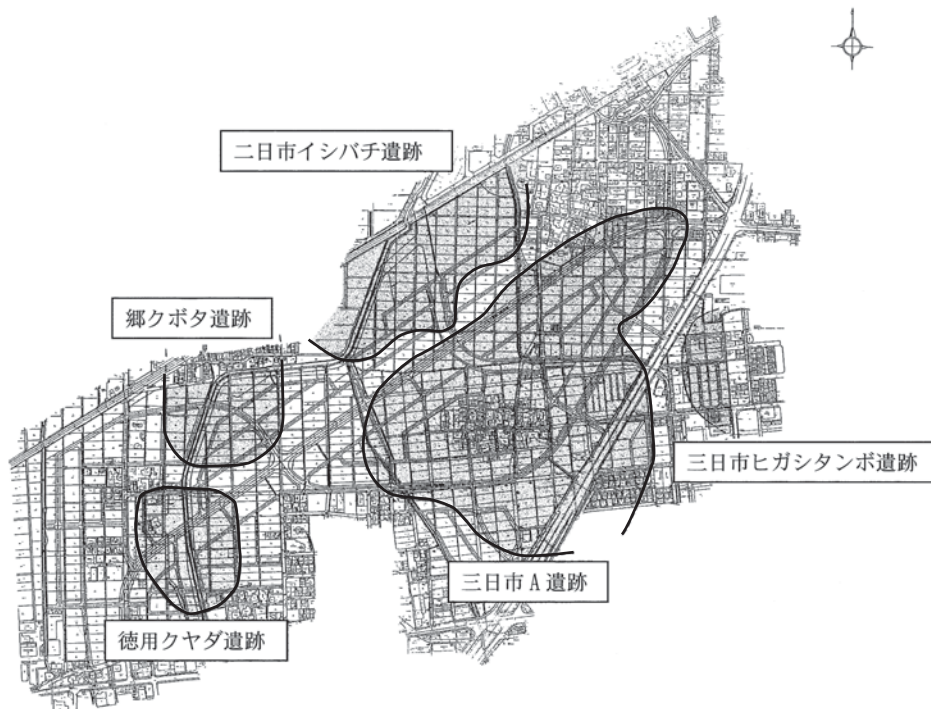
発掘調査は9月16日より始め、翌平成21年2月5日に完了した。

第8次調査（平成23年度調査）

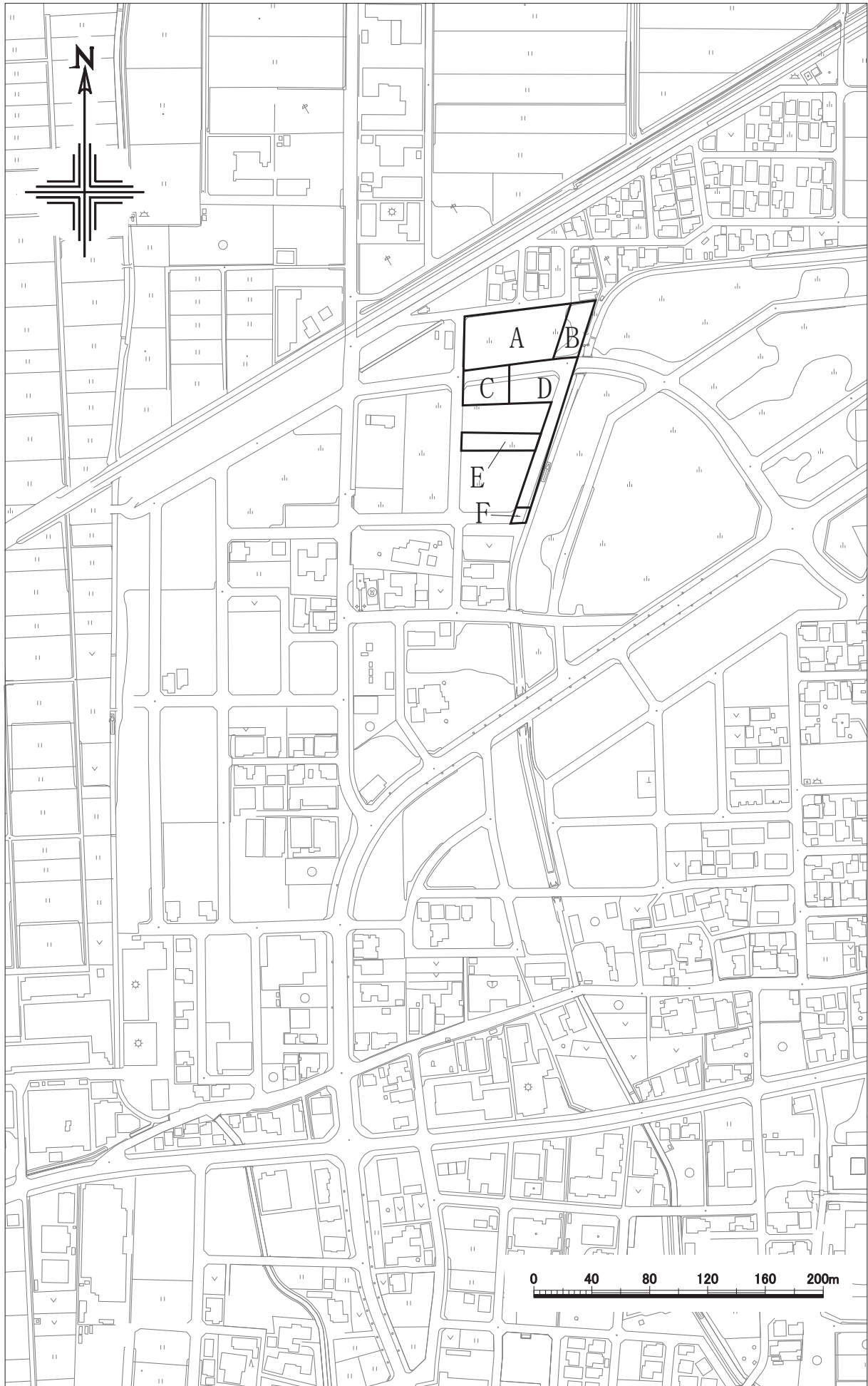
第8次発掘調査は、土地区画整理地区内の区画道路工事に伴う調査である。

平成23年11月11日、北西部組合から野々市市に当該地域における発掘調査の依頼があった。同月15日、野々市市は本開発予定地における埋蔵文化財発掘調査の実施計画書を北西部組合に提出し、その計画書に基づいて、野々市市と北西部組合との間で委託契約を締結した。野々市町教育委員会は、平成23年11月25日に文化財保護法第99条1項に基づく発掘調査報告を石川県教育委員会に提出して、本格的に調査に取り掛かった。

発掘調査は11月25日より開始し、12月21日に完了した。



第1図 北西部土地区画整理事業地区遺跡位置図



第2図 調査区位置図

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

野々市市は石川県のほぼ中央、石川平野の要地に位置する。市の大きさは南北約6.7 km、東西4.5 kmで、県内で最も面積の小さい自治体である。市域は霊峰白山を源とする県下第一級河川手取川によって形成された手取川扇状地の北東部にあたり、扇央部と扇端部の狭間に位置する。本市で最も高い標高地は50 m、最も低い地点は10 mで、なだらかな緩斜面となる地勢をみせている。

現在の野々市市は平坦な地形が広がっているが、従前は手取川から派生する多くの小河川によって形成された微高地と微低地が混在する地形であった。野々市で人々の生活が認められるのは縄文時代後期前半からで、集落の拠点は標高の高い微高地であった。この時代は扇状地の大部分が未開の原野で、ススキや低木が生い茂る荒地であったようである。その後、稲作の伝わる弥生時代から石川平野の中で水田耕作が営まれるようになり、土地の開墾が始まっていった。古代以降、農耕具の発達などにより凸凹の多い土地は次々と開発されていき、未開発地は耕作地として生まれ変わっていった。明治時代以降は、田区改正による耕地整理が各地で急速に広がり、市内全域は起伏のない平坦な地形へと移り変わり、水田区画は碁盤目のように整然となった。このような、大きく広がった田園風景は昭和30年代ころまで見られた。

しかし、昭和40年代の高度経済成長期以降は、県庁所在地金沢市の隣接地という地理的条件から、住宅地や商業施設の建設などが著しくなり、急速に水田風景は失われていった。特に、北部の御経塚地区や南部の三納・栗田・新庄地区は区画整理事業が進み、住宅地として生まれ変わっていった。今回、発掘調査箇所となる市域北西部地区も区画整理事業の一貫として行われており、周辺地は大きな変貌を遂げてきている。また、市内の東部には金沢工業大学、南部には石川県立大学といった教育機関が置かれ、野々市市は、若者が多く集う学園都市としての性格も持ち合わせている。

今回の発掘調査地である郷クボタ遺跡は、標高約17 mで、手取川から派生する小河川によって形成された微高地上に立地する。ただし、市域上流部と比較して、大きな川原石の堆積は少なく、微低地との高低差も大差ないことから、当時の生活拠点の場としては、適した地であったと思われる。



第3図 野々市市位置図

第2節 歴史的環境

郷クボタ遺跡周辺に点在する遺跡を、時代別に概観する。

縄文時代

本遺跡より北東方約1.5 km離れたところには国指定史跡となっている6御経塚遺跡が所在する。御経塚遺跡は、縄文時代後期中葉～弥生時代初頭にかけて営まれた地域における拠点集落である。当遺跡で発見された御経塚式土器は縄文時代晩期前半の基準資料となる。御経塚遺跡の近隣には、縄文時代後期後半～晩期後半の1チカモリ遺跡や縄文時代後期後半～晩期後半の2中屋サワ遺跡といった集落遺跡が点在し、御経塚遺跡の拠点集落を中心に展開した出村的な集落であったようである。これらの遺跡は標高6～10 mに立地し、扇状地を伏流する地下水の湧水域であった。また、当時の生活に必要な落葉広葉樹と照葉樹が混在する豊かな林野が大きく広がっていた場所でもあったことから、この地帯は当時の人々にとって生活環境に最適な場であったようである。

本遺跡より南東約2 kmのところには、縄文時代晩期の17長竹遺跡がある。長竹遺跡は縄文晩期後半の基準資料となる土器が出土した遺跡で、水田稲作農耕が西日本に波及した極めて重要な時期である。なお、12三日市A遺跡及び御経塚遺跡からは、当該時期の稲籾の圧痕のついた土器が出土している。

弥生時代

手取川扇状地一帯における弥生時代の遺跡分布を見ると、前期～中期にかけては極めて少なく、後期に数多く存在する。御経塚遺跡（ツカダ地区）、15 乾遺跡からは、柴山出村式と呼ばれる弥生時代前期の土器が確認されているが、この時期は弥生文化の波及が十分ではなく、まだ縄文文化の影響が強く残っていたようである。

弥生時代後期になると、鉄器の普及などを要因とする生産力の向上から人口が増え、それに伴い手取川扇状地一帯にも集落が展開するようになる。本遺跡をはじめ、周辺にある 5 御経塚シンデン遺跡、御経塚遺跡、7 長池ニシタンボ遺跡、9 二日市イシバチ遺跡、三日市 A 遺跡、13 三日市ヒガシタンボ遺跡、14 徳丸ジョウジャダ遺跡などからは、竪穴建物や掘立柱建物などで構成される集落跡が見つまっている。これは、農耕社会が急速に広がったことから、安定した農耕地の確保が必要となったため、広範にわたってムラが形成していったと考えられる。

古墳時代

古墳時代前半については、本遺跡で、弥生時代後期からの流れを汲む集落跡を確認することができるが、扇状地上での集落数は激減し、一旦収束傾向となる。ただし、本遺跡より北方 1 km にある御経塚シンデン遺跡・御経塚シンデン古墳群では、弥生集落廃絶後に 15 基の前方後方墳、方墳からなる大古墳群を造立している。また、本遺跡に隣接する二日市イシバチ遺跡の一角からも、一辺約 18 m の規模を中心とした大小の方墳 7 基を確認しており、各地域を治める首長層の存在を伺い知ることができる。

古墳時代後半になると、本遺跡から南方約 4 km の市上流域の扇状地扇央部で末松古墳や上林古墳など後期古墳が築かれるようになる。これは河川上流域における開発が広がり始めていったことを意味する。

古代

7 世紀後半には、手取川扇状地扇央部に、県内最古の古代寺院である末松廃寺が建立される。末松廃寺は、東に塔、西に金堂が置かれた法起寺式の伽藍配置をもち、この寺院建立以降、市内南部地域を含む手取川扇状地扇央部一帯で耕作地開発が急速に進み、特に 8 世紀後半以降は 18 三納アラミヤ遺跡をはじめとする周辺各地に集落が増大していく。扇状地扇端部には、初期荘園の遺跡である 3 横江荘々家跡、4 上荒屋遺跡が所在する。また、三日市 A 遺跡からは、9 世紀頃に成立した古代の官道である北陸道の跡が見つかり、上記荘園遺跡との関係が指摘されている。

中世

11 世紀後半～12 世紀頃から、在地領主層の武士団の形成が図られるようになった。地元武士団である林氏や富樫氏は、手取川扇状地での新開発や再開発に大きな影響を与えた。ただし、市内において現在のところ中世前半にかけての遺跡はあまり多く確認されていない。中世の遺跡が多く認められるようになるのは、富樫氏が加賀国の守護職に任じられ、野市に守護所を置く 14 世紀頃からである。本遺跡をはじめ、近隣の三日市 A 遺跡や郷クボタ遺跡、中屋サワ遺跡では、溝で囲まれた中に建物などが配置される散居村のような景観が広がる集落が認められる。また、本遺跡南東方 1.5 km にある 16 堀内館跡では、幅 1.5 m、深さ 1 m ほどの大きな堀で囲まれた屋敷地の跡も確認されている。15 世紀以降になると、三日市 A 遺跡、8 長池キタノハシ遺跡、11 徳用クヤダ遺跡では、掘立柱建物、竪穴状遺構などの主要遺構が密集した村落形態を示し、14 世紀頃までみられた散村から集村へと大きく変わる様相となる。

近世

現在見ることのできる集落は、近世に成立したと考えられる。御経塚集落内（御経塚遺跡デト地区）や郷町集落（徳用クヤダ遺跡）隣接地での発掘調査でも、近世の遺構・遺物を発見している。また、乾遺跡や、三日市 A 遺跡からは、近世前半の墓地跡を確認している。



第4図 遺跡の位置と周辺の遺跡 (1/20000)

第1表 野々市市と周辺の遺跡

番号	遺跡名	種別	時代
1	チカモリ遺跡	集落跡	縄文
2	中屋サワ遺跡	集落跡	縄文～中世
3	横江荘々家跡	荘園	古代
4	上荒屋遺跡	集落跡 荘園跡	縄文～中世
5	御経塚シンデン遺跡 御経塚シンデン古墳群	集落跡 古墳	弥生～中世
6	御経塚遺跡	集落跡	縄文～中世
7	長池ニシタンボ遺跡	集落跡	弥生
8	長池キタノハシ遺跡	集落跡	中世
9	二日市イシバチ遺跡	集落跡	縄文 弥生 中世
10	郷クボタ遺跡	集落跡	弥生 古代 中世
11	徳用クヤダ遺跡	集落跡	古代 中世
12	三日市A遺跡	集落跡	弥生 古代 中世
13	三日市ヒガシタンボ遺跡	集落跡	弥生 古代 中世
14	徳丸ジョウジャダ遺跡	集落跡	弥生 古代
15	乾遺跡	墓地・集落跡	縄文～近世
16	堀内館跡	館跡	中世
17	長竹遺跡	墓地・散布地	縄文～古墳
18	三納アラミヤ遺跡	集落跡	古代 中世

第3章 調査の方法と成果

第1節 調査区の設定

本調査区は、平成18～20・23年度と年を跨いで発掘調査を実施している。また、調査区域内には既設農業用道路や耕作地や排水用の生活用水が縦断している。これらの箇所については、発掘調査の対象から外したことから、調査区域内に小区画が設定されることとなった。本報告では、小区画毎にアルファベットA～Fの区名を設けて、その呼称を使用して遺跡の概要を紹介する。

第2節 調査の方法

現地調査は、大型掘削機による表土の除去作業からはじめた。重機による掘削は、遺構面直上までとした。重機掘削完了後、人力による作業を実施した。人力による作業は、鋤簾鍬などの道具で遺構面の検出を行い、その後、移植ゴテなどで遺構を掘削していく。遺構検出及び遺構掘削の作業の中で、遺跡の様相を把握するため、写真撮影や、遺構平面図・断面図などの作成を同時に行っていた。記録を完了した遺構については、順次完掘していった。調査区内の遺構完掘後は、清掃作業を行ってから、空中写真測量及び完掘状態の個別遺構の写真を撮影して調査を完了していった。

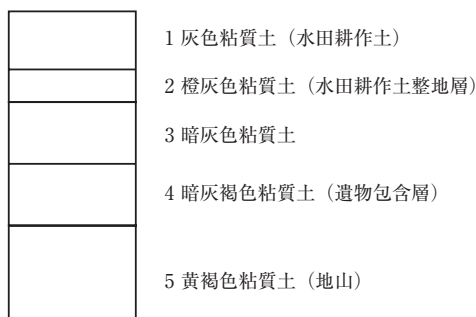
整理作業については、野々市市ふるさと歴史館内にある調査整理室で実施した。作業手順は、出土した遺物を水で洗浄し乾燥させ、乾燥した遺物に遺跡名や出土した地点などを注記した。注記後、一部の遺物を実測し、この遺物実測図や現地で表記した遺構実測図を製図トレースした。

これらの作業完了後、遺物の写真を撮影し、調査担当者が原稿執筆、図面・写真のレイアウト等を行い、報告書を刊行した。

第3節 層序

層序については、第5図の土層断面図を基に説明していく。

1の灰色粘質土は土地区画整理事業以前まで行われていた水田耕作土である。2の橙灰色粘質土は、これら耕作土の整地層にあたる。3の暗灰色粘質土は、近世から近代までの水田耕作土と考えられる。その下の4暗灰褐色粘質土は古代以前の遺物包含層にあたり、中世の遺構面にも相当すると思われる。その下にある5黄褐色粘質土は、古代より遡る時期の遺構面で、地山面となる。上記の土層は基本土層である。場所によっては、3暗灰色粘質土の中に間層が入り、水田耕作と考えられる土層が複数確認できる箇所がある。また、D区の中央部には、弥生時代以前の河川が走っていたことがわかっており、地山土は大きく変質する。



第5図 土層断面模式図

第4節 遺構

本調査では、竪穴建物跡、竪穴状遺構、掘立柱建物跡、布掘建物跡、土坑、溝、柵列などを確認した。以下、各個別遺構について個別に説明する。

① 竪穴建物 竪穴状遺構

《弥生時代》

S I 1 (第6・21 図)

B区中央部よりやや西寄りに位置する竪穴建物である。後述するS I 3とは切り合う状況をし、当該竪穴建物がS I 3に比べて古い。本竪穴建物は、S I 3や古代掘立柱建物S B 15との切り合い、かつ、検出面から竪穴床面までが最深部で10 cm余りと極めて浅く、南側では竪穴掘り方を検出することはできなかったため、プランを特定することは難しいが、柱穴が5基認められることから五角形と推測する。竪穴の規模は、南北が推定4.8 m、東西が5.5 mで、北東隅には幅約15 cm、深さ床面から5 cm程度の周溝が存在する。床面上には硬化面を確認することはできなかった。柱穴は前述のとおり5基(第21 図ア～オ)認められる。北西隅の柱穴オはS I 3に切られているため、基底部のみの検出である。柱穴のプランは略円形及び略方形で、一辺30～50 cm、深さ竪穴床面から22～28 cmを測る。また、竪穴中央部にもピット1基(第21 図カ)を検出している。略円形をしており、直径約45 cm、深さ床面から約20 cmを測る。

S I 2 (第7・22・23 図)

D区北西部に位置する竪穴建物である。前述したS I 1と同様、検出面から竪穴床面までが最深部で10 cm余りと極めて浅く、北東側では竪穴掘り方を検出することができなかった。プランについては特定するまでには至らないが、六角形か八角形と推測する。竪穴の規模は、南北が推定8.0 m、東西が約8.0 mで、竪穴外周の東側の一部と西側には幅25～30 cm、深さ床面から10 cm前後の周溝が巡る。床面上では硬化面を確認することはできなかった。竪穴内には複数の穴が掘り込まれており、どの箇所が柱穴にあたるか定まりにくい、穴の位置や深さ等から9基を柱穴とした。(第22 図ア～ケ)柱穴のプランは略円形を基本とするが、エとケは、別の穴が近接しているためか、形状は不定形である。エとケ以外の柱穴の規模は直径40～70 cm、深さは竪穴床面から27～37 cmを測る。エとケは長径70～100 cm、深さはエが38 cm、ケが63 cmである。また、竪穴中央部にはピット1基を検出している。(第22 図コ)略円形をしており、直径約75 cm、深さ床面から約40 cmを測る。

S I 3 (第6・21 図)

B区中央部よりやや西寄りに位置する竪穴建物で、先述のS I 1と切り合っており、本竪穴がS I 1に比べて新しい。プランは北東-南西が長い隅丸長方形をしている。規模は北西-南東方向で約2.0 m、北東-南西方向で約2.5 m、深さは30 cm前後である。床面は硬化されていない。内部には円形・不定形な穴が存在するが、柱穴になるようなものはない。南西側壁際は土坑状の穴が1基掘られている。長径78 cm、短径58 cm、床面からの深さ約40 cmを測る。方位はN 35° Eである。

《中世》

S I 4 (第6・24 図)

A区南西隅に位置する竪穴状遺構である。後述のS B 18・19と接しているが、各遺構の位置関係や方位などから同時期には併存しないと思われる。遺構の形状は、北東-南西に長い隅丸長方形であるが、北側は突起状に突き出していることで、不定形に見える。複数の遺構が切り合っていたかもしれない。規模は北東-南西が約4.3 m、北西-南東で約2.2 m、深さは35～60 cmである。覆土は複数の土がレンズ状に堆積する。灰色系の粘質土が主体である。方位はN 17° Eである。

S I 5 (第8・24 図)

E区西端に位置する竪穴状遺構である。後述するS B 36～39の南隣に位置する。遺構は、南北に長い長方形プランと思われるが、他の土坑状遺構やピット状遺構が切り合っているため、原型の詳細

な様相はよくわからない。規模は、計測可能な箇所、南北約 2.1 m、東西約 1.3 m、深さは 15 cm 前後である。他の遺構の規模を併せると、南北約 2.6 m、東西約 1.9 m となる。覆土は黄色ブロック土混じり褐灰色粘質土を主体に自然堆積している。方位は N 15° E である。

S I 6 (第 8・25 図)

E 区西側に位置する竪穴状遺構である。後述する掘立柱建物 S B 37～39 内に接している。遺構は方形プランであるが、土層断面の観察から 2 回の建替えが認められ、その影響で不定形な形状をしている。規模は南北が約 3.05 m、東西で約 2.5 m、深さは 25～50 cm を測る。覆土は褐灰色粘質土が主体である。柱穴の配置関係などから、S I 37・39 とは併設していたかもしれない。また、本遺構からは、炉縁石 (397) や銅製錫杖 (450) などが廃棄したと思われる状態で出土している。

S I 7 (第 8・25 図)

E 区西側に位置する竪穴状遺構である。後述する掘立柱建物 S B 38 に接しているが、同時併存はしていなかったと思われる。プランは方形と考えられるが、複数のピット状遺構が本遺構内に掘削しているため、詳細な形状は不明である。規模は南北で約 2.6 m、東西で約 2.2 m、深さは 20 cm 前後である。覆土は褐灰色粘質土が主体で、レンズ状に堆積している。

S I 8 (第 8・26 図)

E 区西側に位置する竪穴状遺構である。また、前述の S I 7 の北東隣に位置する。形状は南北に長い長方形プランである。規模は、南北が約 2.7 m、東西が約 1.8 m、深さは 30 cm 前後である。本遺構の南面から南方向に幅約 30 cm、深さ約 5 cm の溝が走っている。北面では見つかっていないため、本遺構に対する排水溝にあたるかもしれない。覆土は褐灰色粘質土が主体で、複数の土がレンズ状に堆積している。方位は N 15° E を測る。方位と配置関係から、西側に隣接する S B 37～39 の掘立柱建物と併設した関係にあるかもしれない。

S I 9 (第 8・26 図)

E 区東側に位置する竪穴状遺構である。また、後述する S B 41～43 の掘立柱建物に隣接する。遺構は隅丸方形のプランで、規模は南北に約 1.9 m、東西に約 1.8 m とほぼ正方形の形状を呈する。深さは 30 cm 前後である。覆土は灰黄褐色土混じり褐灰色粘質土と黄色ブロック土混じり灰色粘質土の 2 層が自然堆積した状態で埋まっている。方位は N 13° E である。なお、方位と設置箇所の関係から、西側に隣接する S B 41 とセット関係になると考えられる。

S I 10 (第 8・27 図)

E 区東側に位置する竪穴状遺構である。前述の S I 9 の東隣に位置し、後述する S I 11・12 及び S D 22 とは切り合っている。土層断面から、本遺構は S I 11、S D 22 よりも新しく、S I 11 に比べて古いことが判明している。(S D 22→S I 11→S I 10→S I 11) 遺構は南北に長い略長方形プランで、規模は南北が推定約 4.8 m、東西が約 2.8 m、深さは 35 cm 前後を測る。覆土は黄色ブロック土混じり褐灰色粘質土の 1 層であることから、人為的に埋めた可能性がある。方位は N 13° E である。周辺にある掘立柱建物との関係はわからない。

S I 11 (第 8・27 図)

E 区東側に位置する竪穴状遺構である。前述の S I 10 や S D 22 とは切り合っており、覆土や土層堆積の状況から、本遺構の方が新しいことが分かっている。遺構は隅丸方形プランであるが、南側は調査区外へ延びるため詳細な状況はわからない。規模は南北が 1.7 m 以上、東西が約 2.6 m、深さは 20 cm 前後を測る。覆土は黒褐色粘質土の 1 層であることから、人為的に埋めた可能性がある。方位は N 13° E である。周辺に所在する掘立柱建物との関係はわからない。

S I 12 (第 8・27 図)

E 区東側に位置する竪穴状遺構である。先述の S I 10 の東隣に切り合っており、土層断面から本遺

構の方が古いことがわかっている。遺構は南北がやや長い隅丸長方形プランで、規模は南北が約 2.0 m、東西が約 1.6 m、深さが約 30 cm である。覆土は褐灰色粘質土が主体の 2 層分確認でき、下層の炭化物混じり褐灰色粘質土からは、人頭大の石が大量に入っていた。石は自然石ばかりであったが、被熱を受け炭が付着しているものも定量確認している。方位は N 2° E である。なお、方位と設置箇所の配置関係から、S B 43 とはセット関係になると考えられる。

S I 13 (第 7・28 図)

D 区中央部よりやや南側に位置する竪穴状遺構である。先述の S I 10～S I 12 の東方向に位置する。遺構の形状は南北に長い隅丸長方形プランである。西側の一部は調査区外へと延びるため詳細な様相はわからない。規模は、南北が約 2.3 m、東西が 1.5 m 以上、深さが 30 cm 前後である。方位は N 14° E である。また、設置箇所の配置関係などから、本遺構の南に隣接する S B 44 とセット関係になると考えられる。

S I 14 (第 7・28 図)

D 区中央部よりやや南側に位置する竪穴状遺構である。前述の S I 13 の東側に位置する。遺構の形状は東西に長い隅丸長方形プランであるが、南側にテラス状の遺構が隣接しているため、略円形のようなプランとなる。遺構の規模は南北が約 1.8 m、東西が約 2.8 m で、南側のテラス状遺構を含ると、南北は約 2.5 m を測る。深さは 30 cm 前後で、覆土は灰色系の粘質土が主体の複数の土が自然に堆積している。方位は N 20° E である。西方に所在する掘立柱建物との関係はわからない。ただし、本遺構西面から西方向に走る溝については密接な関係にあると考えられる。この溝は、長さが約 3 m、幅約 30 cm、深さ約 20 cm を測る。

S I 15 (第 7・29 図)

D 区南端に位置する竪穴状遺構である。前述の S I 14 の南方向に位置する。本遺構は複数の穴が掘り直されていることと、東側が調査区外へと延びることから、本来のプランを抽出することはできない。規模は、計測可能な箇所南北が 3.0～4.5 m、東西が 3.7 m 以上で、深さは 26～46 cm を測る。覆土は褐灰色及び灰色粘質土が主体の複数の土が錯綜して埋まっている。なお、第 29 図の土層断面図に示している本竪穴状遺構の西側の土層は旧河道の断面図にあたる。

② 掘立柱建物 布掘建物

《弥生時代》

S B 1 (第 9・30 図)

A 区北東端に位置する 3 間×1 間の布掘建物であり、弥生時代後期後半の遺構と考えられる。方位は N 47° W で、北東側の柱列には溝状遺構を抽出することはできなかった。古代の掘立柱建物 S B 11 の柱穴が S B 1 内に入り込んでいるため、後世の遺構により滅失したかもしれない。建物の規模は、桁行が 4.2 m、梁行が 4 m とほぼ正方形を呈する。面積は約 16.8㎡で、溝の幅は約 70 cm、深さは約 20 cm、柱穴の深さは 40～45 cm である。

S B 2 (第 9・31 図)

A 区南東端に位置する 2 間×1 間の布掘建物であり、先述の S B 1 の南方向に位置する。S B 1 と同じく弥生時代後期後半の遺構と考えられ、方位は W 5° N とほぼ東西方である。建物の規模は桁行が 4.3 m、梁行が 4.2 m とほぼ正方形を呈している。面積は約 18.06㎡で、溝の幅は 50 cm 前後、深さ 20～30 cm、柱穴の深さは 30～50 cm である。

《古代》

S B 3 (第 9・32 図)

A 区北西端に位置する掘立柱建物であり、古代の遺構と考えられる。建物は南北に長く、N 5° W を測る。S D 2 によって一部柱穴の確認できない箇所があるが、桁行は 5 間である、本調査では西側半分が調査区外となるが、平成 21 年度第 7 次調査において、西側半分を検出することができ、全体の様

相を確認することができた。建物の規模は、桁行 10.9 m、梁行 6.2 m、面積は約 67.58㎡である。柱穴は一部略円形のものがあるが、ほとんどが方形である。一辺 75～100 cm、深さは 55～65 cm である。柱穴内から須恵器片が見つまっている。

S B 4 (第 9・33 図)

A 区西側に位置する掘立柱建物である。S B 3 の東方に位置し、後述する S B 5・S B 6 と南北方向に列をなす配置となっている。建物は 3 間×1 間の南北棟で、一部の柱穴では 2 基の穴が切り合うよう接している箇所が見受けられるため、同じ箇所建て替えがあった可能性がある。方位は、N 8° W で、建物の規模は、南北の桁行が 7.4 m、東西の梁行が 5.2 m、面積は 38.48㎡を測る。柱穴は略方形が多く、一辺 60～80 cm、深さは 25～55 cm である。

S B 5 (第 9・34・35 図)

A 区西側に位置する南北を桁行とする掘立柱建物であり、先述の S B 4 の南隣に位置し、一部接する。建物は 4 間ないし 5 間×2 間で、規模は南北桁行が約 10 m、東西梁行が約 5.2 m、面積は約 52㎡である。方位は N 8° W と S B 4 と同方向である。規模は、S B 5 の方が S B 4 よりも大きい、梁行の長さや方位が同じであることから、両建物は同一機能を有したものと考えられる。ただし、前後関係はわからない。柱穴の形状は略方形が多く、一辺 50～80 cm、深さは 25～55 cm を測る。

S B 6 (第 9・36 図)

A 区西側に位置する掘立柱建物であり、先述の S B 5 の南隣に所在し、この S B 5 とは重なり合う。建物は 2 間×2 間で、規模は南北が長辺で約 5.2 m、東西が短辺で約 4.9 m とほぼ正方形である。面積は約 25.48㎡で、方位は N 8° W と S B 4 や S B 5 と同じである。柱穴は楕円形や略方形の形状をして、一辺 50～90 cm、深さは 30～35 cm を測る。

S B 7 (第 9・37 図)

A 区西側に位置する掘立柱建物であり、先述の S B 6 の東方に隣接する。建物は 2 間×1 間の南北棟で、方位は N 5° W である。建物規模は南北桁行約 8.1 m、東西梁行約 4.1 m、面積は約 33.21㎡である。柱穴は略円形が多く直径 50～110 cm、深さは 15～35 cm を測る。

S B 8 (第 9・38 図)

A 区北東側に位置する掘立柱建物であり、先述の弥生期の布掘建物 S B 1 の西隣に位置する。建物は南北棟で、方位は N 2° E である。建物北側は S D 2 に切られていることから全容は不明であるが、プランは 3 間以上×2 間で、計測可能な箇所では、南北桁行 8 m 以上、東西梁行 4.9 m を測る。柱穴の形状は略円形・略方形で、一辺 70～105 cm、深さ 20～50 cm である。

S B 9 (第 9・39 図)

A 区中央よりやや東寄りに所在する掘立柱建物であり、先述の S B 8 の南隣に位置する。建物は 3 間×1 間の南北棟で、N 2° W とほぼ真北に近い方位をとる。柱穴の掘り方は、東側桁行の方が大きいものに対して、西側桁行は極端に小さい。本建物の西方は弥生期に埋まったと思われる S D 6・7 の溝状遺構が存在し、地山土が基本土質と違うことから、柱穴掘り方を検出することができなかつたためかもしれない。柱穴計測は東側桁行の最も大きいものに限定する。形状は略円形で、直径 62～80 cm、深さは約 35 cm である。建物の規模は南北桁行約 7 m、東西梁行約 4.8 m、面積は約 33.6㎡を測る。

S B 10 (第 9・39 図)

A 区北東端に位置する掘立柱建物であり、先述の弥生期の布掘建物 S B 1 の東側に所在する。建物の北側の大半は S D 2 に切られるとともに調査区外に延びることもあり、全容は不明であるが南北棟と想定する。方位は N 3° W で、南北桁行 1 間以上、東西梁行 3 間、規模は南北桁行 3 m 以上、東西梁行約 5.4 m を測る。柱穴は略方形をしており、一辺 50～75 cm、深さ 30～50 cm を測る。

S B 11 (第9・40・41 図)

A区東側に所在する掘立柱建物であり、先述のS B 10の南隣に位置する。建物は4間×2間の南北棟で、方位はN 3° Wである。建物の規模は南北桁行約10.8 m、東西梁行約5 m、面積は約54㎡である。柱穴の形状は、略方形で、一辺60～95 cm、深さは30～60 cmを測る。

S B 12 (第9・42・43 図)

A区東側に所在する掘立柱建物であり、先述のS B 11とほぼ位置を同じくする。建物は5間×2間の南北棟で、方位はN 5° Wである。建物の規模は南北桁行約11.5 m、東西梁行約5.3 m、面積は約60.95㎡を測る。柱穴の形状は略円形と略方形で、一辺35～85 cm、深さは30～60 cmを測る。S B 11とは、規模や方位が同じことから、両建物は同一機能をもち、建替えによるものと考えられる。ただし、その前後関係は不明である。

S B 13 (第9・44 図)

A区東端に所在する掘立柱建物であり、B区にもまたがる。先述のS B 12の東隣に位置する。建物は、A・B両区にまたがるため、一部未調査区があることから、柱穴の確認できない箇所がある。全体の規模を計測して、4間×1間の東西棟と想定する。建物の規模は東西桁行約9.9 m、南北梁行約2.4 m、面積は約23.76㎡である。方位はW 5° Sである。柱穴は略方形で、一辺50～70 cm、深さは30～80 cmを測る。

S B 14 (第9・45 図)

A区東端に所在する掘立柱建物であり、B区にもまたがる。先述のS B 13と位置を同じくし、東西棟としての規模や方位も近似していることから、両建物は建替えによるものと推測できるが、その前後関係は不明である。建物の規模は東西桁行約9.7 m、南北梁行約2.5 m、面積は約24.25㎡である。方位はW 5° Sである。柱穴は略円形と略方形で、一辺55～65 cm、深さは30～55 cmを測る。

S B 15 (第9・46 図)

A区とB区をまたがる箇所に位置する掘立柱建物であり、先述のS B 14の南側に位置する。建物は3間×1間の東西棟で、W 5° Sの方位をとる。建物の規模は、東西桁行約4.8 m、南北梁行約4.4 m、面積は約21.12㎡である。柱穴の形状は略方形で、一辺50～80 cm、深さは30～60 cmを測る。

S B 16 (第9・47・48 図)

B区中央に所在する掘立柱建物であり、先述のS B 13～S B 15の東隣に位置する。本報告における古代掘立柱建物の中では最も規模が大きい。建物は7間×2間の南北棟で、柱穴の中には2基の穴が重複しているものが見られることから、改修があったかもしれない。方位はN 3° Wで、建物の規模は南北桁行が約13.8 m、東西梁行が約5.9 m、面積は約81.42㎡である。柱穴は略方形と略円形で、一辺の長さが40～60 cm、深さは約40 cmである。

S B 17 (第9・49 図)

B区南側に位置する掘立柱建物である。先述のS B 16の南西側に位置し、後述するS B 27の東隣に位置する。建物は3間×2間の東西棟で、方位はW 2° Sである。規模は東西桁行が約7.5 m、南北梁行が約4.8 m、面積は約36㎡である。柱穴は略方形の形状をしており、一辺の長さは45～75 cm、深さは20～45 cmを測る。

《中世》

S B 18 (第9・50 図)

A区西端に所在する掘立柱建物であり、先述の古代掘立柱建物S B 4～6の西側に位置する。3間×2間の東西棟で、総柱式である。南面の一角にはS I 4が掘り込まれており、柱穴1基を検出することはできなかった。建物の規模は、長辺である東西が約7 m、短辺である南北が4.9 mである。面積は約34.3㎡で、柱穴の大きさは直径25～70 cm、深さは10～50 cmである。方位はN 3° Eを測る。

S B 19 (第9・50 図)

A区に位置する、2間×2間の掘立柱建物である。前述のS B 18と重複するが、前後関係は不明である。建物の規模は南北が約4.9 m、東西が約4.8 mとほぼ正方形を呈する。面積は約23.52㎡で、柱穴は略円形をし、直径32～50 cm、深さは15～30 cmである。南面では一部柱穴を確認することができなかった箇所がある。方位はN 4° Eである。

S B 20 (第9・10・51 図)

A区南西隅に所在する掘立柱建物であり、南面の一部はC区北西隅で確認することができる。前述のS B 18・19の南隣に位置する。建物は3間×3間の総柱式で、規模は南北が約7.5 m、東西が約7 mとやや南北が長い。1間分の長さは南北が約2.6 m、東西が約2.3 m前後である。面積は52.5㎡で、柱穴は略円形・楕円形をし、直径25～50 cm、深さは15～30 cmである。方位はN 4° Eである。

S B 21 (第9・52 図)

A区南西側に位置する掘立柱建物であり、前述のS B 20の東隣に位置する。建物は2間×1間の南北に長く、規模は南北が約4.5 m、東西が約2.5 mである。面積は11.25㎡で、柱穴は25～50 cmの略円形で、深さは10～30 cmである。方位はN 5° Eである。

S B 22 (第9・52 図)

A区中央部やや西寄りに位置する掘立柱建物であり、前述のS B 7の北東側に位置する。建物は南北に長い1間×3間の規模で、南北が約7.6 m、東西が約2.6 mである。面積は約19.76㎡で、柱穴は略円形で、直径25～45 cm、深さは10～20 cmを測る。方位はN 1° Eとほぼ真北に近い。

S B 23 (第9・53 図)

A区中央部南側に位置する掘立柱建物であり、前述のS B 22の南側に位置する。建物は2間×2間の総柱式で、北辺の柱穴はS K 20など別遺構により確認できていない。建物規模は南北が約4.8 m、東西が約4.6 mとほぼ正方形を呈する。面積は約23.04㎡である。柱穴は略円形をし、大きさは直径20～60 cmと幅がある。深さは20～45 cmを測る。方位はN 9° Wである。

S B 24 (第9・53 図)

A区中央部に位置する掘立柱建物であり、前述のS B 23の北東側に位置する。建物は2間×2間の総柱式で、南東端の柱穴はS D 6と接しており確認できていない。建物の規模は一辺が約4.8 mで、正方形を呈する。面積は約22.08㎡を測る。柱穴は略円形・略方形をしており、一辺25～35 cm、深さは15～40 cmを測る。方位はN 5° Wである。

S B 25 (第9・54 図)

A区中央部東寄りに所在する掘立柱建物であり、前述の古代掘立柱建物S B 9の南東側に位置する。建物は3間×3間の南北に長い総柱式で、西側の柱間が他より短いことから、西面庇になると考えられる。建物の規模は南北が約8.1 m、東西が約6.2 mで、面積は約50.22㎡である。柱間の長さは、南北が2.4～2.8 m、東西が2.2～2.4 m、東西庇が1.5 mで、南北間がやや長い。柱穴は略円形をし、規模が直径30～40 cm、深さは25～44 cmを測る。北東端の規模の大きいピットは古代掘立柱建物S B 11の柱穴で、調査中に本建物柱穴を未確認のまま掘削してしまったようで、詳細な状況はわからない。方位はN 7° Wである。

S B 26 (第9・55 図)

A区南東端に所在する掘立柱建物であり、前述のS B 25の東側に重複するような形で位置する。建物は5間×4間の南北に長い総柱式で、本調査区における中世の掘立柱建物で最も規模が大きい。内部構造では、東西南北全面の端側の柱間が短いことから、全面庇の建物であったようである。建物の規模は南北が約13.2 m、東西が約7.7 mで、面積が101.64㎡である。柱間の長さは、東西が約2.1 m、東西両端の底部1.6～1.7 m、南北が3～3.2 m、南北両端の底部2 m前後を測る。柱穴は略円形をし

しており、規模は直径 20～60 cm、深さは 11～42 cm を測る。柱穴の中の一部で切り合いをもつピットがいくつか付設しているが、これらの穴の深さは 10 cm 前後といずれも浅いことから、建替えによるものより、建物廃絶後の柱抜き取りによる穴と考えたい。方位は N 8° E である。

S B 27 (第 9・56 図)

A 区南東端にある掘立柱建物であり、一部は B 区南西端でも確認することができる。また、前述の S B 26 のすぐ東隣に位置する。建物は 2 間×2 間の構造で、A・B 区にまたがったことから、柱穴を確認することができなかった箇所があった。規模は南北が約 4.4 m、東西が約 4.2 m とほぼ正方形を呈する。面積は約 18.48㎡を測る。柱穴の形状は略円形および略方形で、一辺 20～38 cm、深さは 15～39 cm である。方位は N 5° E である。

S B 28 (第 10・57 図)

C 区中央部よりやや西寄りに所在する掘立柱建物であり、先述の A 区 S B 20 の南東方に位置する。建物は、2 間×2 間の総柱式である。建物の規模は、東西が約 4.8 m、南北が約 5.0 m である。柱間の長さは、東西が 2.3～2.5 m、南北は約 2.5 m、面積は約 14㎡を測る。柱穴の形状は略円形及び略方形をしており、一辺 40～65 cm、深さは 15～39 cm である。方位は N 8° E である。

S B 29 (第 10・57 図)

C 区中央部に所在する掘立柱建物であり、前述の S B 28 の南東側に位置する。建物は 2 間×1 間の南北棟で、規模は長辺の南北方約 4 m、短辺の東西方約 2.1 m で、面積は約 8.4㎡を測る。柱穴の形状は略円形で、一辺 25～30 cm、深さは 20～30 cm である。方位は N 3° E である。

S B 30 (第 10・58 図)

C 区中央部よりやや東寄りに所在する掘立柱建物であり、前述の S B 29 の東側に位置する。建物は、4 間×2 間の南北に長い総柱式で、規模は長辺の南北で約 9.1 m、短辺の東西で約 4.6 m である。北と南端の柱間が他よりも短い、庇になるかはわからない。面積は 41.86㎡である。柱間の長さは、南北が約 1.6 m と 2.6～2.8 m、東西が約 2.3 m を測る。柱穴の形状は略円形で、直径 25～45 cm、深さは 20～50 cm である。土層断面から柱は建物廃絶の際、抜き取られた可能性がある。方位は真北に近い。

S B 31 (第 10・59 図)

C 区中央部より南東方に位置する掘立柱建物であり、前述の S B 30 と重複するが、建物の時期の前後関係は不明である。また、建物の南方は調査区外に延びていくため全容は不明である。プランは南北に長い 3 間以上×2 間の総柱式で、計測可能な箇所では、南北が 8 m 以上、東西が約 4.8 m である。柱間の長さは南北が 3 m 前後、東西が 2.5 m 前後を測る。柱穴は略円形をしており、直径 30～58 cm、深さは 30～50 cm である。土層断面から柱は建物廃絶の際、抜き取られたと思われる。方位は真北に近い。

S B 32 (第 10・60 図)

C 区中央部南端に所在する掘立柱建物であり、前述の S B 31 の西隣に位置する。建物の南方は調査区外に延びていくため全容は不明である。プランは、計測可能な箇所南北 2 間以上、東西 3 間で、南北間 3 m 以上、東西が約 6.6 m を測る。柱間の長さは南北が約 2 m、東西が 1.8～2.3 m である。柱穴は略円形をしており、直径 25～40 cm、深さは 10～40 cm である。土層断面から、柱は建物廃絶の際に抜き取られたと考えられるが、一部柱痕と思われる埋土を見ることができる。方位は真北に近い。

S B 33 (第 10・61 図)

C 区中央部南端に所在する掘立柱建物であり、前述の S B 32 の東隣に位置する。建物の南方は調査区外に延びていくため全容は不明である。プランは、計測可能な箇所南北 2 間以上、東西 2 間で、

南北間 3 m 以上、東西約 4.4 m を測る。柱間の長さは南北が約 1.5 ～ 1.7 m 以上、東西が 2.1 ～ 2.3 m である。柱穴は略円形をしており、直径 30 ～ 45 cm、深さは 25 ～ 55 cm である。土層断面から、柱は建物廃絶の際に抜き取られたと思われる。方位は N 2° W である。

S B 34 (第 10・62 図)

C 区東端と D 区西端に位置する掘立柱建物である。C 区と D 区の間には約 5 m の未調査区があるため、建物の詳細な構造はわからないが、南北 3 間、東西が推 4 間と東西棟になると考えられる。規模は東西が約 9.3 m、南北が約 8 m、推定面積は約 74.4m² である。柱間の長さは、南北が 1.8 m 前後、東西が 1.4 m 以上である。柱穴は略円形をしており、直径 30 ～ 80 cm、深さは 25 ～ 40 cm である。土層断面から、柱は建物廃絶の際に抜き取られたと思われる。方位は N 4° E である。

S B 35 (第 10・63 図)

D 区南西端に位置する掘立柱建物であり、前述の S B 34 の東南側と重複する。プランは南北 3 間、東西 2 間以上である。建物の西側は調査区外へと延びるため全容は不明であるが、約 5 m 先の C 区では柱穴を確認していないので、恐らく 3 間 × 2 間の南北棟になると推測される。計測可能な箇所では、東西が 4 m 以上、南北が約 6.7 m、柱間は、東西が約 2.7 m、南北が 1.9 ～ 2.2 m を測る。柱穴は略円形をしており、直径 20 ～ 55 cm、深さは 10 ～ 30 cm である。南東隅の柱穴には、建物廃絶後の柱抜き取りによるピットが切り合うように近接している。方位は N 8° E である。

S B 36 (第 11・63 図)

E 区西端に位置する掘立柱建物であり、後述の S B 37 ～ 39 の西側に所在する。建物のほとんどが西側調査区外へと延びるため全容は不明である。計測可能な箇所では、南北 3 間以上、東西 1 間以上、南北の柱間の長さは 1.8 ～ 2 m を測る。柱穴は略円形をしており、直径 20 ～ 35 cm、深さは 10 ～ 35 cm である。建物の方位は N 15° E である。

S B 37 (第 11・64 図)

E 区西端に位置する総柱式掘立柱建物であり、前述の S B 36 と重複している。建物は東西が 3 間、南北は北方で調査区外に延びる可能性があることから、3 間以上とした。規模は東西が 6.7 m、南北が約 6 m 以上、柱間は、東西が 1.9 ～ 2.7 m、南北が 1.4 ～ 2.0 m を測る。南端の柱間の長さが他よりも短い、庇になるかはわからない。柱穴は略円形をしており、直径 15 ～ 45 cm、深さは 10 ～ 50 cm である。柱穴の中には、建物廃絶後に柱を抜き取ったため歪な形状となったものがいくつか見られる。建物の方位は N 11° E である。

S B 38 (第 11・65 図)

E 区西端に位置する総柱式掘立柱建物であり、前述の S B 37 と重複するが、時期の前後関係は不明である。建物は東西が長い 3 間 × 2 間で、規模は東西が約 7.5 m、南北が約 5.2 m、柱間の長さは、東西が西から 2.0 m、2.4 m、3.0 m、南北が 2.4 ～ 2.6 m を測る。面積は約 39m² である。柱穴は略円形をしており、直径 20 ～ 55 cm、深さは 20 ～ 60 cm である。建物の方位は N 17° E である。

S B 39 (第 11・56 図)

E 区西端に位置する 2 間 × 2 間の総柱式掘立柱建物であり、先述の S B 37・S B 38 と重複するが、時期的な前後関係は不明である。建物の規模は南北が約 4.9 m、東西が 4.8 m とほぼ正方形を呈する。面積は約 23.52m² である。柱間は東西が 2.3 ～ 2.5 m、南北が 2.5 m 前後を測る。柱穴の形状は略円形をしており、直径 15 ～ 45 cm、深さは 10 ～ 50 cm である。建物の方位は N 13° E である。

S B 40 (第 11・66 図)

E 区中央部より西側にある掘立柱建物であり、前述の S B 39 の東側に位置する。建物の北側は調査区外へと延びるため詳細な様相はわからない。東西 2 間、南北 1 間以上で、計測可能な箇所では東西が約 3.8 m、南北が 2 m 以上である。柱間の長さは東西が約 1.9 m、南北が約 2.0 m を測る。柱穴の

形状は略円形で、直径 20～50 cm、深さは 25～43 cm である。建物の方位は N 6° E である。

S B 41 (第 11・67 図)

E 区中央部より東側に位置する掘立柱建物であり、後述の S B 42・43 と重複する。建物の北側は調査区外へと延びるため全体の様相はわからない。東西 4 間、南北 3 間以上の総柱式で、計測可能な箇所では東西が約 8.7 m、南北が 5 m 以上である。柱間の長さは東西が西から 2.0 m、2.2 m、2.3 m、2.0 m、南北が 2.4 m 前後を測る。柱穴の形状は略円形で、直径 25～50 cm、深さは 10～50 cm である。建物の方位は N 13° E である。

S B 42 (第 11・66 図)

E 区中央部より東側に位置する掘立柱建物であり、前述の S B 41 と後述の S B 43 と重複するが、各建物の時期的な前後関係は不明である。建物の北側は調査区外へと延びるため全体の様相はわからない。東西 4 間、南北 2 間以上の総柱式で、計測可能な箇所では東西が約 9.6 m、南北が 3 m 以上である。柱間の長さは東西が西から 2.5 m、2.3 m、2.5 m、2.3 m、南北が 2.3 m を測る。柱穴の形状は略円形で、直径 30～55 cm、深さは 33～47 cm である。建物の方位は N 12° E である。

S B 43 (第 11・68 図)

E 区中央部より東側に位置する掘立柱建物であり、前述の S B 42・43 と重複するが、各建物の時期的な前後関係は不明である。建物の北側は調査区外へと延びるため全体の様相はわからない。東西 4 間、南北 2 間以上の総柱式で、計測可能な箇所では東西が約 8.5 m、南北が 3 m 以上である。柱間の長さは東西が約 2.1 m、南北が約 2.6 m を測る。柱穴の形状は略円形で、直径 25～55 cm、深さは 15～50 cm である。建物の方位は N 6° E である。

S B 44 (第 10・68 図)

D 区中央部よりやや南寄りに位置する掘立柱建物である。建物の西側は調査区外へと延びるため全体の様相はわからない。建物規模は、東西 2 間以上、南北 2 間の総柱式で、計測可能な箇所では東西が約 3.5 m 以上、南北が約 4 m である。柱間の長さは東西が約 1.8 m、南北が 2.0 m 前後を測る。柱穴の形状は略円形で、直径 30 cm 前後、深さは 10～35 cm である。建物の方位は N 15° E である。

S B 45 (第 10・69 図)

D 区中央部よりやや南寄りに位置する掘立柱建物で、前述の S B 44 と重複するが、時期的な前後関係は不明である。建物の西側は調査区外へと延びるため全体の様相はわからない。建物規模は、東西 1 間以上、南北 2 間で、計測可能な箇所では東西が 1 m 以上、南北が約 4.5 m で、柱間の長さは、南北が 2.3 m 前後である。柱穴の形状は略円形で、直径 25～40 cm、深さは 10～20 cm である。建物の方位は N 11° E である。

S B 46 (第 10・69 図)

D 区南端に位置する掘立柱建物で、前述の S B 45 からおよそ 10 m 南方向に所在する。建物の西側は調査区外へと延びるため全体の様相はわからない。建物規模は、東西 2 間以上、南北 2 間で、計測可能な箇所では東西が 2 m 以上、南北が約 4 m で、柱間の長さは、東西・南北ともに 2.0 m 前後を測る。柱穴の形状は略円形で、直径 35～65 cm、深さは 10～25 cm である。建物の方位は N 7° E である。

③土坑

S K 1 (第 12・70 図)

A 区北西側に位置する土坑で、後述する東西溝 S D 4 を切っている。土坑は東西に長い楕円形の形状をしている。規模は南北約 1 m、東西約 1.2 m。深さは約 20 cm である。覆土は褐灰色粘質土・淡黄色粘質土を主体に 5 層確認している。層 1 と層 2 からは骨片を検出している。遺物は出土していないが、覆土などから中世の時期と推察する。

S K 2 (第 12・70 図)

A区北西方に位置する土坑であり、前述のS K 1の東隣に位置する。東西溝S D 4と重複し、本土坑がS D 4を切っている。土坑は東西に長い楕円形をし、規模は南北約0.8m、東西約1.1m、深さは約20cmである。覆土は褐灰色粘質土を主体に4層確認できる。層2から炭化粒や骨片が見つまっている。遺物は出土していない。覆土などから中世以降の時期と考える。

S K 3 (第 12・70 図)

A区北西側に位置する土坑であり、前述のS K 2の東隣に位置する。S K 1・2と同様、東西溝S D 4と重複し、切り合いから本土坑の方がS D 4よりも新しいことが判明している。土坑のプランは東西に長い楕円形で、遺構の規模は南北約1.2m、東西約1.8m、深さ約100cmで、覆土は褐灰色粘質土・淡黄色粘質土を主体に9層分確認している。層1・層3・層5から炭化粒や骨片が見つまっている。遺物は出土していない。S K 1・2との覆土が近似しているなどから、中世以降の時期と推定する。

S K 4 (第 12・71 図)

A区中央部より北西寄りに位置する土坑であり、前述のS K 3の東隣に位置する。S K 1～S K 3と同様、S D 4を切っているほか、後述するS K 5とS K 8も重複し切った状態で見つまっている。土坑は北東一南西に長い略楕円形をし、規模は長辺約2.0m、短辺約1.8m、深さ約52cmを測る。覆土は褐色系の粘質土が主体で、9層分確認している。覆土などから中世以降の時期と考える。

S K 5 (第 12・71 図)

A区中央部より北西寄りに位置する土坑で、前述のS K 4とは切り合っており、また、後述するS K 6が本土坑の南側に重複している。両遺構とも本土坑を切っている。本土坑はやや歪ながら、東西に長い略長方形をしており、規模は東西約2.2m、南北に約1.2m、深さ約60cmを測る。覆土は灰褐色粘質土・淡黄色粘質土を主体に10層分確認している。層1からは骨片、層6より上からは、複数の拳大の自然石が埋設している。覆土などから中世以降の時期と考える。

S K 6 (第 12・71 図)

A区中央部より北西寄りに位置する土坑で、前述のS K 5や、後述するS K 7・8とは切り合っている。切り合いの状況から、本土坑はS K 5、S K 8よりは新しく、S K 7よりは古いことがわかった。土坑は北東一南西に長い略楕円形で、規模は長辺が約1.2m、短辺約0.9m、深さ約40cmを測る。

S K 7 (第 12・71 図)

A区中央部より北西寄りに位置する土坑で、前述のS K 5・6とは切り合っている。土坑は東西に長い隅丸の略長方形で、東西約1.8m、南北約1.1m、深さ約25cmを測る。覆土は灰色系の粘質土が主体で5層分確認した。上層にあたる層2からは骨辺と炭を検出した。覆土などから中世以降の時期と考える。

S K 8 (第 12・71 図)

A区中央部より北西寄りに位置する土坑で、前述のS K 4～6とは切り合っている。切り合いの様相から、S K 4～6よりも古いことが判明している。前述の土坑群により、北半の様相はわからないが、恐らく南北に長い略長方形になると考えられる。規模は南北1.5m以上、東西約1.0m、深さは60cmで、覆土は灰色系の粘質土が主体である。覆土などから中世以降の時期と推測する。

S K 9 (第 12・70 図)

A区北西側に位置する土坑であり、先述のS K 3の南側に位置する。S D 4とは切り合っているが、これまでに報告した土坑とは違い、S D 4よりも古いことがわかっている。土坑は北半の様相はわからないが、東西に長い略楕円形と推察する。規模は、東西約1.5m、南北約0.8m、深さ約50cmで、覆土は褐色や灰色粘質土が主体で、8層分確認している。層1からは骨片が見つまっている。覆土などから中世以降の時期と考える。

S K 10 (第 12・72 図)

A区中央部より北寄りに位置する土坑で、先述のS K 4～8の南方に位置する。北東－南西に長い隅丸の略長方形のプランで、長辺約 1.7 m、短辺約 1.2 m、深さ約 50 cm を測る。覆土は黄色土・黄色粒混じりの灰色系の粘質土を主体に 10 層分確認している。覆土などから中世以降の時期と考える。

S K 11 (第 12・72 図)

A区中央部より北寄りに位置する土坑で、前述のS K 10の南西方に所在する。土坑は略円形をしており、規模は直径約 0.7 m、深さ約 30 cm を測る。

S K 12 (第 12・72 図)

A区中央部より西寄りに位置する土坑で、前述のS K 11の南側にある。土坑は東西に長い隅丸長方形をしており、東西が約 1.6 m、南北が約 1.1 m、深さは約 30 cm である。覆土は淡褐灰色と淡黄色粘質土を主体に 12 層分確認している。なお、土層断面から、土の堆積が人為的に埋めたような状況をしている。覆土などから、中世以降の所産と考える。

S K 13 (第 12・72 図)

A区中央部より西側に位置する土坑で、前述のS K 12より西方遠くに位置する。土坑は南北に長い略楕円形をしており、南北が約 1.2 m、東西が約 0.7 m、深さは約 30 cm で、覆土は褐灰色粘質土を主体に 6 層分確認している。層 2 から炭化粒や骨片が見つかった。遺物は出土していない。覆土などから、中世以降の時期と推定する。

S K 14 (第 12・73 図)

A区西方に位置する土坑で、前述のS K 13の南側に所在する。南北に長い隅丸略長方形をしており、南北約 1.4 m、東西約 0.6 m、深さは約 60 cm を測る。覆土は暗褐色土・黄色土混じりの褐灰色粘質土と暗灰色土混じりの淡黄色粘質土の 2 層である。覆土などから、中世以降の時期と推定する。

S K 15 (第 12・73 図)

A区のほぼ中央に位置する土坑で、先述のS K 10の南側に所在する。プランは東西に長い隅丸略長方形で、東西約 1.7 m、南北約 0.9 m、深さ約 30 cm である。覆土は灰色系・淡黄色系の粘質土が主体の 13 層分を確認した。205 土師器壺や 221 土師器鉢が見つかったが、堆積覆土や周囲の近似する土坑の様相などから、本土坑も中世以降の時期と推定する。

S K 16 (第 12・73 図)

A区のほぼ中央に位置する土坑で、前述のS K 15の南側に所在する。プランはS K 15と酷似する東西に長い隅丸略長方形で、東西約 1.8 m、南北約 1.1 m、深さ約 20 cm である。覆土は灰色系・淡黄色系の粘質土が主体で、層 3 からは炭化物と焼土が認められる。259 土師器皿が出土している。

S K 17 (第 12・73 図)

A区のほぼ中央に位置する土坑で、前述のS K 16の南隣に所在する。プランは東西に長い略楕円形で、東西約 1.2 m、南北約 0.6 m、深さ約 60 cm である。覆土の様相はわからない。土坑の規模や深さ、位置関係から中世以降の時期と推定する。

S K 18 (第 12・74 図)

A区のほぼ中央に位置する土坑で、前述のS K 17の南隣に所在する。後述するS K 19とは重複しており、切り合いから、本土坑が新しいことがわかっている。プランは南北に長い略楕円形で、南北が約 1.5 m、東西が約 1.1 m、深さが約 60 cm である。覆土は褐灰色・暗灰色粘質土を主体に 8 層分確認した。覆土から、中世以降の時期と推定する。

S K 19 (第 12・74 図)

A区のほぼ中央に位置する土坑で、前述のS K 18とは切り合い、本土坑が古いことがわかっている。南北に長い略長方形をしており、規模は南北約1.7 m、東西約0.8 m、深さ約30 cmを測る。覆土の様相はわからない。土坑の規模や深さ、位置関係から中世以降の時期と推定する。

S K 20 (第 12・74 図)

A区の中央部よりやや南西寄りに位置する土坑で、後述するS K 21とは重複する。検出状況から本土坑はS K 21よりも古いことが明らかになっている。プランは東西に長い略長方形をし、規模は東西が約2.5 m、南北が約1.1 m、深さ約50 cmを測る。覆土は灰色系・淡黄色系の粘質土を主体に9層分確認している。覆土などから、中世以降の時期と推定する。

S K 21 (第 12・74 図)

A区の中央部よりやや南西寄りに位置する土坑で、前述するS K 20とは重複し、本土坑の方が新しいことが判明している。大きく崩れた南北に長い楕円形をしており、規模は南北が約1.6 m、東西が約0.8 m、深さが約50 cmを測る。覆土は灰色系・淡黄色系の粘質土を主体に7層分確認している。覆土などから、中世以降の時期と推定する。

S K 22 (第 12・75 図)

A区の中央部よりやや南西寄りに位置する土坑で、前述するS K 20・21の西側に隣接する。南北がやや長い隅丸略長方形をしており、南北約1.0 m、東西約0.8 m、深さ約0.4 mを測る。覆土は灰色系・淡黄色系の粘質土を主体に6層分確認している。覆土などから、中世以降の時期と推定する。

S K 23 (第 12・75 図)

A区南西方に位置する土坑で、先述のS I 4の北東隣に所在する。本土坑の西半は略長方形をしており、東半は略楕円形をしている。2基の土坑が重複しているかもしれない。規模は南北が約1.1 m、東西が約1.2 m、深さ約40 cmである。覆土は灰色系・淡黄色系の粘質土を主体に5層分確認している。層1からは骨片、層3からは炭粒が認められる。覆土などから、中世以降の時期と推定する。

S K 24 (第 12・75 図)

A区南西方に位置する土坑で、前述のS K 23の東隣に所在する。プランは略円形で、直径約1.2 m、深さは約65 cmを測る。覆土は灰色系・淡黄色系の粘質土を主体に9層分確認しており、層1と2からは炭粒、層5からは骨片を検出している。覆土などから、中世以降の時期と推定する。

S K 25 (第 12・75 図)

A区より南西方に位置する土坑で、後述するS K 26の西隣に所在する。東西に長い略長方形プランと考えられるが、複数の大型ピット状遺構と切り合っているため、全体の様相はわからない。規模は東西約2.0 m、南北約1.5 m、深さ約30 cmを測る。覆土は灰色系の粘質土が主体で、4層分確認した。層1からは炭粒と骨片を検出している。埋土から、32 弥生土器甕底部、60～63 須恵器坏、171～173 須恵器甕・瓶、194 土師器碗、319 瀬戸焼天目茶碗、376 土鈴、449 鉄製皿など大量の遺物が出土している。

S K 26 (第 12・76 図)

A区より南西方に位置する土坑で、前述のS K 26の東隣に所在する。南北に長い略長方形プランをしているが、土坑内にはテラスを設けており、土層断面から土坑の掘り直しがあったかもしれない。規模は南北約1.6 m、東西約1.0 m、深さはテラス部約35 cm、最深部約60 cmを測る。覆土は暗灰色系の粘質土を主体に8層分確認している。層1・2・5・8から骨片が認められ、334の越前焼甕が出土している。

S K 27 (第 12・76 図)

A区の中央部より南方に位置する土坑で、前述のS K 26の東側に所在する。南北にやや長い略楕円

形プランをしており、中央部と外縁部に3基のピット状遺構が認められる。規模は南北約2.1m、東西が約1.9mで、深さは10～30cmを測る。覆土は灰色系・淡黄色系の粘質土を主体に4層分確認している。374の近世肥前碗が出土している。

S K 28 (第13・76図)

C区北西隅に位置する土坑で、後述する東西溝SD13と交わるが、前後関係はわからない。北東-南西に長い略楕円形をしており、当初は長辺約1.0m、短辺約0.5m、深さ約50cmの土坑が存在したが、灰絶後新たに深さ10cm前後の浅い土坑が掘り直されたようである。覆土は褐灰色粘質土を主体に4層分認められ、後出の浅い土坑は褐灰色粘質土1層である。

S K 29 (第13・83図)

C区西端に位置する土坑である。土坑の西半が調査区外となるため、全容は不明である。計測可能な箇所では南北が約3.2m、東西0.8m以上、深さは約60cmを測る。覆土は灰色と黒色系の粘質土を主体に4層分確認でき、レンズ状に堆積している。339の越前焼壺が出土している。

S K 30 (第13・76図)

C区中央部より北方に位置する土坑で、後述する東西溝SD13とSD16に切られている。前述の遺構に切られているため、形状は不明であるが、略方形と想定する。外縁部に5～20cmのテラスが認められる。深さは15cm前後である。規模は計測可能な箇所で、南北1.7m以上、東西1.3m以上で、深さは最深部で25cmを測る。覆土は灰色粘質土を主体に4層分確認しているが、堆積状況から、複数回掘り直しがあつたかもしれない。136須恵器蓋、222土師器鍋、260土師器皿が出土している。

S K 31 (第13・77図)

C区南西コーナー隅に位置する土坑である。西半と南半が調査区の外に延びるため、全容は不明であるが、隅丸方形プランと想定される。計測可能な箇所では南北2.4m以上、東西3.2m以上を測る。深さは50～80cmで、2段のテラスが認められる。覆土は灰色系の粘質土が主体で7層分確認できる。155須恵器盤、26土師器皿、332加賀焼甕が出土している。

S K 32 (第13・78図)

C区中央部より南寄りに位置する土坑であり、後述する南北溝SD16に切られている。隅丸方形プランをしていると考えられ、規模は南北約0.9m、東西0.7m以上で、深さは約40cmである。穴内には直径約30cm、深さ約15cmのピット状遺構が認められるが、本土坑との関係は不明である。覆土は灰色系の粘質土を主体に5層分確認できる。91須恵器坏が出土している。

S K 33 (第13・78図)

C区中央部より南端に位置する土坑であり、後述する南北溝SD16に西半分切られている。方形プランと考えられ、規模は南北が0.9m、東西0.8m以上、深さは約50cmを測る。覆土は灰色系の粘質土を主体に6層分確認できる。中世以降の時期と推定する。

S K 34 (第13・78図)

D区西方に位置する土坑で、先述のSB34の東側に所在する。北東-南西に長い略楕円形に見えるが、略円形の2基の遺構が切り合ったことによる形状である。規模は長辺約1.1m、短辺約0.6m、深さは約10cmと約30cmを測る。覆土は灰色系の粘質土を主体に4層分確認できる。

S K 35 (第14・78図)

E区に西端に位置する土坑である。形状は略円形をしており、穴内には直径約10cm、深さ約10cmのピット状遺構が見られる。土坑の規模は直径約1.1～1.2m、深さは30cmである。覆土は灰色系の粘質土が主体に5層分確認できる。覆土などから中世の時期と推測する。

S K 36 (第14・79図)

E区に西端にある土坑で、前述のS K 35の南東方向に位置する。プランは略円形をしており、穴内には直径30cm前後、深さ約25cmのピット状遺構が見られる。土坑の規模は直径1.0～1.2mで、深さは約15cmである。覆土は褐灰色粘質土を主体に3層分確認できる。

S K 37 (第14・80図)

E区に西端にある土坑で、前述のS K 36とは切り合い、本土坑はS K 36に比べて古いことが明らかになっている。形状は東西に長い略長方形をしている。穴内の西側はテラス状となっており、2基の土坑が切り合っているようにも見えるが、土層断面からは明確にできなかった。規模は南北約0.9m、東西約1.2m、深さはテラス部で約40cm、最深部で約50cmを測る。覆土は褐灰色粘質土が主体で4層分確認できる。また、261・262土師器皿、335越前焼甕、340珠洲焼小壺、352珠洲焼すり鉢、394石製行火など、他の遺構と比べて遺物の出土量は極めて多い。

S K 38 (第14・80図)

E区に西端にある土坑で、前述のS K 36・S K 37の南側に位置する。南北に長い略長方形プランにも見えるが、複数の遺構が切り合っていることと、南半が調査区外に延びることなどから、全体の様相はわからない。規模は南北が1.5m以上、東西約0.8m、深さは最深部約25cmである。埋土に複数の人頭大の石が入っており、331瀬戸焼水柱、401砥石、440鉄製釘なども見つまっている。

S K 39 (第13・79図)

D区中央部よりやや南寄りに位置する土坑で、先述のS K 44の北方向に所在する。形状は略円形をしており、規模は直径1.7～1.8m、深さ約15cmを測る。覆土は灰色系の粘質土2層分である。

S K 40 (第13・79図)

D区中央部よりやや南寄りに位置する土坑で、前述のS K 39の東側に所在する。複数のピット状遺構などと重複していることや、東半が調査区外に延びることから、全容は明らかではない。東西に長い略楕円形になるかもしれない。規模は東西1.6m以上、南北約1.0m、深さは約40cmで、覆土は灰色系・黄色系の粘質土が主体である。

S K 41 (第13・81図)

D区中央部より南側に位置する土坑であり、先述のS K 39の南方向に所在する。形状は略円形ではあるが、穴内部にあるテラス状遺構や土層断面から、複数回掘り直しがあったようである。規模は南北が約3.0m、東西が約2.7m、深さが50～70cmである。覆土は灰色系の粘質土が主体で10層分確認できる。197の土師器壺が出土している。

S K 42 (第13・81図)

D区中央部より南側に位置する土坑であり、前述のS K 41の東側に所在する。形状は東半が調査区外になることや、複数回掘り直しがあったようで詳細はよくわからない。規模は南北が約1.8m、東西1.5m以上、深さは約30cmで、覆土は灰色系の粘質土が主体である。

S K 43 (第13・82図)

D区南端に位置する土坑であり、先述のS K 41の南方に位置する。南北に長い略長方形をしており、規模は南北が約1.7m、東西が約1.0m、深さは約15cmである。覆土は褐灰色粘質土が主体である。

S K 44 (第13・80図)

D区南端に位置する土坑で、前述のS K 43の南側に位置する。形状は複数回掘り直しが認められ、また、東半が調査区外に延びることから、詳細は不明である。規模は南北が約2.4m、東西が1.6m以上で、深さは10～65cmである。覆土は灰色系・黄色系粘質土が主体である。

S K 45 (第 13・82 図)

F区に北西隅に位置する。プランは略楕円形と考えられるが、北西半が調査区外に延びることから、詳細はわからない。計測可能な箇所では、南北 2.0 m 以上、東西が 1.5 m 以上、深さは約 30 cm である。覆土は灰色系の粘質土が主体である。366 の瓦質火鉢が出土している。

S K 46 (第 13・82 図)

F区北端に位置する土坑であり、前述の S K 45 の東に隣接する。略円形プランで、直径約 2.0 m、深さ約 25 cm を測る。覆土は褐灰色粘質土が主体で、375 瀬戸焼平碗、441 の棒状鉄製品が出土している。

④ 溝

S D 1 (第 15 図)

A区北端に位置する北東－南西ラインの溝で、後述する S D 2 と平行する。本溝は調査区の際にあることもあり全容は不明であるが、計測可能な範囲において、最長部約 40 m、幅は約 1.5 m、深さ 25～45 cm を測る。方位は N81° E で、蛇行せず直線状に走る。

S D 2 (第 15 図)

A区北端に位置する北東－南西ラインの溝で、前述の S D 1 と平行する。規模は、計測可能な範囲において、最長部で約 68 m、幅は約 1.7 m、深さ 50～65 cm を測る。方位は N80° E で、S D 1 と同様蛇行せず直線状に走る。

S D 3 (第 15・16 図)

A区西側に位置する南北溝で、一部 C区北西隅でも確認でき、そのまま西方調査区外へと進む。前述の S D 2 とは交差するが、前後関係はわからない。規模は最長部で約 43 m、幅は約 1.2～2.5 m、深さ 10～30 cm を測る。方位は N21° E で、A区 S I 4 付近では途切れる箇所がある。368・369 の近世陶磁器が出土しているが、周辺の遺構の状況などから、時期はこれよりも古いと考える。

S D 4 (第 15 図)

A区中央部より北西寄りに位置する東西溝である。前述の S D 3 や S K 1～4 とは切り合っており、本溝は S D 3 よりも新しく、S K 1～4 よりは古い。規模は最長部約 13 m、幅は約 1 m、深さ 20～30 cm を測る。方位は N80° E で、先述の S D 1・2 とほぼ同一方向をとる。

S D 5 (第 15 図)

A区中央に位置する南北溝である。後述する自然河川である旧河道 2 の下層で確認した溝で、一連のものになるかもしれない。規模は最長部で約 30 m、幅は 1～2 m、深さ 60～70 cm を測る。本溝は、南方向に行くに従い緩やかに S 字型に湾曲している。それより南方部の C区では検出していない。方位は、A区北側の箇所で N3° E を測る。

S D 6 (第 15・16 図)

A区中央に位置する南北溝である。前述の S D 5 と同様、旧河道 2 の下層で確認した溝で、一連のものと考えられる。南方部の D区西端では、東岸の一部と思われる箇所を確認している。C区とD区間の調査区外に延びると思われる。規模は最長部で約 45 m、幅は約 1.4～2.6 m、深さ 60～70 cm で、南方向に行くに従い緩やかに蛇行している。方位は北側の箇所で N5° E を測る。

S D 7 (第 15 図)

A区中央に位置する南北溝で、南方部の C区では検出していない。前述の S D 5・6 と同様、旧河道 2 の下層で確認した溝で一連のものと考えられる。規模は、最長部で約 20 m、幅は約 1 m 前後、深さ 40～50 cm を測る。方位はほぼ真北であるが、南方では緩やかに蛇行している。また、旧河道 2 及びその下で形成する S D 5～S D 7 は、先述の S D 2 に切られている。

S D 8 (第 15 図)

A区中央に位置する南北溝で、南方部のD区では確認していない。先述のS D 5～7の東側を平行するようにして走り、S D 6が蛇行するところでは、同じ向きで蛇行することから、旧河道2を含めたS D 5～7を意識して掘削している。規模は最長部で約30m、幅は70cm前後、深さ15～20cmを測る。方位は北側でほぼ真北を測る。

S D 9 (第 15・16 図)

A区中央部より南方からD区西側を走る南北溝である。前述のS D 7とはほぼ平行する。規模は最長部で約30m、幅は約40cm、深さ5～10cmを測る。方位はN9°Wで、A区では一部途切れる箇所がある。D区南端は調査区外へ伸びていく。

S D 10 (第 15・16 図)

A区南東部からD区北端を経て、B区南側にかけて走る東西溝で、逆S字型に蛇行している。前述のS D 9に切られている。規模は、計測可能な範囲において、最長部で約38m、幅は約70～180cm、深さ10～20cmを測る。東西方向に逆S字型に蛇行しており、B区南端では一部途切れる箇所がある。

S D 11 (第 15 図)

A区南東隅に位置する円形をした周溝状遺構で、東半は調査区外となる。溝幅は約40cm、深さは20cm前後、周溝内は直径約2mを測る。遺物は確認していないが、弥生時代後期と思われる。

S D 12 (第 15 図)

B区南側に位置する東西溝である。先述のS D 10を切っている。規模は最長部で約13.5m、幅は40～80m、深さ15～30cmを測り、東方は調査区外へ伸びていく。東端には、両岸に人頭大の石を並べている。方位はE15°Sで、本溝から南方10mに位置するS A 1と同一方向をとる。

S D 13 (第 16 図)

C区北方に位置する東西溝で、後述するS D 16を切っている。規模は、最長部で約19m、幅は約1.6m、深さ約20cmを測る。方位はE3°Sである。西方部の延長上はA区南西端につながるが、溝は確認していない。

S D 14 (第 16 図)

C区北西隅にある北東－南西方の溝で、前述のS D 13の南隣に位置する。規模は最長部で約7m、幅は約60cm、深さは5～10cmを測る。方位はN72°Eで、北方へ緩やかに湾曲している。

S D 15 (第 16 図)

C区ほぼ中央部に位置する南北溝である。最長部で約12.5m、幅は約50cm、深さは5cm前後を測る。方位はN19°Eである。

S D 16 (第 16 図)

C区中央部に位置する南北溝で、先述のS D 13に切られている。北端、南端とも調査区外に延びるが、北側延長上のA区では確認していない。規模は、最長部で約20m、幅は約40cm、深さ約5cmを測る。方位はN7°Eである。

S D 17 (第 16 図)

D区北西端に位置する東西溝で、先述のS D 9から派生して東方へと走り、後述する旧河道1へと向かう。規模は、最長部で約37m、幅は約40cm、深さ約10cmを測る。途中で南方へ弧を描くような形に湾曲する。

S D 18 (第 16・17 図)

D区ほぼ中央に位置する南北溝で、一部E区の東端に接する。北端は旧河道1にぶつかり、南端は調査区外へと延びる。最長部で約27 m、幅は約4 m、深さは70 cm前後を測る。方位はN38° Eである。近世以降の陶磁器が出土していることから、新しい時期と判断し、全掘はしていない。

S D 19 (第 17 図)

E区中央部より西側に位置する南北溝で、北端と南端は調査区外へと延びる。規模は、最長部で約8 m、幅は約1～2.4 m、深さ10～15 cmを測る。方位はN19° Eである。先述のS D 16とは、延長すると合致する位置にあたるが、規模が違うため同一遺構とは認めがたい。

S D 20 (第 17 図)

E区中央部より西側に位置する南北溝で、前述のS D 19の東隣に位置する。規模は、計測可能な範囲において、最長部で約8 m、幅は約1.2～2.4 m、深さ10 cm前後を測る。方位はほぼ真北で、北端及び南端は調査区外へ延びていく。

S D 21 (第 17 図)

E区中央部に位置する南北溝で、前述のS D 20の東側に位置する。規模は、計測可能な範囲において、最長部で約8.8 m、幅は約60 cm、深さ10 cm前後を測る。方位はN15° Eで、北端及び南端は調査区外へ延びていく。

S D 22 (第 17 図)

E区中央部より東側に位置する南北溝で、切り合いをもつS I 10・11よりも古い。規模は、計測可能な範囲において、最長部で約8.5 m、幅は約60 cm、深さ約15 cmを測る。方位はN11° Eで、北端及び南端は調査区外へ延びていく。

S D 23 (第 17 図)

E区中央部より東側に位置する南北溝で、前述のS D 22の東隣にある。規模は、計測可能な範囲において、最長部で約8.5 m、幅は約20 cm、深さ5～10 cmを測る。方位はN5° Eで、北端及び南端が調査区外へ延びる。A区S D 16と同一の溝になるかもしれない。

S D 24 (第 16・17 図)

E区北東端からD区へと延びる東西溝で、S D 18を切っている。規模は、計測可能な範囲において、最長部で約8 m、幅は約50～80 cm、深さ約50 cmを測る。方位はE18° Sで、西端は調査区外へ延びていく。

S D 25 (第 16 図)

D区ほぼ中央部に位置する南北溝で、先述のS D 18の東側にある。規模は、計測可能な範囲において、最長部で約21 m、幅は約40 cm、深さ約25 cmを測る。方位はN35° Eで、S D 26などにより途切れる箇所がある。

S D 26 (第 16 図)

D区南側に位置する南北溝で、S字型に蛇行し、前述のS D 25を切っている。北端はS D 18にぶつかり、南端は調査区外へと延びる。規模は、計測可能な範囲において、最長部で約28 m、幅は約50 cm、深さ15～25 cmを測る。

S D 27 (第 16 図)

D区南側に位置する北西－南東方の溝で、前述のS D 27を切っている。規模は、計測可能な範囲において、最長部で約9 m、幅は約3 m、深さ約40 cmを測る。方位はN64° Wである。西端及び東端は調査区外へ延びていく。

S D 28 (第 16 図)

D 区南端に位置する東西溝である。規模は、計測可能な範囲において、最長部で約 8 m、幅は約 2 m、深さ約 1 m を測る。方位は E8° S である。西端及び東端は調査区外へ延びる。

S D 29 (第 16 図)

D 区南端に位置する溝で、前述の S D 28 の南隣に接する。切り合いから本溝の方が古い。規模は、計測可能な範囲において、最長部で約 9 m、幅は約 1 m、深さ 35 ~ 55 cm を測る。方位は E6° S で、西端及び東端は調査区外へ延びる。

S D 30 (第 16 図)

F 区に位置する畝溝のひとつである。規模は、計測可能な範囲において、最長部 2.6 m、幅は約 20 cm、深さ 5 cm 前後を測る。方位は E17° S である。畝溝は東西方向で、大小合わせて 7 条確認できる。畝溝の間隔は 20 cm と狭いものがあるが、造り替えがあったため狭小に見える。基本的な溝幅は 70 ~ 80 cm である。

⑤ 柵列

S A 1 (第 19・83 図)

D 区北東隅に位置する、北西 - 南東方向のラインをもつ柵列である。柱穴は 12 基確認でき、その規模は直径 18 ~ 35 cm、深さは 12 ~ 24 cm を測る。柱間は東端で 25 cm、西端で 2.1 m を測定するが、平均で約 1 m 間隔である。方位は W13° N で、西端より更に西方へ延長すると、中世掘立柱建物 S B 26 の南面に合致する。S A 1 と S B 26 は同時併存するかもしれない。

⑥ 不明遺構

S X 1 (第 18 図)

B 区北東端に位置する、古代の大きな落ち込み状遺構である。前述の大型掘立柱建物 S B 16 の北際より東方に向かって開口しており、人為的に掘り込んでいる。計測可能な範囲において、東西約 13 m、南北約 6 m、深さ 50 ~ 120 cm である。現在本遺構の東方には、中河川の郷用水が流水しており、古代においてもその位置は大きく変わっていないことから、本遺構は船着場など水利に関係するものになるかもしれない。

S X 2 (第 18 図)

A 区中央部北端に位置する。前述の S D 8 を切っている。東西約 230 cm、南北約 50 cm、深さ 10 ~ 30 cm を測る。

S X 3 (第 19 図)

C 区中央部から南寄りに位置する北西 - 南東が長い略円形をした遺構で、北端は別のピット状遺構によって切られている。穴内にはテラスや複数の小穴が見られる。規模は、長辺約 90 cm、短辺約 60 cm、最深部約 50 cm を測る。

S X 4 (第 19 図)

D 区中央部に位置する。S X 1 同様、東方に向かって開口する遺構である。計測可能な範囲において、東西約 5.5 m、南北約 2.3 m、深さ 35 ~ 75 cm である。

S X 5 (第 20 図)

E 区北西端に位置する。略楕円形の形状に見えるが、北半は調査区外へ延びるため詳細な様相は不明である。穴内には三角形のテラスや小穴が見られる。南北 110 cm 以上、東西約 150 cm、深さはテラス部で約 20 cm、最深部約 25 cm を測る。

⑦ 旧河道

旧河道1（第19図）

D区北東部で確認した、現在、本調査区の東方を流水している郷用水の跡である。大きく蛇行しており、調査区内における最大東西長約14mを測る。河内にサブトレンチを入れたところ、1m以上の深さであることがわかった。埋土からは古代の遺物が多く出土している。

旧河道2（第18図）

A区中央部を南北に走る自然河道である。前述したSD5～7は、この河の下層面で検出した溝で、河の一部と考えられる。幅は5～10m、深さは最深部で約80cmを測り、弥生土器が出土していることから、当該時期は流水し、古代までには埋まったと考えられる。C区内には確認していないことから、D区との間の調査区外を走り、図示していないが、E区中央部には、河道の埋土を検出している。



第6图 A·B区 SI位置图

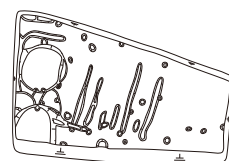
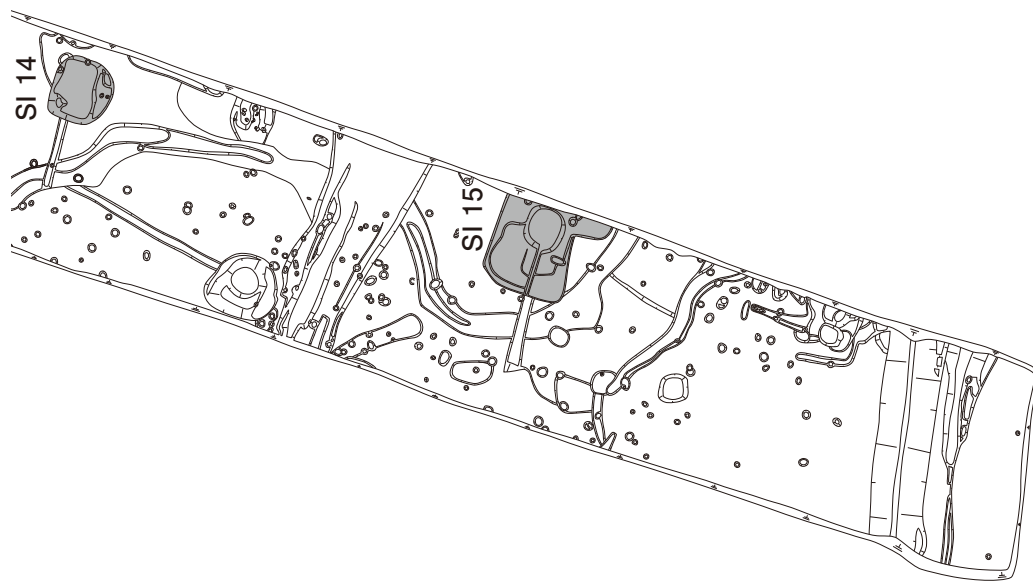


弥生
 中世



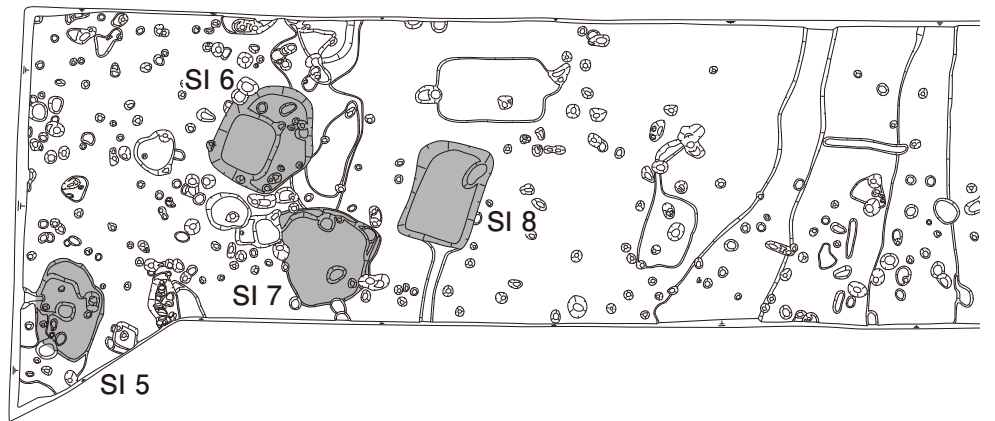


第7図 C・D・F区 SI位置図

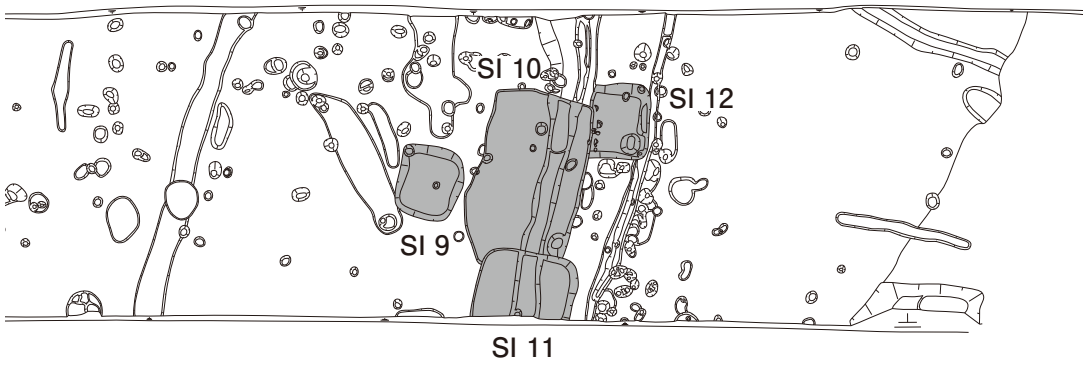


■ 弥生
■ 中世



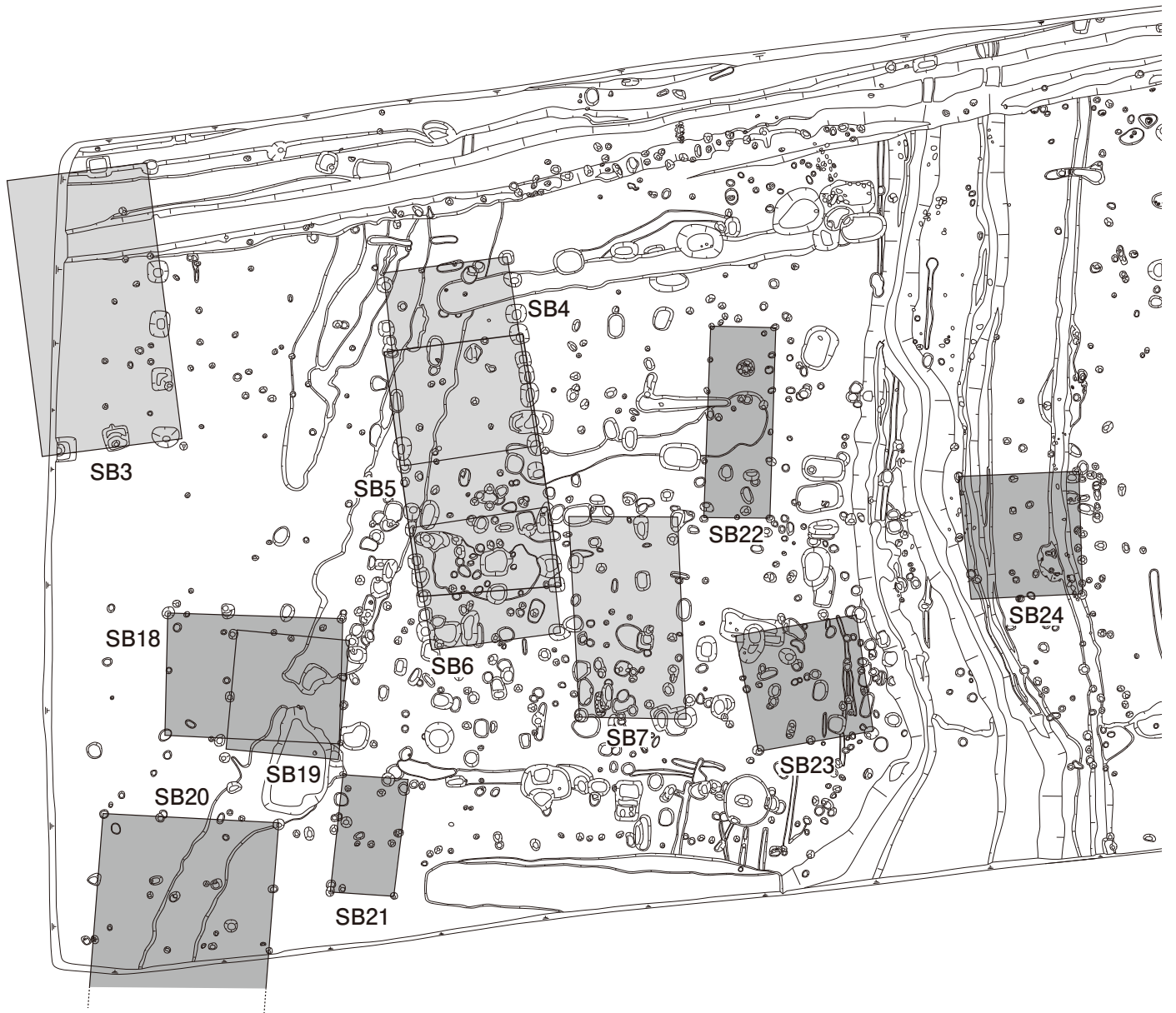


第 8 图 E 区 SI 位置图



■ 中世





第9图 A·B区SB位置图

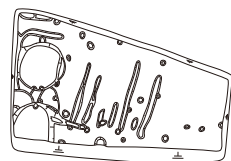
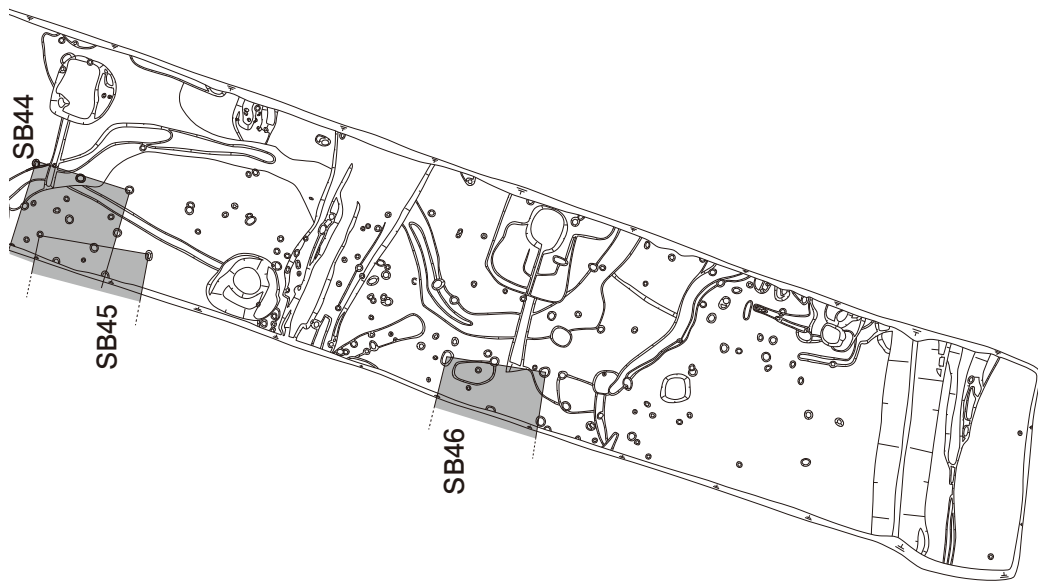


弥生
 古代
 中世



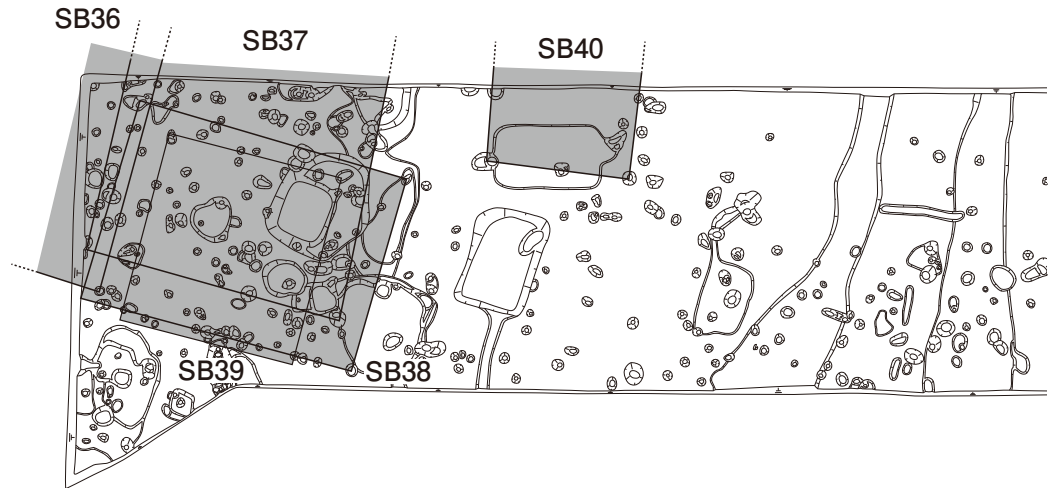


第10图 C·D·F区 SB位置图

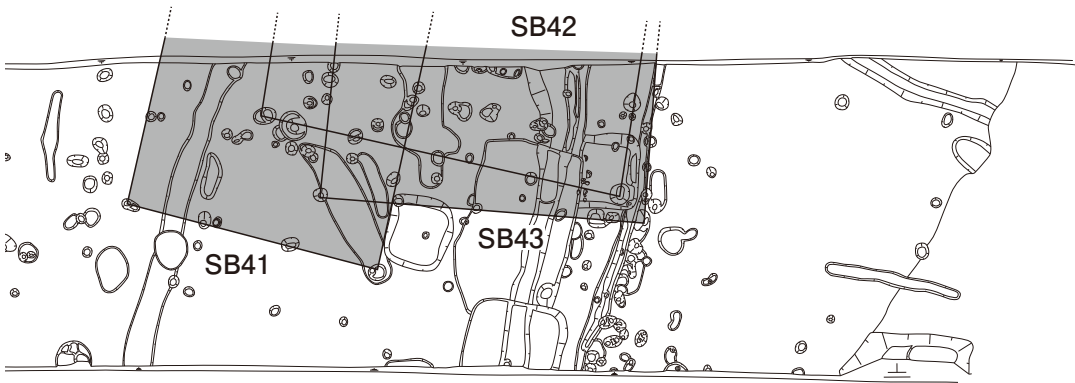


■ 中世



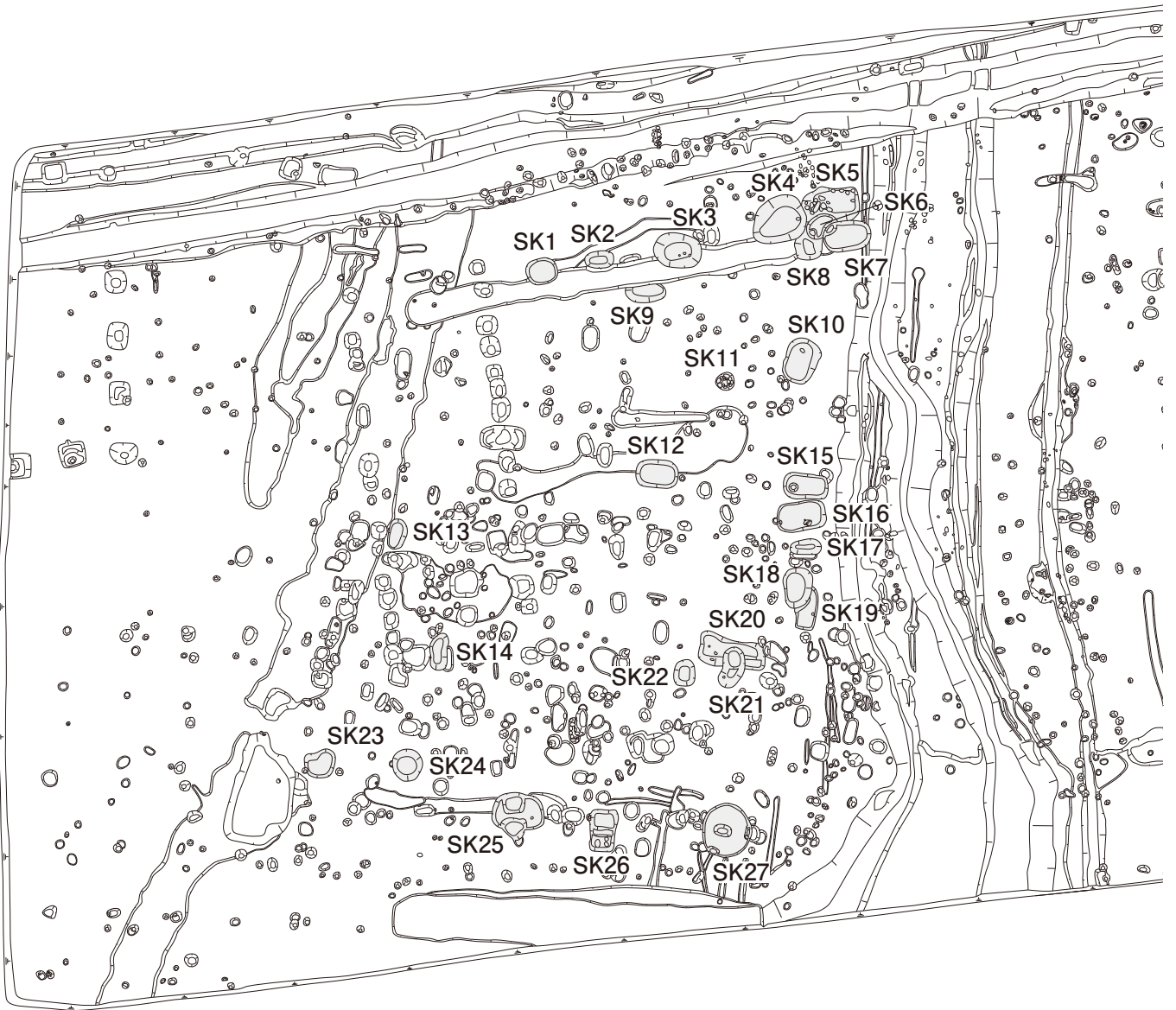


第11图 E区 SB位置图



■ 中世



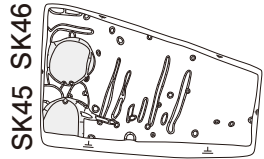
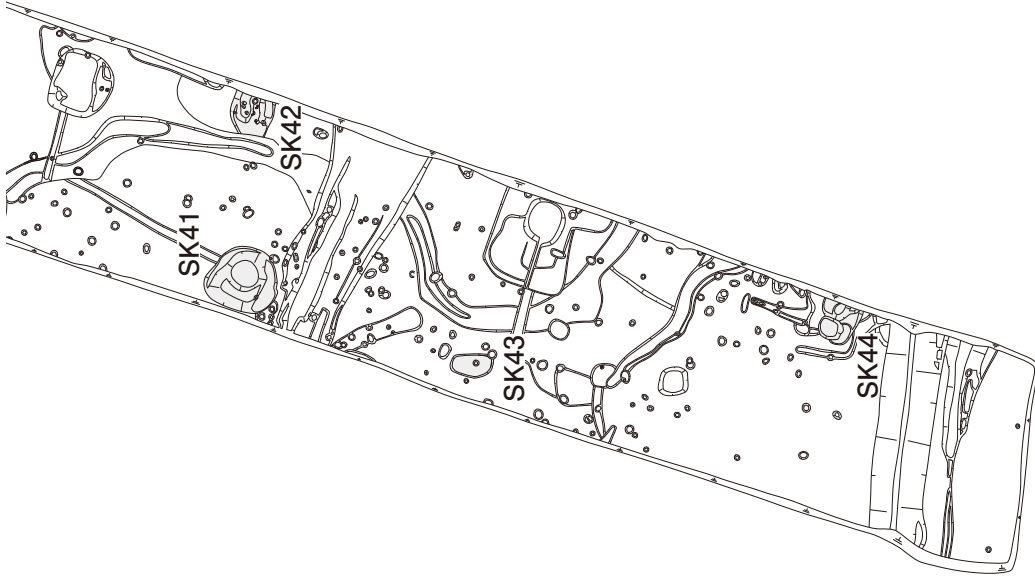


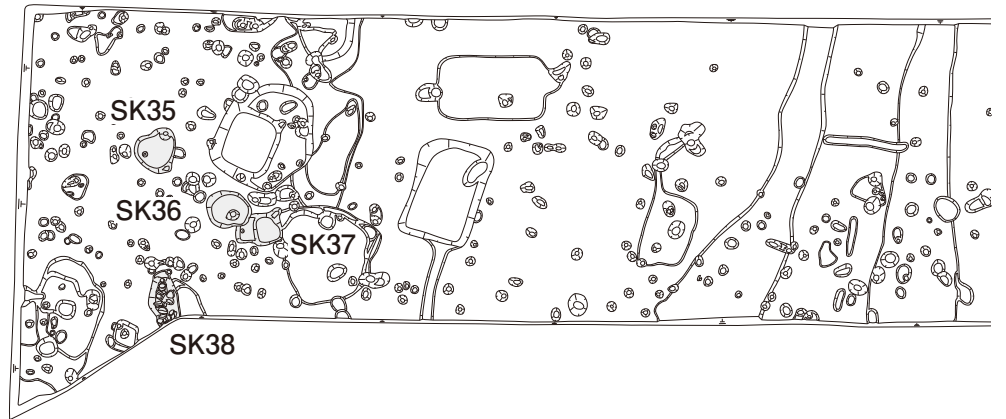
第12图 A·B区 SK位置图



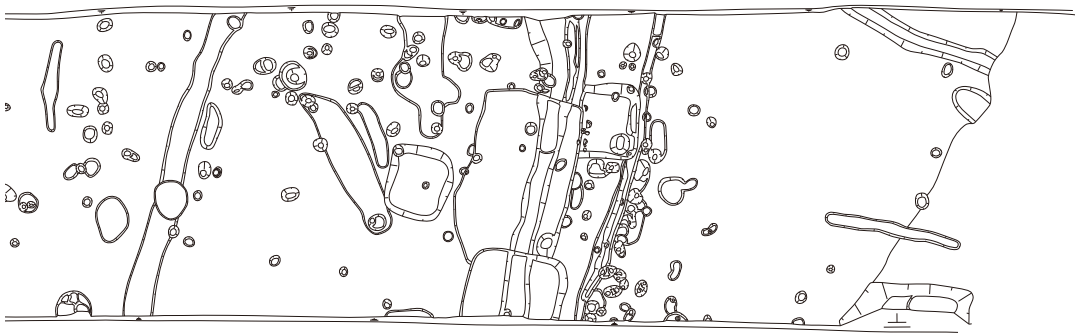


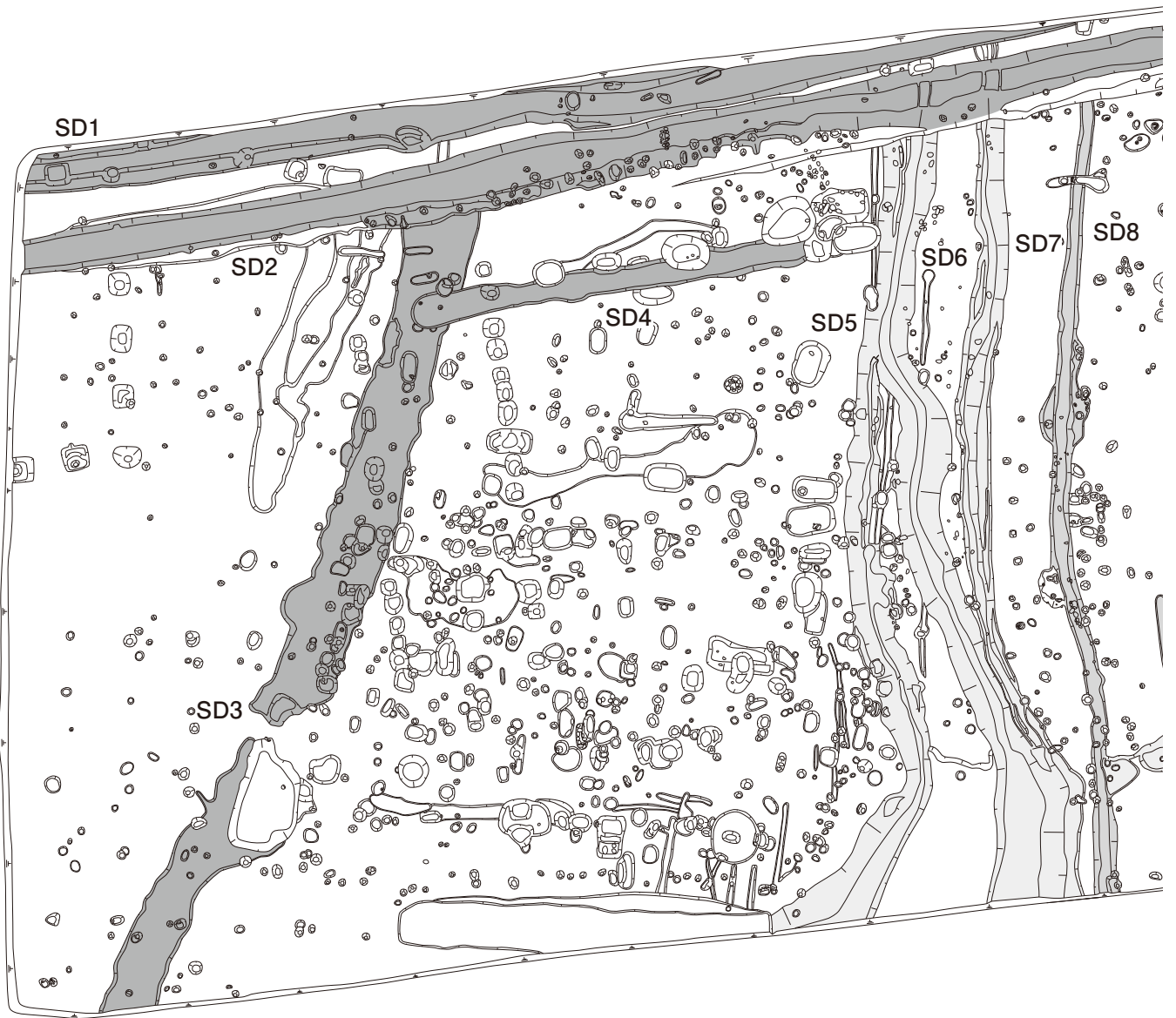
第13图 C·D·F区 SK位置图



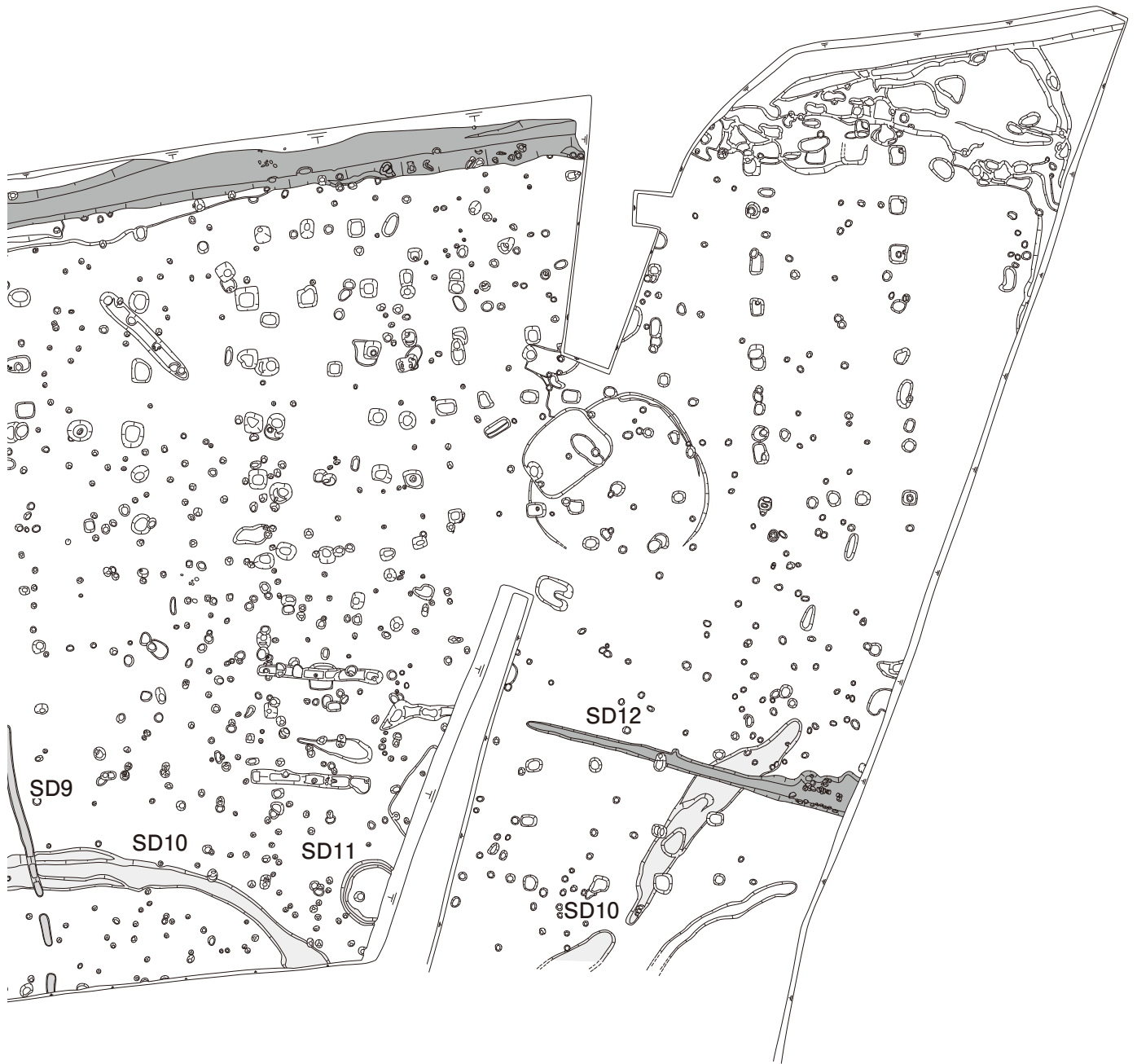


第 14 图 E 区 SK 位置图



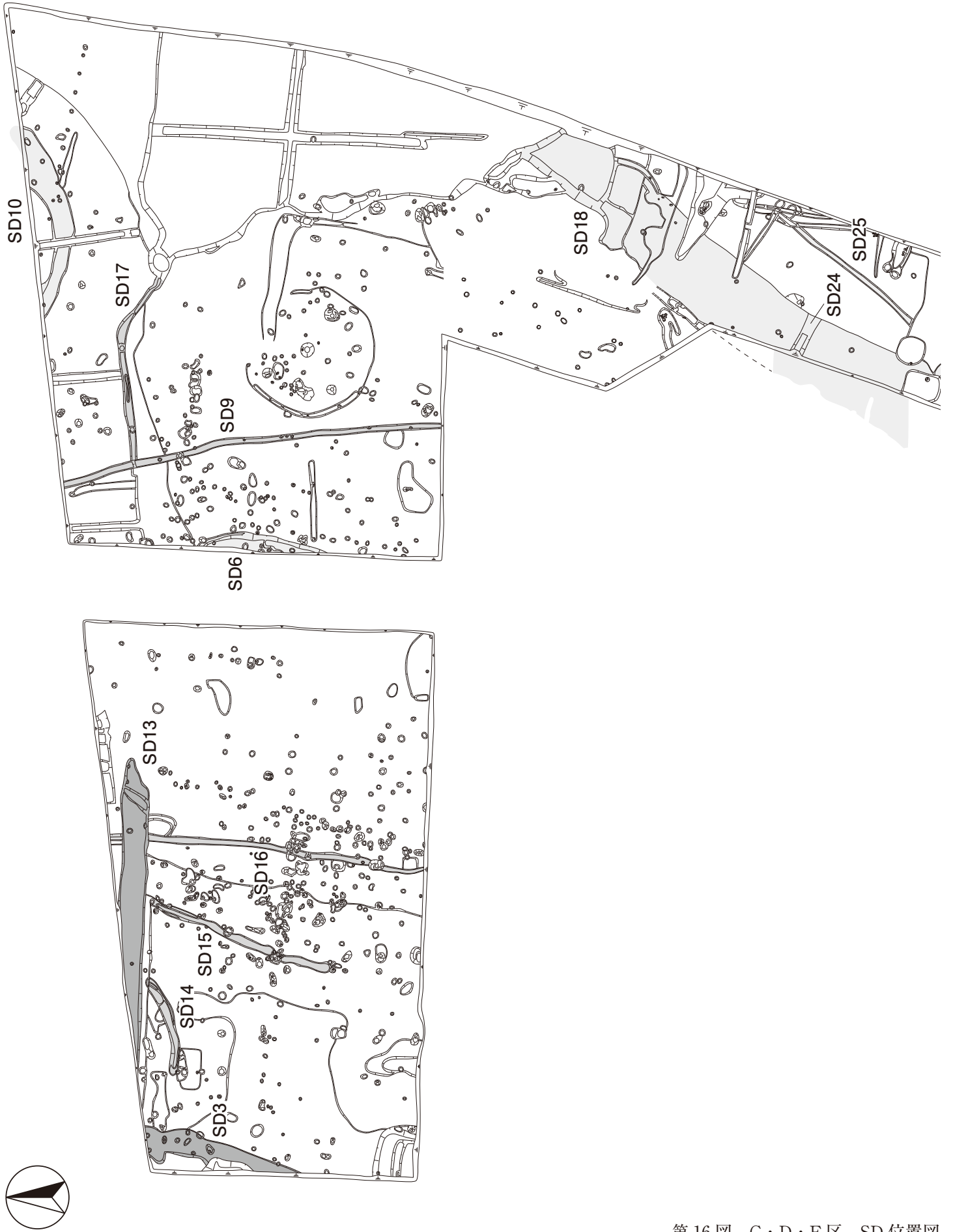


第15图 A·B区SD位置图

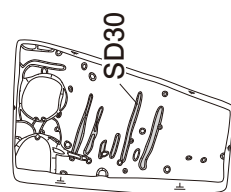
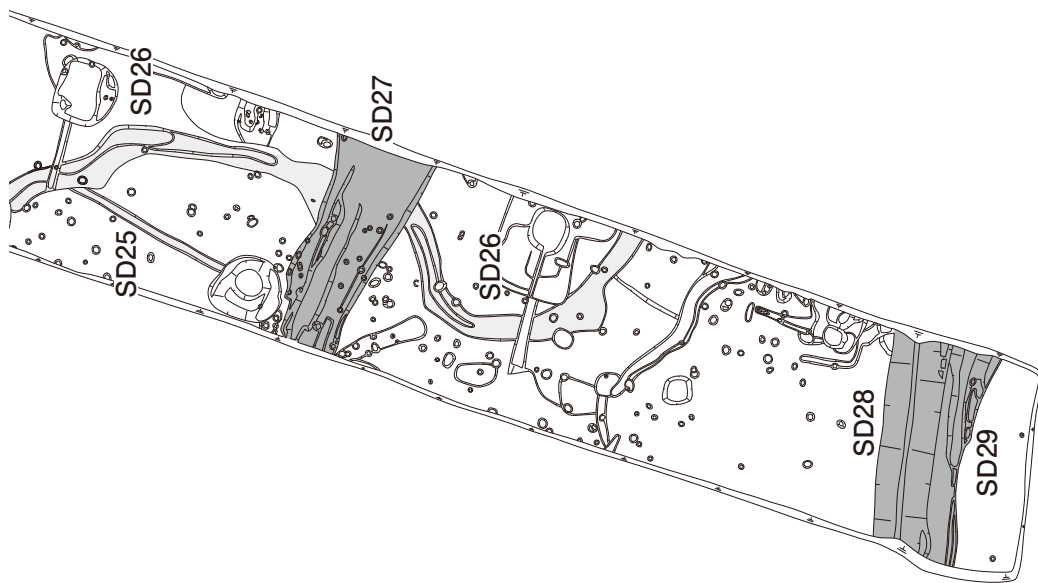


- 弥生
- 古代
- 中世



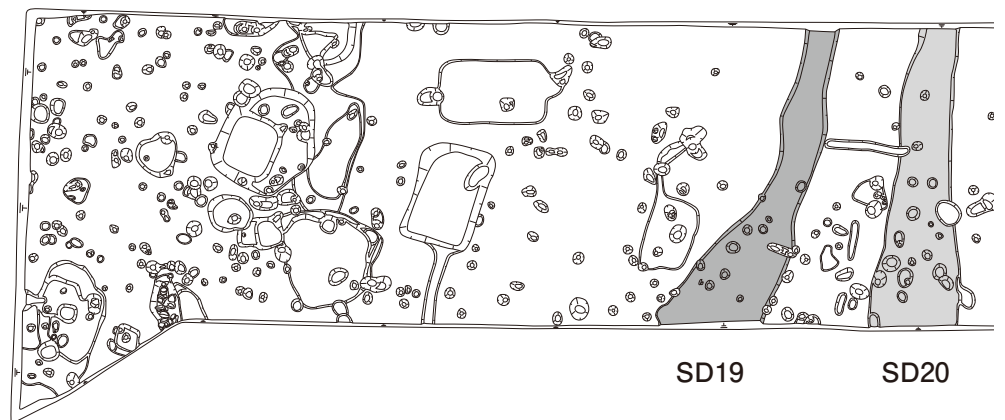


第16图 C·D·F区 SD位置图

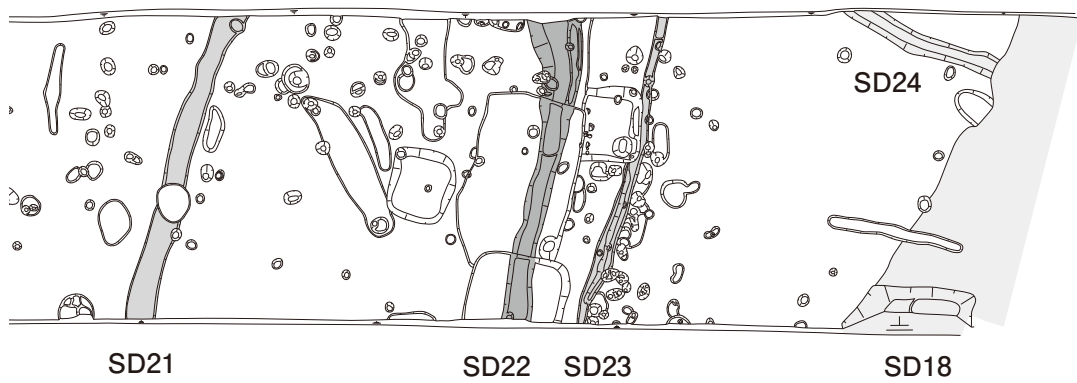


- 弥生
- 古代
- 中世





第 17 图 E 区 SD 位置图



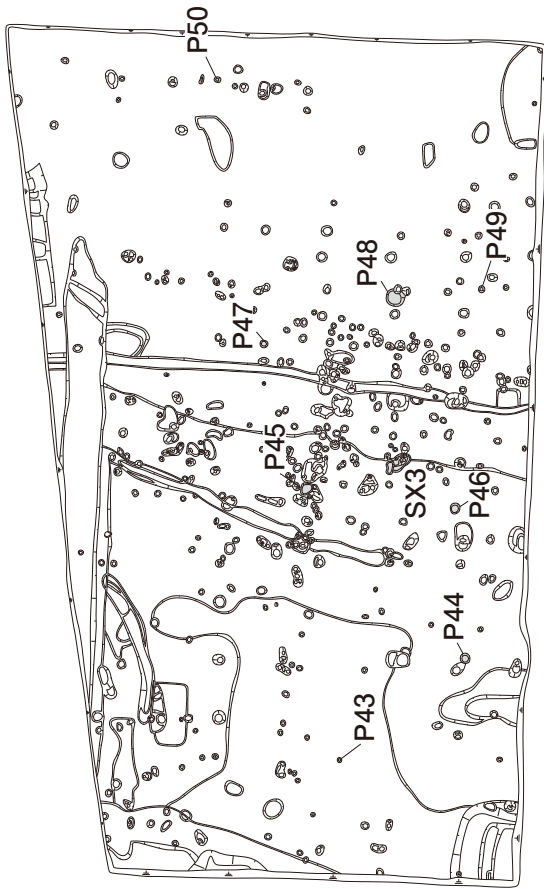
- 弥生
- 古代
- 中世



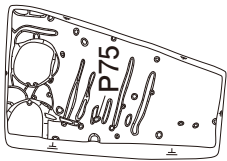
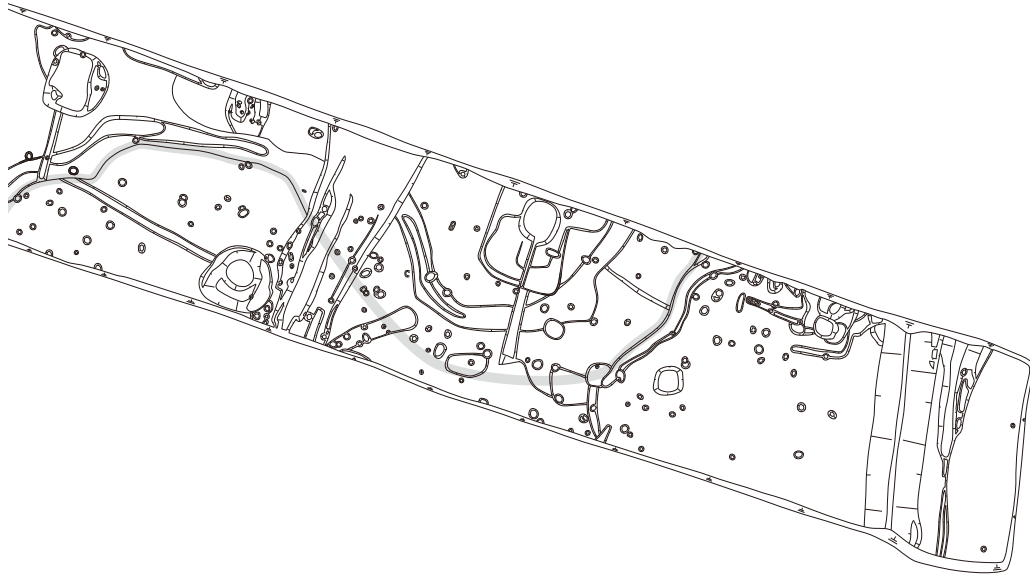


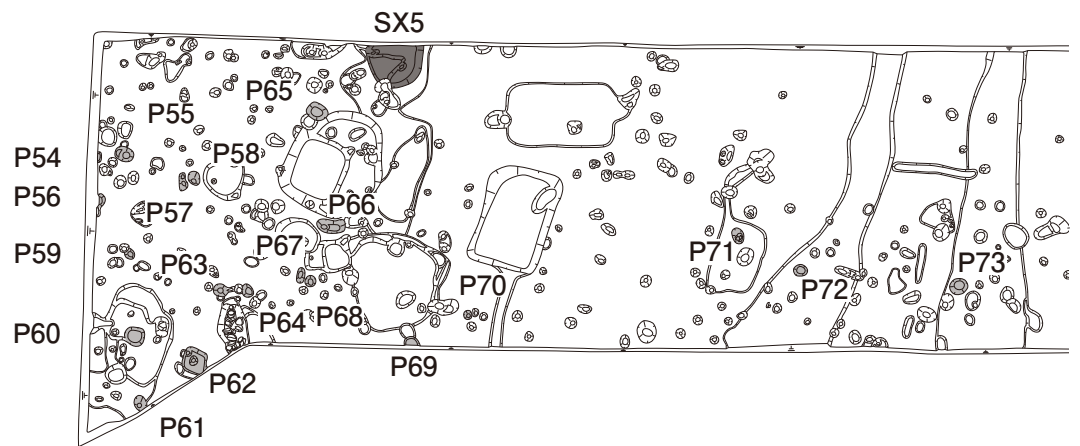
第 18 图 A·B 区 SX·P 等位置图



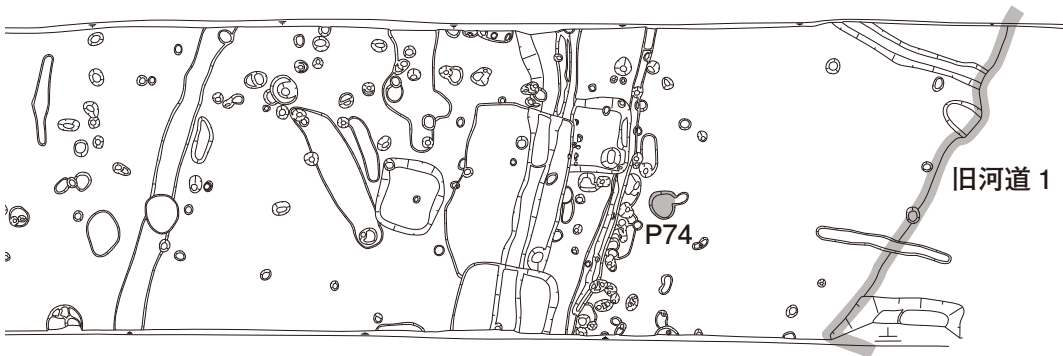


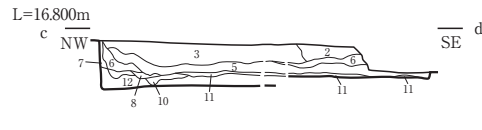
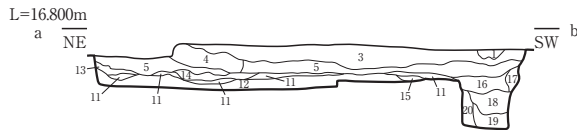
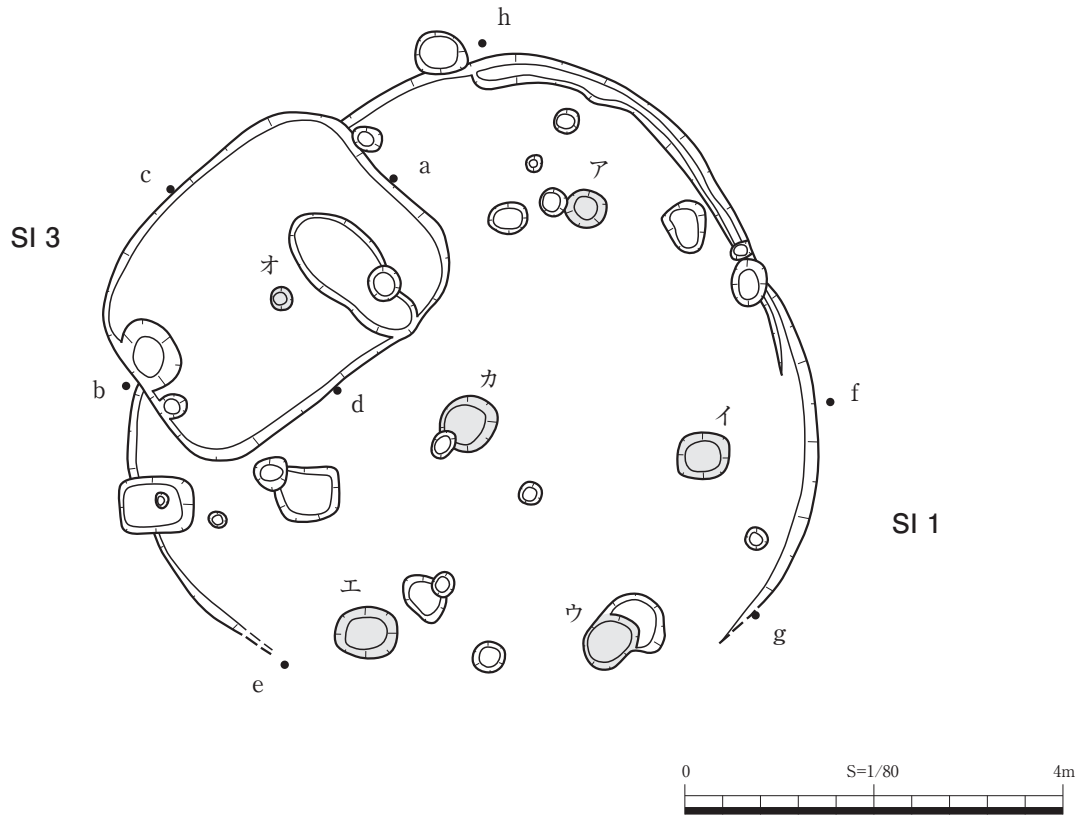
第19图 C·D·F区 SX·P等位置图



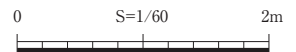


第 20 图 E 区 SX · P 等位置图

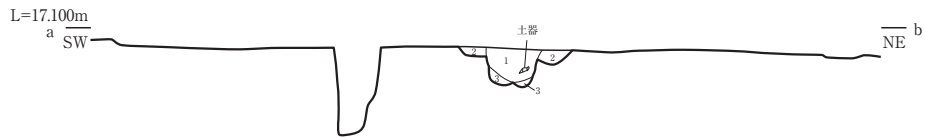
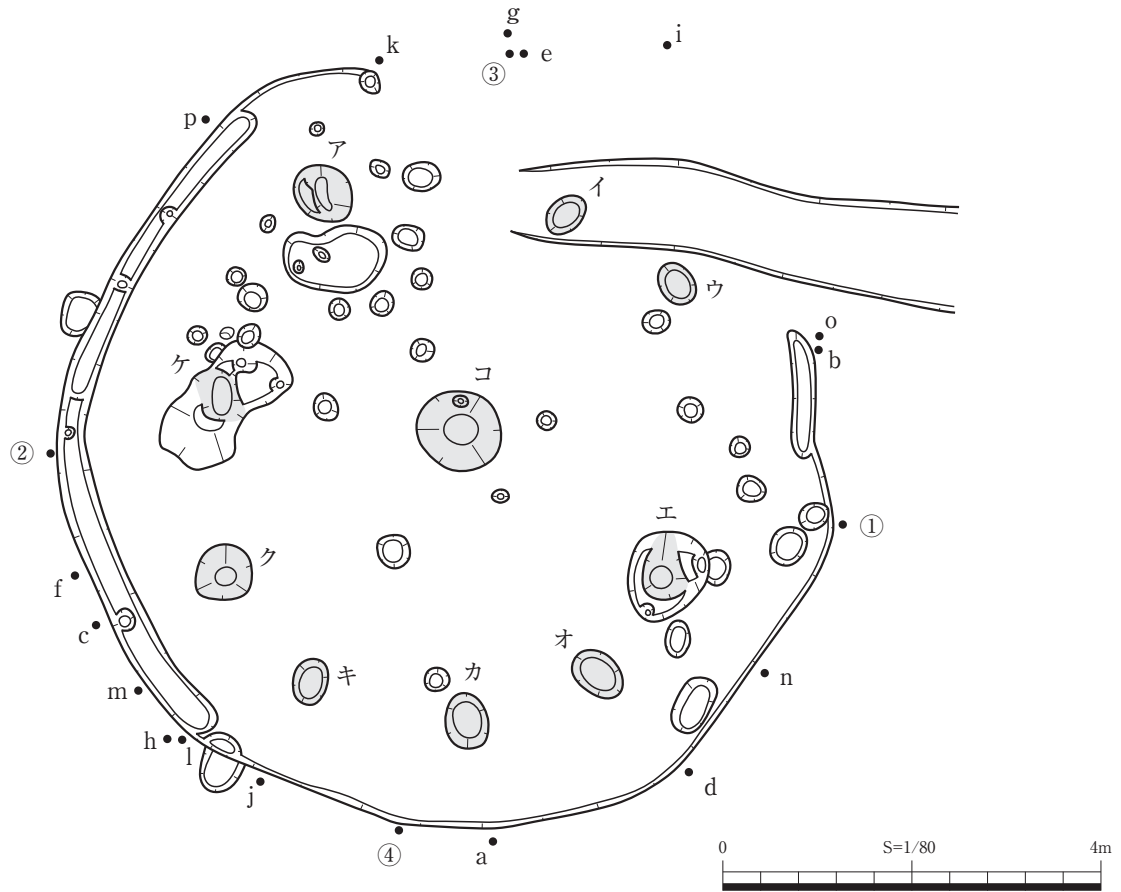




- | | | | |
|------------------|------------------|-----------------------|--------------------------|
| 1. 褐色粘質土 (やや暗い) | 6. 暗褐色粘質土 | 11. 黄白色粘質土 (貼床) | 16. 灰褐色粘質土 (やや暗い) |
| 2. 明褐色粘質土 | 7. 黄褐色粘質土 (やや暗い) | 12. 淡褐色粘質土 (下層遺構) | 17. 暗灰黄色粘質土 (やや淡い) |
| 3. 褐灰色粘質土 | 8. 黄色粒混じり暗灰色粘質土 | 13. 黄褐色粘質土 | 18. 黄色粒少混じり褐灰色粘質土 (やや暗い) |
| 4. 黄色粒混じり灰色粘質土 | 9. 淡褐色粘質土 | 14. 炭混じり灰褐色粘質土 (やや暗い) | 19. 黄色粒少混じり灰褐色粘質土 (やや暗い) |
| 5. 暗褐色粘質土 (やや淡い) | 10. 濁淡黄色粘質土 | 15. 灰色粘質土 (やや淡い) | 20. 黄色土混じり淡褐色粘質土 |



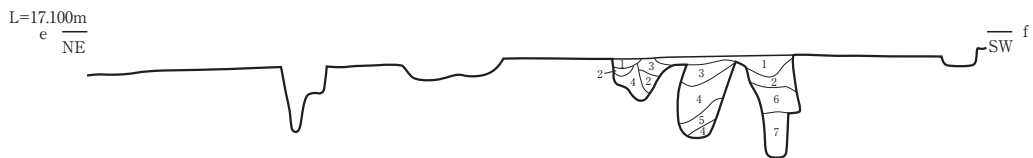
第 21 図 SI 1、3 遺構図 (S=1/80) ・ 土層断面図 (S=1/60)



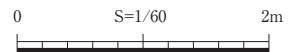
1. 黄色 (2.5Y8/6) 混じり 褐灰色 (10YR5/1) 粘質土
2. 黄色 (2.5Y8/6) 混じり 褐灰色 (10YR6/1) 粘質土
3. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック多混じり 褐灰色 (10YR5/1) 粘質土



1. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック、黒褐色 (10YR3/1) ブロック混じり 黄褐色 (10YR5/3) 粘質土
2. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック多混じり、黒褐色 (10YR3/1) ブロック混じり 淡黄褐色 (2.5Y5/3) 粘質土

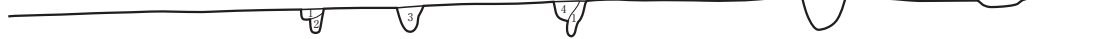


1. 褐灰色 (10YR4/1) 粘質土
2. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック少混じり 褐灰色 (10YR4/1) 粘質土
3. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック多混じり 褐灰色 (10YR4/1) 粘質土
4. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック超多混じり、
褐灰色 (10YR4/1) ブロック混じり 褐灰色 (10YR6/1) 粘質土
5. 淡褐灰色 (10YR4/1) 粘質土
6. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり 黄褐色 (10YR5/3) 粘質土
7. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック、黒褐色 (10YR3/1) ブロック混じり
淡灰色 (N6/) 粘質土



第 22 図 SI 2 遺構図 (S=1/80)・土層断面図 (S=1/60)

L=17.100m
g N



- | | |
|---|--|
| 1. 褐灰色 (10YR5/1) 粘質土 | 3. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり褐灰色 (10YR4/1) 粘質土 |
| 2. 黒褐色 (10YR3/1) ブロック、黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり
褐灰色 (10YR5/1) 粘質土 | 4. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり褐灰色 (10YR5/1) 粘質土 |

L=17.100m
i NE



- | | | |
|-------------------------------------|---|----------------------|
| 1. 黄色 (2.5Y8/6) 混じり褐灰色 (10YR6/) 粘質土 | 4. 黒色 (10YR2/1) ブロック混じり
淡褐灰色 (10YR6/1) 粘質土 (やや砂質土) | 6. 灰色 (N5/) 粘質土 |
| 2. 褐灰色 (10YR6/1) 粘質土 | | 7. 褐灰色 (10YR4/1) 粘質土 |
| 3. 褐灰色 (10YR5/1) 粘質土 | 5. 黄色 (2.5Y8/6) 混じり褐灰色 (10YR4/1) 粘質土 | |

L=17.100m
k N



- | | |
|---|--|
| 1. 黄色 (2.5Y8/6) 混じり褐灰色 (10YR4/1) 粘質土 | 7. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック多混じり、黒褐色 (10YR3/1)
ブロック混じり黄褐色 (2.5Y5/3) 粘質土 |
| 2. 褐灰色 (10YR4/1) 粘質土 | 8. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘質土 |
| 3. 黒褐色 (10YR3/1) 混じり黄色 (2.5Y8/6) 粘質土 | 9. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり褐灰色 (10YR5/1) 粘質土 |
| 4. 褐灰色 (10YR5/1) 混じり黄色 (2.5Y8/6) 粘質土 | 10. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり淡褐灰色 (10YR4/1) 粘質土 |
| 5. 黄褐色 (10YR5/3) 粘質土 | 11. 黄色 (2.5Y8/6) 混じり黒褐色 (10YR3/1) 粘質土 |
| 6. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック、黒褐色 (10YR3/1) ブロック
混じり黄褐色 (2.5Y5/3) 粘質土 | 12. 黄色 (2.5Y8/6) 混じり黄灰色 (2.5Y6/1) 粘質土 |

L=17.100m
m W



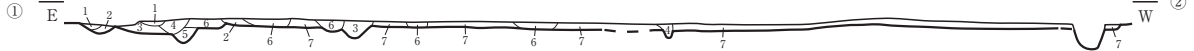
- | | |
|--|--|
| 1. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり褐灰色 (10YR6/1) 粘質土 | 5. 褐灰色 (10YR5/1) 粘質土 |
| 2. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり灰黄褐 (10YR5/2) 粘質土 | 6. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック少混じり淡褐灰色 (10YR4/1) 粘質土 |
| 3. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり褐灰色 (10YR5/1) 粘質土 | 7. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり褐灰色 (10YR5/1) 粘質土 |
| 4. 灰黄褐色 (10YR6/2) 粘質土 | 8. 黄色 (2.5Y8/6) 混じり黄灰色 (2.5Y5/1) 粘質土 |

L=17.100m
o SE

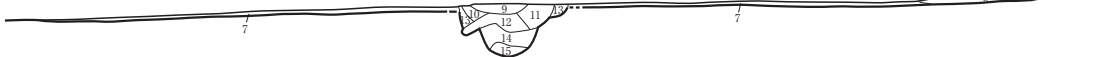


- | |
|-------------------------------------|
| 1. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり灰色 (N6/) 粘質土 |
| 2. 褐灰色 (10YR6/1) 粘質土 |

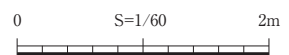
L=17.100m



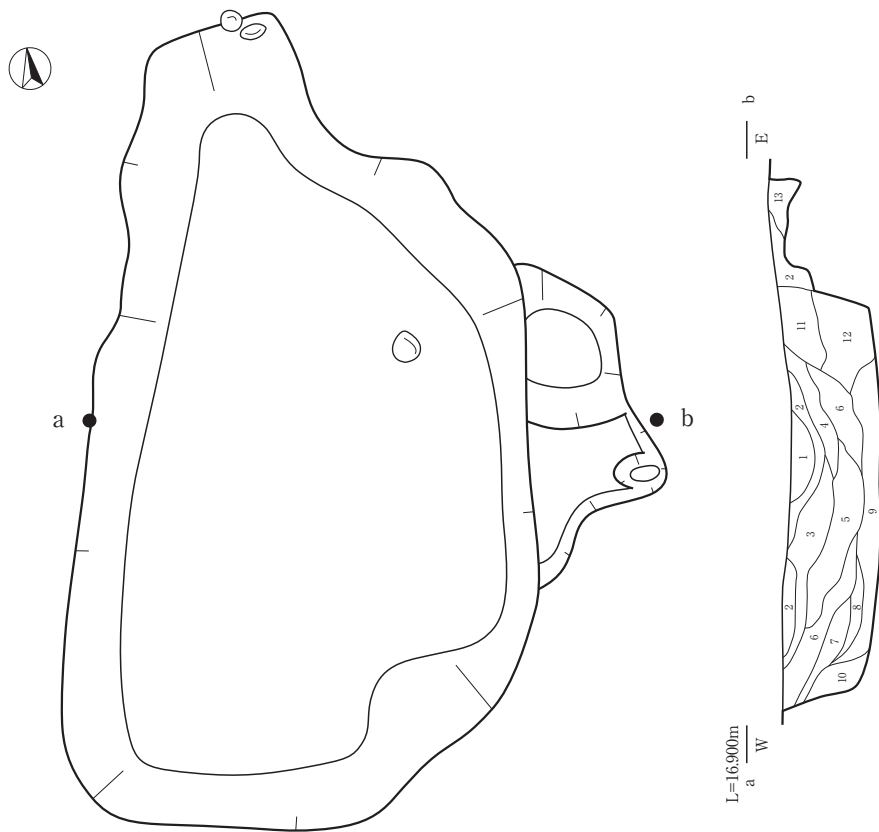
L=17.100m
③ N



- | | |
|---|--|
| 1. 褐灰色 (10YR4/1) 粘質土 | 8. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり灰黄褐色 (10YR5/2) 粘質土 |
| 2. 褐灰色 (10YR5/1) 粘質土 | 9. 黒色 (10YR2/1) 粘質土 |
| 3. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり褐灰色 (10YR6/1) 粘質土 | 10. 黒褐色 (10YR3/1) 混じり褐灰色 (10YR5/1) 粘質土 |
| 4. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック、黒褐色 (10YR3/1) ブロック混じり
褐灰色 (10YR4/1) 粘質土 | 11. 褐灰色 (10YR5/1) 粘質土 |
| 5. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり灰黄褐色 (10YR5/2) 粘質土 | 12. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック (細) 混じり褐灰色 (10YR4/1) 粘質土 |
| 6. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり褐灰色 (10YR5/1) 粘質土 | 13. 黄色 (2.5Y8/6) 混じり褐灰色 (10YR6/1) 粘質土 |
| 7. 黄色 (2.5Y8/6) 混じり灰黄褐色 (10YR6/2) 粘質土 | 14. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり灰黄色 (2.5Y6/2) 粘質土 |
| | 15. 浅黄色 (2.5Y7/3) ブロック混じり褐灰色 (10YR4/1) 粘質土 |



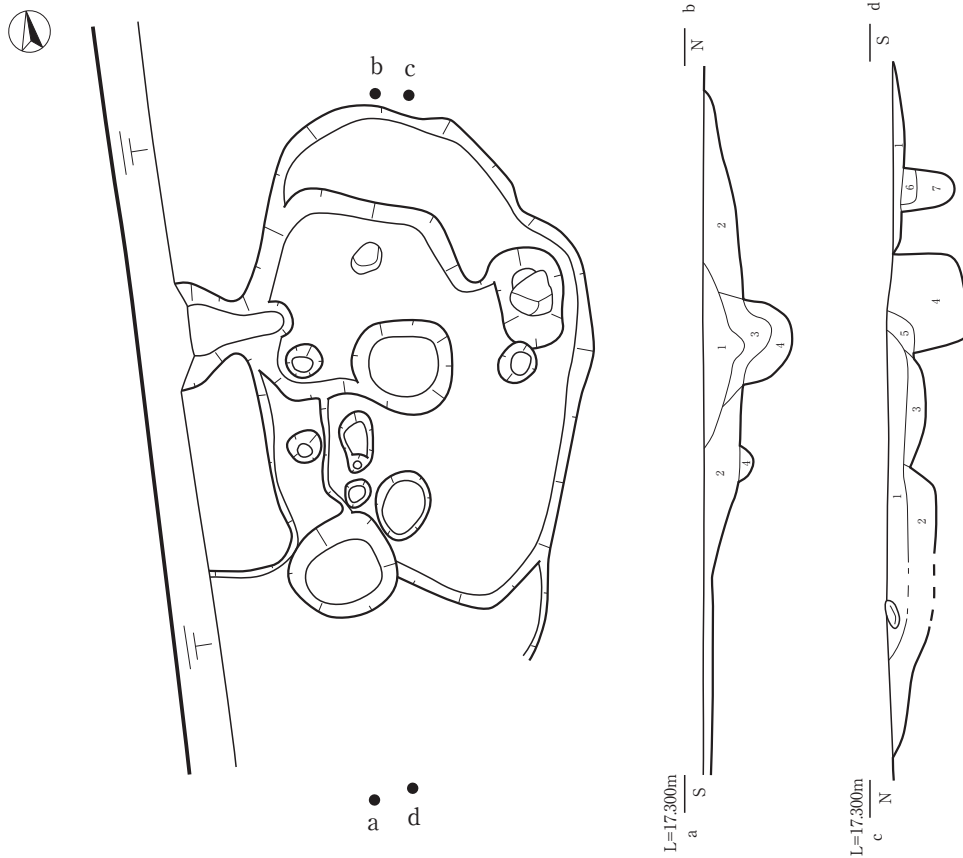
第 23 図 SI 2 土層断面図 (S=1/60)



- 8. 砂混じり 淡灰紫色粘質土
- 9. 暗青灰色粘土
- 10. 淡灰黄色荒砂層
- 11. 骨片・炭粒混じり 灰色粘土 (やや暗い)
- 12. 淡灰紫色粘土 (やや暗い)
- 13. 黄色土混じり 褐灰色粘質土

- 1. 淡褐色荒砂層
- 2. 灰色粘土 (やや暗い)
- 3. 淡灰褐色 荒砂層 (砂・粘土五層)
- 4. 灰色粘土
- 5. 灰褐色粘質土 (砂層混じる)
- 6. 淡褐色粘質土
- 7. 淡褐色灰色荒砂層

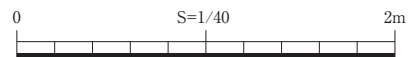
SI 4



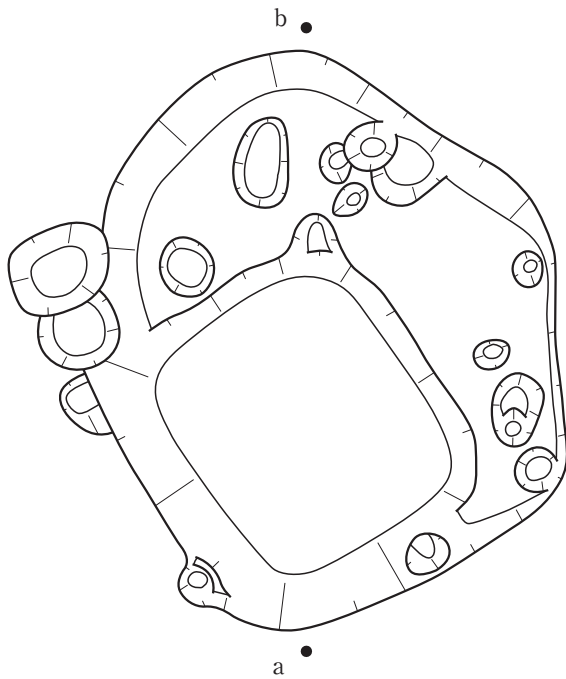
- 5. 褐灰色 (10YR5/1) 粘質土
- 6. 黄色 (2.5Y8/6) 混じり 褐灰色 (10YR4/1) 粘質土
- 7. 褐灰色 (10YR4/1) 粘質土

- 1. 炭化物混じり 褐灰色 (7.5YR5/1) 粘質土
- 2. 黄色 (2.5Y8/6) プロック (小) 少混じり、炭化物混じり 褐灰色 (10YR5/1) 粘質土
- 3. 炭化物混じり 褐灰色 (10YR5/1) 粘質土
- 4. 黄色 (2.5Y8/6) プロック (中) 多混じり 褐灰色 (10YR5/1) 粘質土

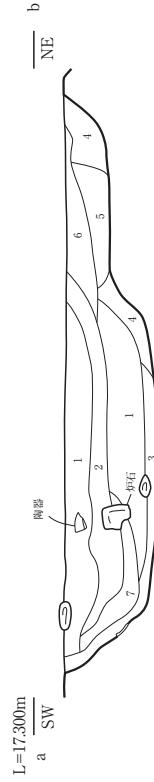
SI 5



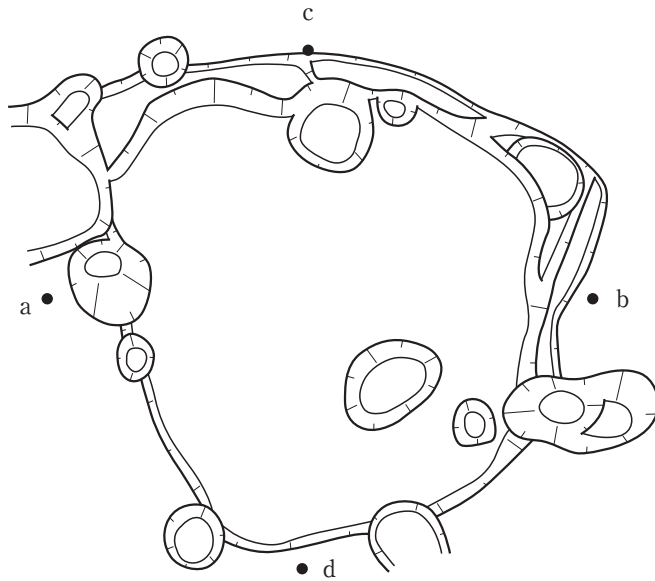
第 24 図 SI 4、5 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



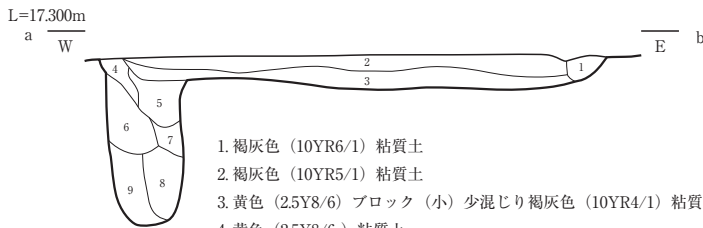
SI 6



1. 炭化物混じり褐色 (10YR4/1) 粘質土
2. 黄色 (2.5Y8/6) 粘質土 (固くしまった土) 混じり褐色 (10YR4/1) 粘質土
3. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック (小) 少混じり褐色 (10YR4/1) 粘質土
4. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック (小) 混じり褐色 (10YR6/1) 粘質土
5. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック (小) 少混じり褐色 (10YR5/1) 粘質土
6. 灰黄褐色 (10YR6/2) 粘質土



SI 7

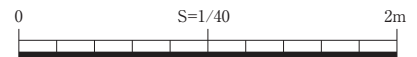


1. 褐色 (10YR6/1) 粘質土
2. 褐色 (10YR5/1) 粘質土
3. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック (小) 少混じり褐色 (10YR4/1) 粘質土
4. 黄色 (2.5Y8/6) 粘質土
5. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック (小) 少混じり褐色 (10YR5/1) 粘質土

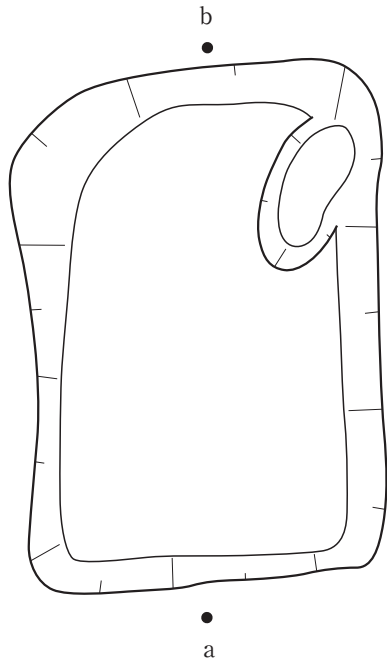


1. 褐色 (7.5YR5/1) 粘質土
2. 黄色 (2.5Y8/6) 混じり褐色 (10YR5/1) 粘質土
3. 褐色 (10YR5/1) 粘質土
4. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック (小) 少混じり褐色 (10YR4/1) 粘質土

6. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック (小) 多混じり褐色 (10YR6/1) 粘質土
7. 淡黄色 (2.5Y8/4) ブロック (小) 混じり
黒褐色 (10YR3/1) ブロック (小) 混じり褐色 (10YR6/1) 粘質土
8. 褐色 (10YR4/1) 粘質土
9. 淡褐色 (10YR5/1) 粘質土

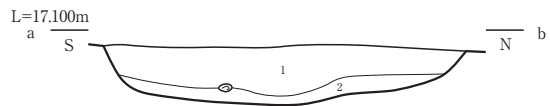
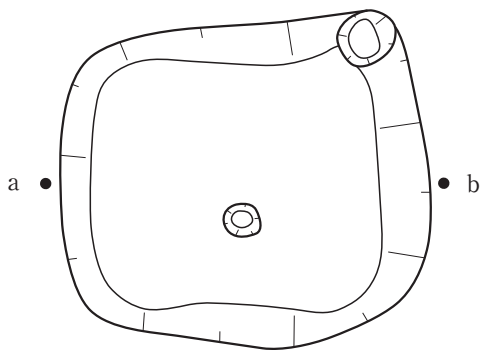


第 25 図 SI 6、7 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



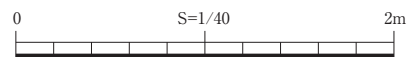
1. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック (中～大) 混じり褐色 (10YR6/1) 粘質土
2. 黄色 (10YR8/6) ブロック (大) 混じり、黒褐色 (10YR3/1) ブロック (中) 少混じり褐色 (1YR5/1) 粘質土
3. 褐色 (10YR5/1) 粘質土
4. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック (小) 混じり褐色 (10YR5/1) 粘質土
5. 黄色 (2.5Y8/6)、炭化物混じり褐色 (10YR5/1) 粘質土
6. 褐色 (10YR5/1) 混じり黄色 (2.5Y8/6) 粘質土

SI 8

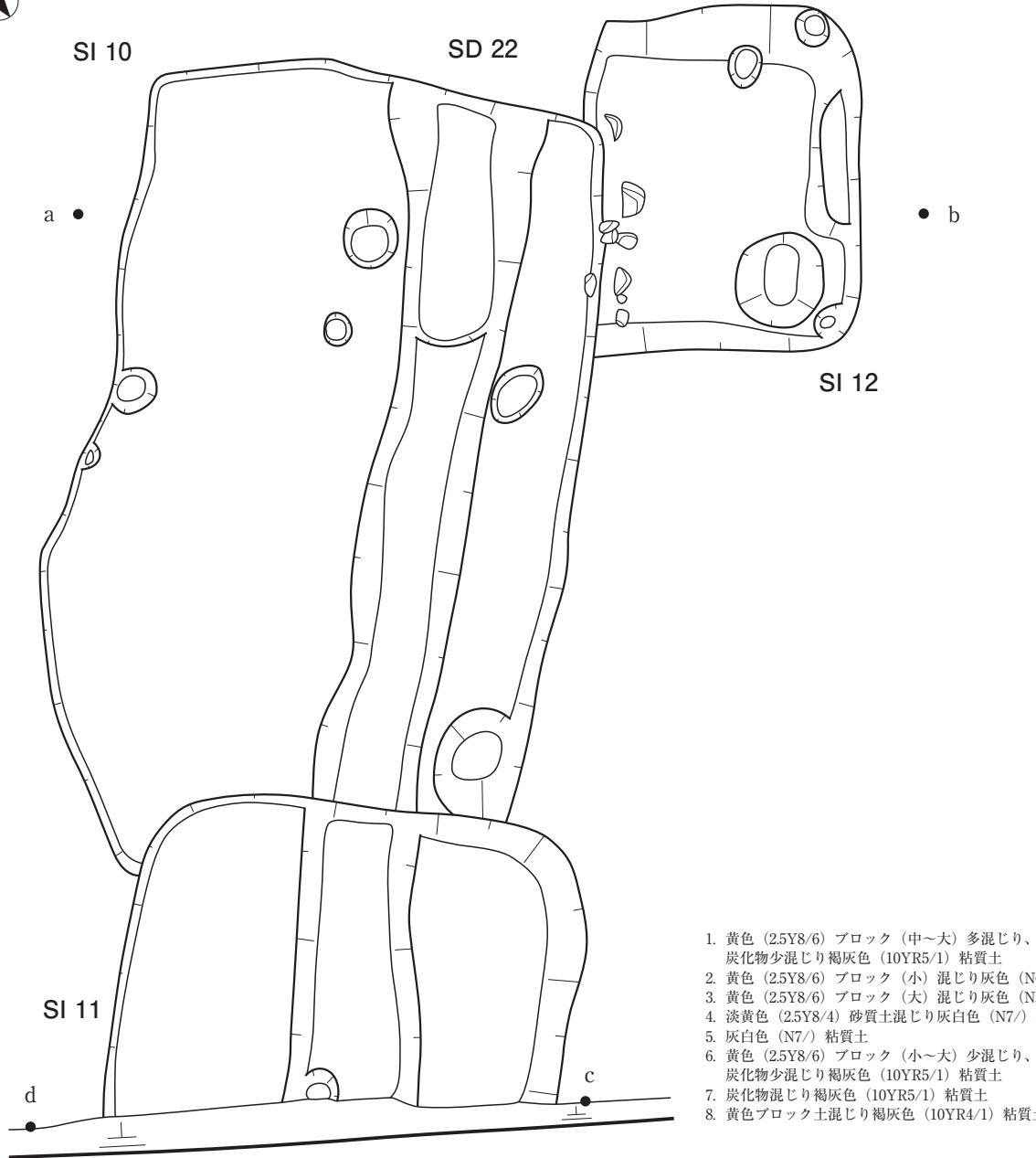


1. 灰黄褐色 (10YR6/2) 混じり褐色 (10YR5/1) 粘質土
2. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック (小) 少混じり灰色 (N6/) 粘質土

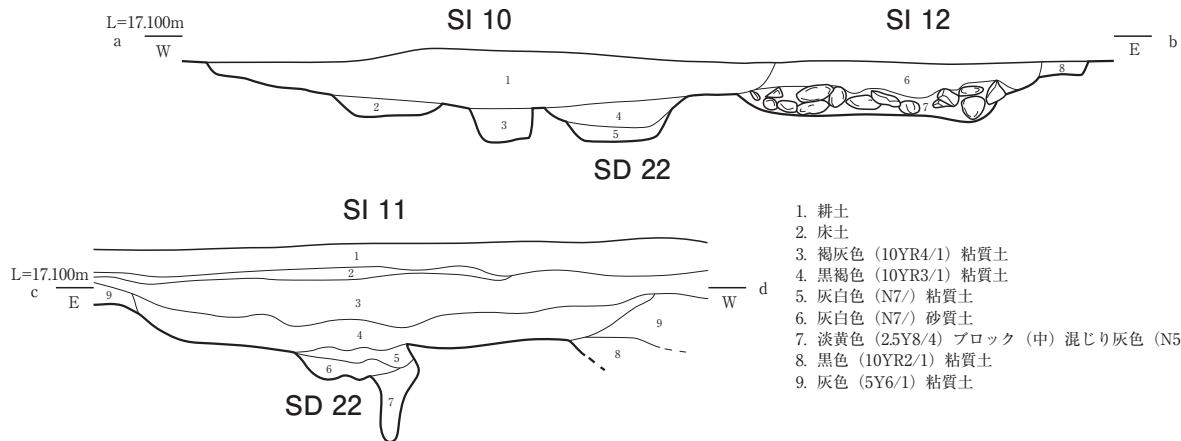
SI 9



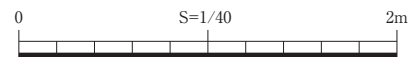
第 26 図 SI 8、9 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



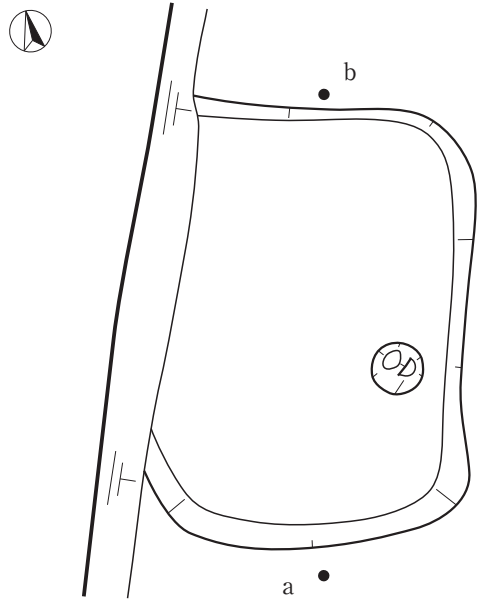
1. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック (中~大) 多混じり、炭化物少混じり褐色 (10YR5/1) 粘質土
2. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック (小) 混じり灰色 (N6/) 粘質土
3. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック (大) 混じり灰色 (N5/) 粘質土
4. 淡黄色 (2.5Y8/4) 砂質土混じり灰白色 (N7/) 粘質土
5. 灰白色 (N7/) 粘質土
6. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック (小~大) 少混じり、炭化物少混じり褐色 (10YR5/1) 粘質土
7. 炭化物混じり褐色 (10YR5/1) 粘質土
8. 黄色ブロック土混じり褐色 (10YR4/1) 粘質土



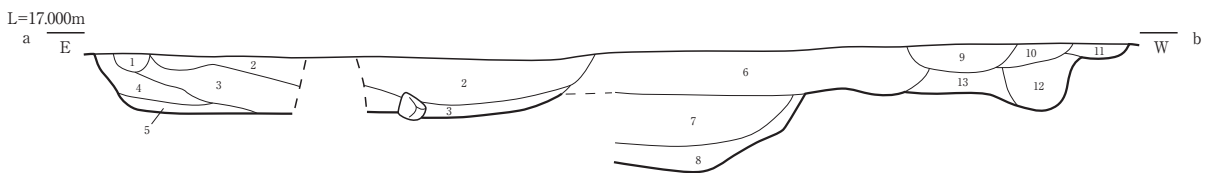
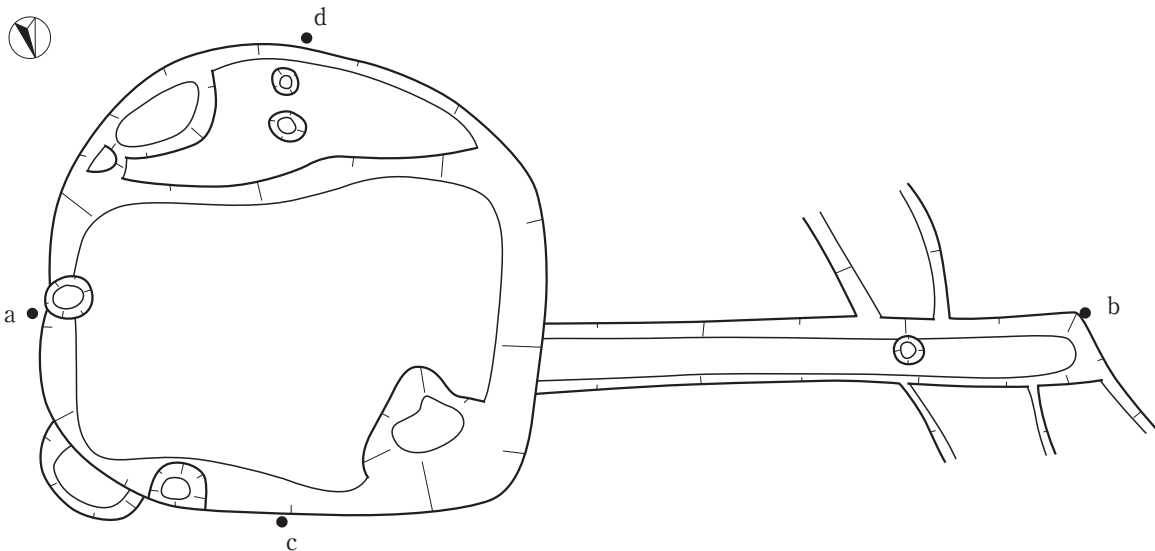
1. 耕土
2. 床土
3. 褐色 (10YR4/1) 粘質土
4. 黒褐色 (10YR3/1) 粘質土
5. 灰白色 (N7/) 粘質土
6. 灰白色 (N7/) 砂質土
7. 淡黄色 (2.5Y8/4) ブロック (中) 混じり灰色 (N5/) 強粘質土
8. 黒色 (10YR2/1) 粘質土
9. 灰色 (5Y6/1) 粘質土



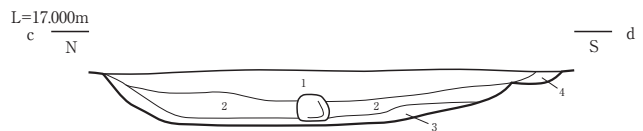
第 27 図 SI 10、11、12 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



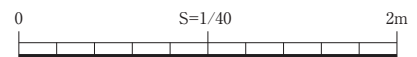
SI 13



1. 褐灰色 (10YR6/1) 粘質土
2. 暗褐色 (10YR3/4) 混じり褐灰色 (10YR/1) 粘質土
3. 明黄褐色 (10YR6/8) ブロック混じり灰色 (B5/) 粘質土
4. 灰色 (N4/) 粘質土
5. 明黄褐色 (10YR6/8) ブロック混じり灰色 (N4/) 粘質土
6. 褐灰色 (10YR4/1) 粘質土
7. 灰黄色 (2.5Y6/2) 砂質土 (微砂)
8. 淡灰色 (N6/) 砂質土 (微砂)
9. 黒褐色 (10YR3/1) 粘質土
10. 灰白色 (2.5Y7/1) 混じり黒褐色 (10YR/1) 粘質土
11. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり褐灰色 (10YR6/1) 粘質土
12. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック、黒褐色ブロック混じり淡灰色 (N6/) 粘質土
13. 淡灰色 (N6/) 粘質土

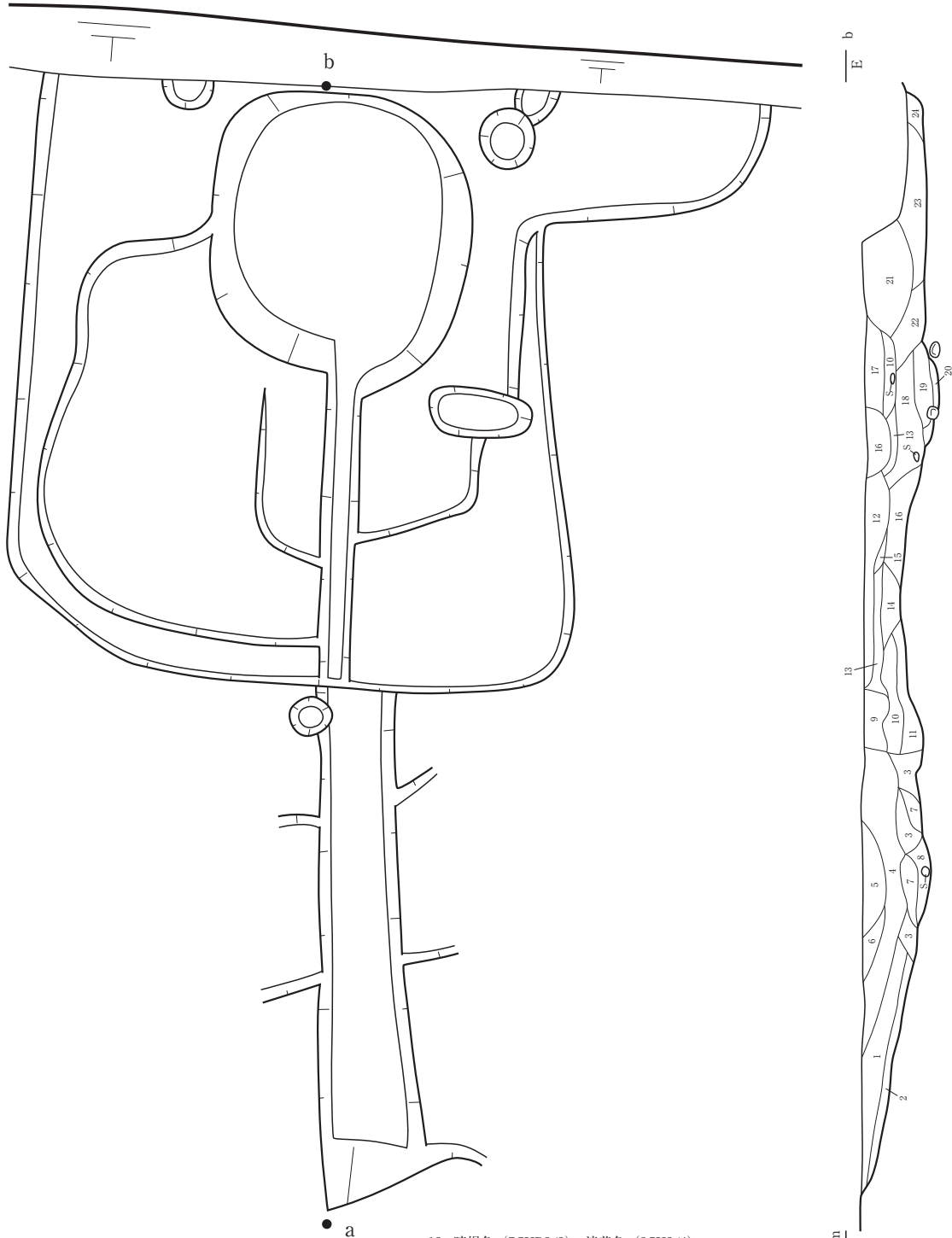


1. 暗褐色 (10YR3/4) 混じり褐灰色 (10YR5/1) 粘質土
2. 明黄褐色 (10YR6/8) ブロック混じり灰色 (N5/) 粘質土
3. 明黄褐色 (10YR6/8) ブロック混じり灰色 (N4/) 粘質土
4. 灰色 (N4/) 粘質土



SI 14

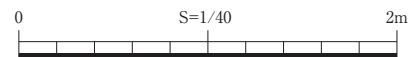
第 28 図 SI 13、14 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



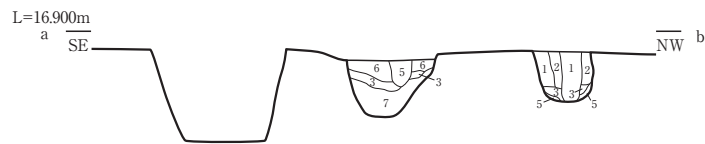
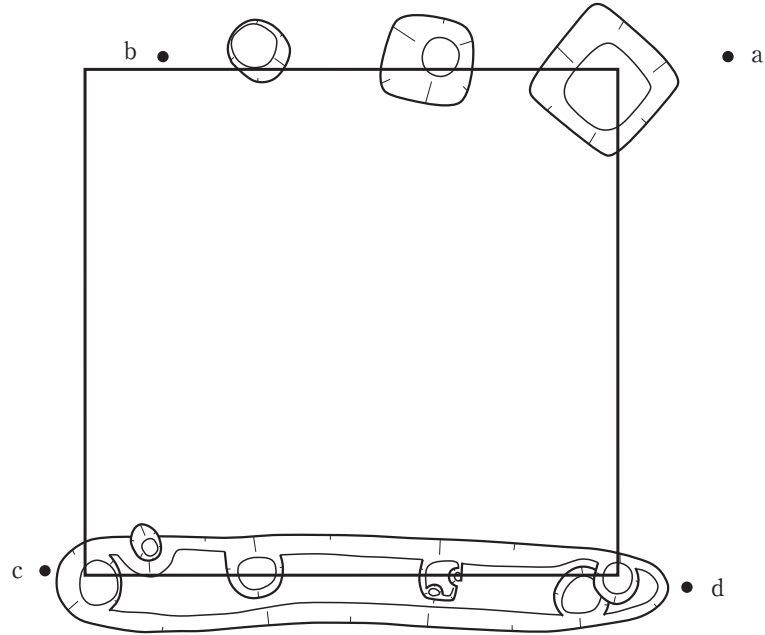
1. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり黄灰色 (2.5Y5/1) 粘質土
2. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり黄灰色 (2.5Y6/1) 粘質土
3. 灰色 (N6/) やや砂質土
4. 灰白色 (2.5Y7/1) 粘質土
5. 黒褐色 (10YR3/1) 粘質土
6. 灰白色 (2.5Y7/1) 混じり黒褐色 (10YR5/1) 粘質土
7. 灰色 (N5/) 粗砂
8. 灰色 (N6/) 砂質土
9. 暗褐色 (10YR3/3) 粒混じり褐色 (10YR6/1) やや砂質土
10. 褐色 (10YR4/1) 粘質土
11. にぶい黄橙色 (10YR6/4) ブロック混じり褐色 (10YR4/1) 粘質土
12. 褐色 (10YR/1) と暗褐色 (7.5YR3/3) との混土

13. 暗褐色 (7.5YR3/3)、淡黄色 (2.5Y8/4)、
焼土混じり褐色 (10YR4/1) 粘質土
14. 褐色 (10YR6/1) 粘質土
15. 淡黄色 (2.5Y8/4) 混じり褐色 (10YR5/1) 粘質土
16. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり灰色 (N6/) 粘質土
17. 暗褐色 (10YR3/3) 粒混じり灰色 (N6/) 粘質土
18. 灰色 (N5/) 粘質土
19. 灰色 (N5/) とにぶい黄色 (2.5Y6/4) との混土
20. にぶい黄色 (2.5Y6/4) ブロック混じり灰色 (N6/) 粘質土
21. 淡黄色 (2.5Y8/4) ブロック少混じり褐色 (10YR5/1) 粘質土
22. 淡黄色 (2.5Y8/4) ブロック少混じり褐色 (10YR4/1) 粘質土
23. 明黄褐色 (10YR7/6) ブロック混じり褐色 (10YR4/1) 粘質土
24. 褐色 (10YR5/1) 粘質土

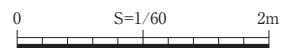
L=17,000mm
a W



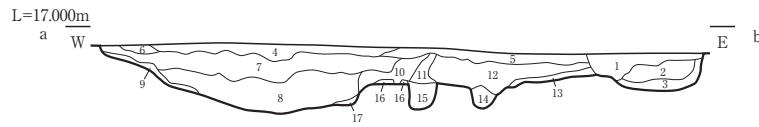
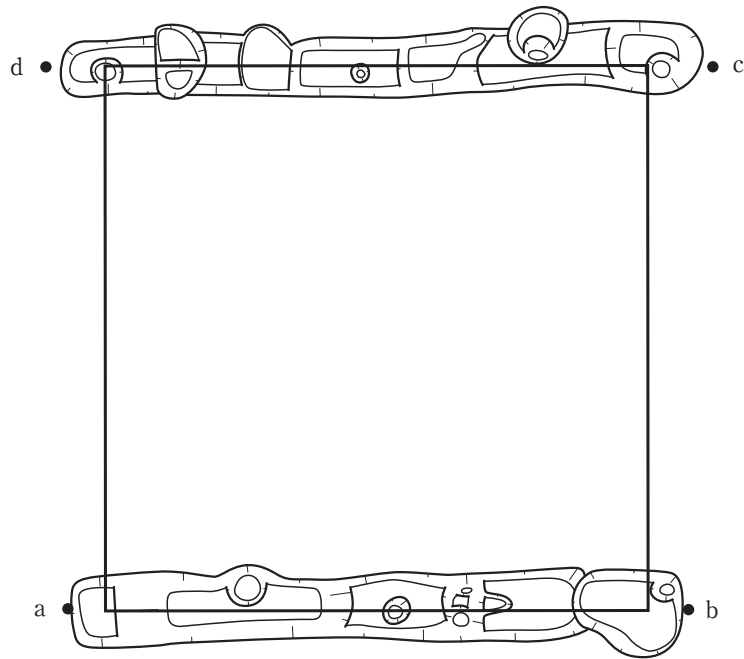
第 29 図 SI 15 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



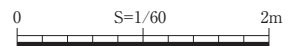
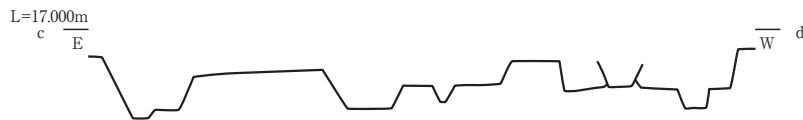
- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 褐灰色粘質土 | 5. 暗灰褐色粘質土 |
| 2. 褐灰色土混じり淡黄色粘質土 | 6. 黄色・黒色粒混じり淡黄褐色粘質土 |
| 3. 暗灰色粘質土 | 7. 黒色土混じり淡黄灰色粘質土 |
| 4. 暗灰色土混じり淡黄色粘質土 | |



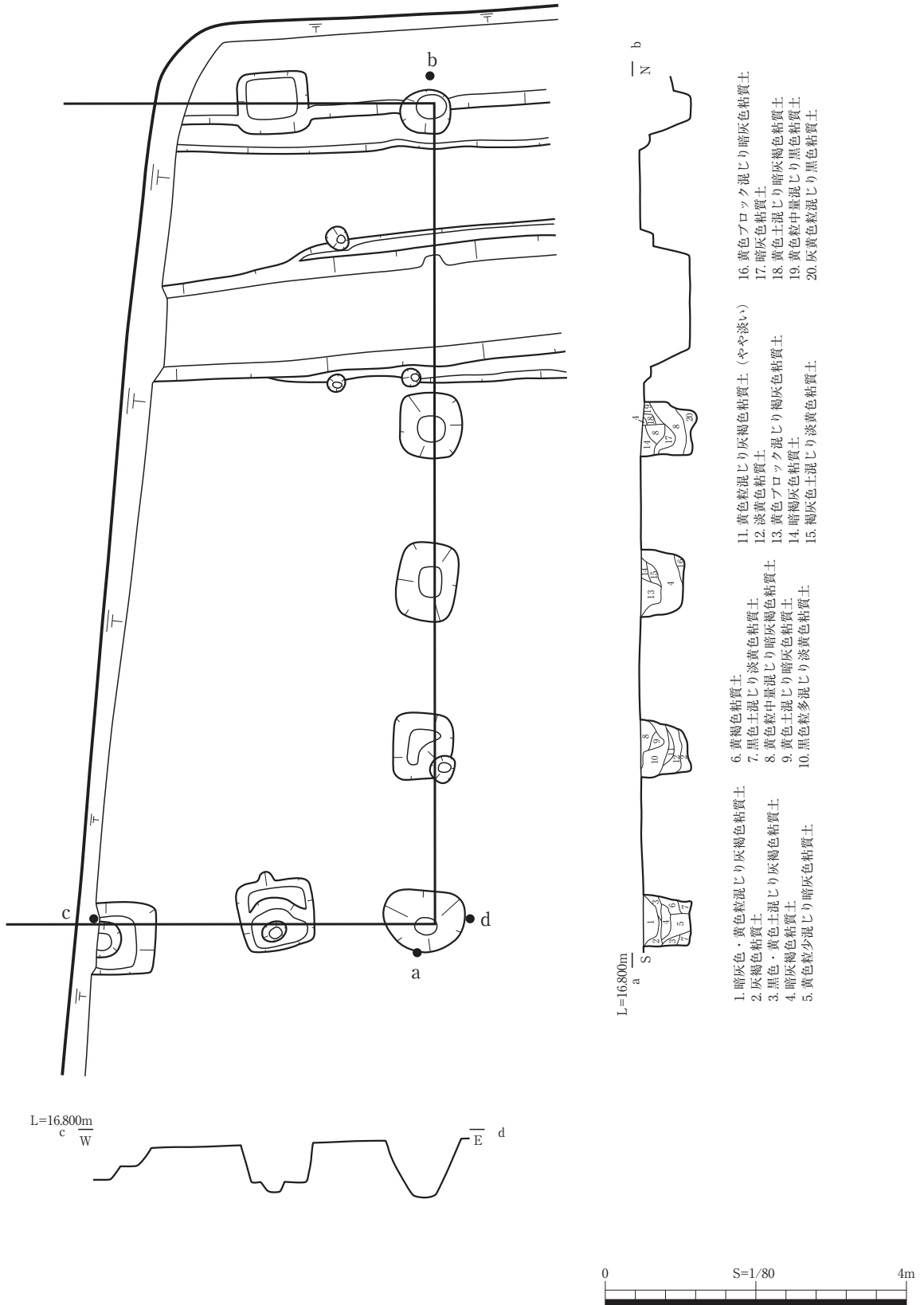
第 30 図 SB 1 遺構図・土層断面図 (S=1/60)



- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1. 褐色粘質土 (やや暗い) | 10. 褐灰色粘質土 |
| 2. 灰褐色土混じり淡黄色粘質土 | 11. 黄色土混じり褐色粘質土 |
| 3. 暗灰色土混じり淡黄色粘質土 | 12. 黄色土少混じり褐灰色粘質土 (やや暗い) |
| 4. 褐灰色粘質土 | 13. 黄白色土混じり暗灰色粘質土 |
| 5. 黄白色ブロック多混じり褐色粘質土 | 14. 淡黄褐色粘質土 (やや暗い) |
| 6. 黄色土混じり褐灰色粘質土 | 15. 淡黄褐色粘質土 (やや暗い) |
| 7. 黄白色土混じり褐灰色粘質土 | 16. 淡黄色粘質土 (地山質) |
| 8. 黄白色ブロック少混じり灰褐色粘質土 (やや暗い) | 17. 黄色土混じり暗灰色粘質土 (やや淡い) |
| 9. 褐灰色土混じり淡黄色粘質土 | |

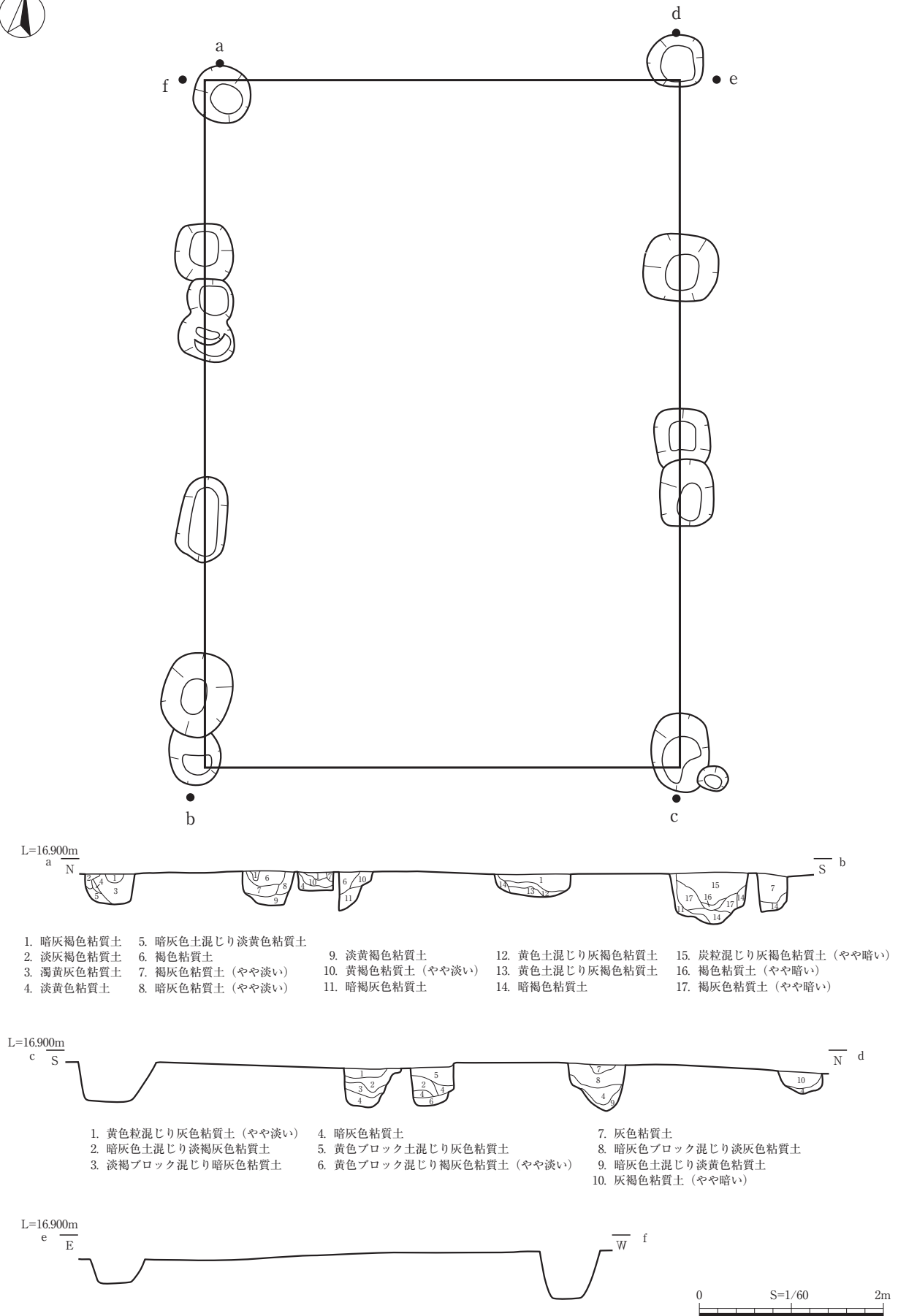


第 31 図 SB 2 遺構図・土層断面図 (S=1/60)

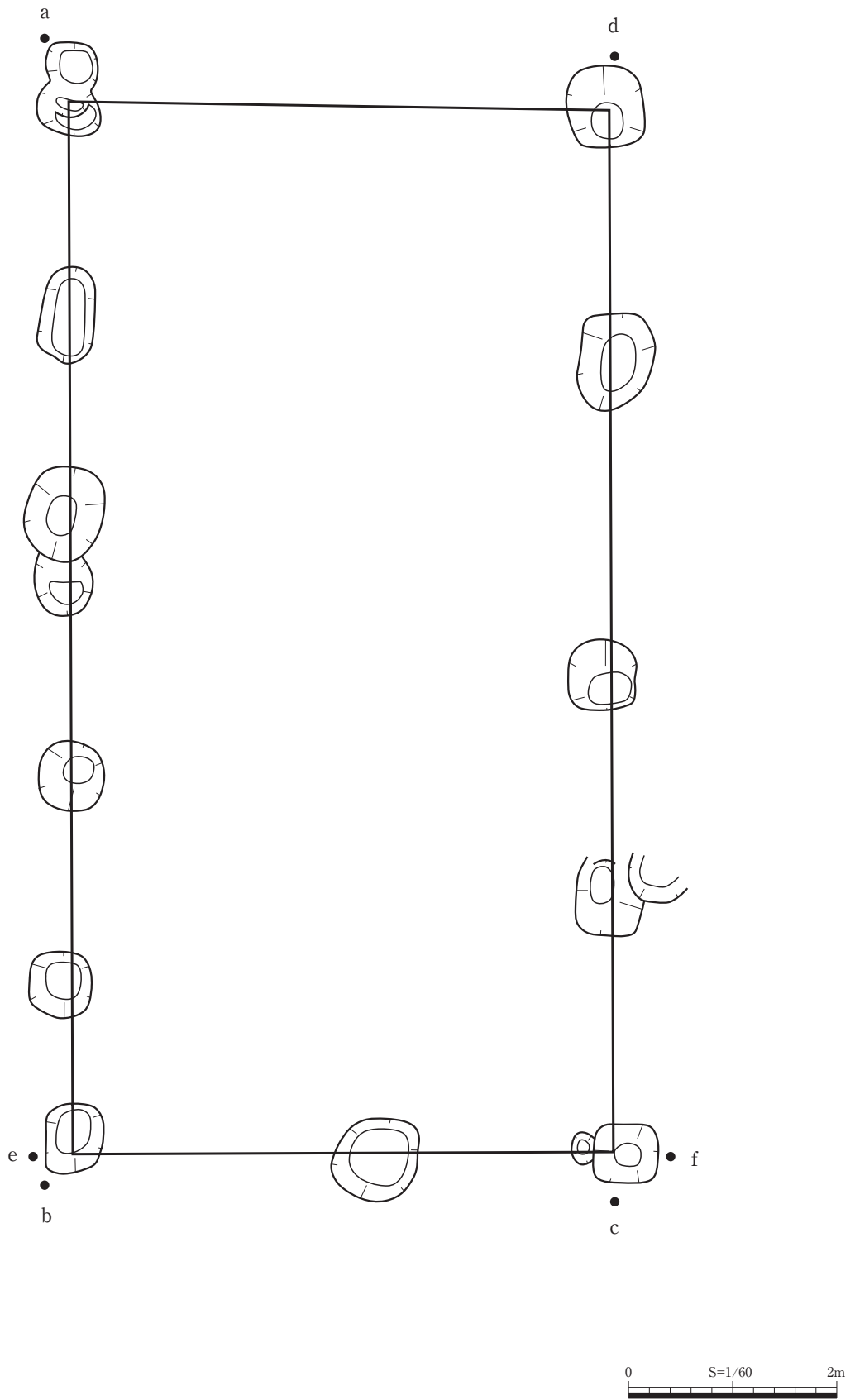


1. 暗灰色・黄色粒混じり灰褐色粘質土
2. 灰褐色粘質土
3. 黒色・黄色土混じり灰褐色粘質土
4. 暗灰褐色粘質土
5. 黄色粒少混じり暗灰色粘質土
6. 黄褐色粘質土
7. 黒色土混じり淡黄色粘質土
8. 黄色粒中量混じり暗灰褐色粘質土
9. 黄色土混じり暗灰色粘質土
10. 黒色粒多混じり淡黄色粘質土
11. 黄色粒混じり灰褐色粘質土 (やや淡い)
12. 淡黄色粘質土
13. 黄色土混じり暗褐色粘質土
14. 暗褐色粘質土
15. 褐色土混じり淡黄色粘質土
16. 黄色ブロック混じり暗灰色粘質土
17. 暗灰色粘質土
18. 黄色土混じり暗灰褐色粘質土
19. 黄色粒中量混じり黒色粘質土
20. 灰黄色粒混じり黒色粘質土

第 32 図 SB 3 遺構図・土層断面図 (S=1/80)



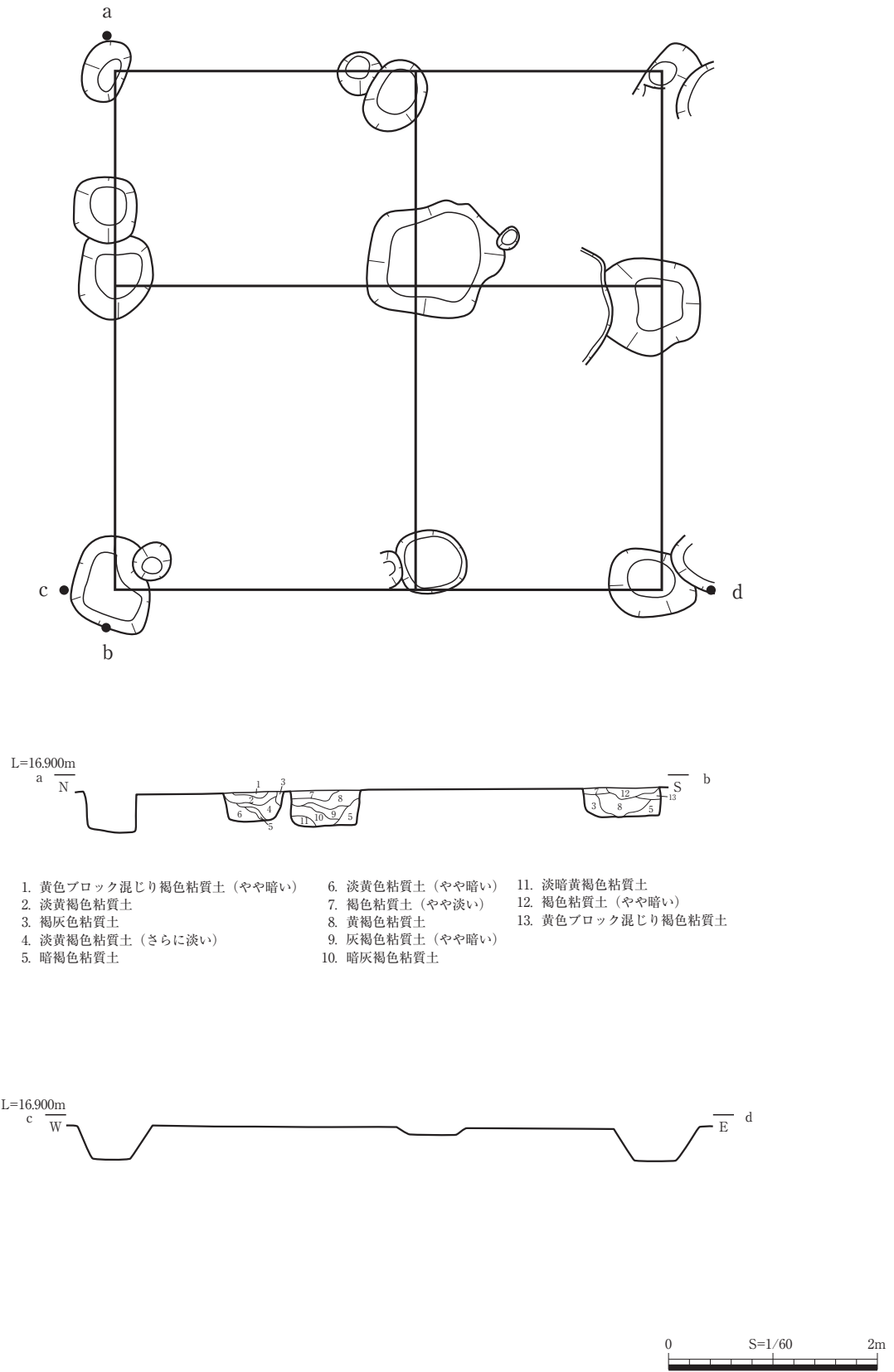
第 33 図 SB 4 遺構図・土層断面図 (S=1/60)



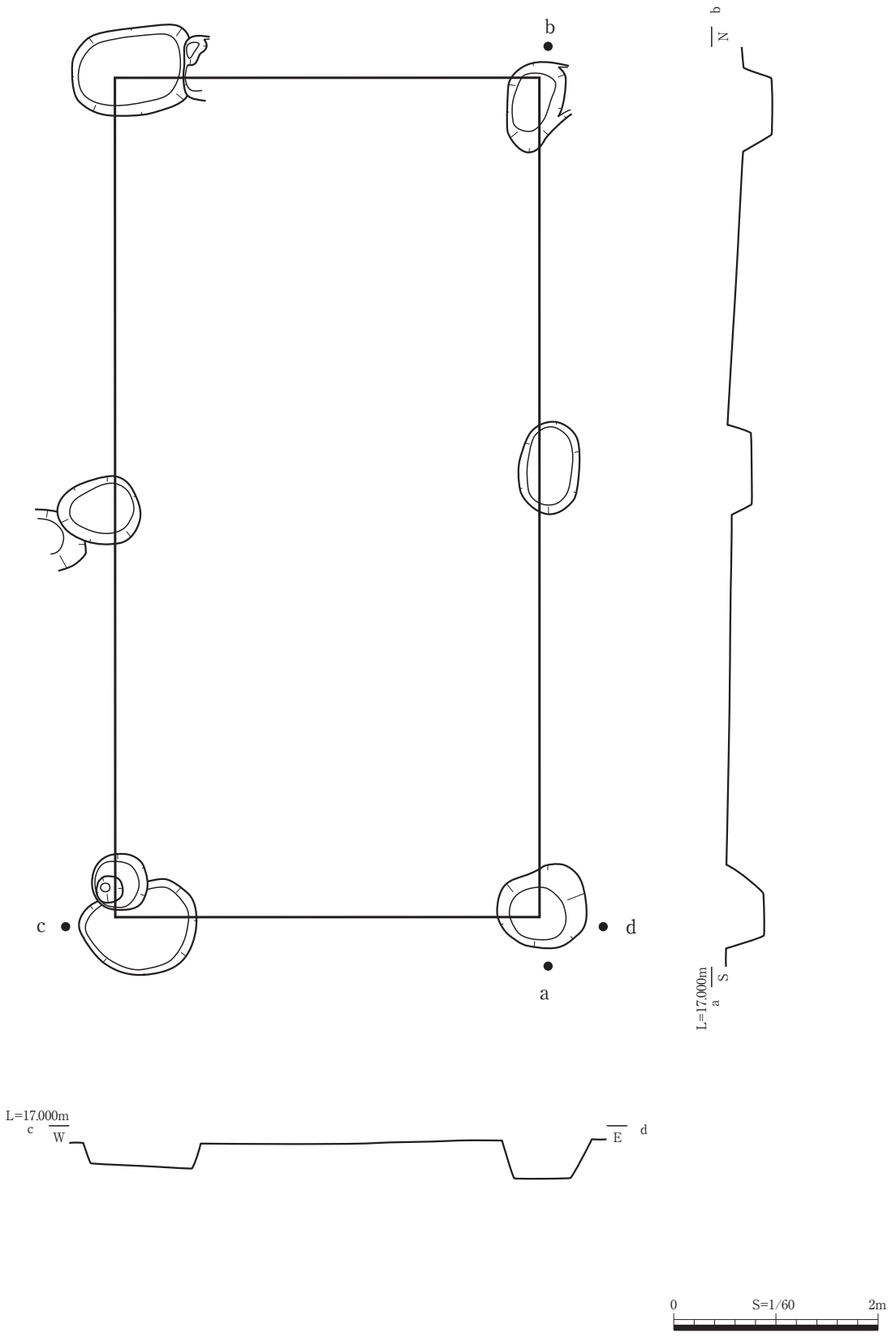
第 34 图 SB 5 遺構图 (S=1/60)



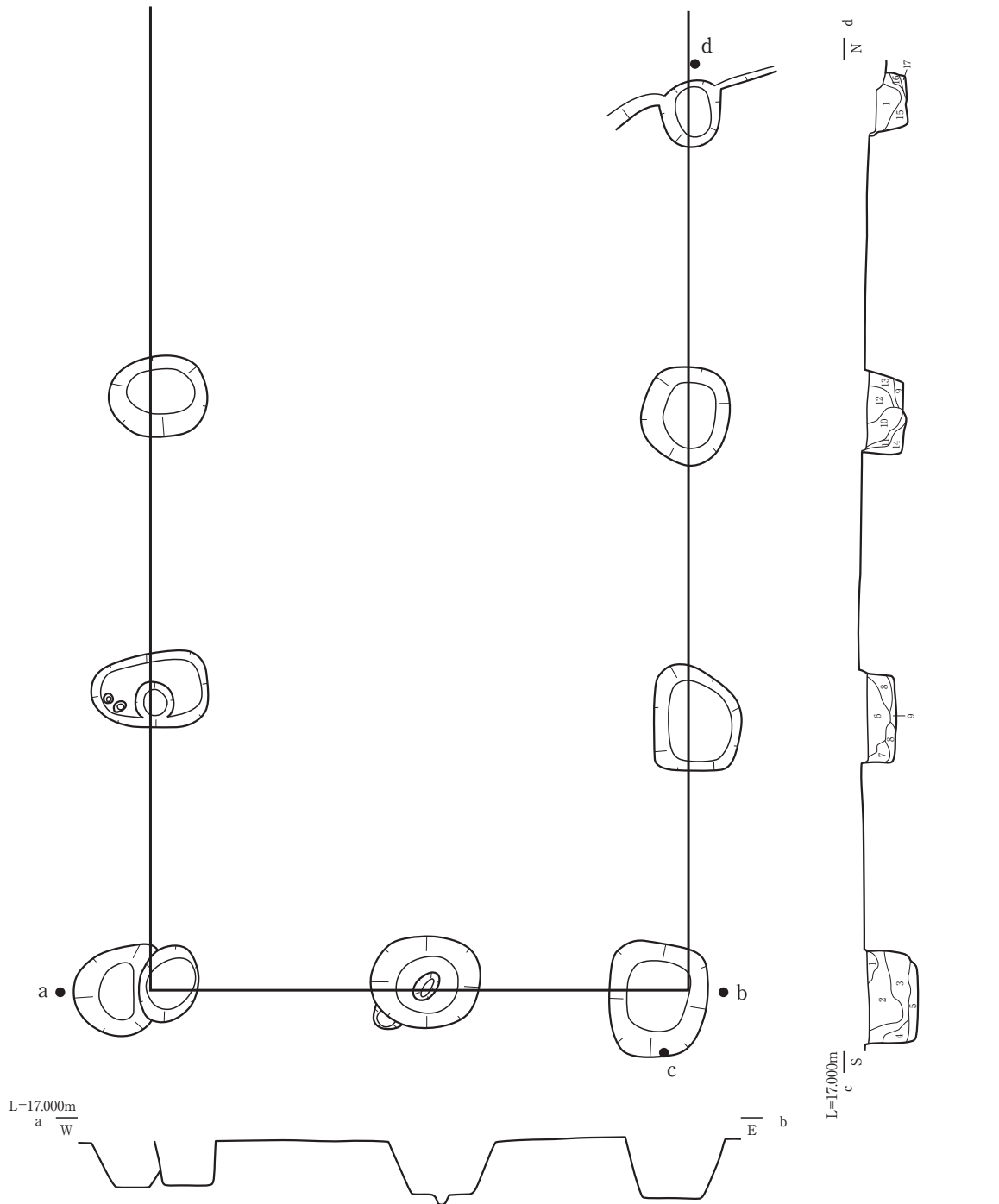
第 35 図 SB 5 土層断面図 (S=1/60)



第 36 図 SB 6 遺構図・土層断面図 (S=1/60)



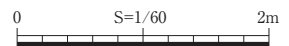
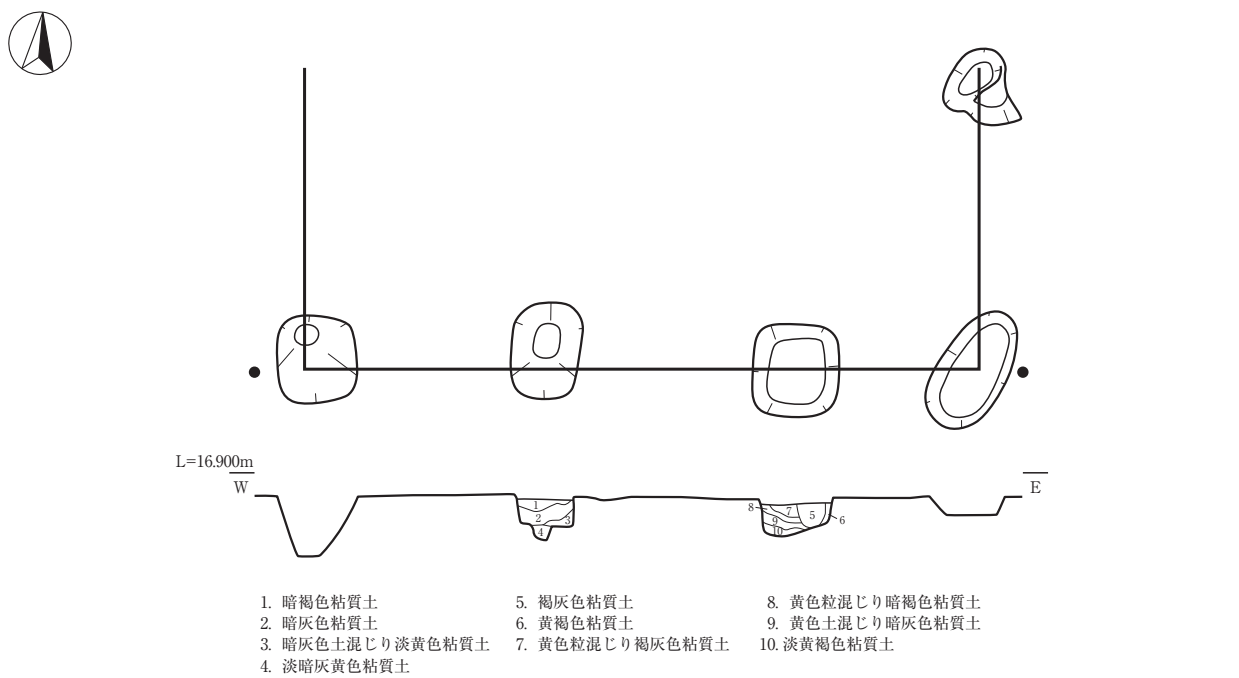
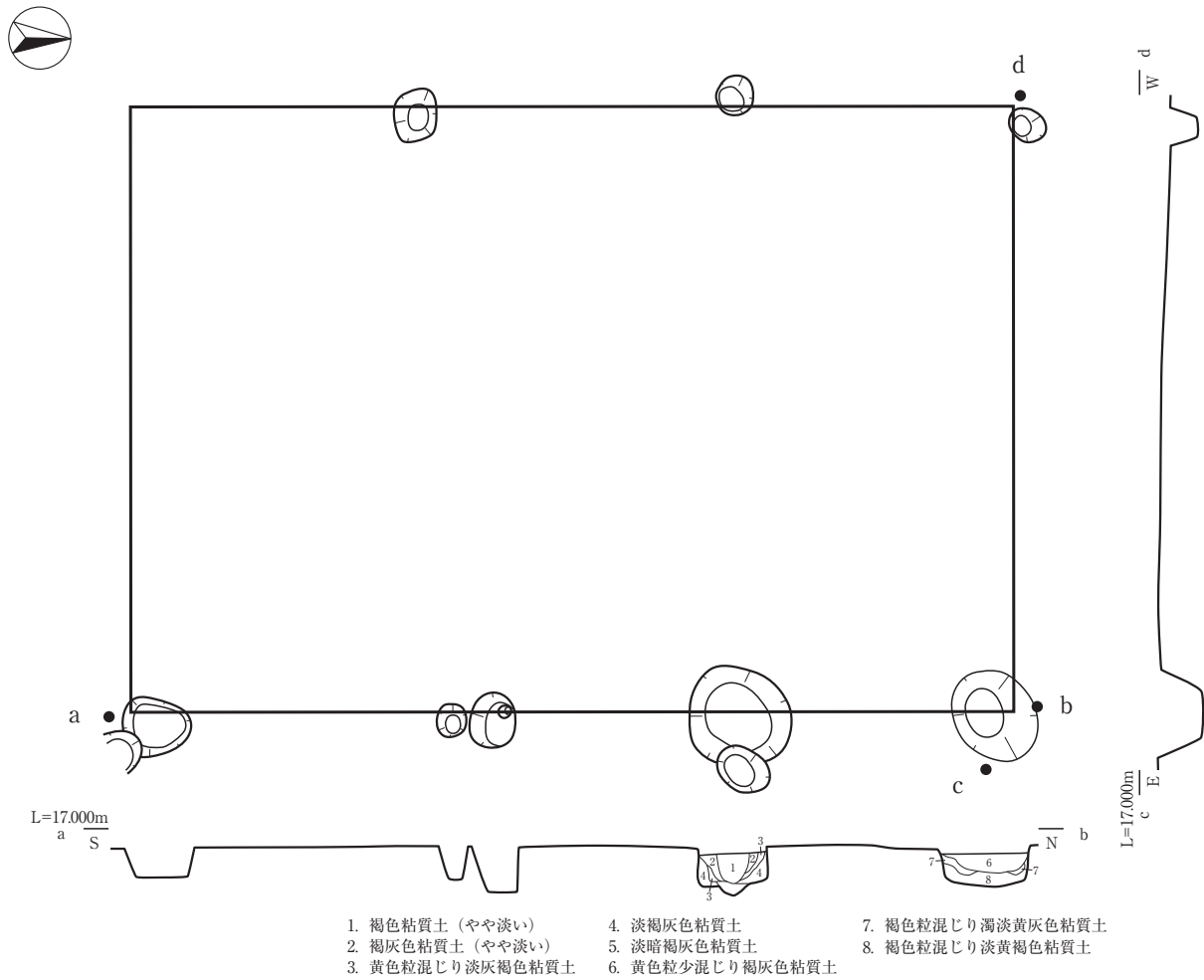
第 37 图 SB 7 遺構図・土層断面図 (S=1/60)



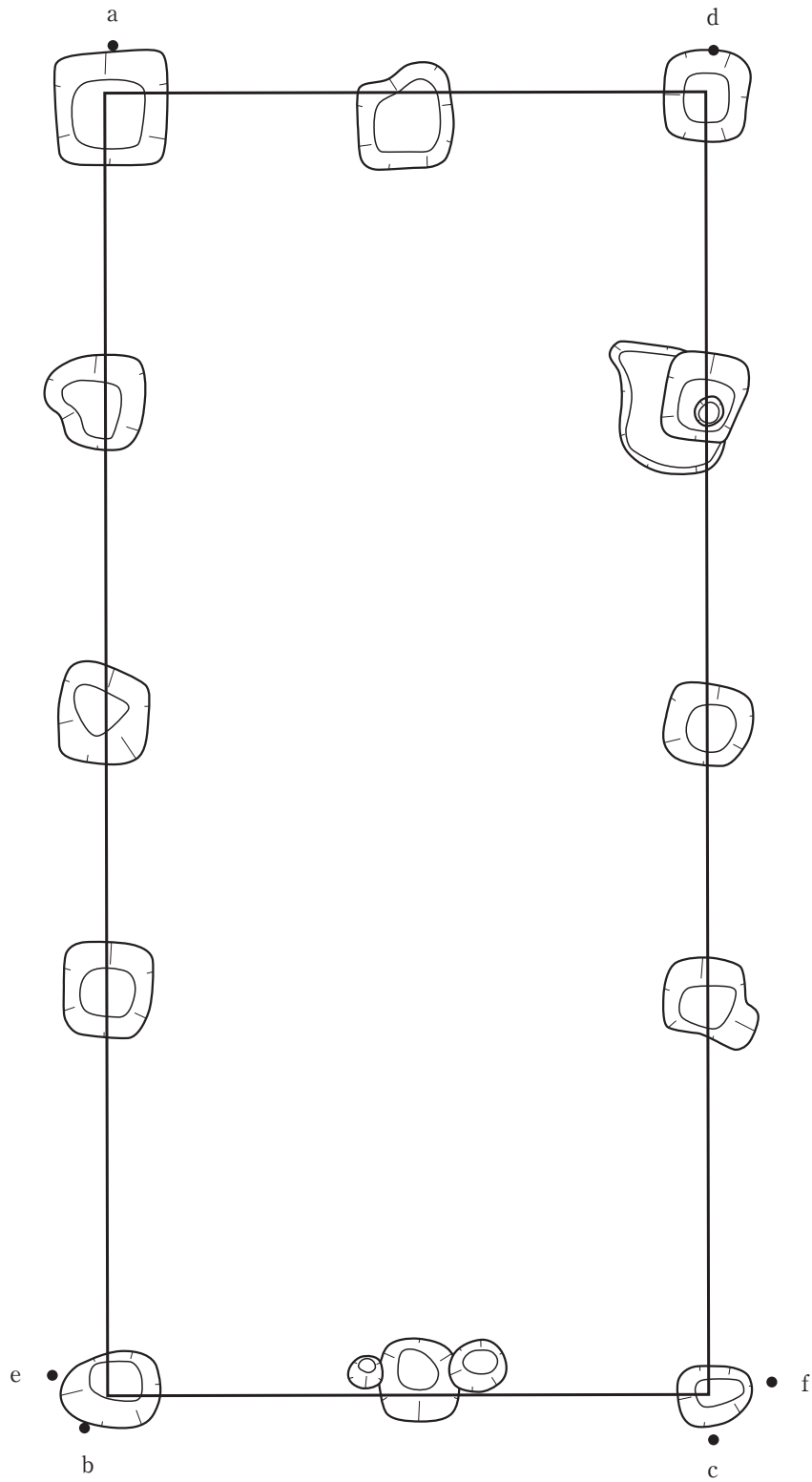
- | | | |
|--------------------------|-------------------|-------------------------|
| 1. 褐色粘質土 | 7. 淡灰褐色粘質土 | 13. 黄色粒少混じり褐色粘質土 (やや暗い) |
| 2. 黄色粒少混じり褐灰色粘質土 | 8. 淡褐色粘質土 | 14. 淡灰黄色粘質土 |
| 3. 黄色粒多混じり淡灰褐色粘質土 (やや暗い) | 9. 淡黄褐色粘質土 | 15. 黄色粒中量混じり暗灰褐色粘質土 |
| 4. 黄色土混じり淡暗灰色粘質土 | 10. 暗灰色粘質土 | 16. 黄色土混じり褐色粘質土 |
| 5. 灰色土混じり淡黄色 | 11. 灰褐色粘質土 (やや暗い) | 17. 黄色粒少混じり暗灰色粘質土 |
| 6. 黄色土混じり褐灰色粘質土 | 12. 褐灰色粘質土 | |

0 S=1/60 2m

第 38 図 SB 8 遺構図・土層断面図 (S=1/60)

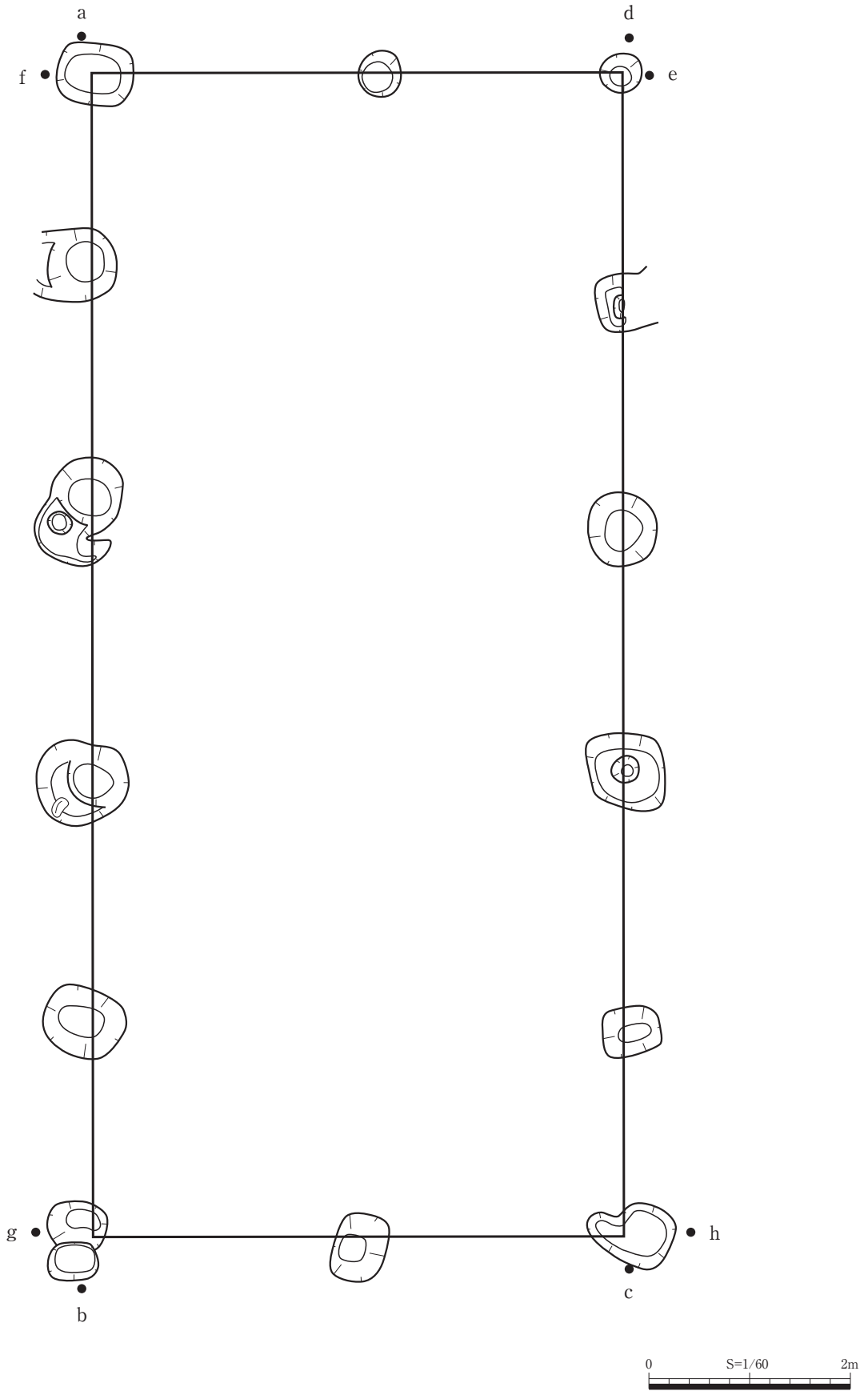


第 39 図 SB 9、10 遺構図・土層断面図 (S=1/60)

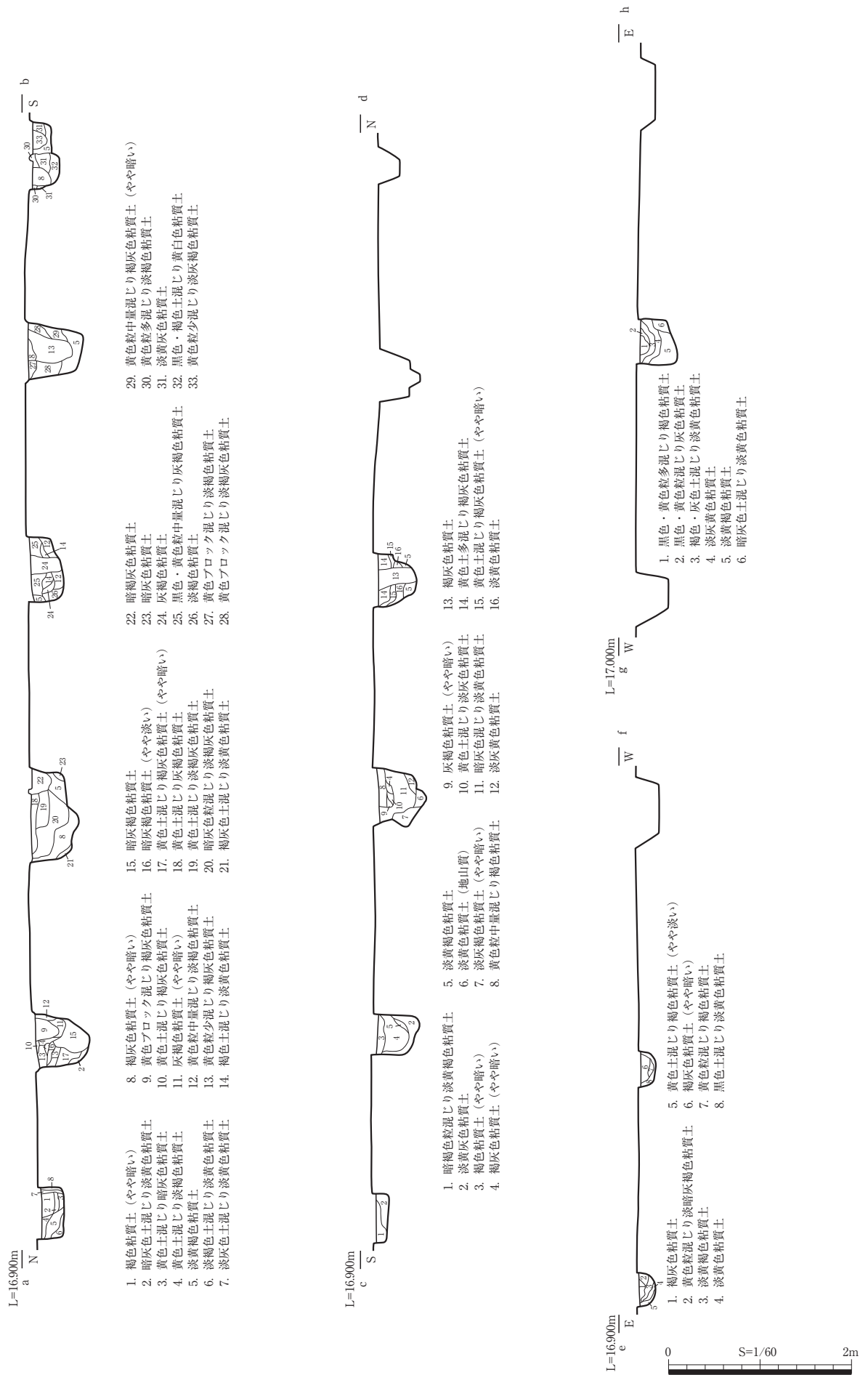


0 S=1/60 2m

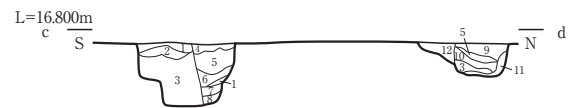
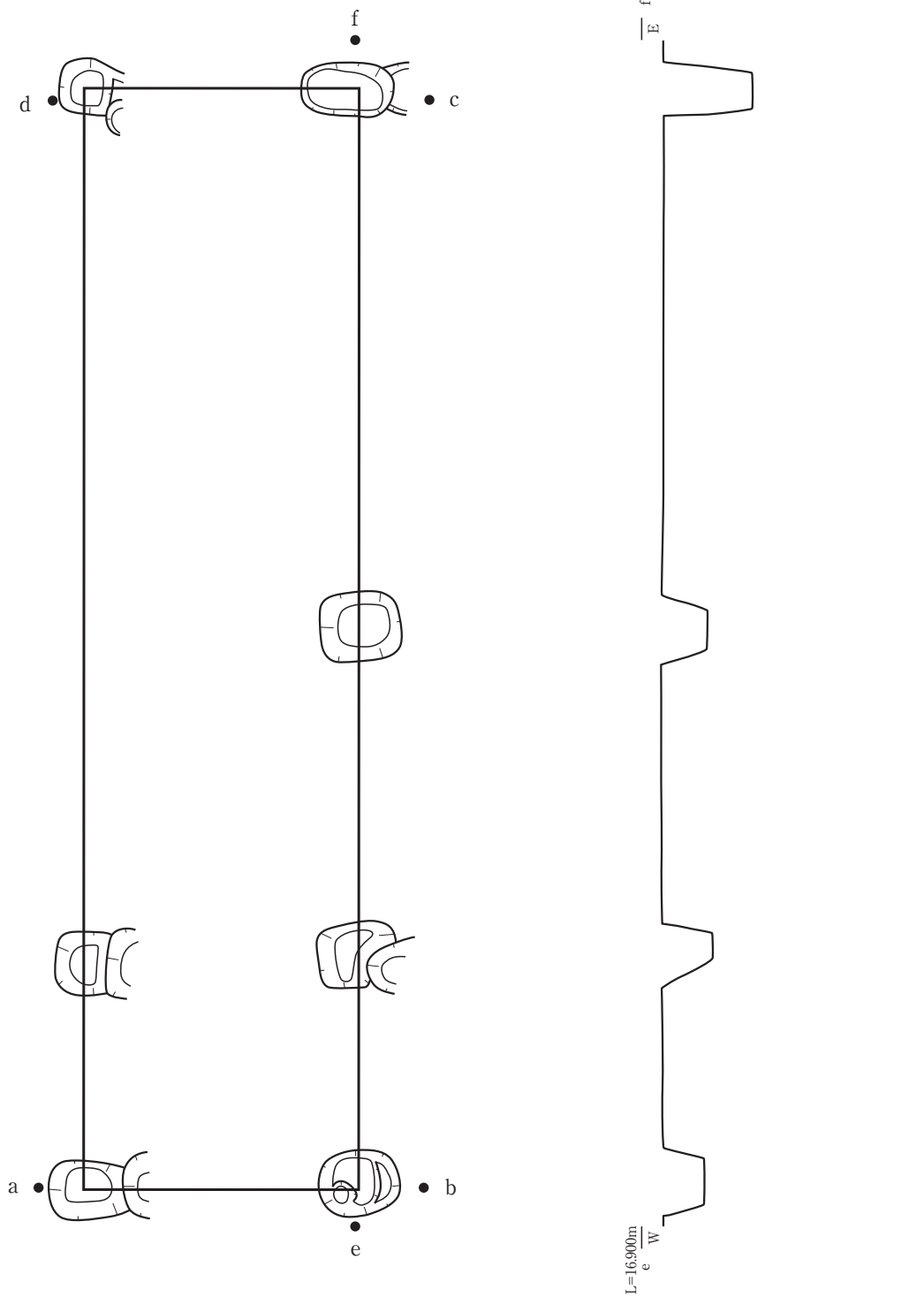
第 40 图 SB 11 遺構図 (S=1/60)



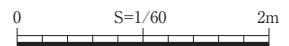
第 42 图 SB 12 遺構図 (S=1/60)



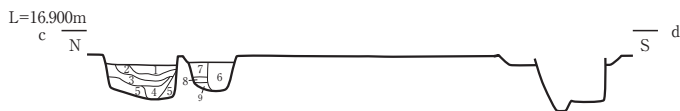
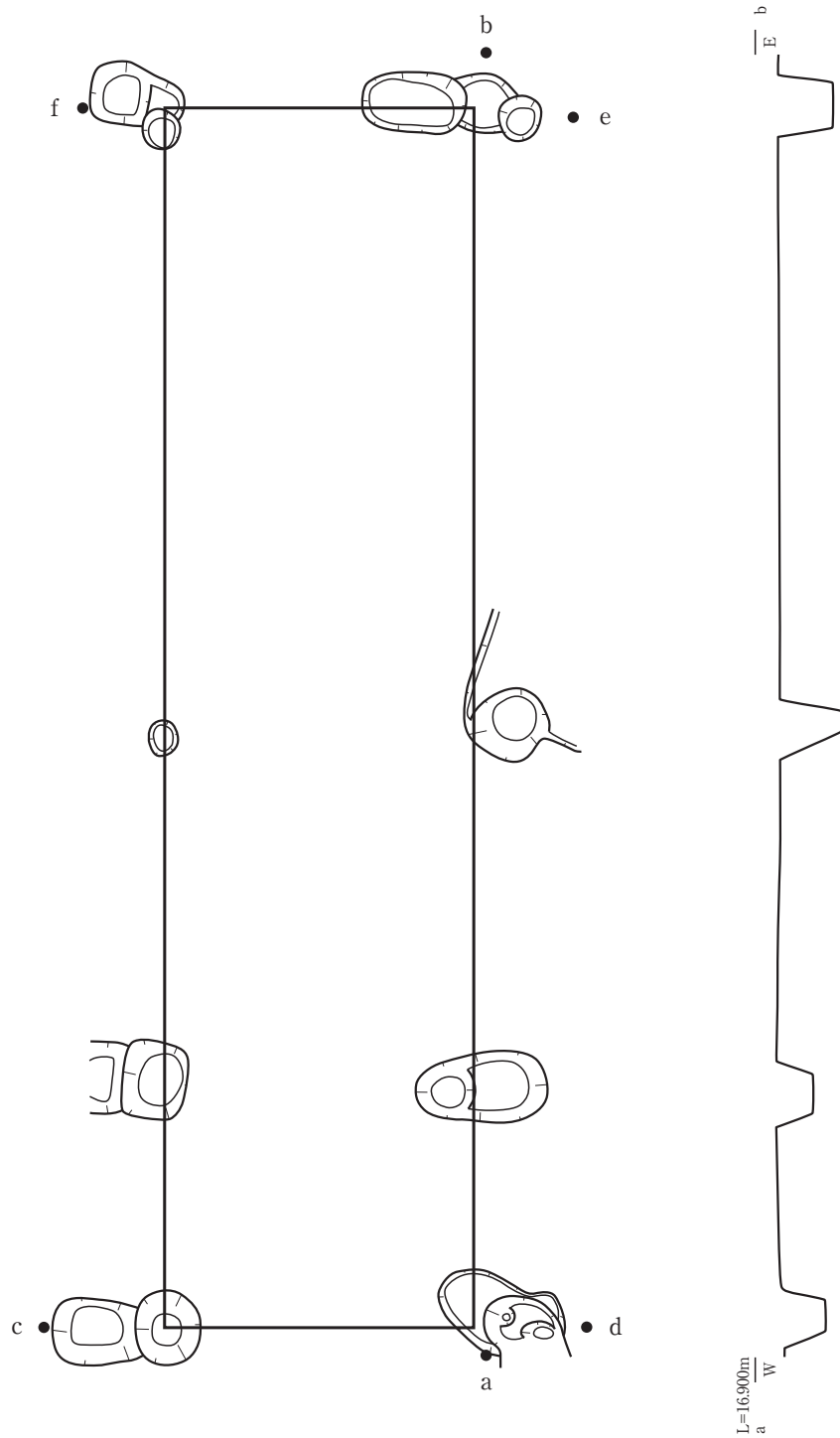
第 43 図 SB 12 土層断面図 (S=1/60)



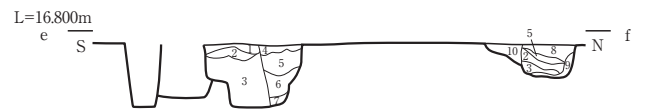
- | | | | |
|-------------------------|-----------------------------|------------------|-------------------|
| 1. 黄色粒混じり褐灰色粘質土 | 7. 褐灰色粘質土 (やや淡い) | 1. 灰粘質土 | 7. 淡黄色粘質土 |
| 2. 褐灰色粘質土 | 8. 淡黄色粘質土 | 2. 灰色土混じり淡黄色粘質土 | 8. 灰黄色粘質土 |
| 3. 暗褐灰色粘質土 | 9. 淡褐灰色粘質土 | 3. 淡灰黄色粘質土 | 9. 淡褐灰色粘質土 |
| 4. 濁黄褐色粘質土 | 10. 黄色土混じり淡褐色粘質土 | 4. 灰色土混じり濁淡黄色粘質土 | 10. 灰色土混じり淡黄色粘質土 |
| 5. 褐灰色土混じり淡黄色粘質土 | 11. 黄色土・黒色土混じり暗褐色粘質土 (やや淡い) | 5. 黄色土混じり灰色粘質土 | 11. 灰色土混じり淡黄白色粘質土 |
| 6. 黄色粒少混じり灰褐色粘質土 (やや暗い) | 12. 黄褐色粘質土 (やや淡い) | 6. 淡黄色粘質土 | 12. 淡黄白色粘質土 |



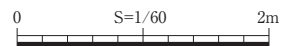
第 44 図 SB 13 遺構図・土層断面図 (S=1/60)



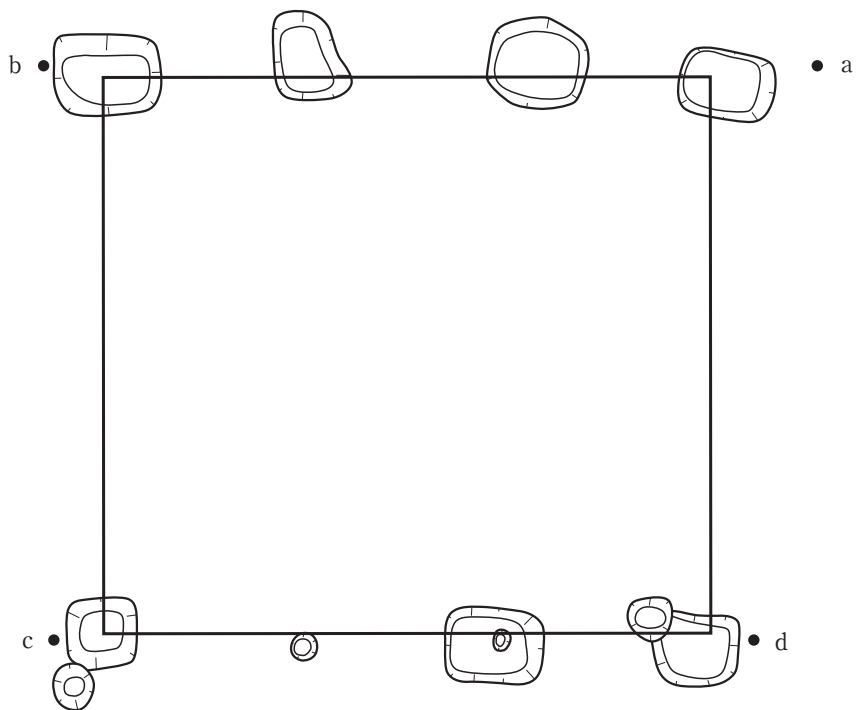
- | | |
|------------------|-------------------------|
| 1. 黄色粒混じり褐灰色粘質土 | 6. 黄色粒少混じり灰褐色粘質土 (やや暗い) |
| 2. 褐灰色粘質土 | 7. 褐灰色粘質土 (やや淡い) |
| 3. 暗褐灰色粘質土 | 8. 淡黄色粘質土 |
| 4. 濁黄褐色粘質土 | 9. 淡褐灰色粘質土 |
| 5. 褐灰色土混じり淡黄色粘質土 | |



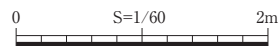
- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 灰色粘質土 | 6. 淡黄色粘質土 |
| 2. 灰色土混じり淡黄色粘質土 | 7. 灰黄色粘質土 |
| 3. 淡灰黄色粘質土 | 8. 淡黄灰色粘質土 |
| 4. 灰色土混じり濁淡黄色粘質土 | 9. 灰色土混じり淡黄白色粘質土 |
| 5. 黄色土混じり灰色粘質土 | 10. 淡黄白色粘質土 |



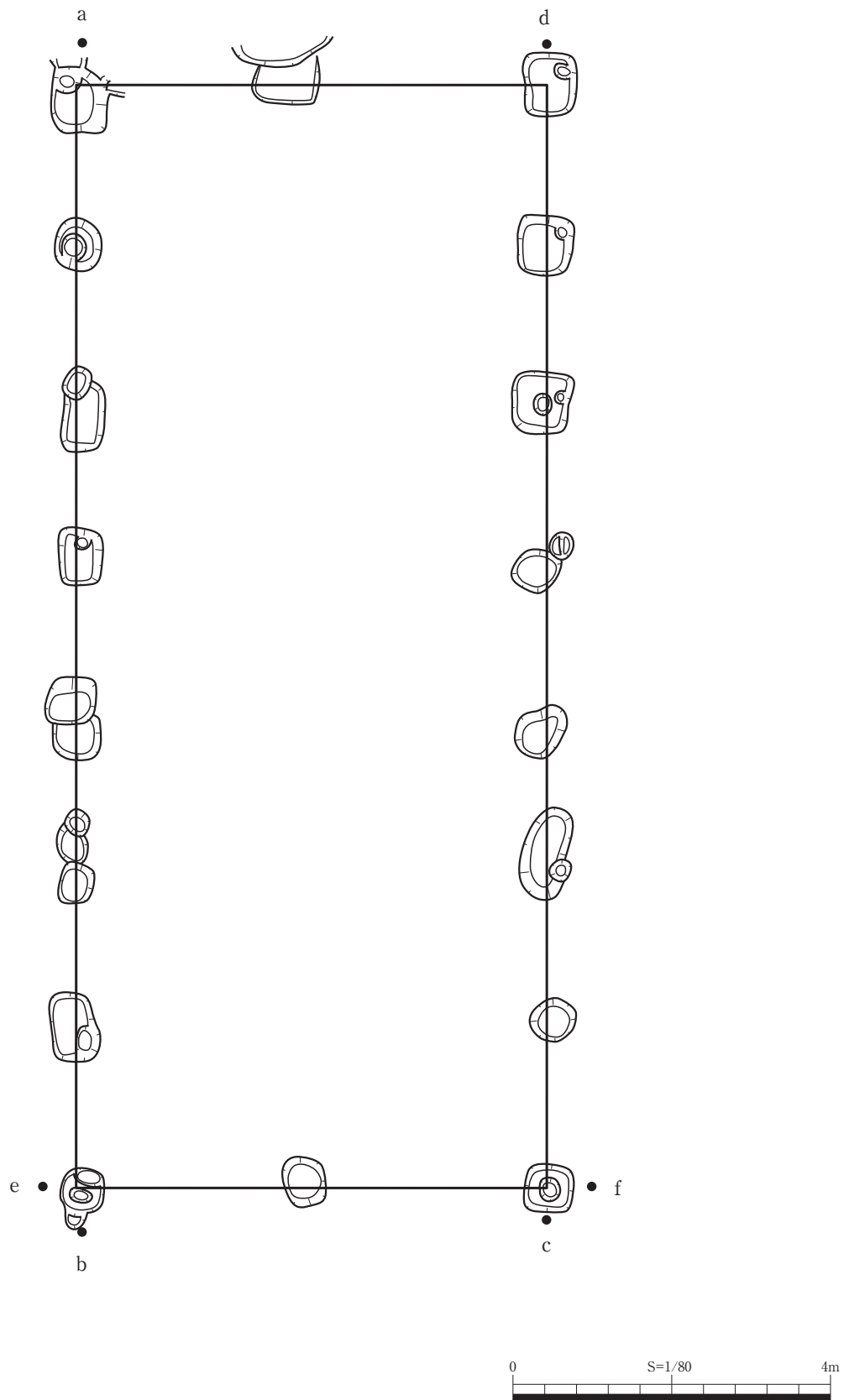
第 45 図 SB 14 遺構図・土層断面図 (S=1/60)



- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 黄色粒混じり褐色粘質土 | 6. 淡黄色粘質土 |
| 2. 黒色土混じり淡黄褐色粘質土 | 7. 淡黄褐色粘質土 |
| 3. 灰白色粘質土 | 8. 黄色粒混じり暗褐色粘質土 |
| 4. 黄褐色粘質土 | 9. 黄色粒混じり淡暗灰色粘質土 |
| 5. 褐色粘質土 (やや淡い) | 10. 淡赤褐色粘質土 |



第 46 図 SB 15 遺構図・土層断面図 (S=1/60)



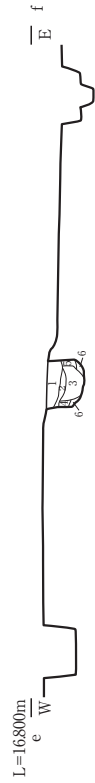
第 47 图 SB 16 遺構図 (S=1/80)



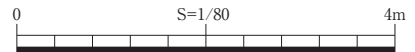
1. 黄色土混じり淡灰色粘質土
2. 薄淡黄色粘質土
3. 淡灰色粘質土
4. 灰色土混じり淡黄色粘質土
5. 灰褐色粘質土 (やや淡い)
6. 灰褐色粘質土
7. 淡黄色粘質土
8. 薄淡黄色粘質土
9. 黄色土混じり灰色粘質土
10. 黄色土混じり灰褐色粘質土
11. 灰褐色粘質土
12. 薄褐色粘質土
13. 褐色粘質土
14. 黄色土混じり暗灰色粘質土
15. 淡黄色土混じり薄灰色粘質土
16. 灰色土混じり薄淡黄色粘質土
17. 褐色砂質土
18. 淡暗灰色砂質土
19. 暗灰色砂質土
20. 薄淡黄色砂質土
21. 褐色砂質土
22. 淡黄色砂質土
23. 橙黄色粘質土
24. 灰褐色粘質土 (やや暗い)
25. 褐色粘質土
26. 淡黄色砂質土
27. 暗褐色粘質土
28. 暗褐色粘質土 (やや淡い)
29. 灰褐色粘質土
30. 濁灰褐色粘質土
31. 暗灰色土混じり淡黄色砂質土
32. 黄色土混じり灰褐色砂質土
33. 淡暗灰色強粘質土
34. 暗灰色強粘質土
35. 濁褐色粘質土
36. 濁褐色粘質土
37. 黄色土混じり褐色粘質土
38. 黄色粒中重混じり褐色粘質土
39. 淡暗褐色粘質土



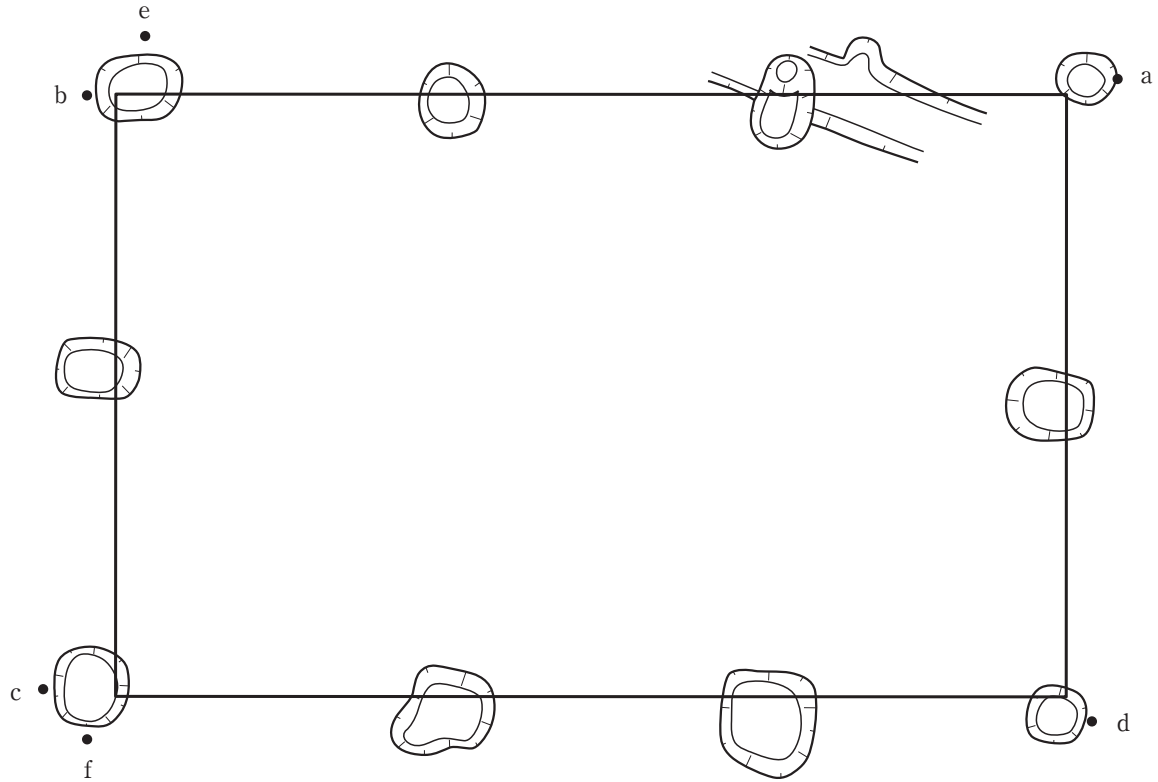
1. 濁灰褐色粘質土
2. 薄褐色粘質土
3. 薄淡黄色粘質土
4. 暗灰色粘質土
5. 暗灰色土混じり薄淡黄色粘質土
6. 黄色土混じり灰色粘質土
7. 薄淡灰黄色粘質土
8. 淡暗灰色砂質土 (粗砂)
9. 淡暗灰色砂質土 (細砂)
10. 灰褐色粘質土
11. 暗褐色粘質土
12. 黄色土混じり暗褐色粘質土
13. 黄色土混じり灰褐色粘質土
14. 黄色粒混じり暗褐色粘質土
15. 暗褐色粘質土
16. 濁灰褐色粘質土
17. 黄色土混じり暗褐色粘質土
18. 淡褐色粘質土
19. 黄色土混じり暗褐色粘質土
20. 淡黄色粘質土
21. 黄色土混じり暗褐色粘質土
22. 淡褐色粘質土
23. 淡暗褐色粘質土
24. 黄色土混じり暗褐色粘質土
25. 淡黄色粘質土



1. 淡褐色粘質土
2. 灰褐色粘質土
3. 灰褐色強粘質土
4. 淡黄灰色粘質土
5. 淡暗灰色粘質土
6. 淡灰黄色粘質土



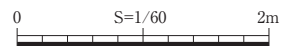
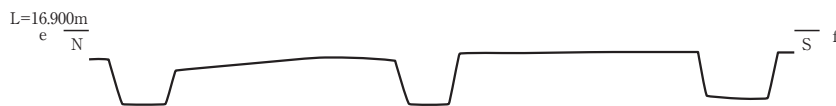
第 48 図 SB 16 土層断面図 (S=1/80)



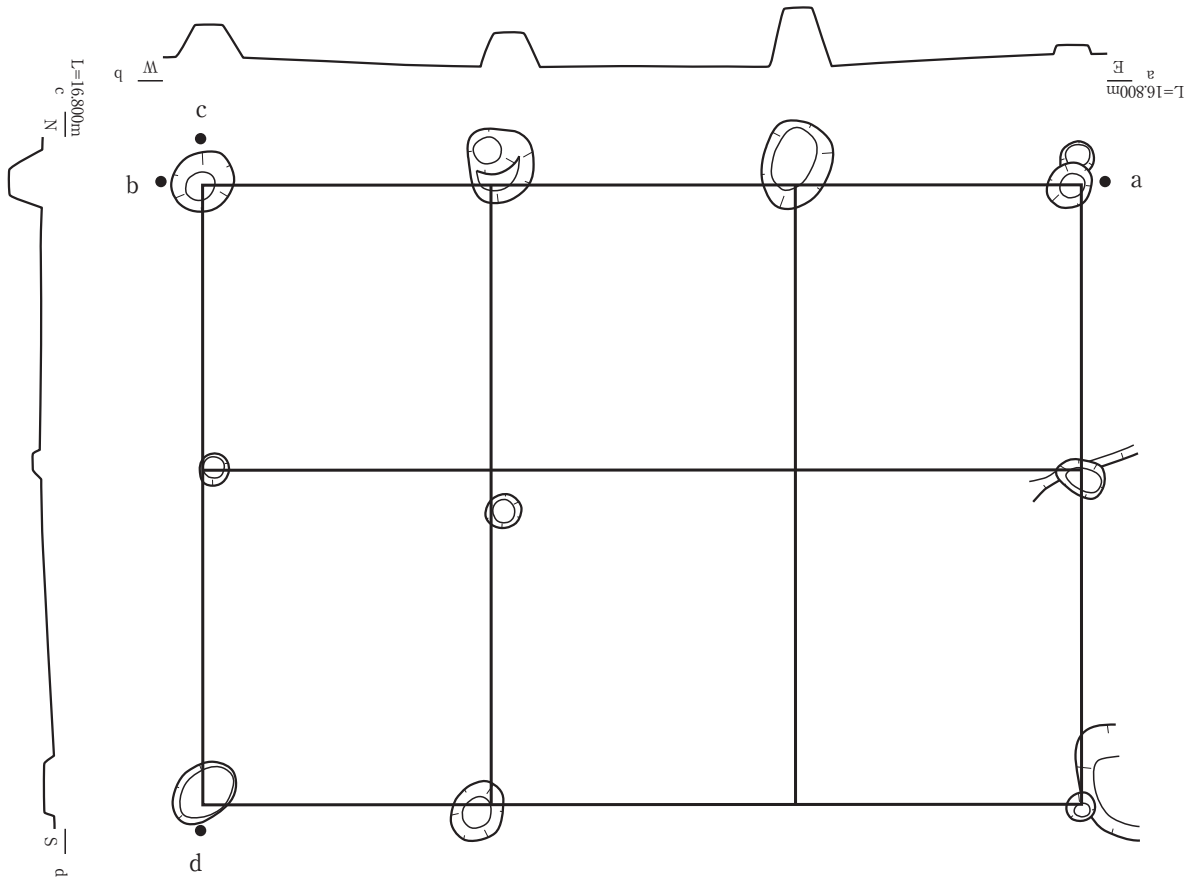
- | | | |
|------------------------|------------------|--------------------|
| 1. 暗褐色粘質土 (粘質強い) | 6. 褐色粘質土 (粘質強い) | 11. 濁淡暗灰色粘質土 |
| 2. 濁淡暗灰色粘質土 (粘質強い) | 7. 褐灰色粘質土 (粘質強い) | 12. 黄色粒中量混じり灰褐色粘質土 |
| 3. 暗灰色粘質土 (粘質強い) | 8. 黄褐色粘質土 (粘質強い) | 13. 濁褐色粘質土 |
| 4. 褐灰色粘質土 (粘質強い) | 9. 暗褐色粘質土 | 14. 濁暗褐色粘質土 |
| 5. 灰色土混じり淡黄色粘質土 (粘質強い) | 10. 褐灰色粘質土 | 15. 暗褐色粘質土 |
| | | 16. 濁暗褐色粘質土 |



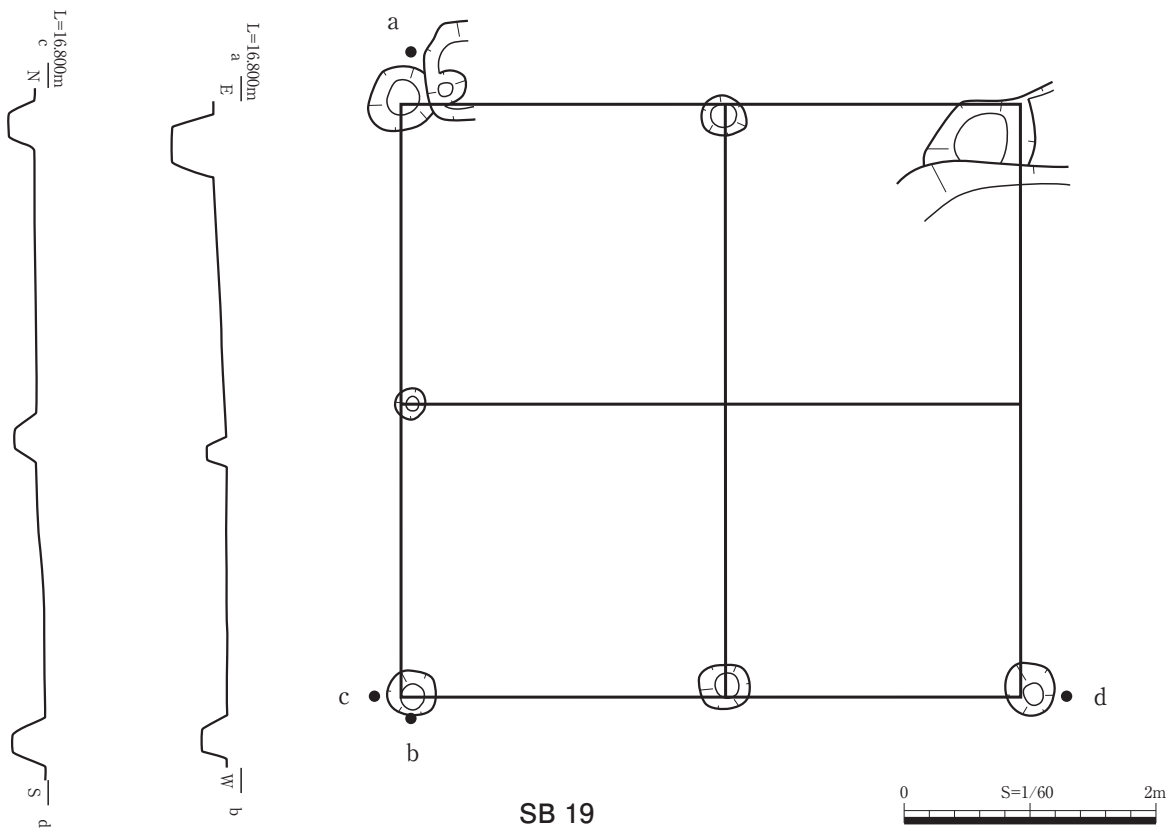
- | | | |
|--------------------|------------------------|------------------|
| 1. 褐色粘質土 | 7. 黄色粒少混じり褐灰色粘質土 | 13. 濁褐色粘質土 |
| 2. 暗褐色粘質土 | 8. 褐色粘質土 | 14. 灰色土混じり淡黄色粘質土 |
| 3. 黄色ブロック土混じり暗褐粘質土 | 9. 濁暗褐色粘質土 | 15. 濁淡暗灰色強粘質土 |
| 4. 暗灰褐粘質土 | 10. 灰褐色粘質土 (やや淡い) | 16. 濁橙褐色粘質土 |
| 5. 暗灰色粘質土 | 11. 黄色土混じり淡暗灰色粘質土 | 17. 濁淡灰褐色粘質土 |
| 6. 淡黄灰色粘質土 | 12. 黄色土混じり灰色粘質土 (やや暗い) | 18. 淡黄灰色粘質土 |



第 49 図 SB 17 遺構図・土層断面図 (S=1/60)

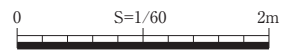
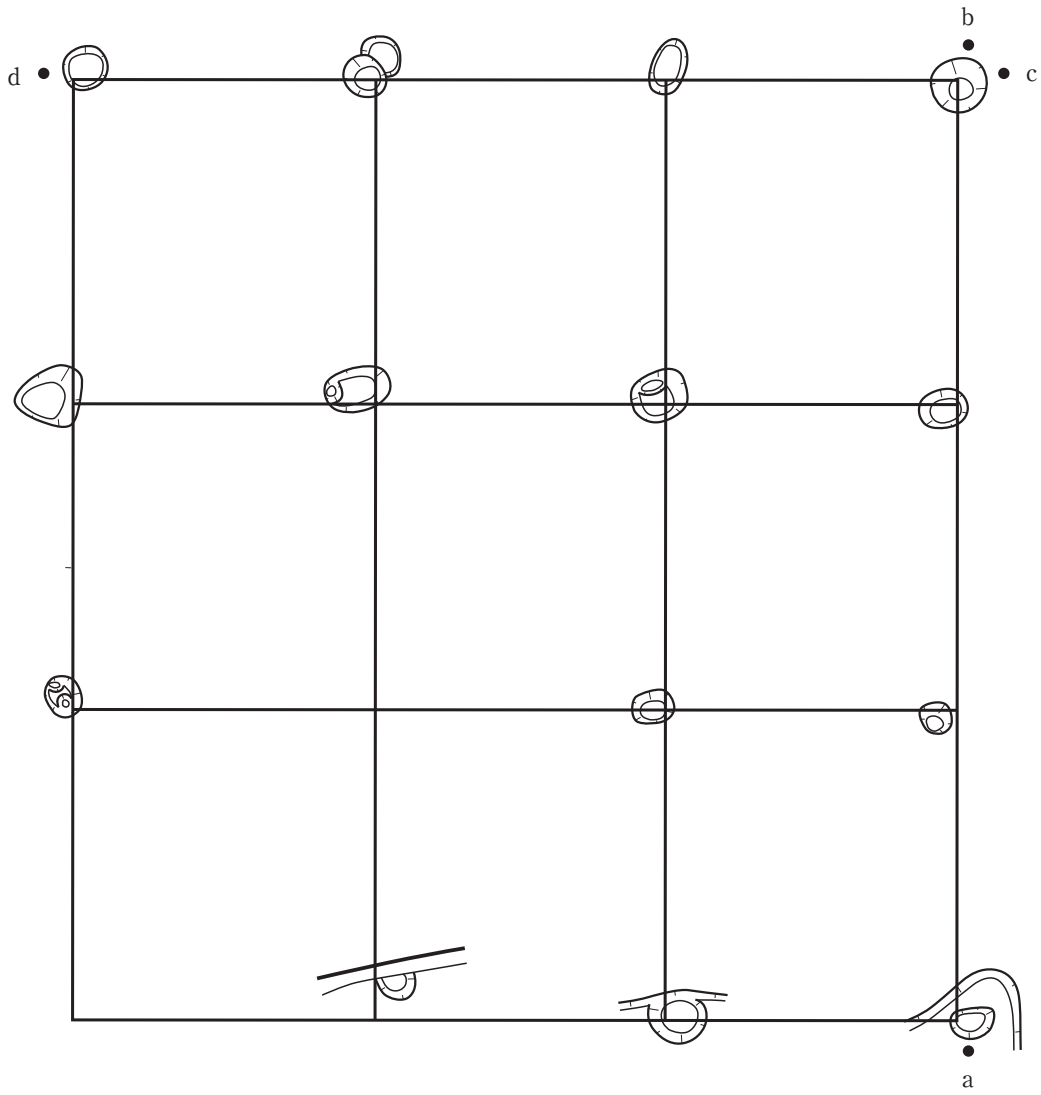


SB 18

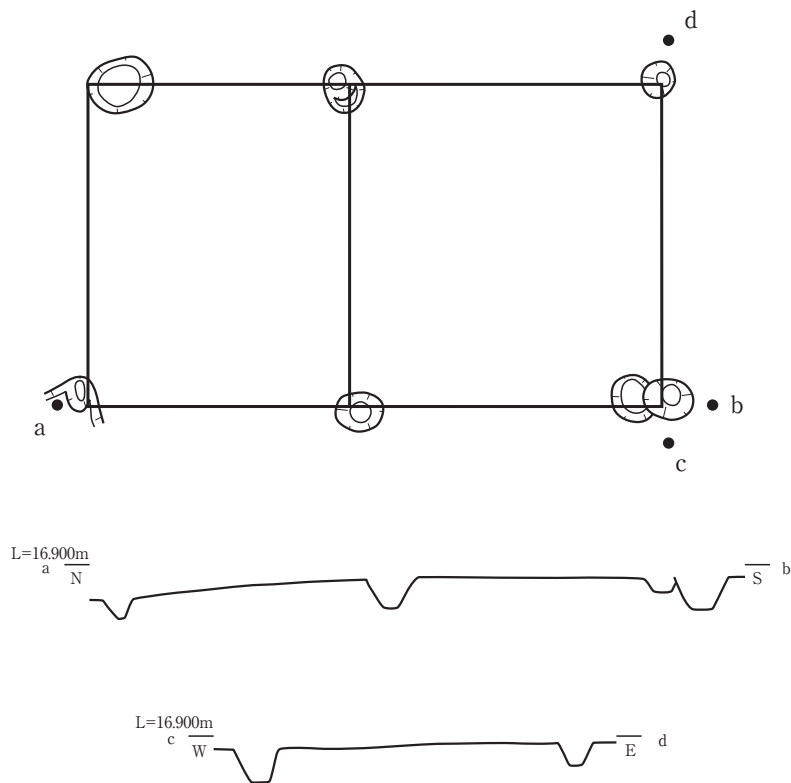


SB 19

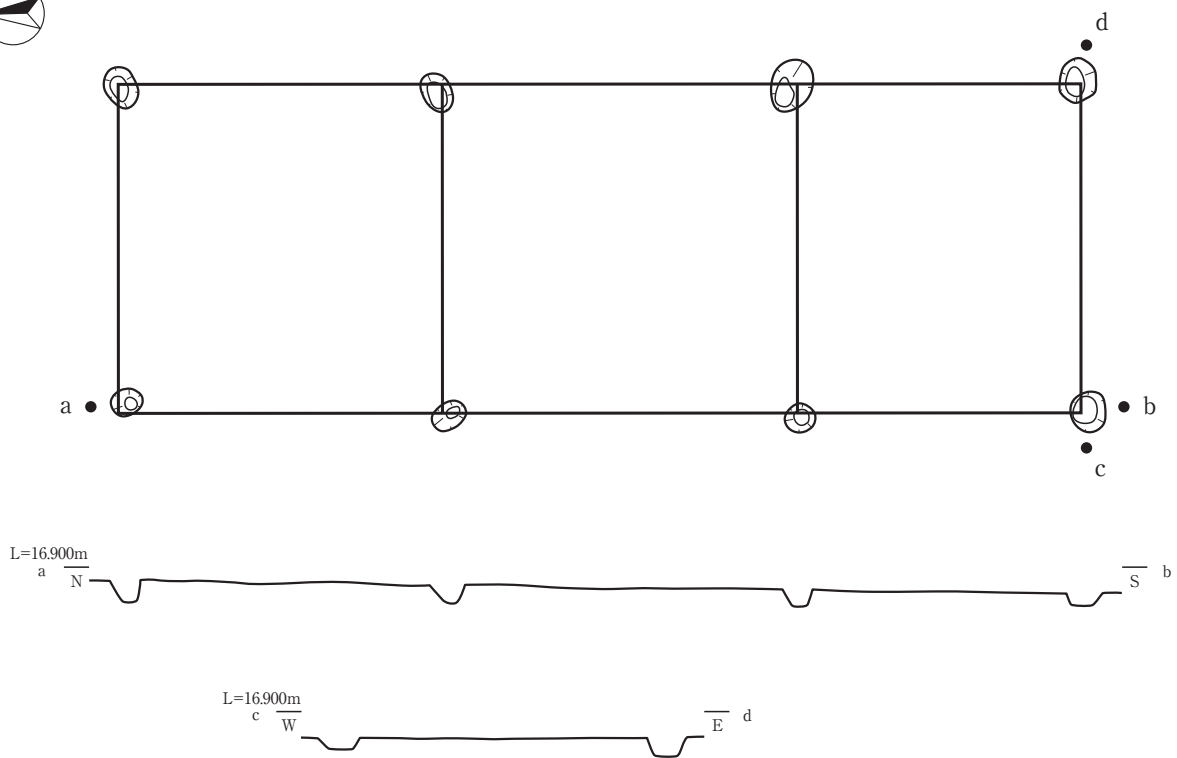
第 50 図 SB 18、19 遺構図・土層断面図 (S=1/60)



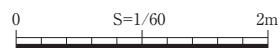
第 51 図 SB 20 遺構図・土層断面図 (S=1/60)



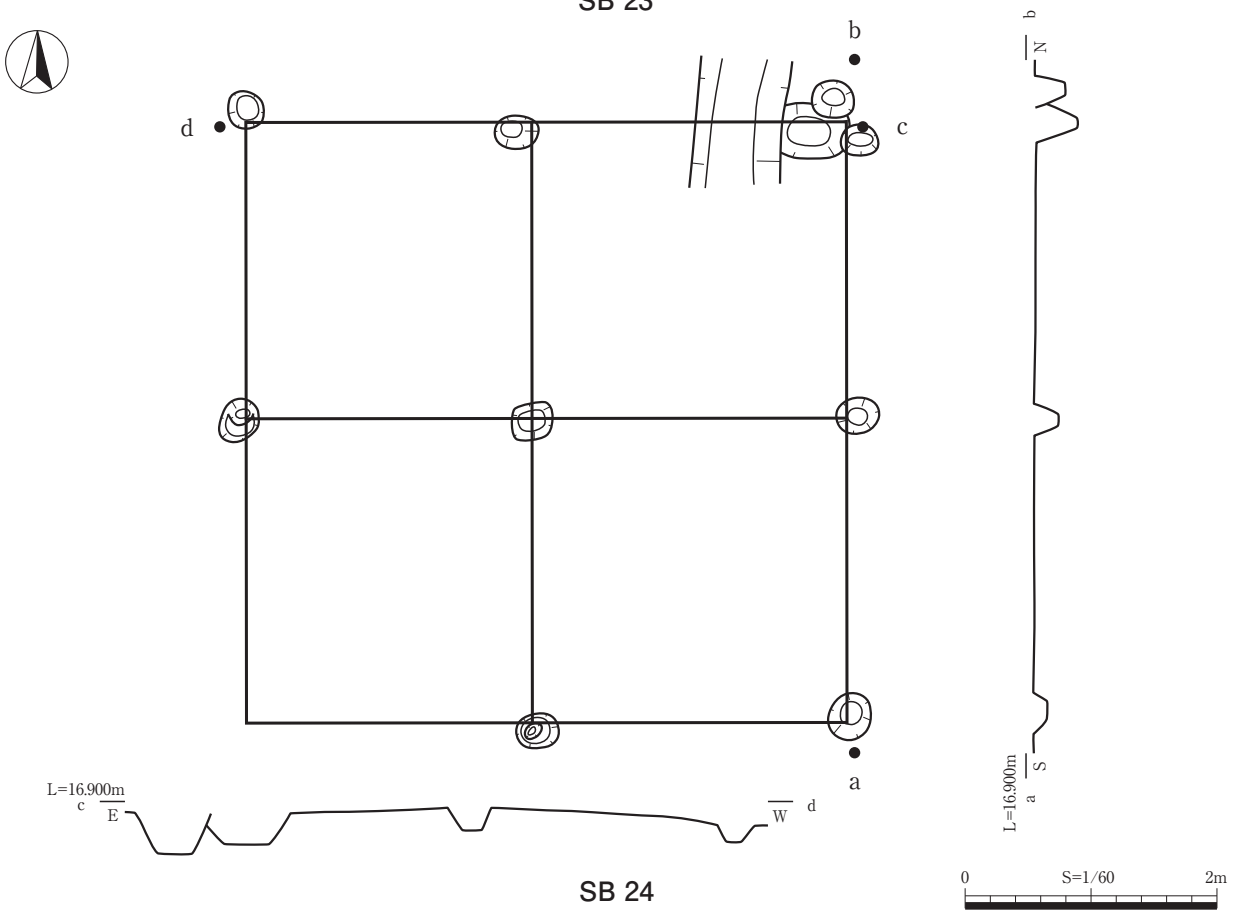
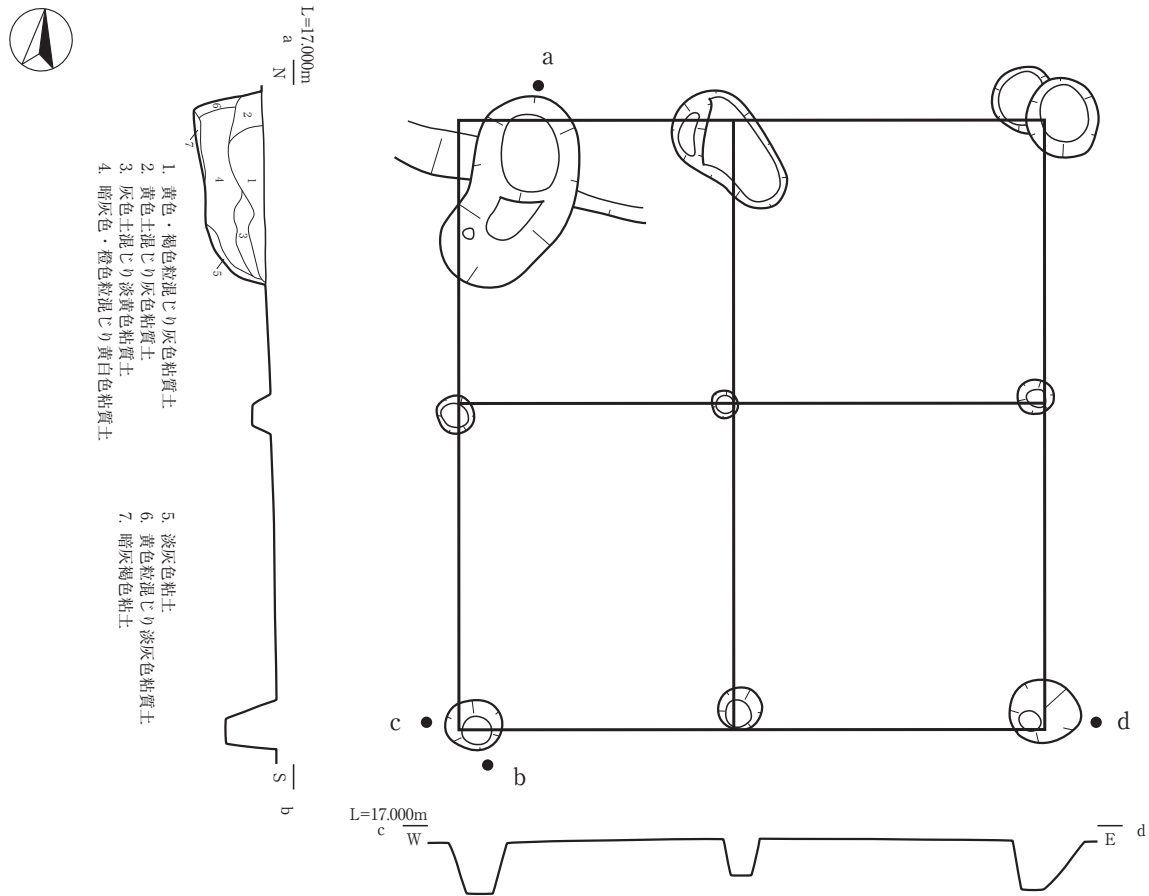
SB 21



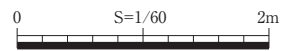
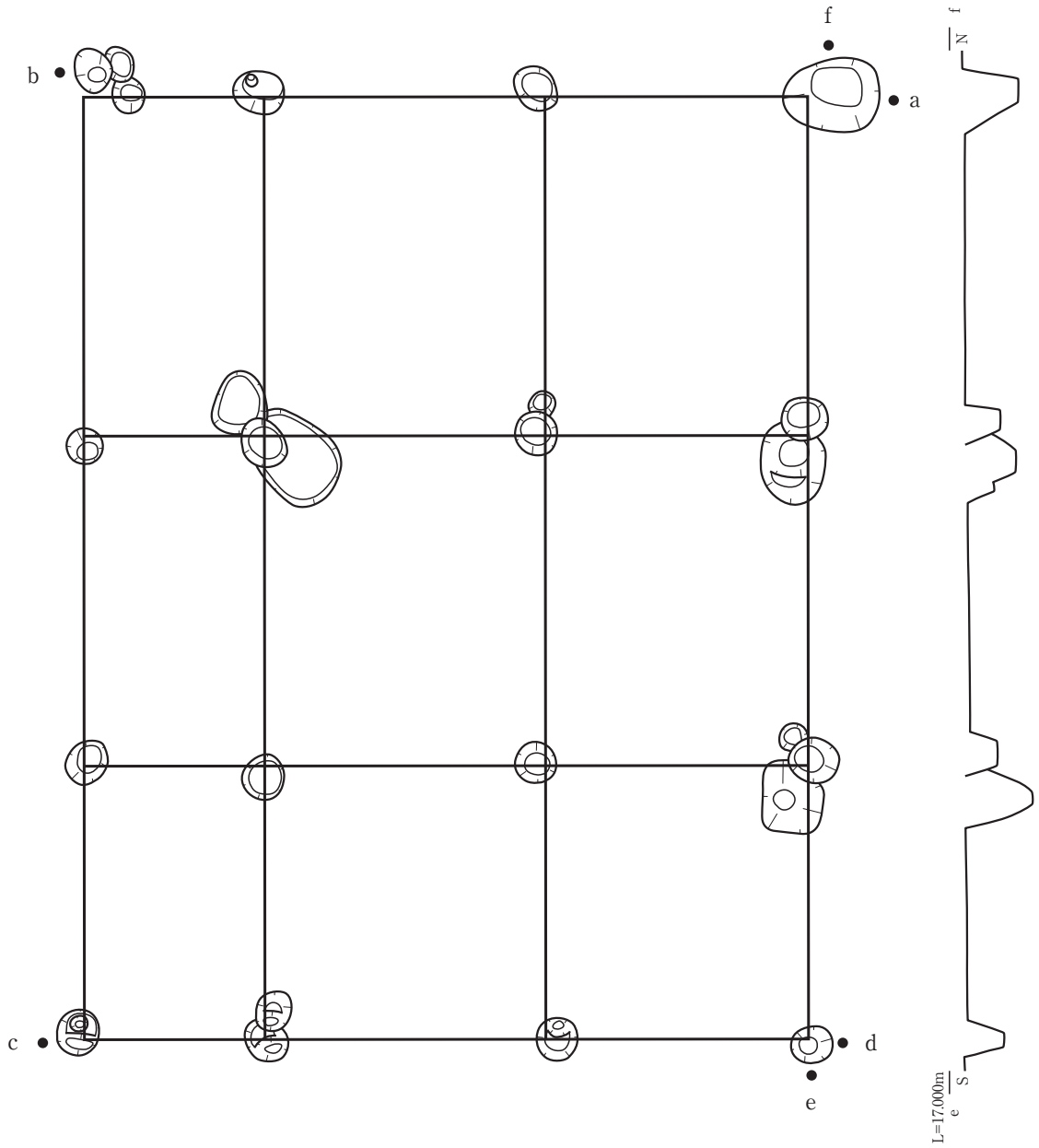
SB 22



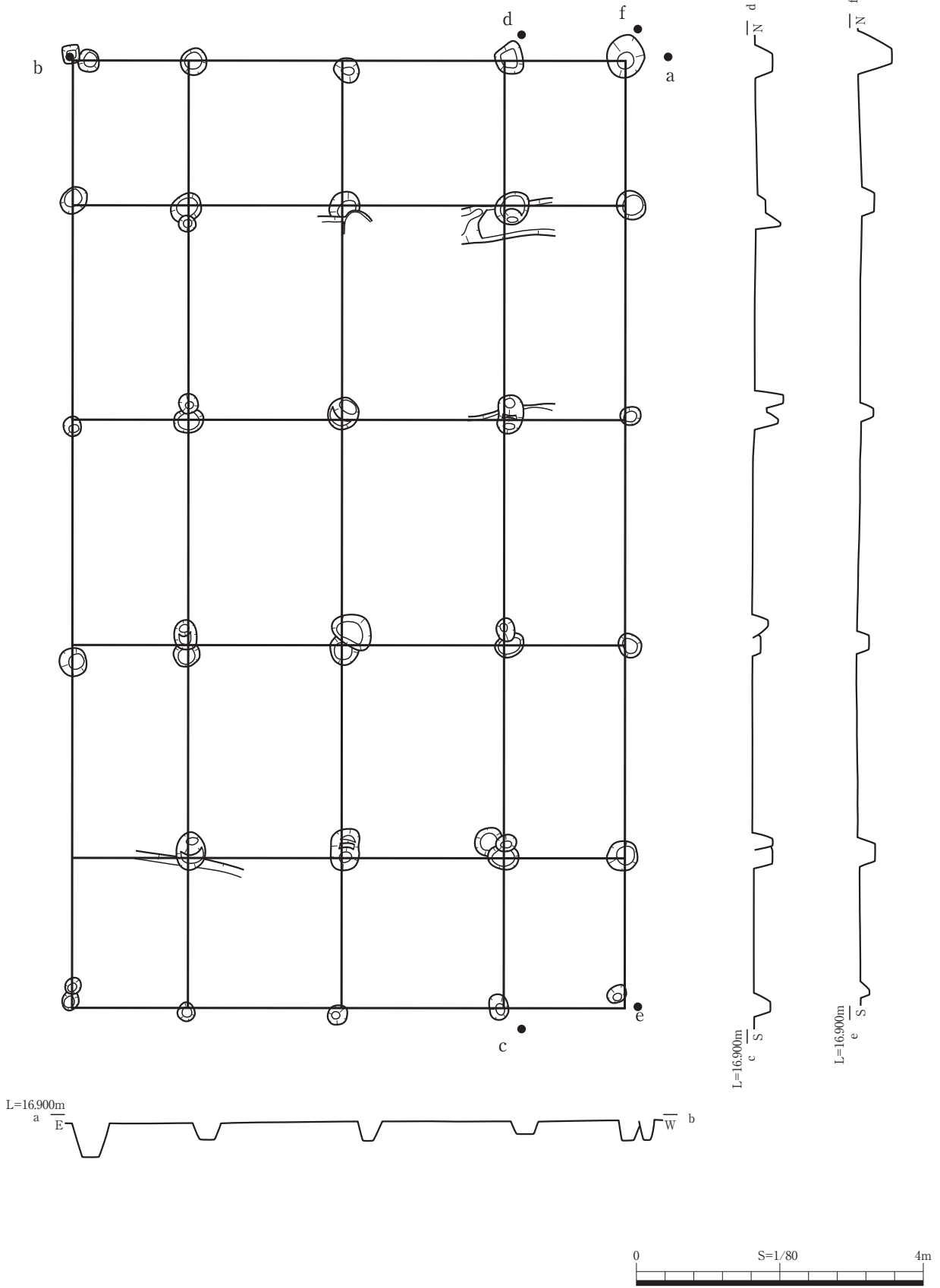
第 52 図 SB 21、22 遺構図・土層断面図 (S=1/60)



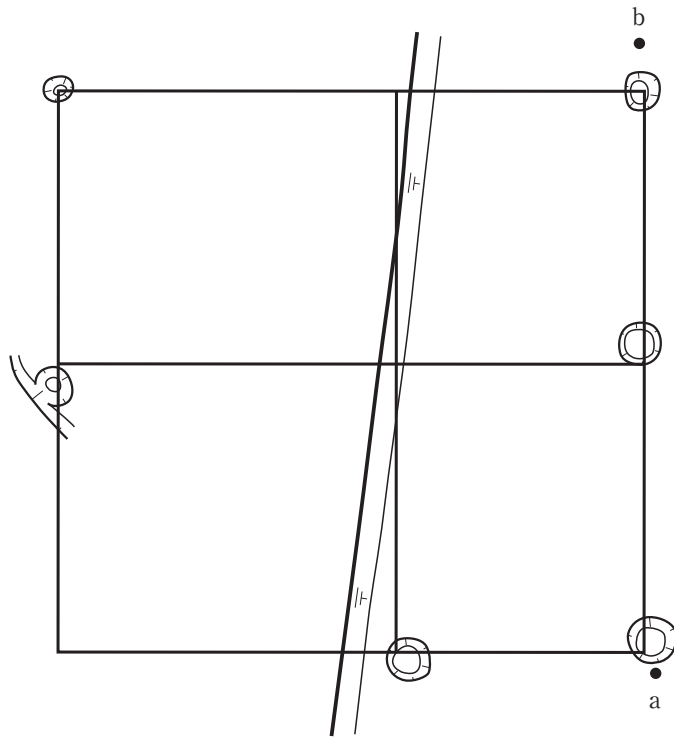
第 53 図 SB 23、24 遺構図・土層断面図 (S=1/60)



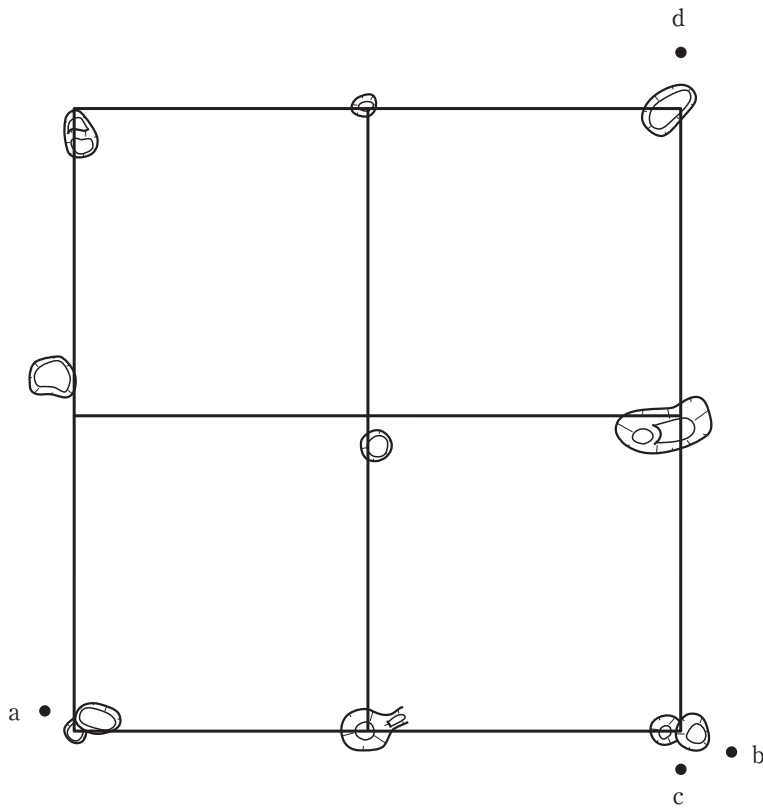
第 54 図 SB 25 遺構図・土層断面図 (S=1/60)



第 55 図 SB 26 遺構図・土層断面図 (S=1/80)



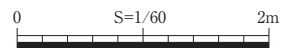
SB 27



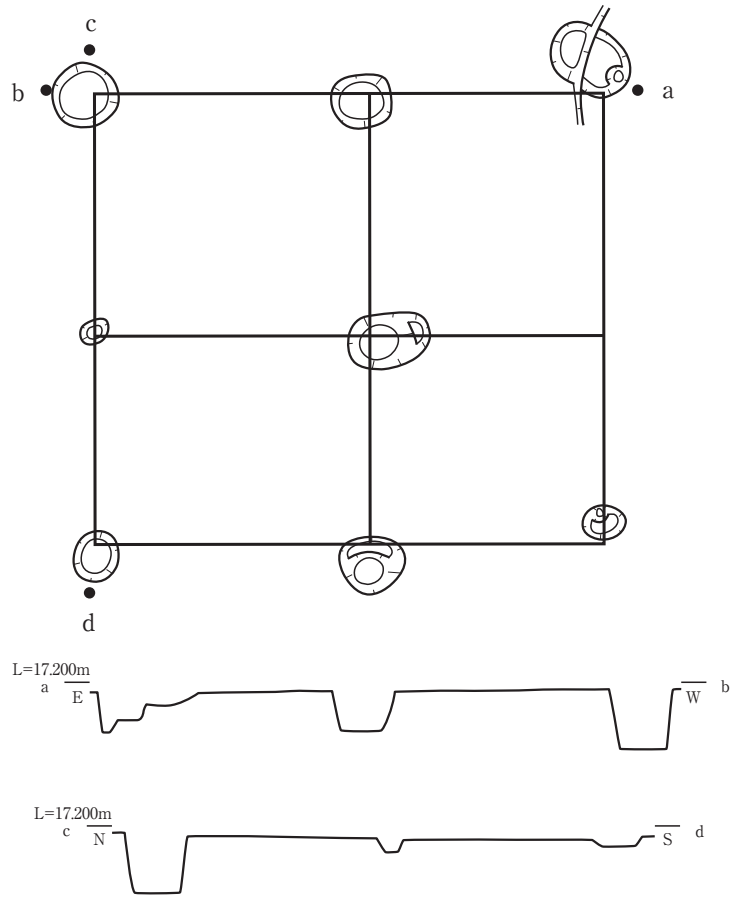
L=17.300m
a NW

b SE

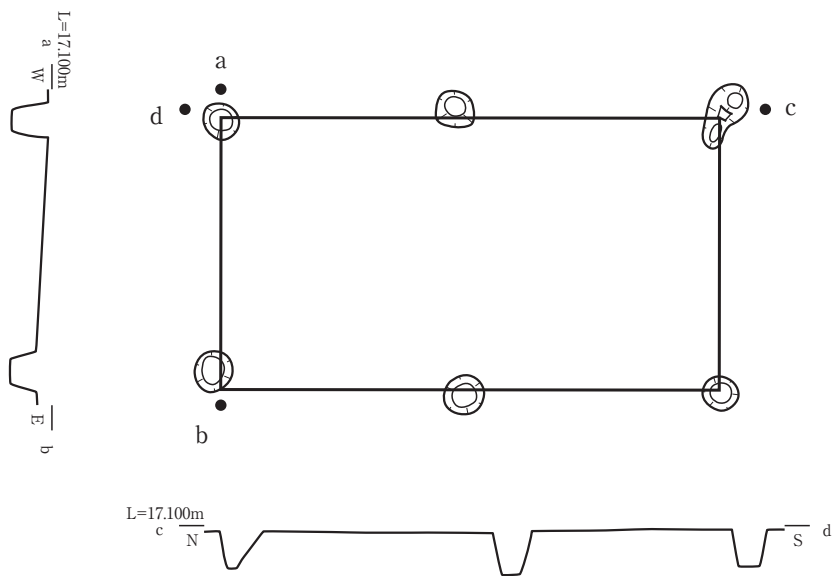
SB 39



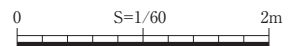
第 56 図 SB 27、39 遺構図・土層断面図 (S=1/60)



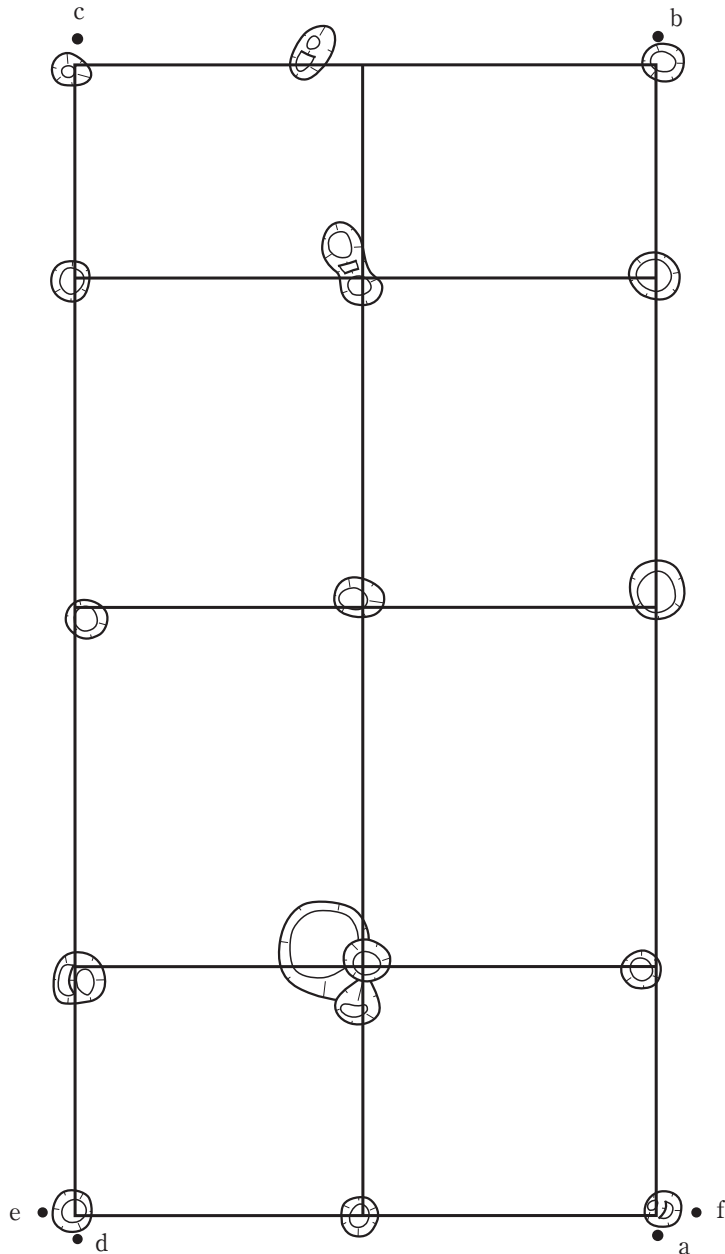
SB 28



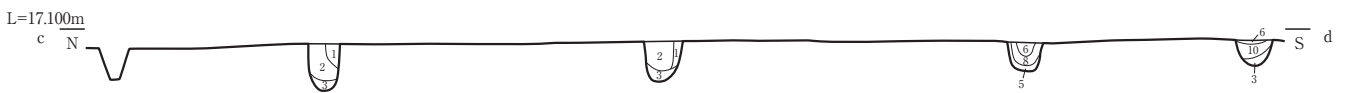
SB 29



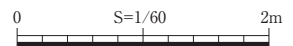
第 57 図 SB 28、29 遺構図・土層断面図 (S=1/60)



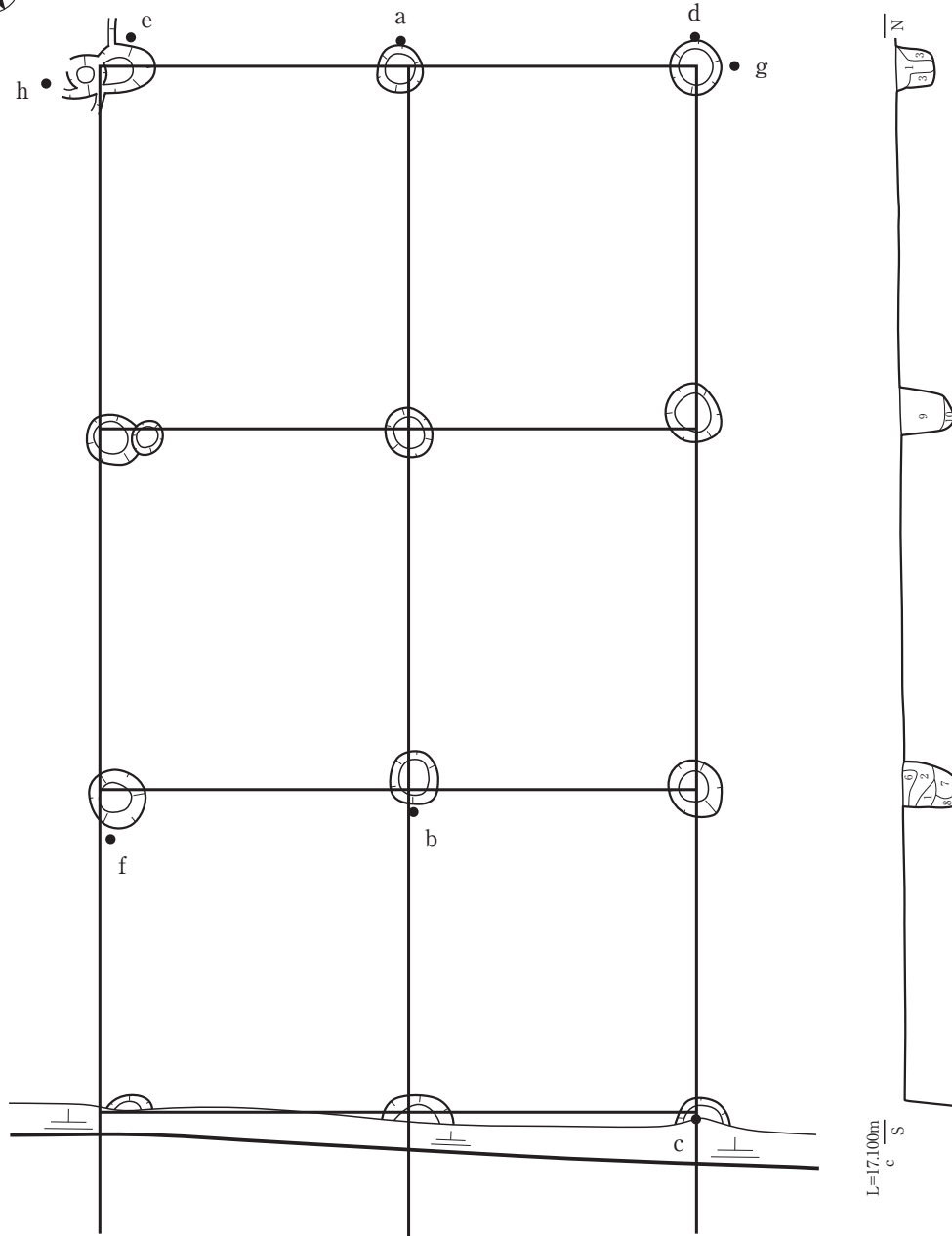
- | | |
|--------------------------------------|--|
| 1. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり灰色 (N4/) 粘質土 | 4. 灰色 (N4/) 粘質土 |
| 2. 暗灰色 (N3/) 粘質土 | 5. 暗灰色 (N3/) 強粘質土 |
| 3. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり暗灰色 (N3/) 粘質土 | 6. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック、暗灰色 (N3/) ブロック混じり灰色 (N4/) 粘質土 |



- | | | |
|--------------------------------------|---------------------------------------|--|
| 1. 暗灰色 (N3/) 粘質土 | 4. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック多混じり暗灰色 (N3/) 粘質土 | 7. 灰色 (N6/) 粘質土 |
| 2. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり暗灰色 (N3/) 粘質土 | 5. 黄色 (2.5Y8/6) 混じり淡灰色 (N4/) 粘質土 | 8. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック (細) 混じり灰色 (N4/) 粘質土 |
| 3. 淡灰色 (N4/) 混じり黄色 (2.5Y8/6) 粘質土 | 6. 灰色 (N4/) 粘質土 | 9. 灰色 (N5/) 粘質土 |
| | | 10. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり灰色 (N4/) 粘質土 |

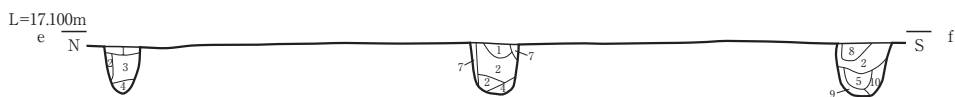
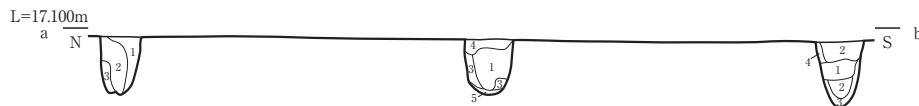


第 58 図 SB 30 遺構図・土層断面図 (S=1/60)

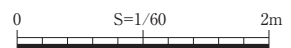
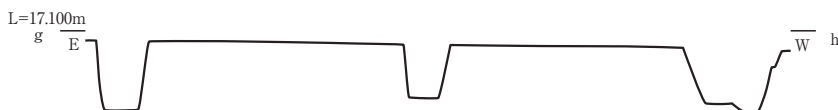


- 7. 黒色 (N2/) 強粘質土
- 8. 淡黄色 (2.5Y8/4) 混じり淡暗灰色 (N3/) 粘質土
- 9. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック少混じり暗灰色 (N3/) 粘質土
- 10. 黄色 (2.5Y8/6) 混じり灰色 (N4/) 粘質土

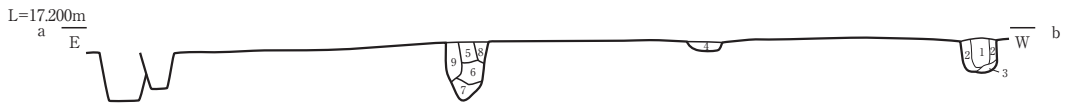
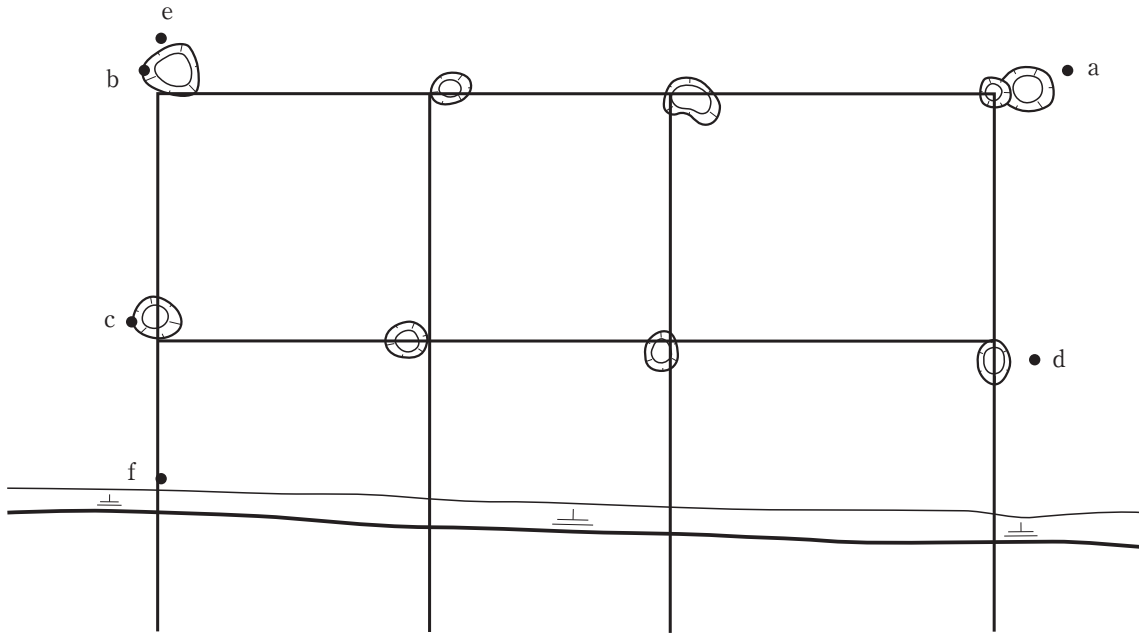
- 1. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり暗灰色 (N3/) 粘質土
- 4. 灰色 (N4/) 粘質土
- 5. 暗灰色 (N3/) 粘質土
- 6. 灰黄褐色 (10YR) ブロック混じり灰色 (N4/) 粘質土
- 2. 暗灰色 (N3/) 粘質土
- 3. 黄色 (2.5Y8/9) ブロック多混じり灰色 (N4/) 粘質土



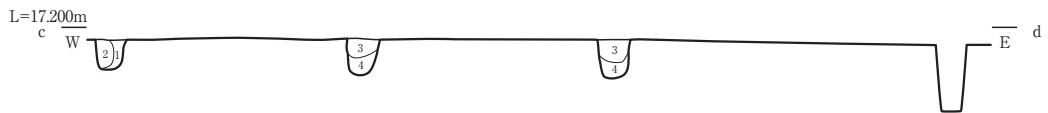
- 1. 灰色 (N4/) 粘質土
- 2. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり灰色 (N4/) 粘質土
- 3. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり暗灰色 (N3/) 粘質土
- 4. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり 灰色 (N4/) 粘質土
- 5. 暗灰色 (N3/) 粘質土
- 6. 暗灰色 (N3/) 強粘質土
- 7. 灰色 (N4/) ブロック混じり黄色 (2.5Y8/6) 粘質土
- 8. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック (細) 混じり灰色 (N4/) 粘質土
- 9. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり淡灰色 (N4/) 粘質土
- 10. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり暗灰色 (N3/) 粘質土



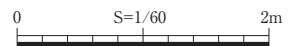
第 59 図 SB 31 遺構図・土層断面図 (S=1/60)



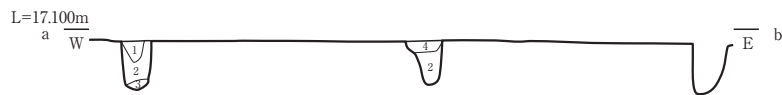
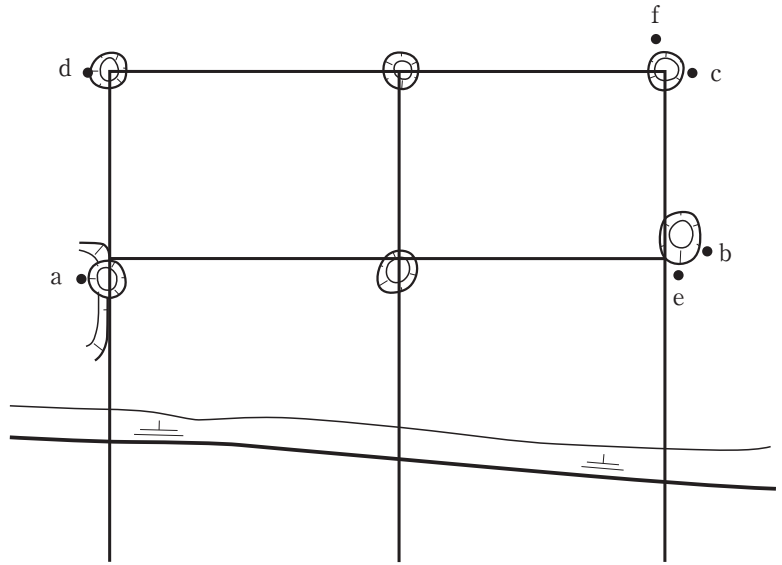
- | | |
|---|---|
| 1. 黒褐色 (10YR3/1) 砂質土 | 6. 暗灰色 (N3/) 粘質土 |
| 2. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり褐色 (10YR4/1) 砂質土 | 7. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり暗灰色 (N3/) 強粘質土 |
| 3. 黄色 (2.5Y8/6) 混じり褐色 (10YR/1) 砂質土 | 8. 黄色 (2.5Y8/6) 混じり灰色 (N4/) 粘質土 |
| 4. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり褐色 (10YR5/1) 粘質土 | 9. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり褐色 (10YR6/1) 粘質土 |
| 5. 灰色 (N4/) 粘質土 | |



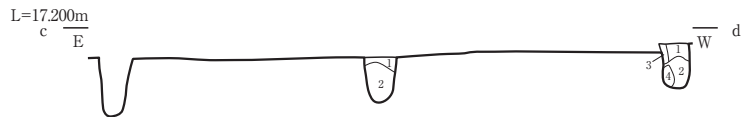
- | | |
|---|--|
| 1. 褐色 (10YR4/1) 砂質土 | 3. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり褐色 (10YR4/1) 粘質土 |
| 2. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり褐色 (10YR4/1) 砂質土 | 4. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり淡褐色 (10YR5/1) 粘質土 |



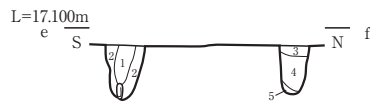
第 60 図 SB 32 遺構図・土層断面図 (S=1/60)



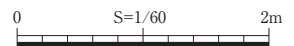
- | | |
|--------------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 灰色 (N4/) 粘質土 (炭化物混じる) | 3. 灰色 (N4/) 強粘質土 |
| 2. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり灰色 (N4/) 強粘質土 | 4. にぶい黄橙色 (10YR6/4) 混じり灰色 (N4/) 粘質土 |



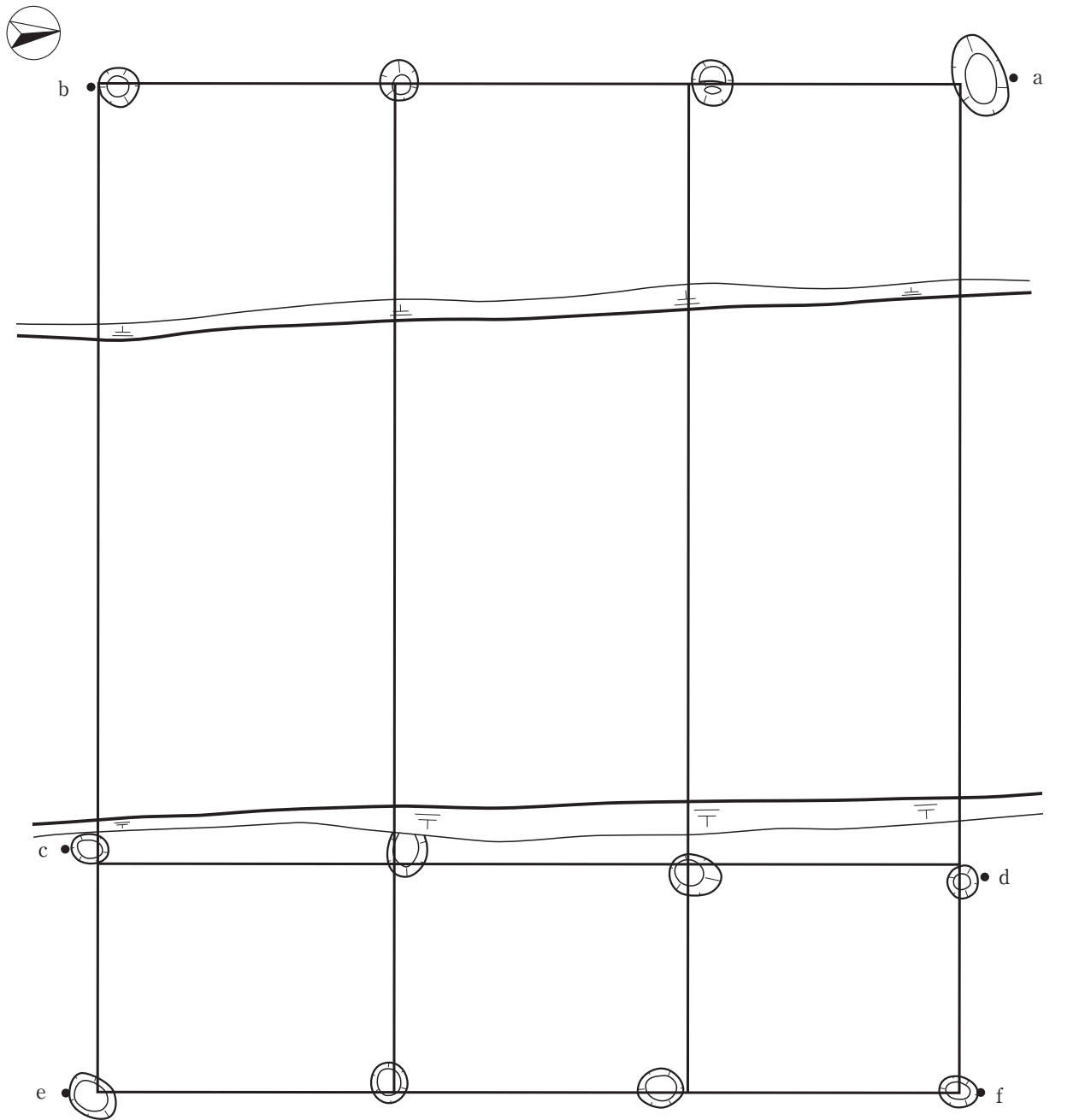
- | | |
|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 灰色 (N4/) 粘質土 | 3. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり灰色 (N5/) 粘質土 |
| 2. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり暗灰色 (N3/) 強粘質土 | 4. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック多混じり灰色 (N5/) 強粘質土 |



- | |
|---|
| 1. 灰色 (N5/) 混じり黄色 (2.5Y8/6) 粘質土 |
| 2. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック、炭化物混じり灰色 (N5/) 粘質土 |
| 3. 灰色 (N5/) 粘質土 |
| 4. 灰色 (N4/) 強粘質土 |
| 5. 黄色 (2.5Y8/6) 混じり淡灰色 (N5/) 粘質土 |



第 61 図 SB 33 遺構図・土層断面図 (S=1/60)



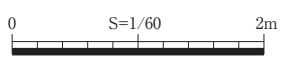
- | | | |
|----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------|
| 1. 灰色 (N5/) 粘質土 | 3. 淡黄色 (2.5Y8/4) 混じり灰色 (N5/) 強粘質土 | 5. 黄灰色 (2.5Y5/1) 強粘質土 |
| 2. 淡黄色 (2.5Y8/4) 混じり灰色 (N4/) 粘質土 | 4. 黄灰色 (2.5Y6/1) 粘質土 | 6. 3層と同色。3層よりも粘質弱い |
| | | 7. 灰色 (N6/) 強粘質土 |



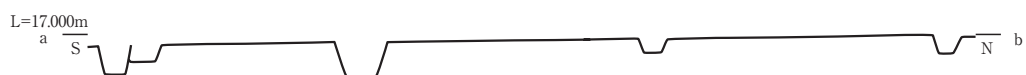
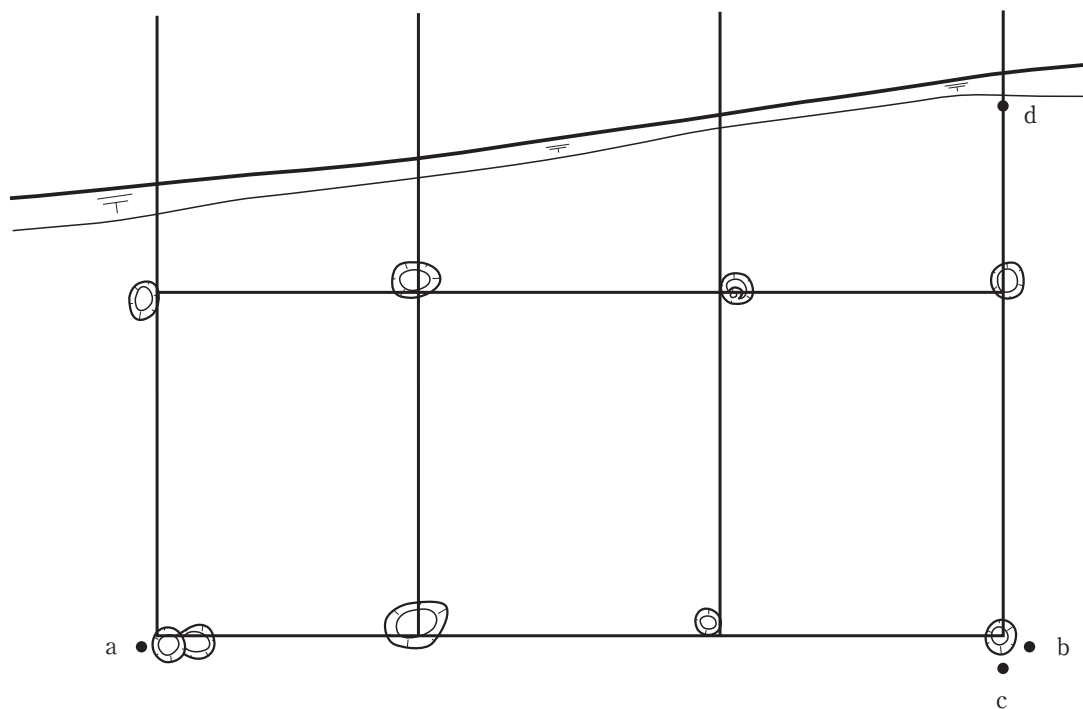
- | | | |
|------------------|-----------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 灰色 (N4/) 粘質土 | 3. 褐灰色 (10YR6/1) 粘質土 | 5. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり灰色 (N4/) 粘質土 |
| 2. 暗灰色 (N3/) 粘質土 | 4. 灰黄色 (2.5Y6/2) 混じり暗灰色 (N4/) 粘質土 | 6. 黄色 (2.5Y8/6) 混じり褐灰色 (10YR6/1) 粘質土 |
| | | 7. 淡暗灰色 (N3/) 強粘質土 |



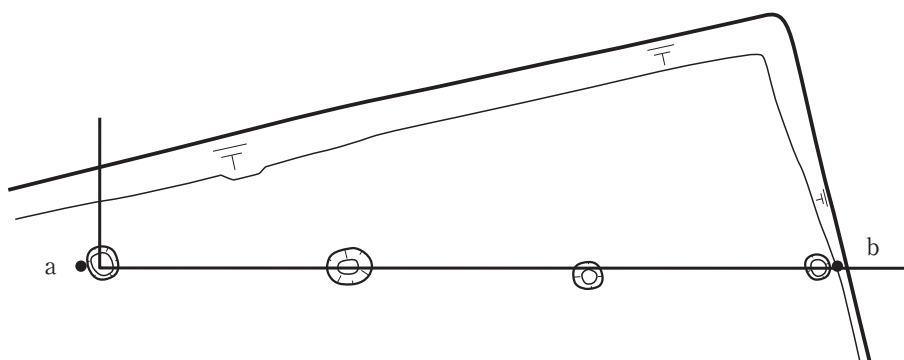
- | | | |
|----------------------|------------------|----------------------|
| 1. 褐灰色 (10YR4/1) 粘質土 | 3. 淡灰色 (N6/) 粘質土 | 5. 褐灰色 (10YR5/1) 粘質土 |
| 2. 暗灰色 (N3/1) 粘質土 | 4. 暗灰色 (N3/) 粘質土 | 6. 灰色 (N5/) 粘質土 |



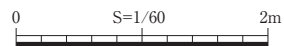
第 62 図 SB 34 遺構図・土層断面図 (S=1/60)



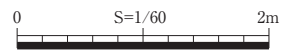
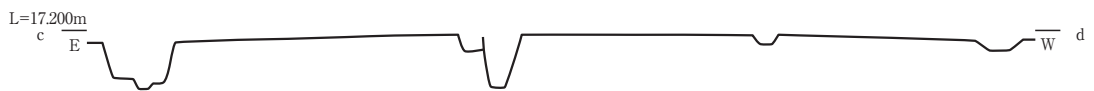
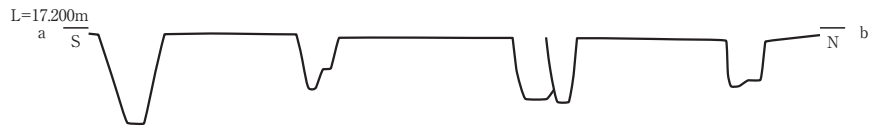
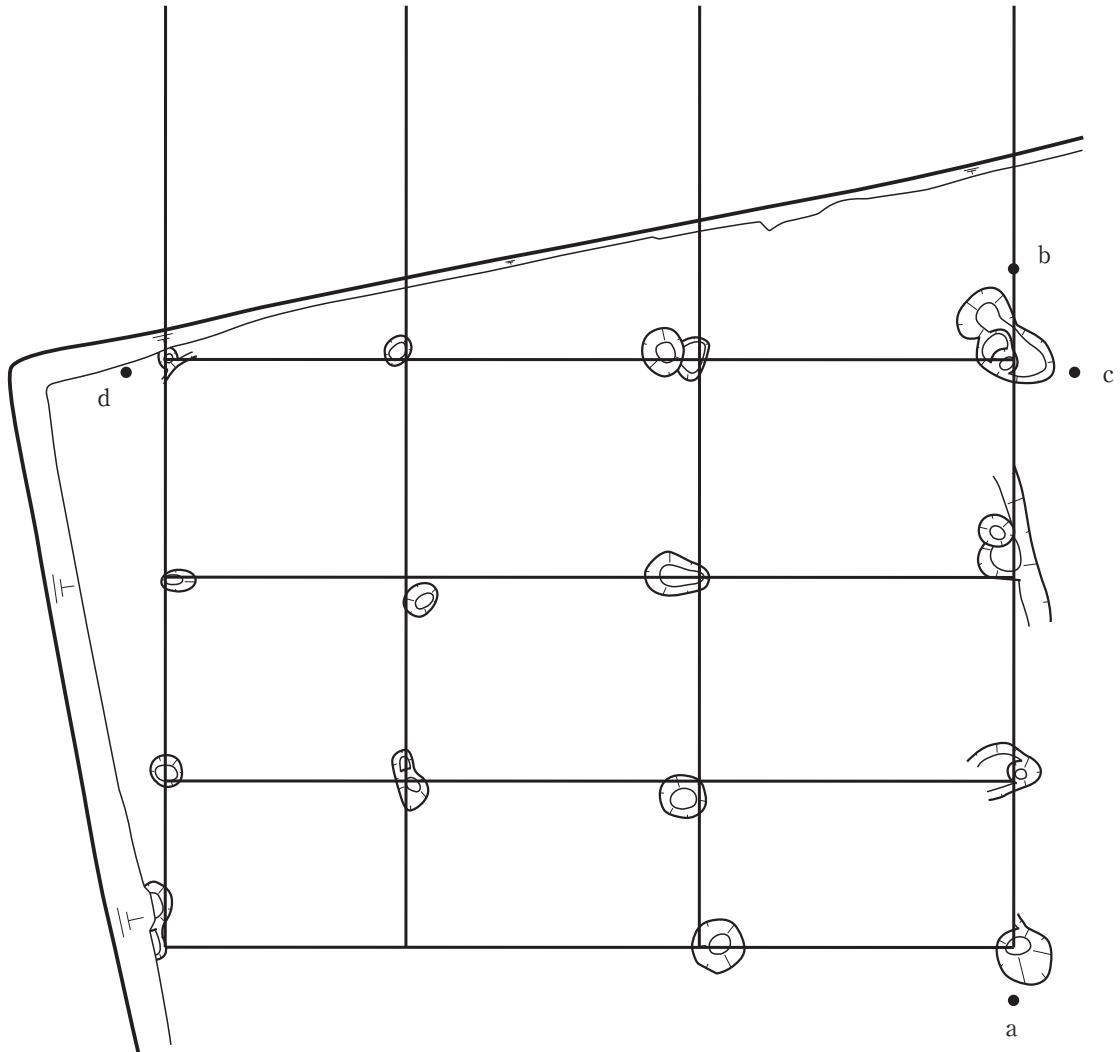
SB 35



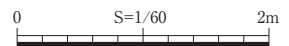
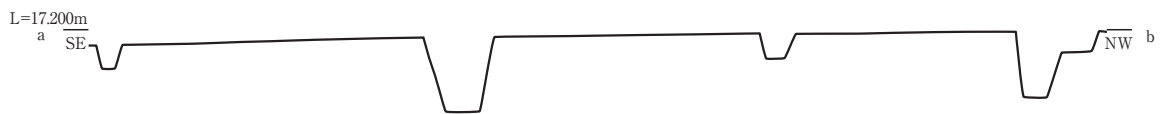
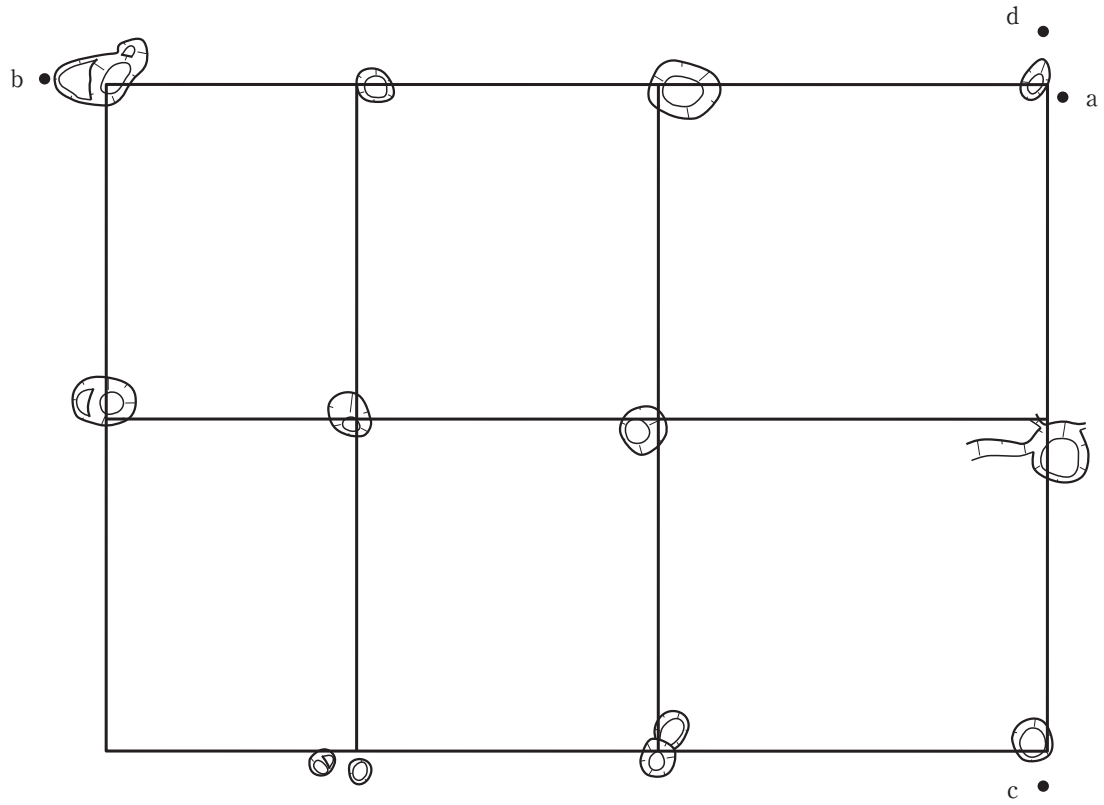
SB 36



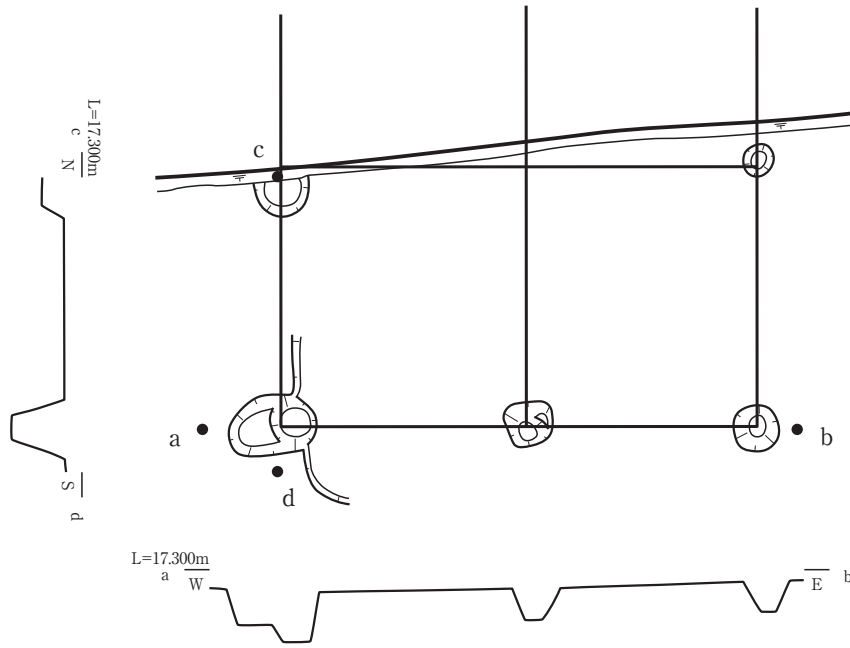
第 63 図 SB 35、36 遺構図・土層断面図 (S=1/60)



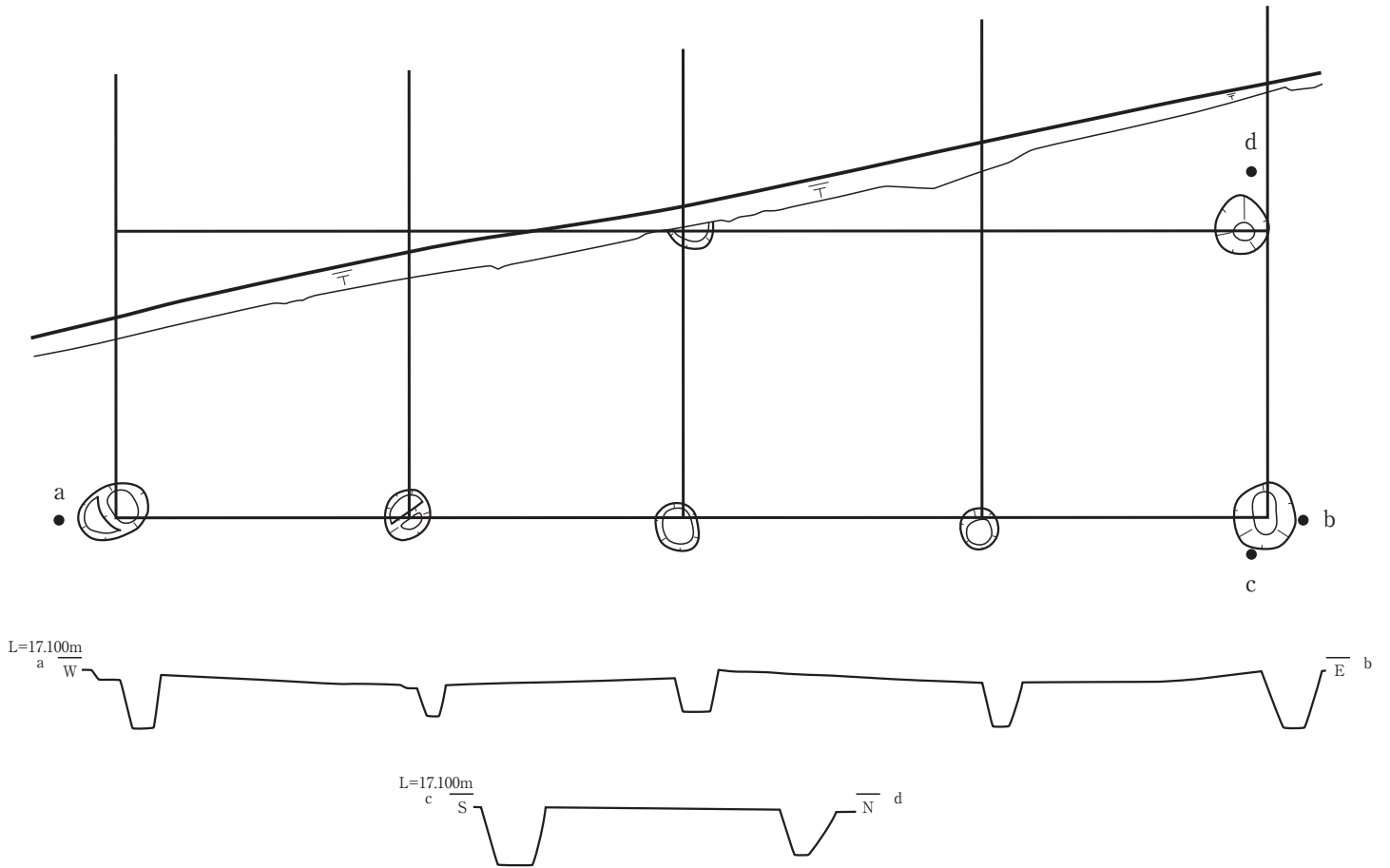
第 64 図 SB 37 遺構図・土層断面図 (S=1/60)



第 65 図 SB 38 遺構図・土層断面図 (S=1/60)

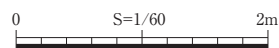
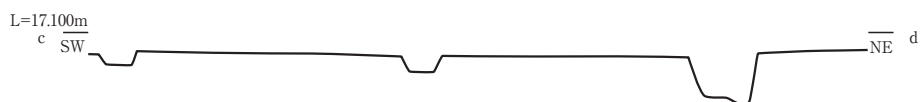
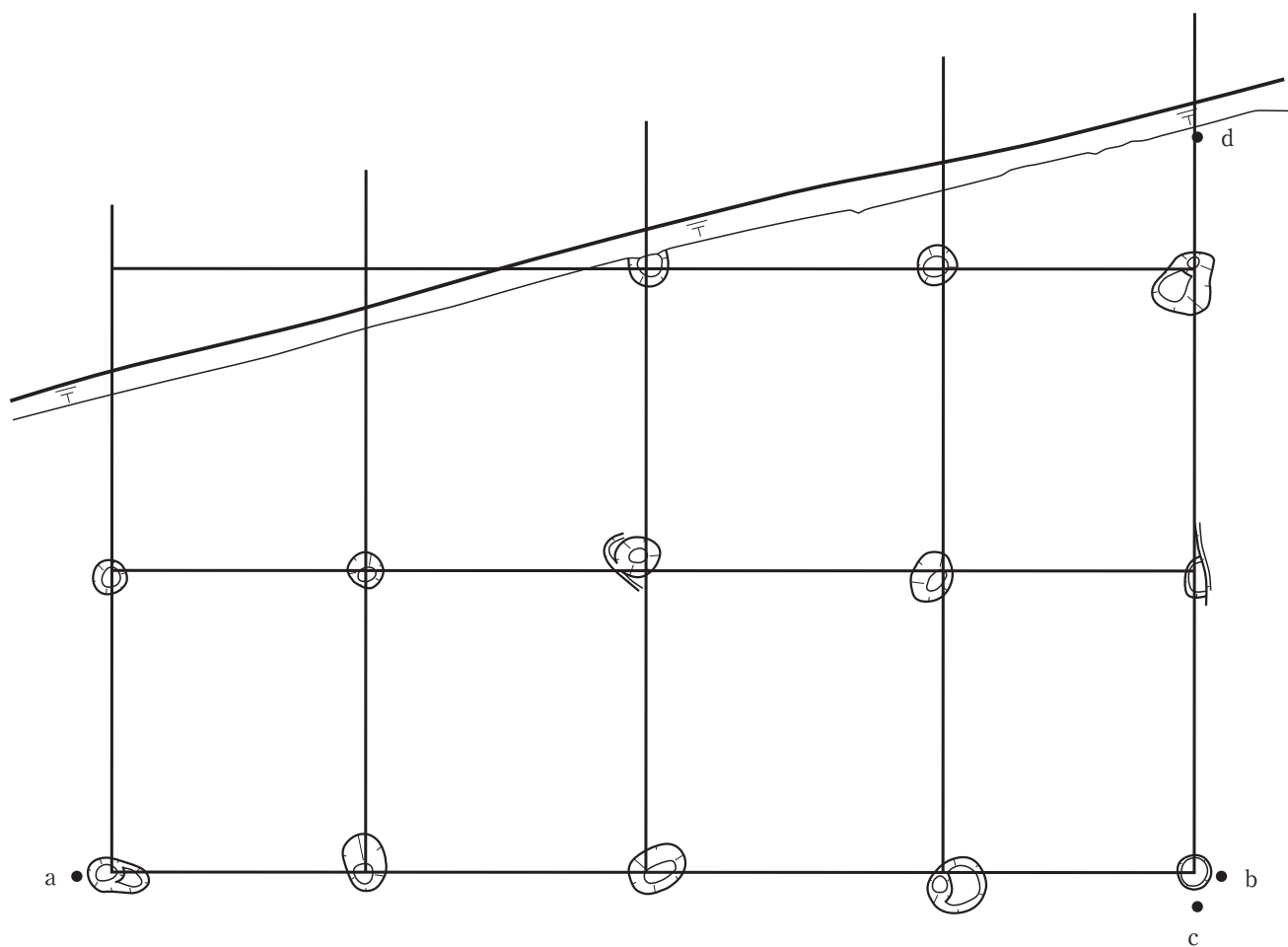


SB 40

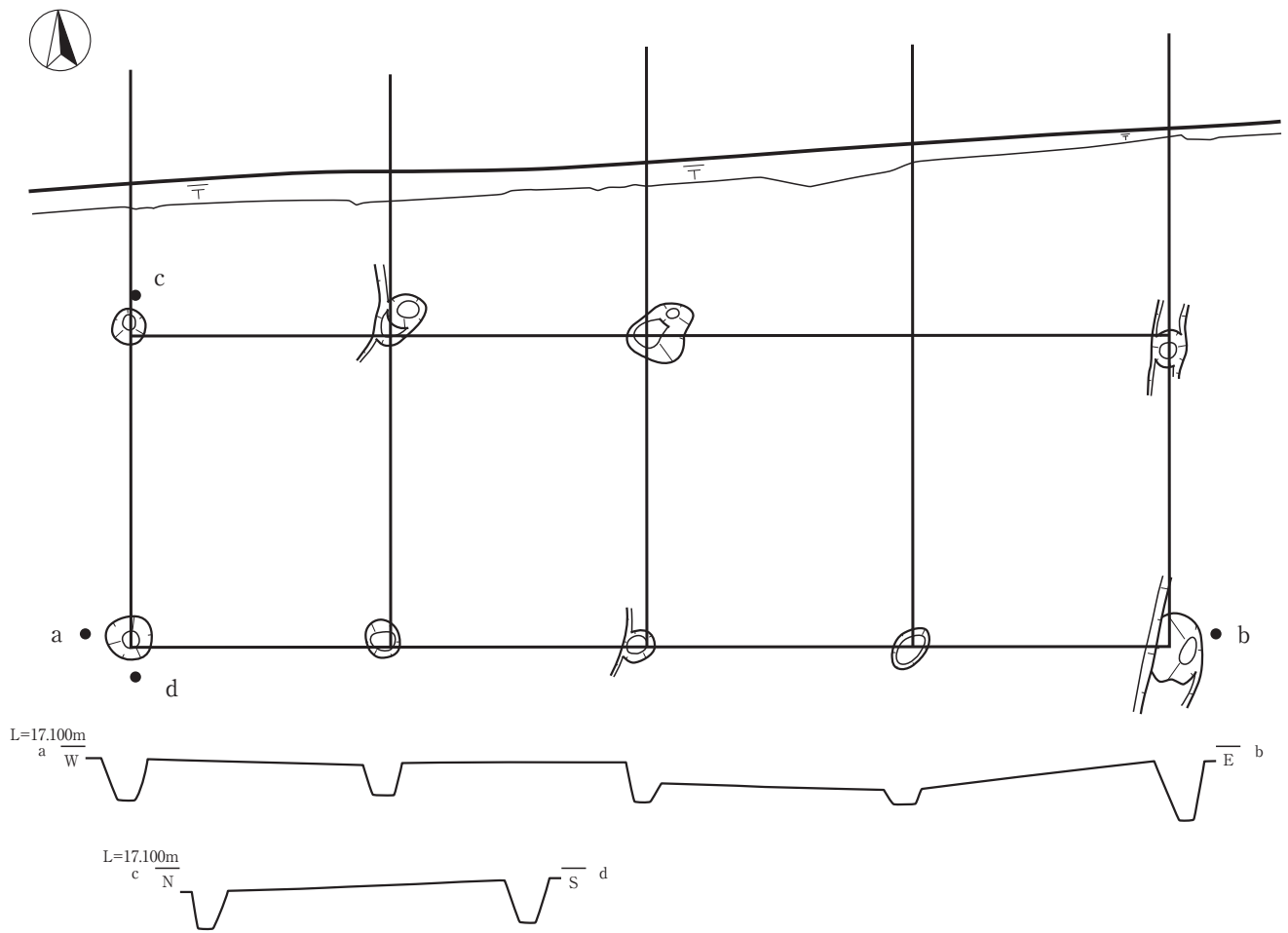


SB 42

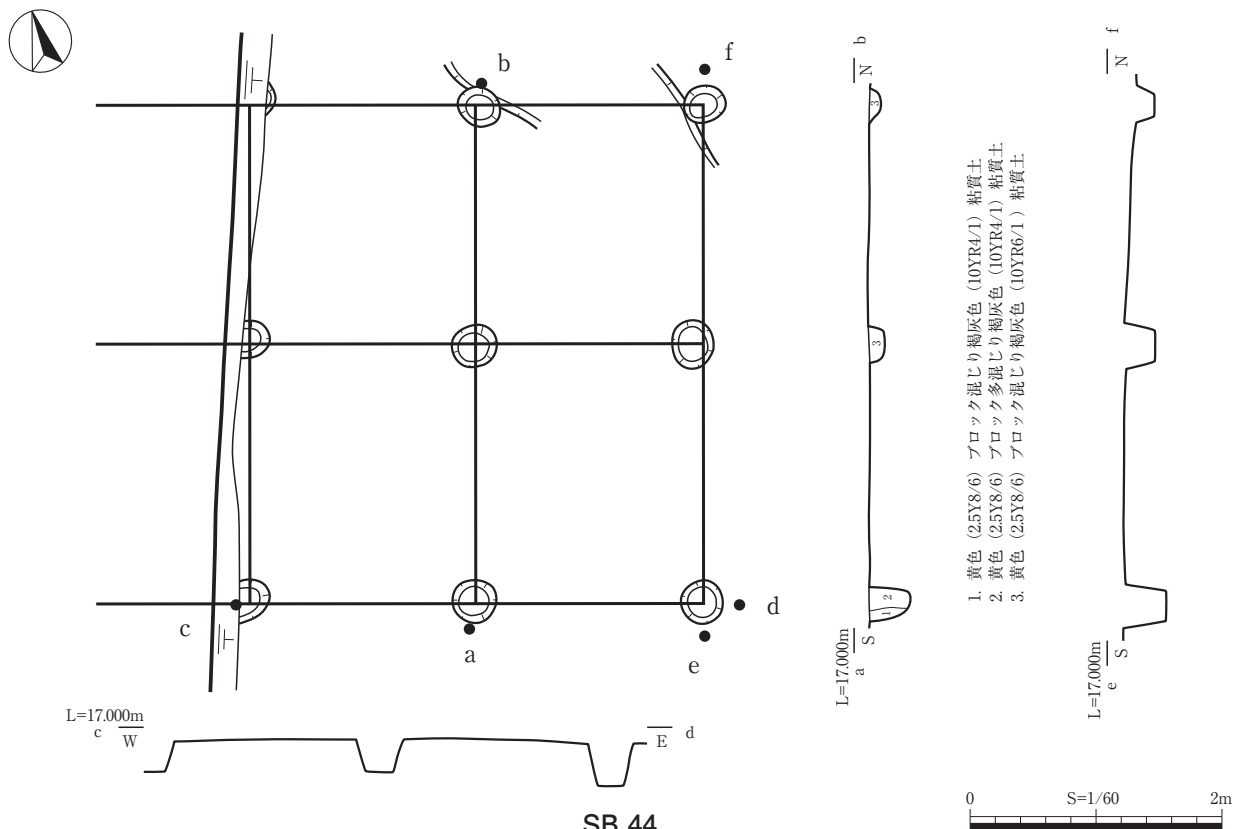
第 66 图 SB40、42 遺構図・土層断面図 (S=1/60)



第 67 图 SB 41 遺構図・土層断面図 (S=1/60)

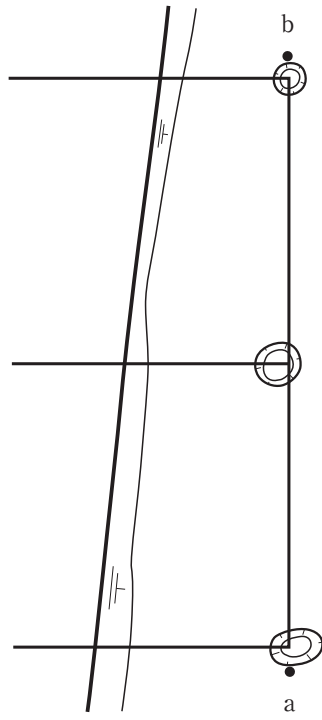


SB 43



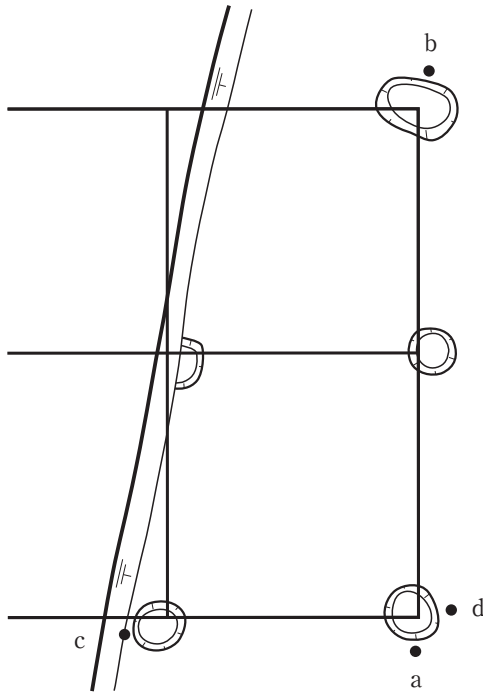
SB 44

第 68 図 SB43、44 遺構図・土層断面図 (S=1/60)

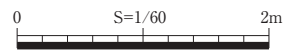


1. 褐色色 (10YR4/1) 粘質土
2. 黄色 (2.5Y8/6) フロック混じり褐色 (10YR5/1) 粘質土
3. 黄色 (2.5Y8/6) フロック多混じり褐色 (10YR5/1) 粘質土
4. 黄色 (2.5Y8/6) フロック、灰白色 (2.5Y7/1) 混じり褐色 (10YR4/1) 粘質土
5. 黄色 (2.5Y8/6) フロック混じり褐色 (10YR4/1) 粘質土

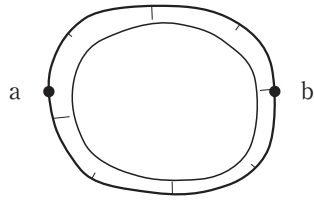
SB 45



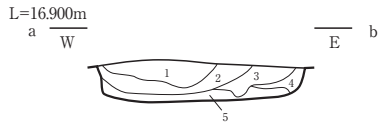
SB 46



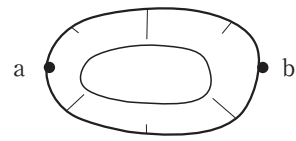
第 69 図 SB 45、46 遺構図・土層断面図 (S=1/60)



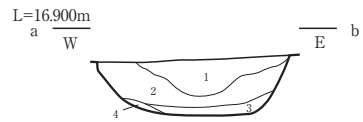
SK 1



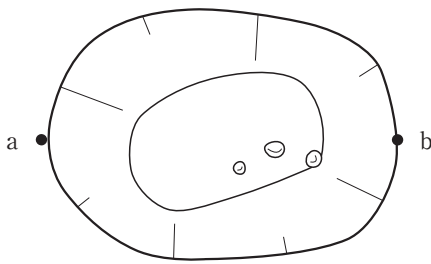
1. 炭、骨片混じり褐灰色粘質土
2. 骨片少混じり灰褐色粘質土
3. 黄色土混じり淡暗灰色粘質土
4. 暗灰色土混じり淡黄灰色粘質土
5. 暗灰色土混じり淡黄色粘質土



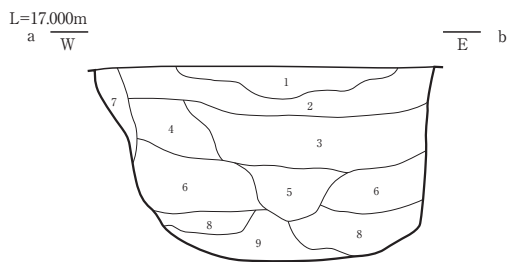
SK 2



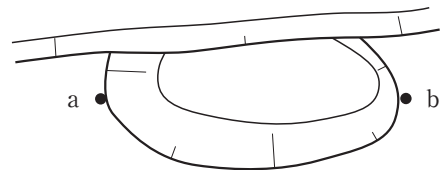
1. 黄色土、炭・骨片混じり褐灰色粘質土
2. 炭・骨片少混じり暗褐色粘質土
3. 淡暗灰褐色粘質土
4. 淡灰黄色粘質土 (やや暗い)



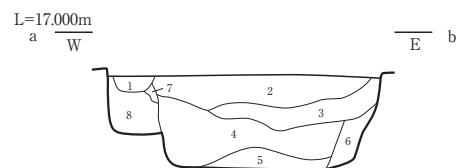
SK 3



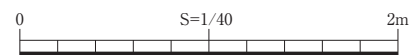
1. 炭・骨片少混じり褐灰色粘質土
2. 黄色粒混じり褐灰色粘質土
3. 黄色粒、炭粒混じり褐灰色粘質土
4. 暗灰色土混じり淡黄色粘質土
5. 黄色土、骨片混じり灰褐色粘質土
6. 暗灰色土混じり淡黄色粘質土
7. 淡褐色粘質土
8. 褐灰色粘土混じり淡黄色粘質土
9. 淡灰褐色粘質土



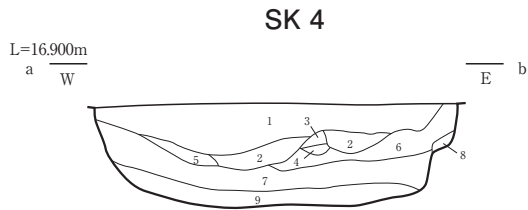
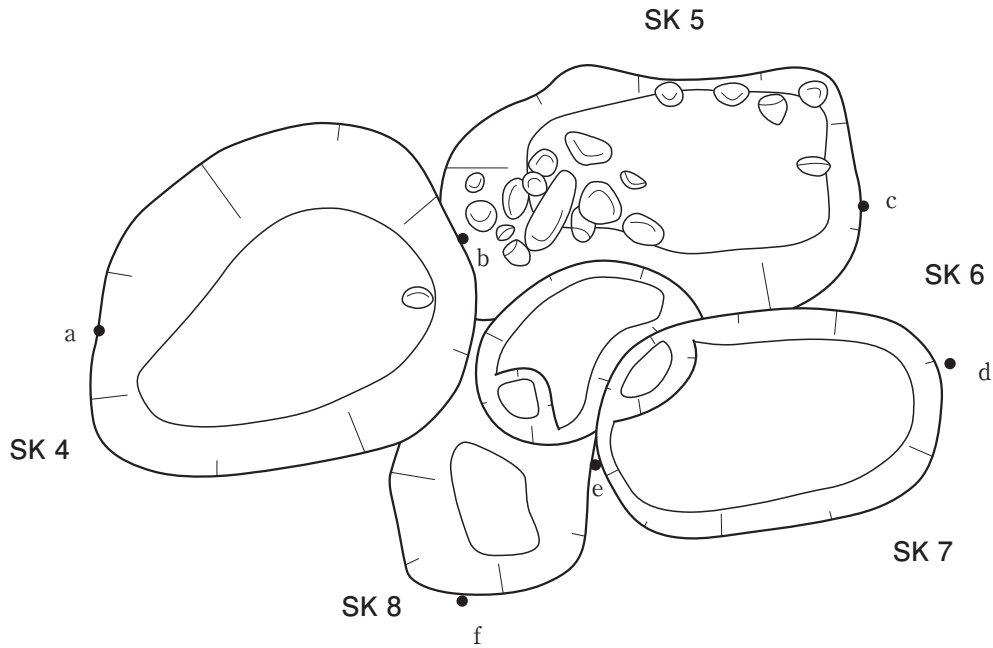
SK 9



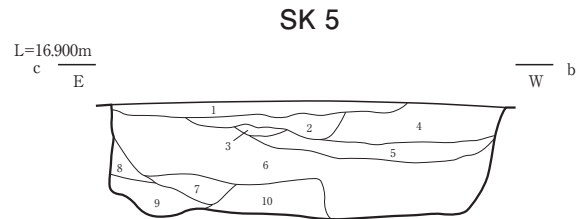
1. 骨片少混じり褐色粘質土 (やや暗い)
2. 褐灰色粘質土 (やや暗い)
3. 褐灰色粘質土
4. 暗褐色粘質土
5. 濁黒色粘質土
6. 濁暗灰色粘質土
7. 濁黄褐色粘質土 (やや暗い)
8. 褐灰色粘質土 (やや暗い)



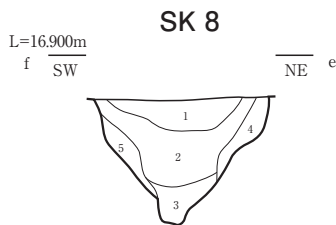
第 70 図 SK 1、2、3、9 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



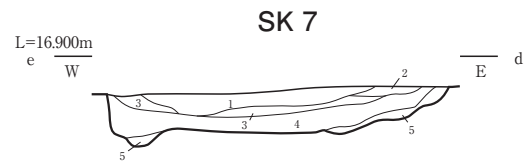
1. 黄色粒混じり褐灰色粘質土
2. 濁暗灰褐色粘質土
3. 淡褐色粘質土
4. 暗灰色ブロック混じり褐灰色粘質土
5. 黄色粒多混じり褐灰色粘質土
6. 褐灰色粘質土 (やや淡い)
7. 黄色粒混じり褐灰色粘質土
8. 灰褐色粘質土 (やや暗い)
9. 黄色粒混じり淡褐灰色粘質土



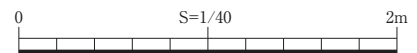
1. 骨片少混じり灰褐色粘質土
2. 灰白色粘質土 (シルトっぽい)
3. 暗灰色粘質土
4. 灰褐色粘質土 (やや暗い)
5. 黄色粒多混じり灰褐色粘質土
6. 黄色粒混じり褐灰色粘質土 (やや淡い)
7. 黄色粒混じり褐色粘質土 (やや淡い)
8. 灰色土混じり淡黄色粘質土
9. 灰色土混じり淡黄色粘質土
10. 灰色粒混じり淡黄色粘質土



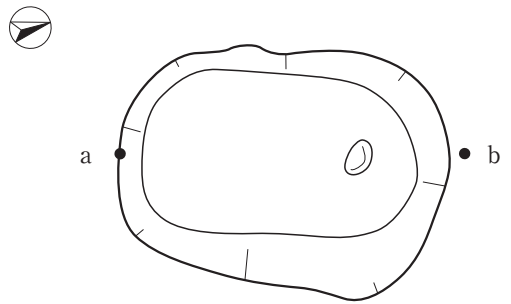
1. 暗灰色粘質土
2. 暗灰褐色粘質土
3. 褐灰色粘土 (やや暗い)
4. 黄色粒多混じり褐色粘質土
5. 淡灰褐色粘質土



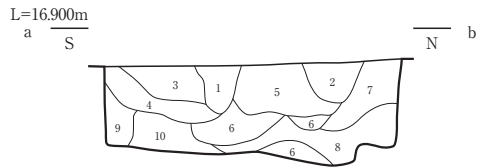
1. 褐灰色粘質土
2. 骨片少混じり炭層
3. 黄色粒多混じり褐灰色粘質土
4. 黄色粒少混じり淡暗褐色粘質土
5. 褐灰色土混じり淡黄色粘質土



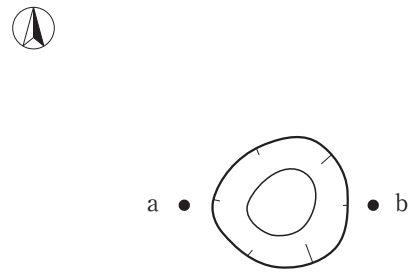
第71図 SK 4、5、6、7、8 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



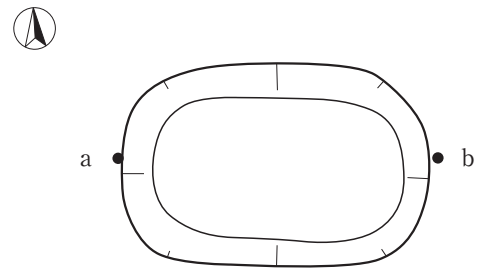
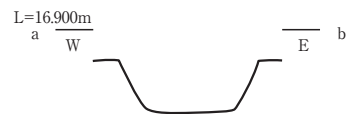
SK 10



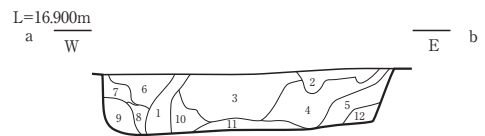
1. 黄色粒混じり灰色粘質土
2. 黄色粒少混じり灰色粘質土
3. 黄色粒混じり灰色粘質土
4. 黄色土混じり灰褐色粘質土
5. 灰褐色土混じり淡黄色粘質土
6. 灰色土混じり淡黄色粘質土
7. 黄色土混じり淡暗褐色粘質土
8. 黄色土混じり淡暗灰色粘質土
9. 黄色粒少混じり淡暗褐色粘質土
10. 黄色粒少混じり淡暗褐色粘質土



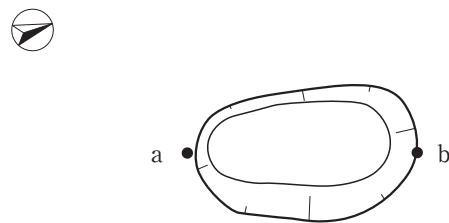
SK 11



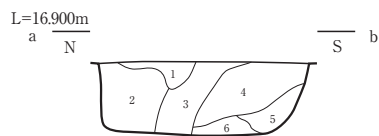
SK 12



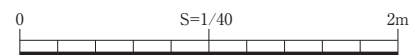
1. 淡褐色粘質土
2. 淡黄褐色粘質土
3. 黄色粒混じり淡褐色粘質土
4. 淡褐色土混じり淡黄色粘質土
5. 淡黄色土混じり淡褐色粘質土
6. 暗灰色土混じり淡黄色粘質土
7. 淡黄色粘質土
8. 灰色土混じり淡黄色粘質土
9. 褐色粘質土 (やや暗い)
10. 濁淡黄褐色粘質土
11. 淡褐色粘質土
12. 暗灰色土混じり淡黄色粘質土



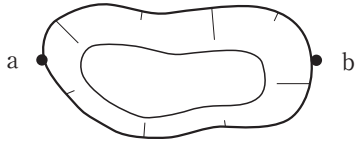
SK 13



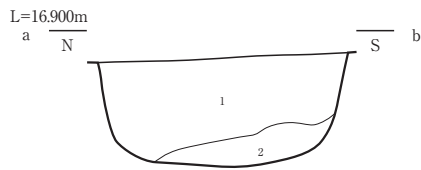
1. 褐色粘質土
2. 骨片・炭粒混じり褐色粘質土 (やや暗い)
3. 褐色粘質土 (やや暗い)
4. 褐色粘質土 (やや淡く明るい)
5. 暗灰色土混じり淡黄色粘質土
6. 淡灰黄色粘質土 (やや暗い)



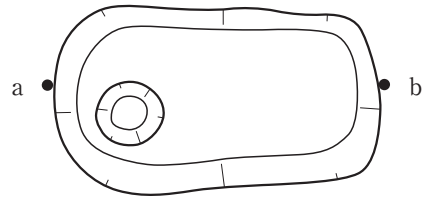
第 72 図 SK10、11、12、13 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



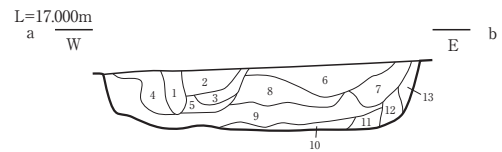
SK 14



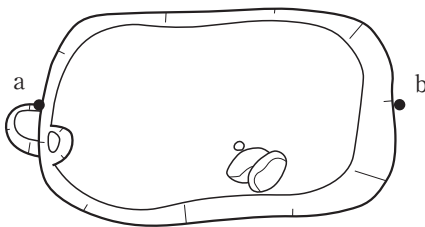
- 1. 暗褐色、黄色土混じり褐灰色粘質土
- 2. 暗灰色土混じり淡黄色粘質土



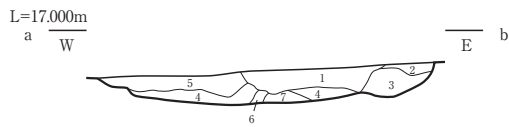
SK 15



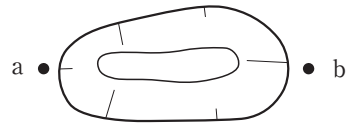
- 1. 褐灰色粘質土
- 2. 黄色ブロック混じり褐灰色粘質土
- 3. 黄色粒混じり褐灰色粘質土
- 4. 灰褐色粘質土
- 5. 暗褐灰色粘質土 (やや淡い)
- 6. 灰色土混じり淡黄色粘質土
- 7. 黄色粒少混じり褐灰色粘質土 (やや淡い)
- 8. 黄色粒混じり灰褐色粘質土
- 9. 黄色粒混じり淡暗灰色粘質土
- 10. 淡灰褐色粘質土
- 11. 黄色粒少混じり淡黄色粘質土
- 12. 暗褐灰色粘質土 (やや淡い)
- 13. 黄色ブロック混じり淡灰褐色粘質土



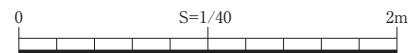
SK 16



- 1. 黄色粒少混じり褐灰色粘質土
- 2. 褐灰色粘質土 (やや暗い)
- 3. 炭・焼土粒混じり灰褐色粘質土
- 4. 黄色土混じり淡褐灰色粘質土
- 5. 灰褐色粘質土
- 6. 淡灰黄色粘質土 (やや暗い)
- 7. 淡黄色粘質土 (地山質)



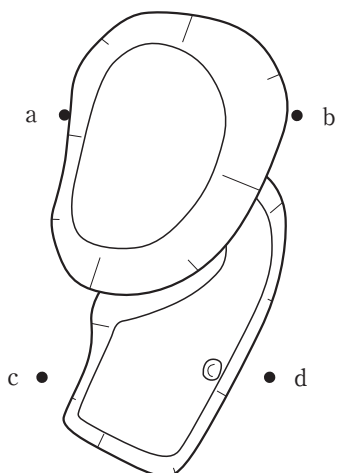
SK 17



第 73 図 SK 14、15、16、17 遺構図・土層断面図 (S=1/40)

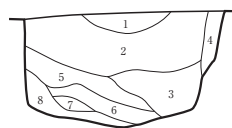


SK 18



SK 19

L=17.000m
a $\frac{W}{E}$ b

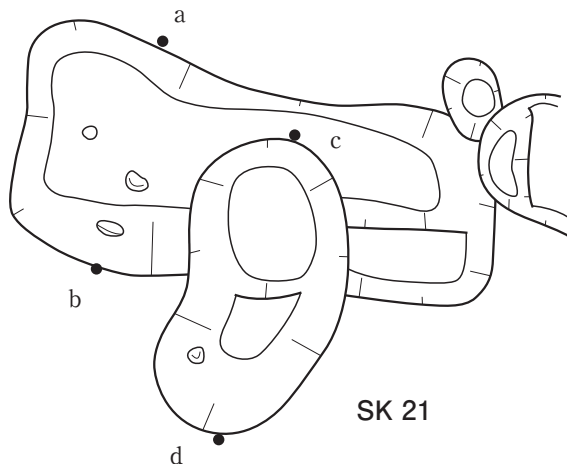


1. 褐灰色粘質土
2. 黄色粒混じり褐灰色粘質土
3. 黄色粒混じり褐灰色粘質土 (やや暗い)
4. 淡黄褐色粘質土
5. 黄色粒混じり暗灰色粘質土
6. 黄色粒混じり暗灰褐色粘質土 (やや淡い)
7. 淡黄色粘質土
8. 黄色粒混じり淡暗灰色粘質土

L=16.900m
c $\frac{W}{E}$ d

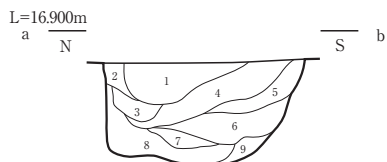


SK 20



SK 21

SK 20

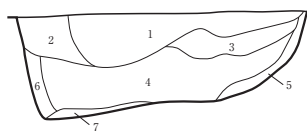


1. 褐灰色粘質土
2. 灰色粒混じり淡黄色粘質土
3. 褐灰色粘質土
4. 黒色土混じり濁淡黄色粘質土
5. 黄色ブロック土混じり暗灰色粘質土

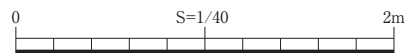
6. 暗灰色土混じり淡黄色粘質土
7. 淡灰色粘土
8. 灰色土混じり淡黄色粘質土
9. 暗褐灰色粘土

SK 21

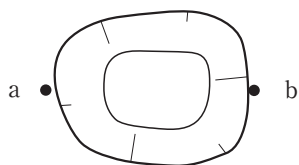
L=17.000m
c $\frac{N}{S}$ d



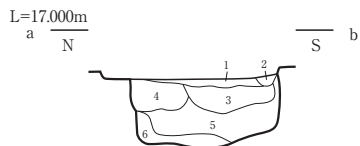
1. 黄色・褐色粒混じり灰色粘質土
2. 黄色土混じり灰色粘質土
3. 灰色土混じり淡黄色粘質土
4. 暗灰色・橙色粒混じり黄白色粘質土
5. 淡灰色粘土
6. 黄色粒混じり淡灰色粘質土
7. 暗灰褐色粘土



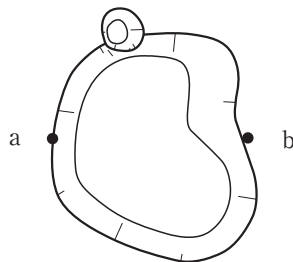
第74図 SK 18、19、20、21 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



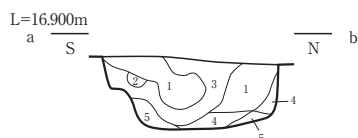
SK 22



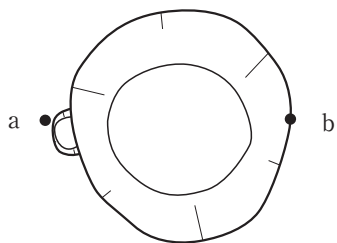
1. 暗灰色粘質土
2. 淡黄色粘質土
3. 褐灰色土混じり淡黄色粘質土
4. 黄色土混じり灰褐色粘質土 (やや暗い)
5. 濁褐色粘質土 (やや淡い)
6. 濁黄褐色粘質土



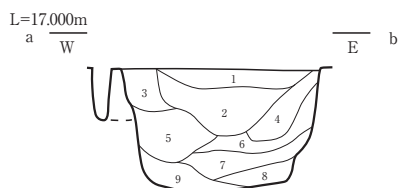
SK 23



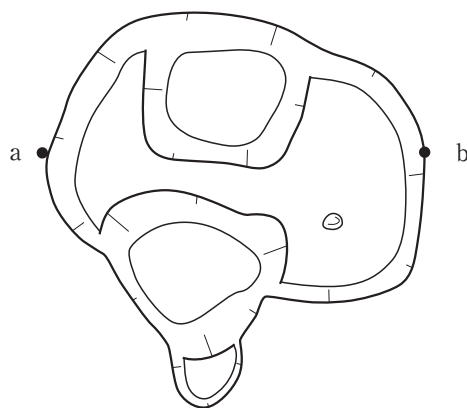
1. 骨片混じり淡黄褐色粘質土
2. 淡黄色粘質土
3. 炭粒混じり灰褐色粘質土 (やや暗い)
4. 黄色土混じり濁褐色強粘質土
5. 暗灰色土混じり淡黄色粘質土



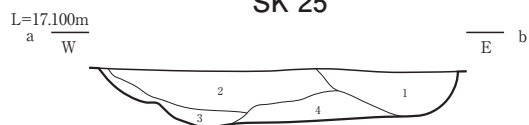
SK 24



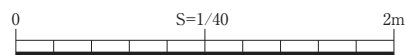
1. 黄色土、炭粒・骨片混じり暗灰色粘質土
2. 黄色土、炭粒・骨片混じり暗灰色粘質土
3. 黄色土混じり、骨片少混じり暗灰色粘質土 (やや淡い)
4. 黄色土混じり、骨片少混じり暗灰褐色粘質土
5. 骨片少混じり淡暗灰褐色粘質土
6. 暗灰色土混じり淡黄色粘質土
7. 暗灰色粘質土
8. 暗灰色土混じり淡黄色粘質土
9. 暗灰褐色粘質土



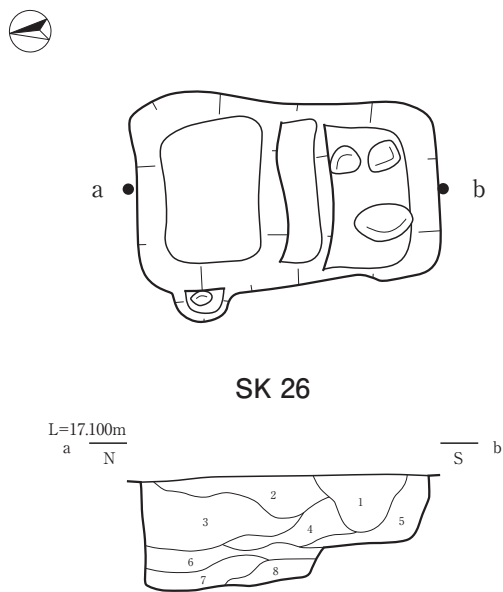
SK 25



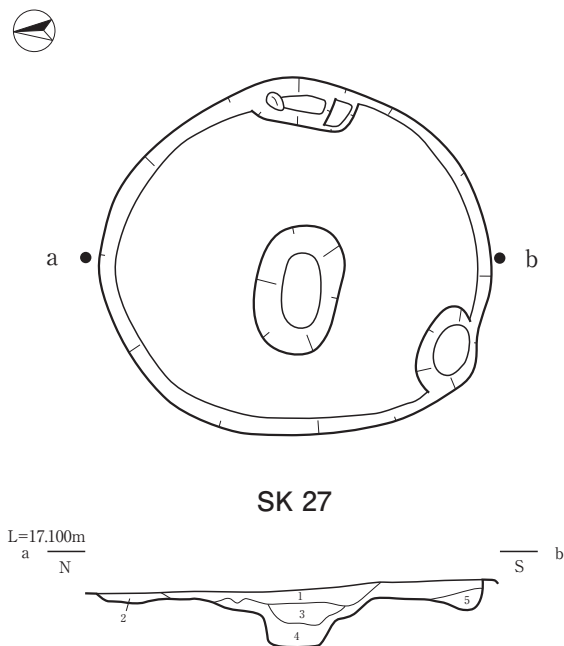
1. 炭粒多混じり、骨片少混じり灰褐色粘質土
2. 黄色粒混じり淡褐色粘質土
3. 黒色土混じり、炭少混じり淡黄色粘質土
4. 黄色粒混じり淡暗灰色粘質土



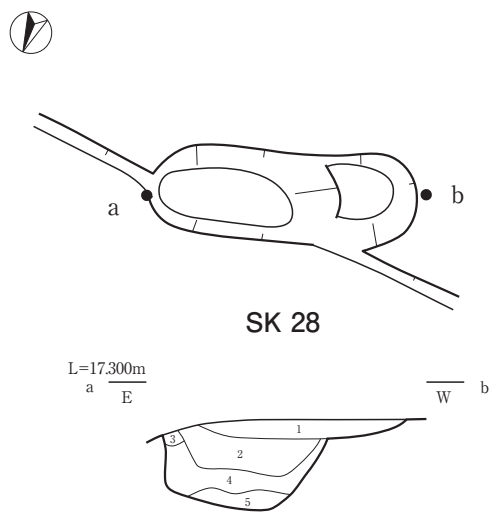
第75図 SK 22、23、24、25 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



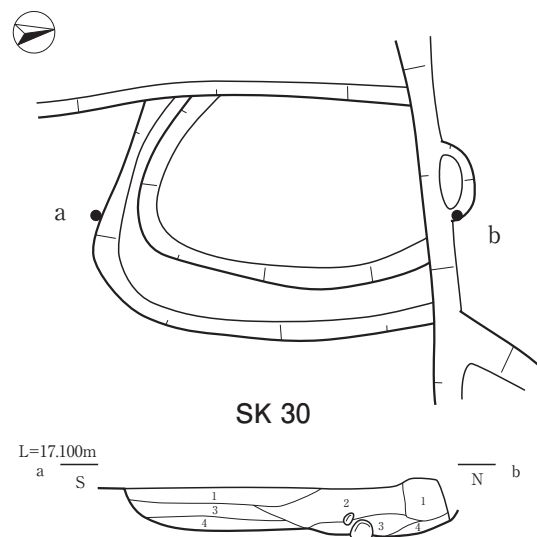
1. 黄色粒多混じり、骨片少混じり灰褐色粘質土
2. 黄色粒多混じり、骨片少混じり褐灰色粘質土
3. 暗灰色土混じり淡黄色粘質土
4. 褐色、黄色土混じり暗灰色粘質土
5. 骨片混じり暗褐色強粘質土
6. 暗灰色土混じり淡黄色粘質土
7. 淡黄色土混じり暗灰褐色粘質土
8. 骨片混じり暗灰色粘土



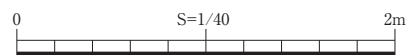
1. 黄色ブロック土混じり灰褐色粘質土
2. 黄色土混じり淡灰色粘質土
3. 黄色粒混じり灰褐色粘質土（やや淡い）
4. 暗灰色、褐色、橙色土混じり淡黄色粘質土
5. 灰色ブロック土混じり黄白色粘質土



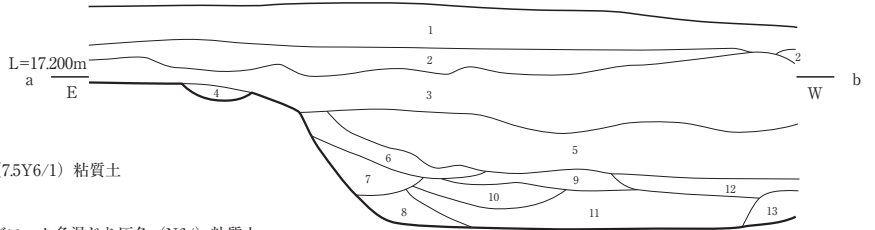
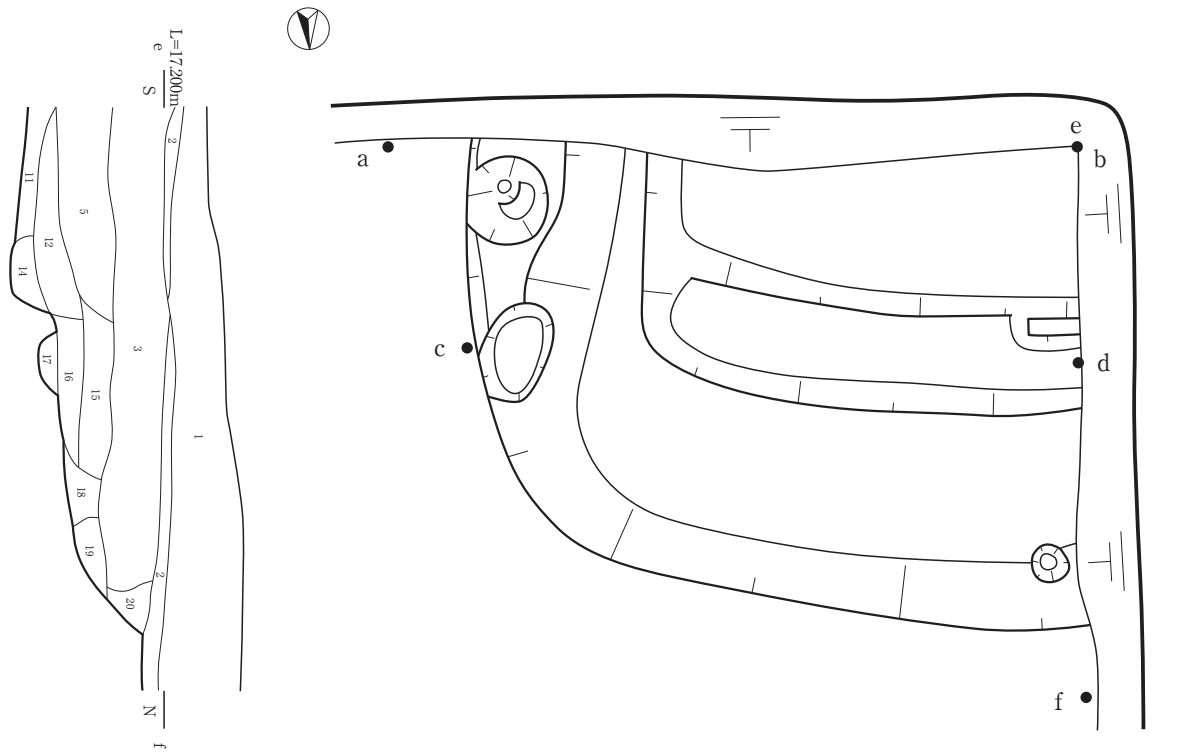
1. 褐灰色 (10YR4/1) 粘質土
2. 褐灰色 (10YR5/1) 粘質土
3. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック土混じり褐灰色 (10YR5/1) 粘質土
4. 黒色 (10YR2/1) ブロック、黄色 (2.5Y8/6) ブロック、
焼土混じり黒褐色 (10YR3/1) 粘質土
5. 黄色 (2.5Y8/6) と黒褐色 (2.5Y3/1) との混土



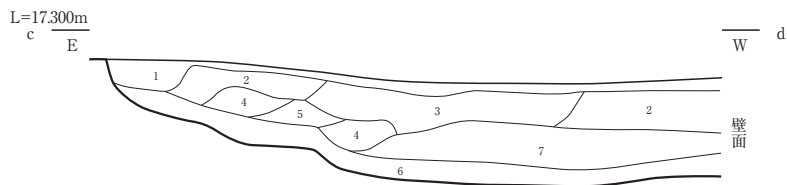
1. 灰白色 (5Y7/1) 微砂混じり灰色 (N5/) 粘質土
2. 灰色 (N5/) 粘質土
3. 炭化物混じり灰色 (N4/) 粘質土
4. 淡黄色 (2.5Y8/4) 混じり灰色 (N6/) 粘質土



第 76 図 SK 26、27、28、30 遺構図・土層断面図 (S=1/40)

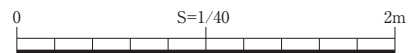


1. 耕土
2. 黒褐色 (10YR3/1) ブロック土混じり灰色 (7.5Y6/1) 粘質土
3. 褐灰色 (10YR4/1) 粘質土
4. 灰黄褐色 (10YR5/2) 粘質土
5. 灰色 (N4/) ブロック、淡黄色 (2.5Y8/4) ブロック多混じり灰色 (N6/) 粘質土
6. 暗灰色 (N3/) ブロック、黄橙色 (10YR8/8) ブロック混じり灰色 (N5/) 粘質土
7. 淡黄色 (2.5Y8/4)、黄橙色 (10YR8/8) 混じり灰色 (N6/) 粘質土
8. 淡黄色 (2.5Y8/4)、黄橙色 (10YR8/8) ブロック (大) 混じり灰色 (N6/) 粘質土
9. 淡黄色 (2.5Y8/4)、黄橙色 (10YR8/8) 混じり、灰色 (N5/) ブロック土混じり灰色 (N6/) 粘質土
10. 灰色 (N6/) 混じり、灰色 (N4/) ブロック土混じり淡黄色 (2.5Y8/4) 粘質土
11. 灰色 (N4/) 混じり、淡黄色 (2.5Y8/6) ブロック土混じり淡灰色 (N6/) 粘質土
12. 淡黄色 (2.5Y8/6) ブロック土混じり灰色 (N5/) 粘質土
13. 灰色 (N4/) 粘質土
14. 淡黄色 (2.5Y8/4) ブロック、灰色 (N4/) ブロック混じり灰色 (N6/) 粘質土
15. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック土混じり褐灰色 (10YR5/1) 粘質土
16. 灰色 (N5/) 粘質土
17. 淡灰色 (N6/) 粘質土
18. 黄色 (2.5Y8/6) 混じり灰色 (N6/) 粘質土
19. 淡黄色 (2.5Y8/4) ブロック土混じり灰色 (N6/) 粘質土
20. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック土混じり褐灰色 (N4/) 粘質土

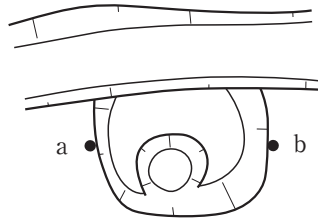


1. 灰色 (N6/) 粘質土
2. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック土混じり灰色 (N6/) 粘質土
3. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック土多混じり灰色 (N6/) 粘質土
4. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック土混じり淡灰色 (N6/) 粘質土
5. 淡灰色 (N6/) 混じり黄色 (2.5Y8/6) 粘質土
6. 淡灰色 (N6/) 粘質土
7. 灰色 (N4/) 混じり、淡黄色 (2.5Y8/4) ブロック土混じり灰色 (N6/) 粘質土

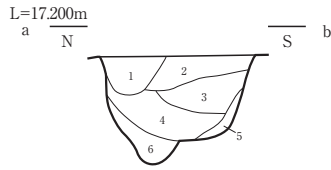
SK 31



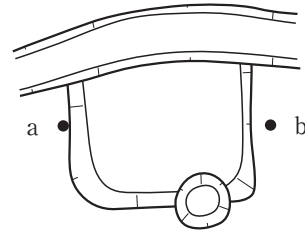
第 77 図 SK 31 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



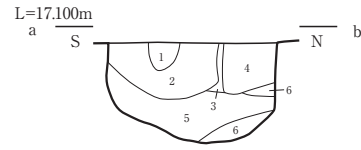
SK 32



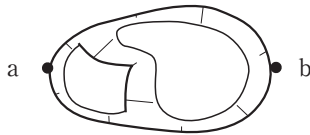
1. 炭化物混じり褐色 (10YR4/1) 粘質土
2. 明黄褐色 (10YR7/6) ブロック土混じり、黒褐色 (10YR3/1) 粒混じり褐色 (10YR5/1) 粘質土
3. 明黄褐色 (10YR7/6) ブロック (大) 混じり、黒褐色 (10YR3/1) 粒混じり褐色 (10YR5/1) 粘質土
4. 黄色 (2.5Y/6) ブロック混じり、黒褐色 (10YR3/1) ブロック混じり褐色 (10YR4/1) 粘質土
5. 淡褐色 (10YR5/1) 粘質土
6. 黄色 (2.5YR8/6) ブロック混じり、黒褐色 (10YR3/1) ブロック混じり淡褐色 (10YR5/1) 粘質土



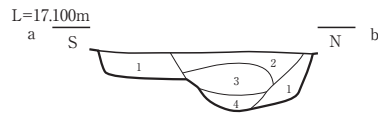
SK 33



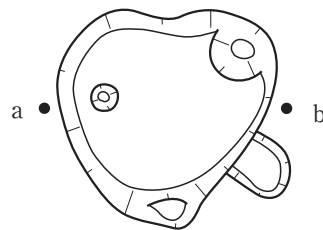
1. 灰色 (N5/) 粘質土
2. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック、灰色 (N4/) ブロック混じり灰色 (N5/) 粘質土
3. 黄色 (2.5Y8/6) 混じり褐色 (10YR5/1) 粘質土
4. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック多混じり灰色 (N4/) 粘質土
5. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック (大) 多混じり灰色 (N4/) 粘質土
6. 褐色 (10YR4/1) 混じり黄色 (2.5Y8/6) 粘質土



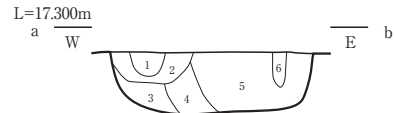
SK 34



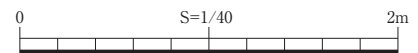
1. 淡褐色 (10YR5/1) 粘質土
2. 褐色 (10YR4/1) 粘質土
3. 黒褐色 (10YR3/1) 粘質土
4. 褐色 (10YR5/1) 粘質土 (粘質強い)



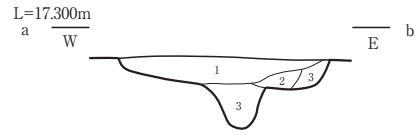
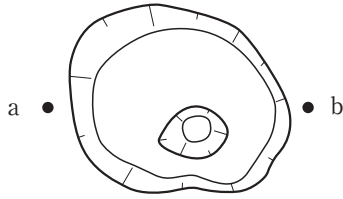
SK 35



1. 炭化物混じり褐色 (10YR4/1) 粘質土
2. 淡黄色 (2.5Y8/4) ブロック土混じり褐色 (10YR4/1) 粘質土
3. 黄色 (2.5Y8/6) 混じり褐色 (10YR4/1) 粘質土
4. 褐色 (10YR4/1)、黄色 (2.5Y8/6) 多混じり褐色 (10YR5/1) 粘質土
5. 褐色 (10YR4/1) ブロック (中~大)、黄色 (2.5Y8/6) ブロック (小~中) 多混じり褐色 (10YR5/1) 粘質土
6. 黄灰色 (2.5Y5/1) 粘質土

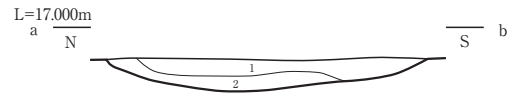
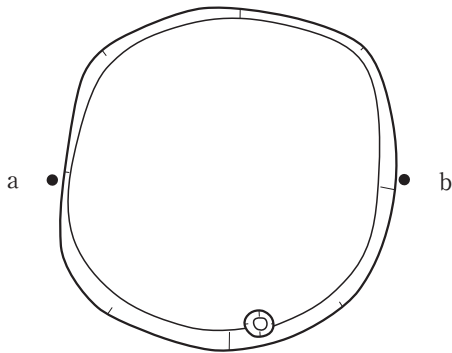


第 78 図 SK 32、33、34、35 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



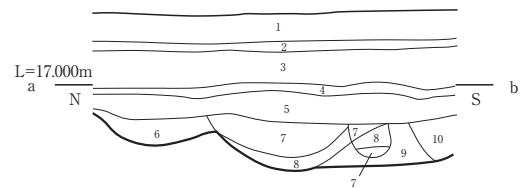
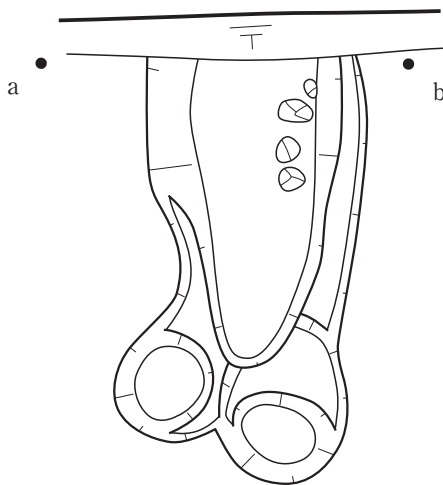
1. 褐灰色 (10YR4/1) 粘質土
2. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック少混じり褐灰色 (10YR4/1) 粘質土
3. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック多混じり褐灰色 (10YR4/1) 粘質土

SK 36



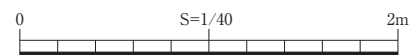
1. 暗褐色 (10YR3/4) 混じり、淡黄色 (2.5Y8/4) ブロック混じり
褐灰色 (10YR5/1) 粘質土
2. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック土混じり灰色 (N5/) 粘質土

SK 39

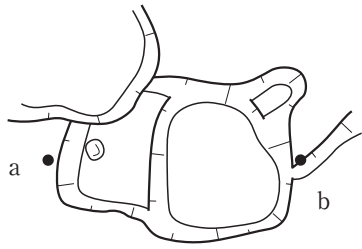


1. 耕土
2. 床土
3. 旧耕土
4. 旧床土
5. 褐色 (10YR4/4) 混じり褐灰色 (10YR5/1) 粘質土
6. 黄橙色 (10YR8/8) ブロック混じり褐灰色 (10YR4/1) 粘質土
7. 褐灰色 (10YR6/1) 粘質土
8. 灰白色 (10YR7/1) 粘質土
9. 灰黄色 (2.5Y7/3) 粘質土
10. 黄橙色 (10YR8/8) 混じり灰色 (N6/) 粘質土

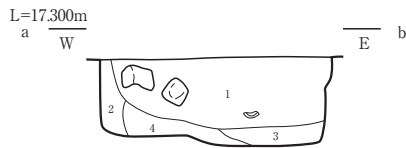
SK 40



第 79 図 SK 36、39、40 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



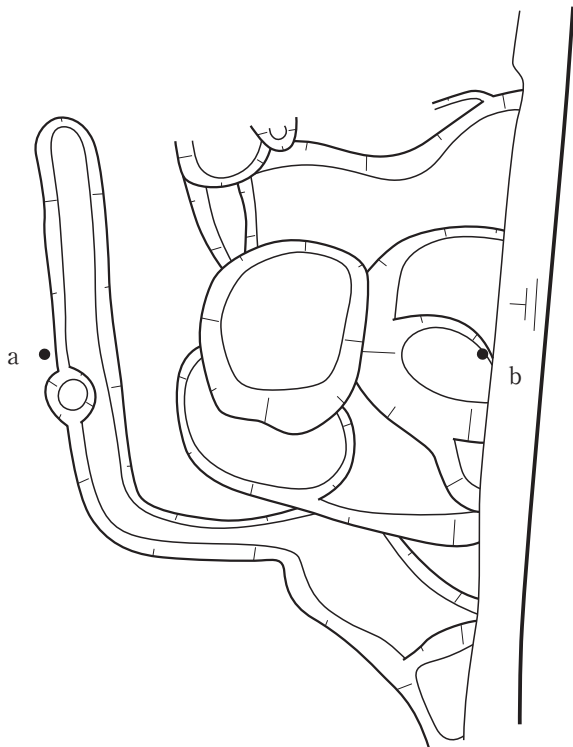
SK 37



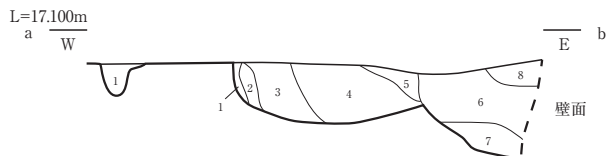
1. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック (大) 少混じり褐色 (10YR5/1) 粘質土
2. 灰黄褐色 (10YR6/2) 混じり褐色 (10YR4/1) 粘質土
3. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック (小) 混じり褐色 (10YR6/1) 粘質土
4. 灰黄褐色 (10YR6/2) 粘質土



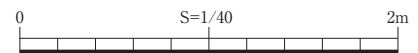
SK 38



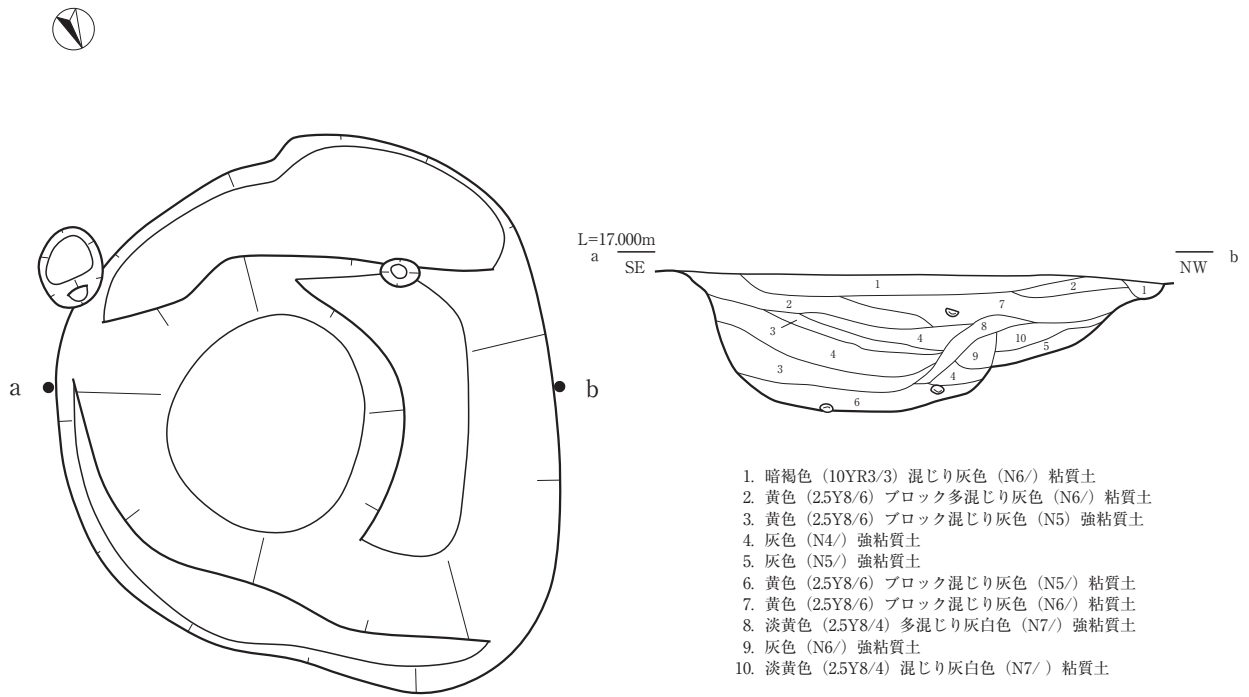
SK 44



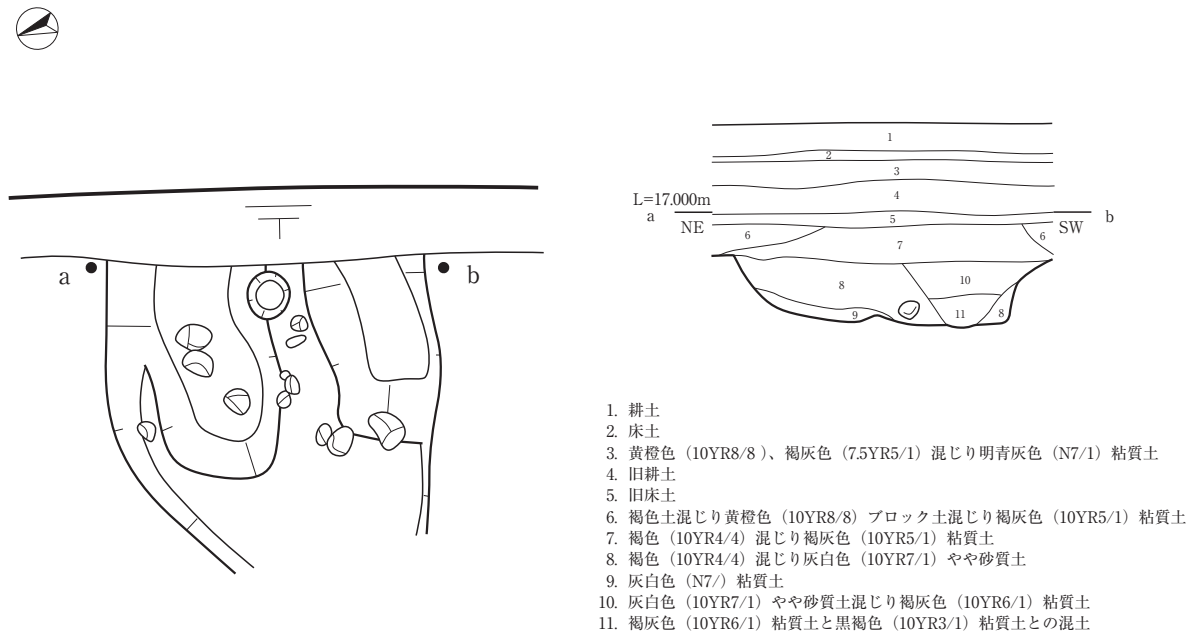
1. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり褐色 (10YR5/1) 粘質土
2. 褐色 (10YR5/1) 混じり黄色 (2.5Y8/6) 粘質土
3. 褐色 (10YR4/1) 粘質土
4. 褐色 (10YR5/1) 粘質土
5. 褐色 (10YR5/1) 混じり褐色 (10YR6/1) 粘質土
6. 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘質土
7. 黒褐色 (10YR3/1) 粘質土
8. 灰黄褐色 (10YR4/2) 混じり褐色 (10YR6/1) 粘質土



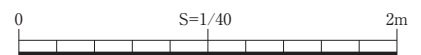
第 80 図 SK 37、38、44 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



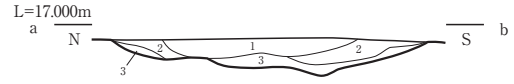
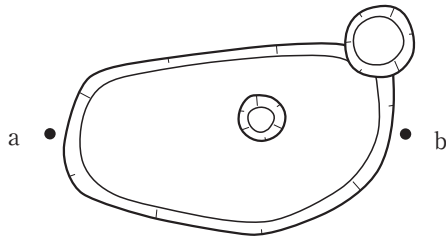
SK 41



SK 42

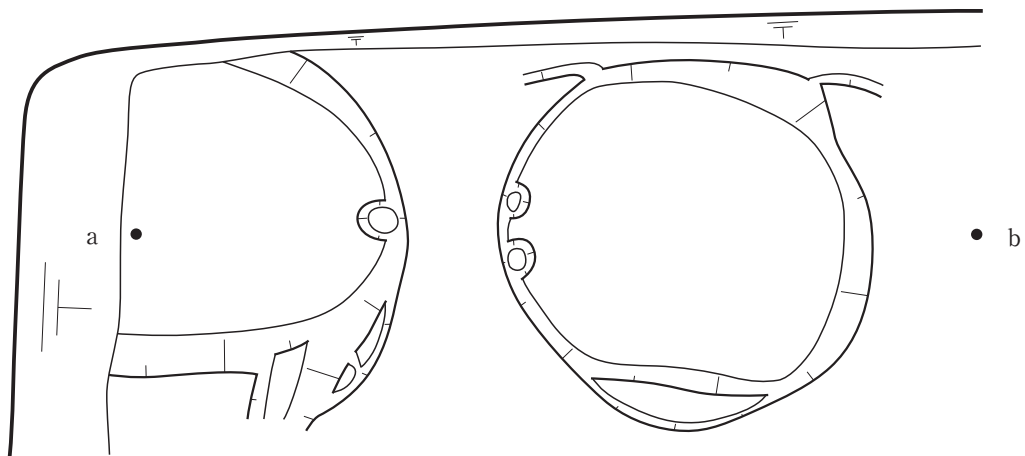


第 81 図 SK 41、42 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



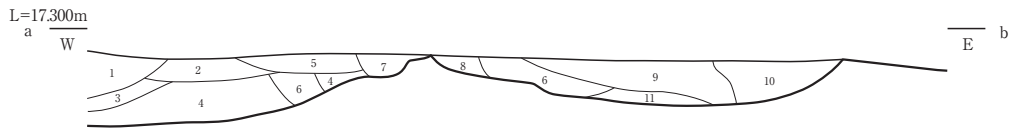
1. 褐灰色 (10YR4/1) 粘質土
2. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり褐灰色 (10YR4/1) 粘質土
3. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり褐灰色 (10YR6/1) 粘質土

SK 43



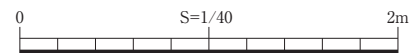
SK 45

SK 46

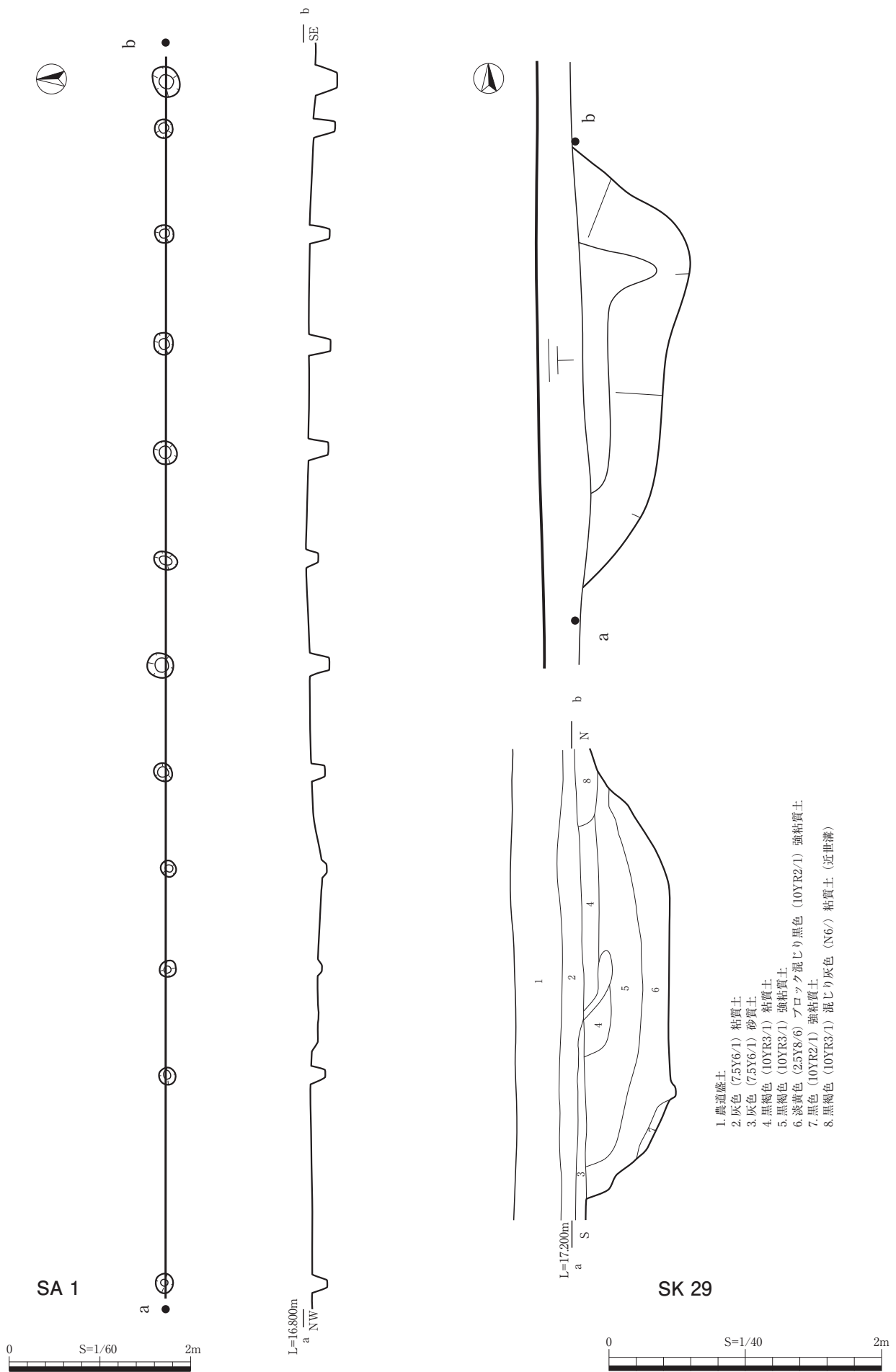


1. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック多混じり褐灰色 (10YR6/1) 粘質土
2. 淡黄色 (2.5Y8/4) ブロック、褐色 (10YR4/4) ブロック混じり褐灰色 (10YR6/1) 粘質土
3. 淡黄色 (2.5Y8/4) ブロック多混じり褐灰色 (10YR6/1) 粘質土
4. 淡黄色 (2.5Y8/4) ブロック、褐色 (10YR4/4) 混じり褐灰色 (10YR5/1) 粘質土
5. 褐灰色 (10YR6/1) と褐色 (10YR4/4) との混土

6. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック混じり褐灰色 (10YR6/1) 粘質土
7. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック多混じり灰色 (N6/) 粘質土
8. 褐灰色 (10YR4/1) 粘質土
9. 黄色 (2.5Y8/6) ブロック微混じり褐灰色 (10YR5/1) 粘質土
10. 褐灰色 (10YR5/1) 粘質土
11. 褐灰色 (10YR5/1) 混じり黄色 (2.5Y8/6) 粘質土



第 82 図 SK 43、45、46 遺構図・土層断面図 (S=1/40)



第 83 図 SA 1 (S=1/60)、SK 29 (S=1/40) 遺構図・土層断面図

第5節 遺物

遺物は弥生時代から近世にかけての土器・陶磁器、土製品、石製品、鉄製品が出土した。実測図は第84図～第114図までを掲載している。以下は、掲載した遺物の中で特徴的なものについて記載している。大きさや調整など遺物の詳状況については、観察表を参照していただきたい。

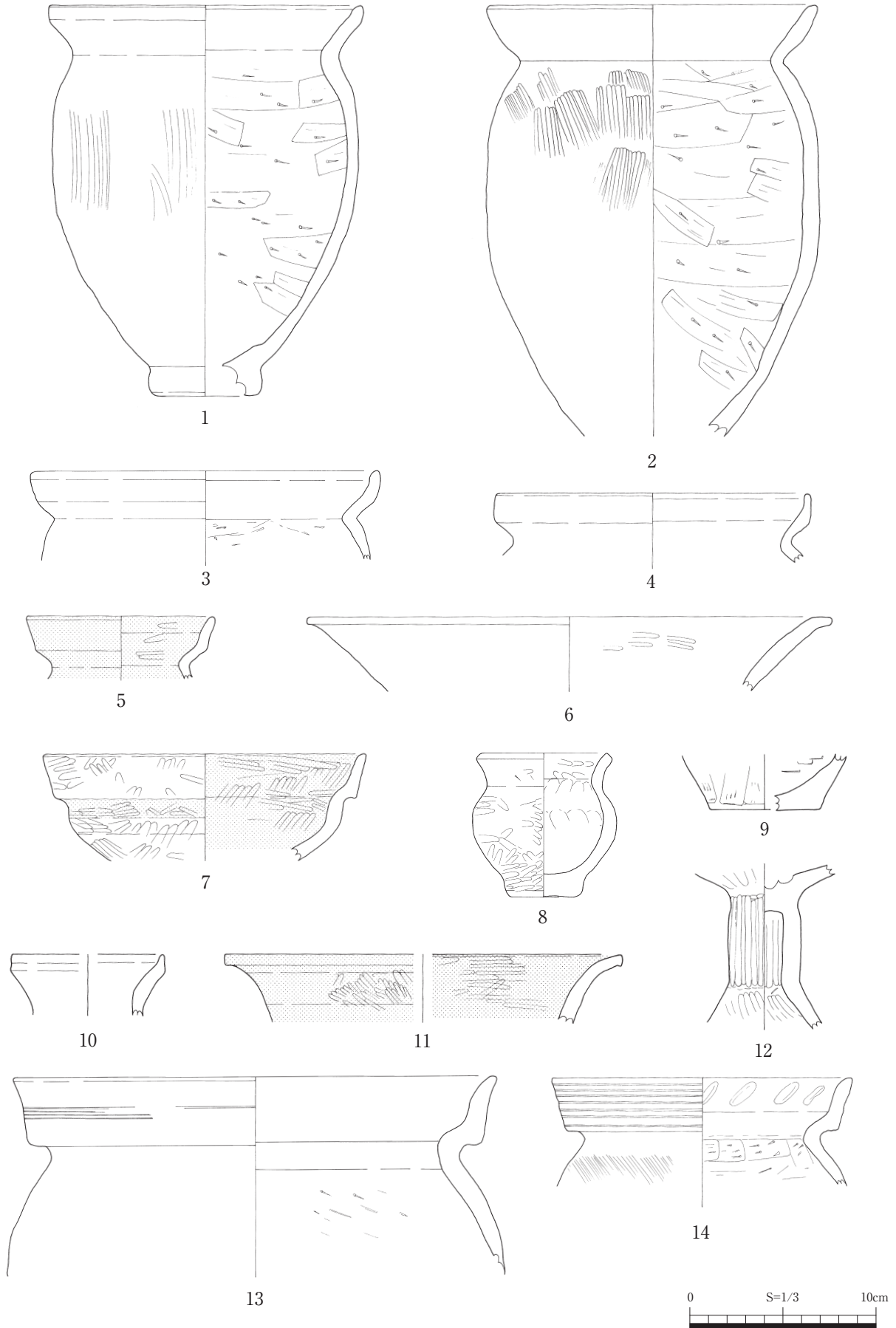
1～57は弥生時代後期後半の土器である。1と2は、くの字型甕で、外面体部上半には煤が付着し、体部下半は被熱が著しい。7は鉢型土器で、こちらも外面に煤が付着している。8の小型壺は口縁部が一部欠損するだけで、ほぼ完形品である。祭祀用土器と思われる。

58～237は古代土器である。58～190は須恵器、191～237は土師器である。73は有台坏で、外底部には墨書が見られるが、文字の解読はできない。61・63・74も有台坏の底部で、体部を人為的に打ち欠いた可能性がある。99は無台坏で、口縁部から体部にかけて、灯心油痕が付着している。163と168の盤の外底部には一文字の墨書が書かれているが、解読はできない。166の盤の外底部には格子状の文様が見られる。成形時に付いたものと思われる。

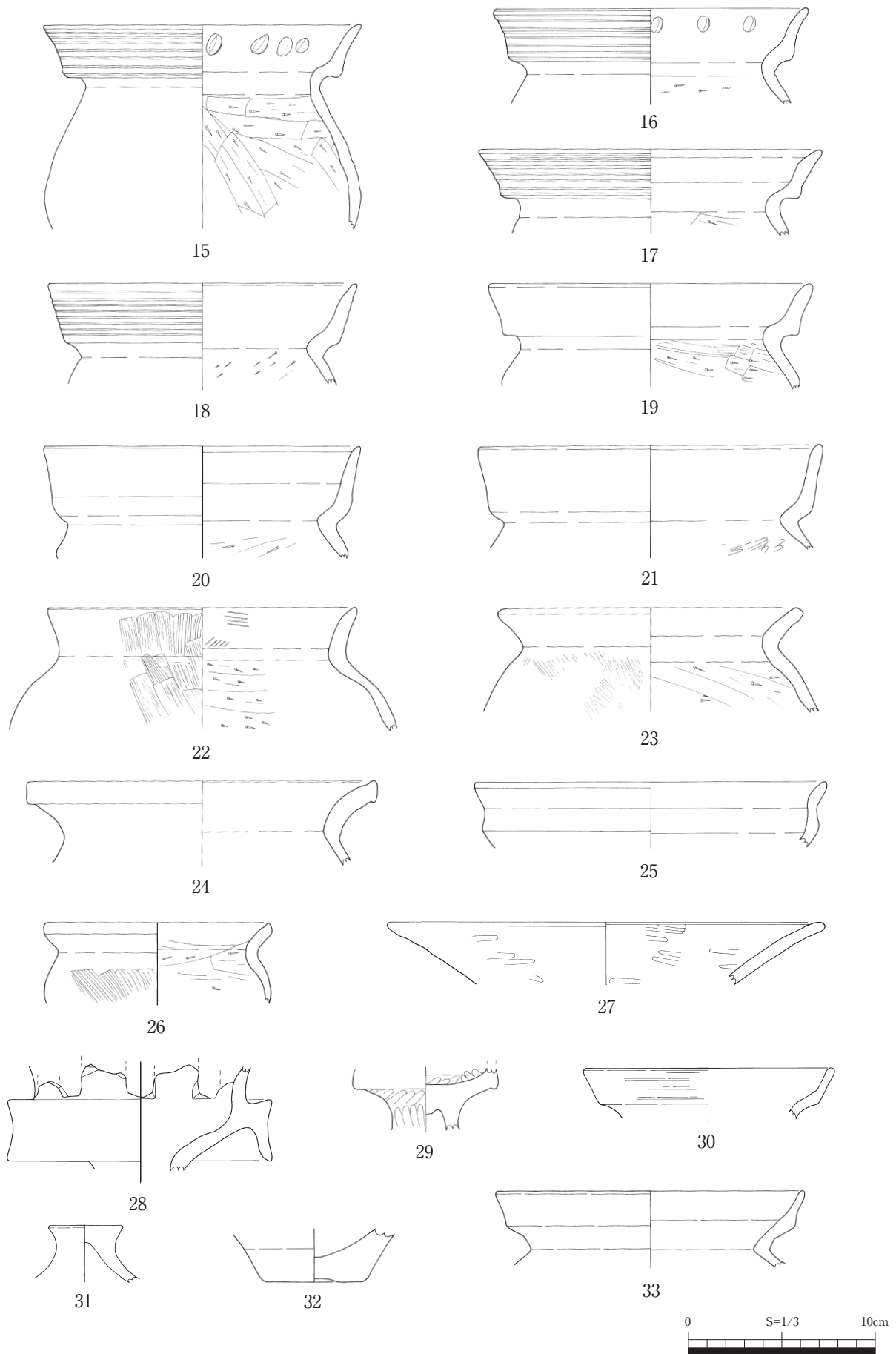
238～300は中世土師器皿、301～314は白磁・青磁の中世輸入磁器、315～365は瀬戸焼・越前焼・加賀焼・珠洲焼の中世国産陶器、366は中世瓦質土器、368～375は近世陶磁器である。319は、大窯期と思われる瀬戸焼天目茶碗である。口縁部の一部を欠損するだけで、ほぼ完形品である。327は体部に数条の沈線を施す瀬戸焼灰釉瓶子である。市内では初の出土である。332と333は加賀焼甕の肩部で、332は斜格子、333はより複雑な格子の押印が認められる。350は第V期の珠洲焼すり鉢で、口縁端部には櫛目波状文帯を施す。完形品に近いが、底部は人為的に欠失させている。

383～431は石製品である。399は宝塔相輪で、本調査区における石塔はこれ1点のみであった。若干ずれがあり粗雑な造りとなっている。404～423は自然石であるが一部に煤が付着しており、何らかの理由で火を受けていたようである。北加賀地区の中世集落遺跡で多く確認できる。

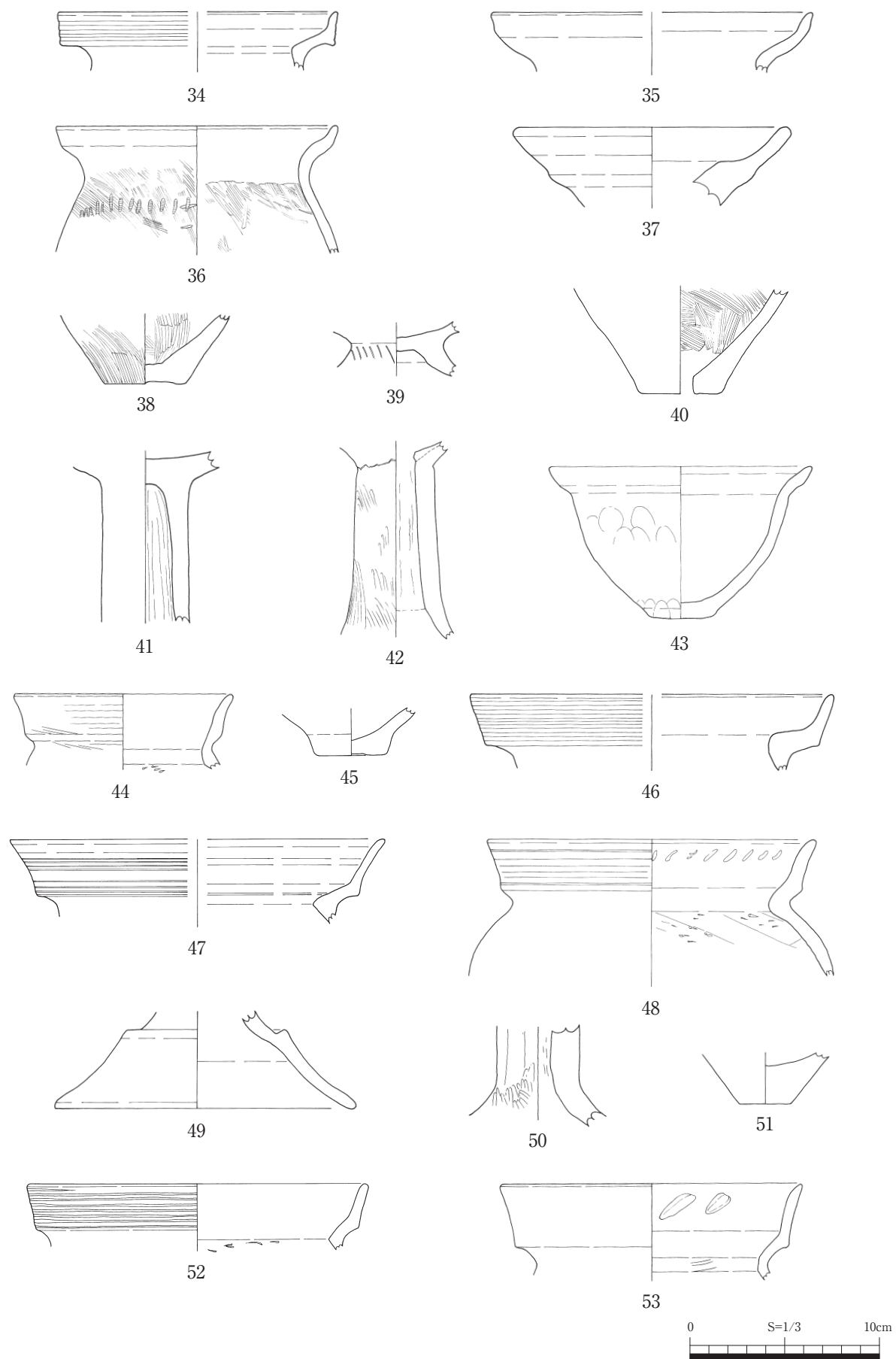
432～454は銭貨を含む鉄・銅製品である。447の鉄製刀子は先端部にあたる。449は鉄製皿で、柄を取り付けるための突起がある。450は銅製錫杖頭である。県内では4例目。市内では富樫館跡より続いて2例目である。輪は一部欠損しているが、円形に近い宝珠形をしたと思われる。輪の左右4ヶ所の節に葉芽を表現し、輪の下部は、下から中に巻き込む形状をし、左右上に宝瓶を飾る。輪中央花先の上は欠損しているが、1層分の層塔を見ることができる。穂袋（柄部）の下端は簡略化した蓮華座が認められ、中央に2条の紐帯を巡らす。遊環は失っていた。全体的には簡素な造りで、前述した富樫館跡出土の錫杖と同じタイプである。



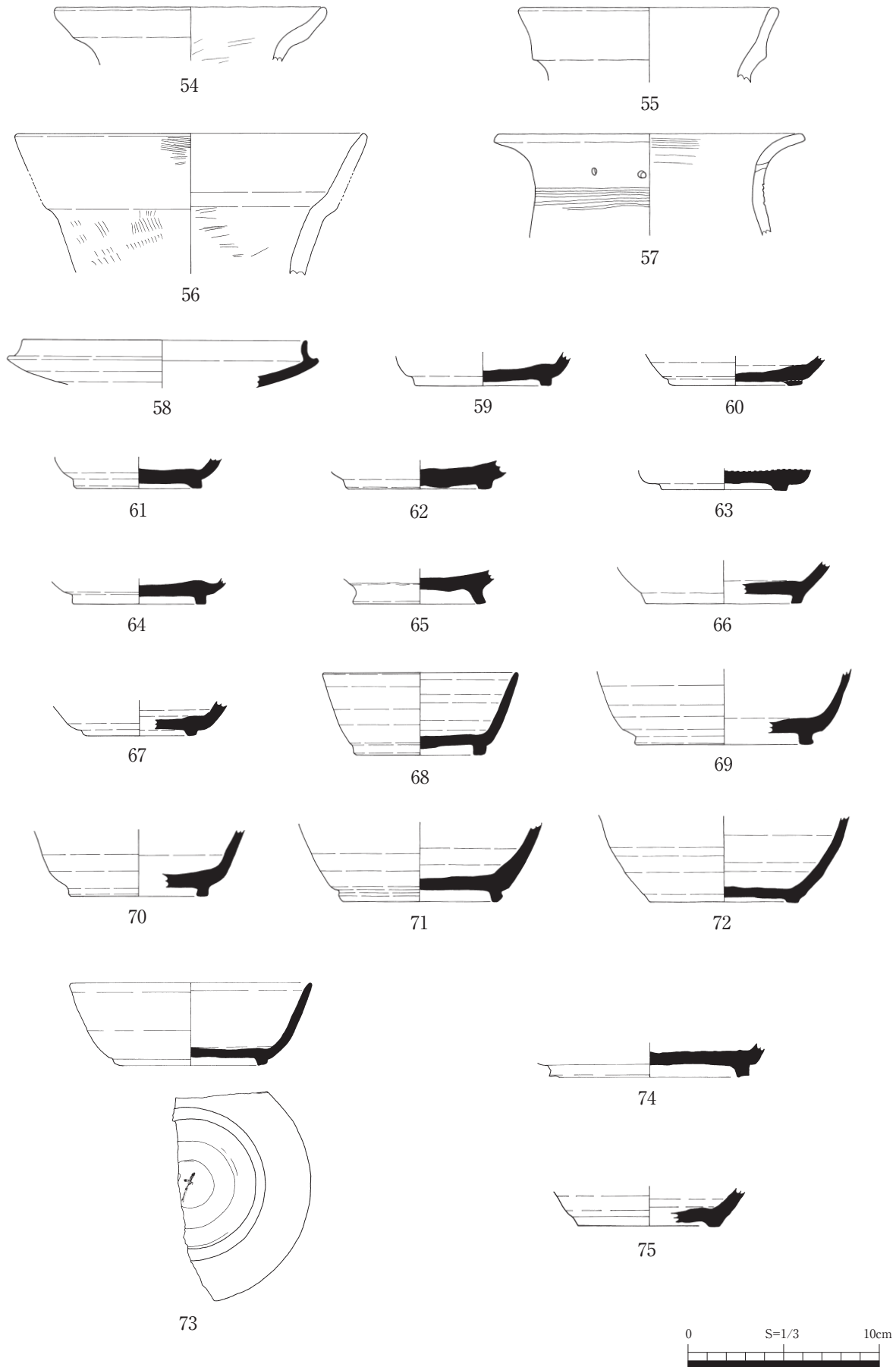
第 84 図 遺物実測図 1 (S=1/3)



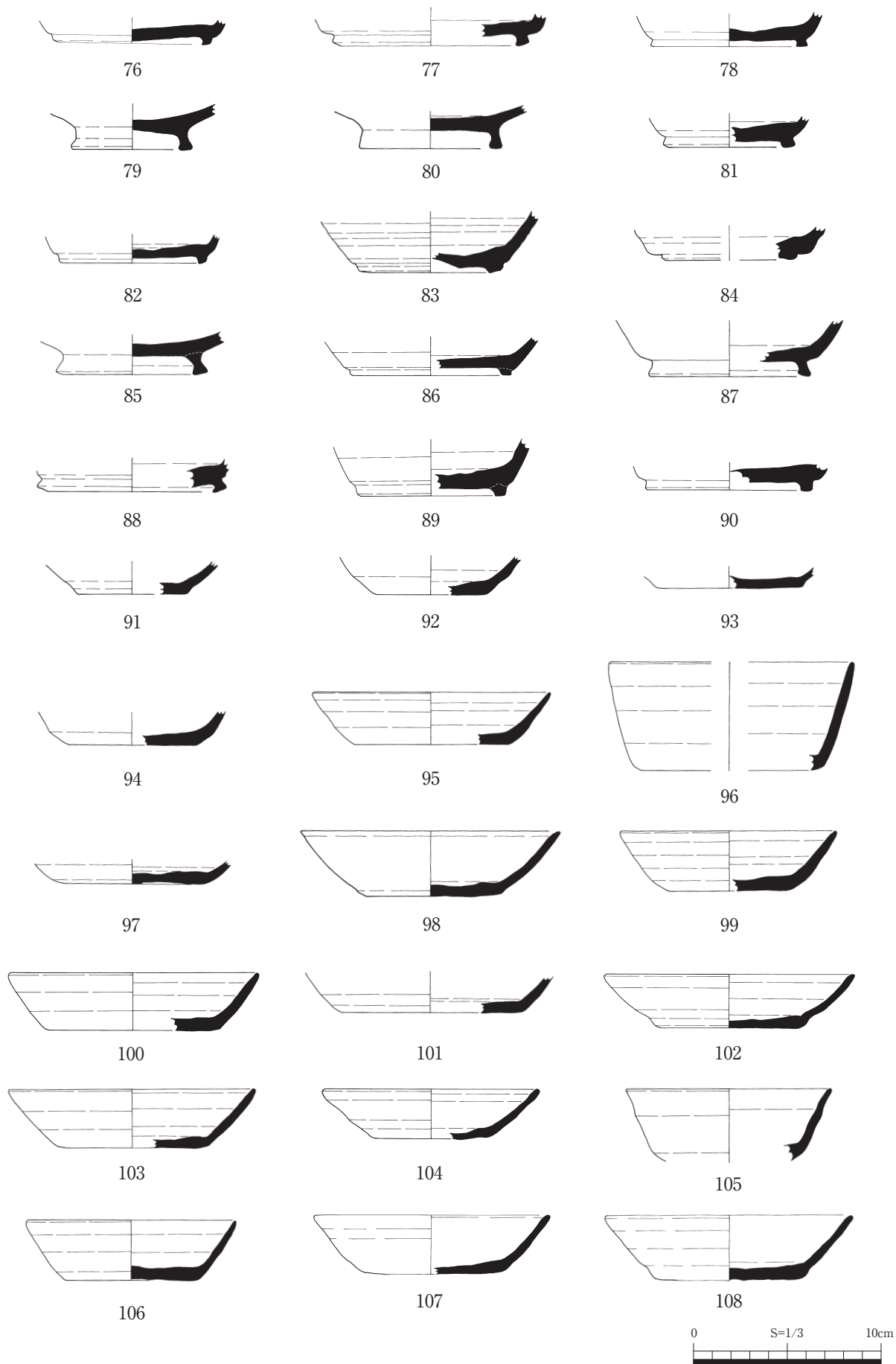
第 85 図 遺物実測図 2 (S=1/3)



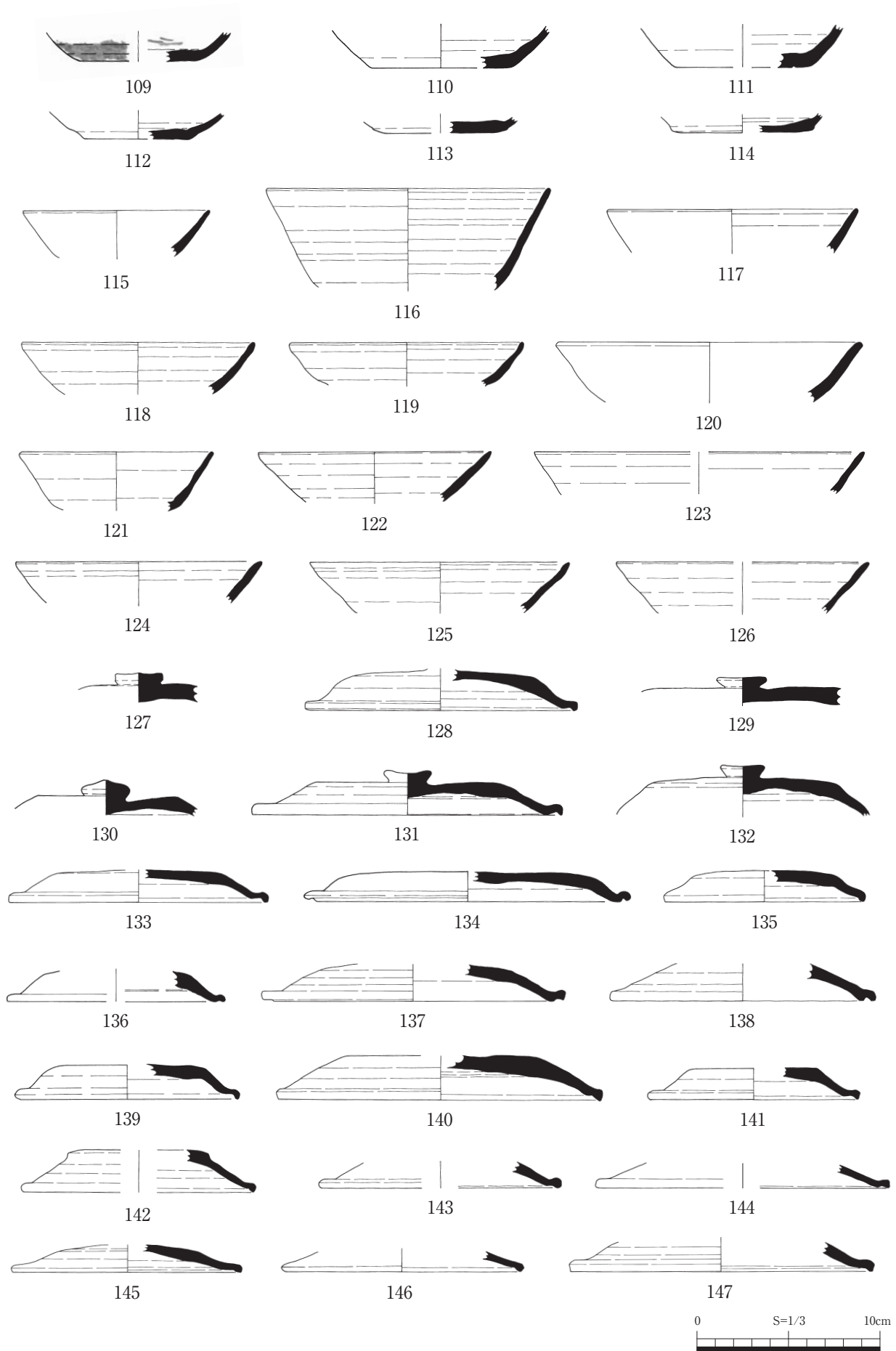
第 86 図 遺物実測図 3 (S=1/3)



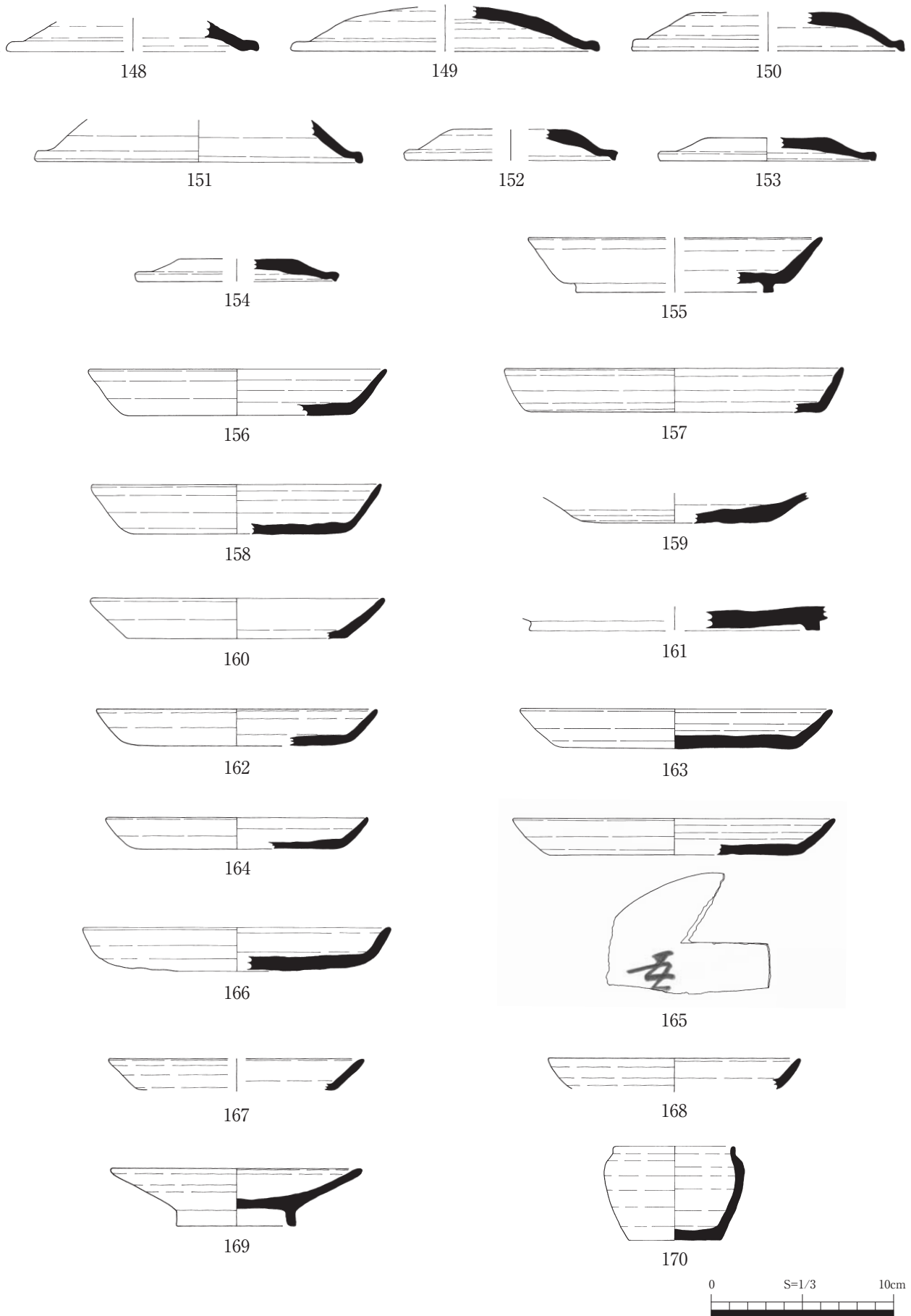
第 87 図 遺物実測図 4 (S=1/3)



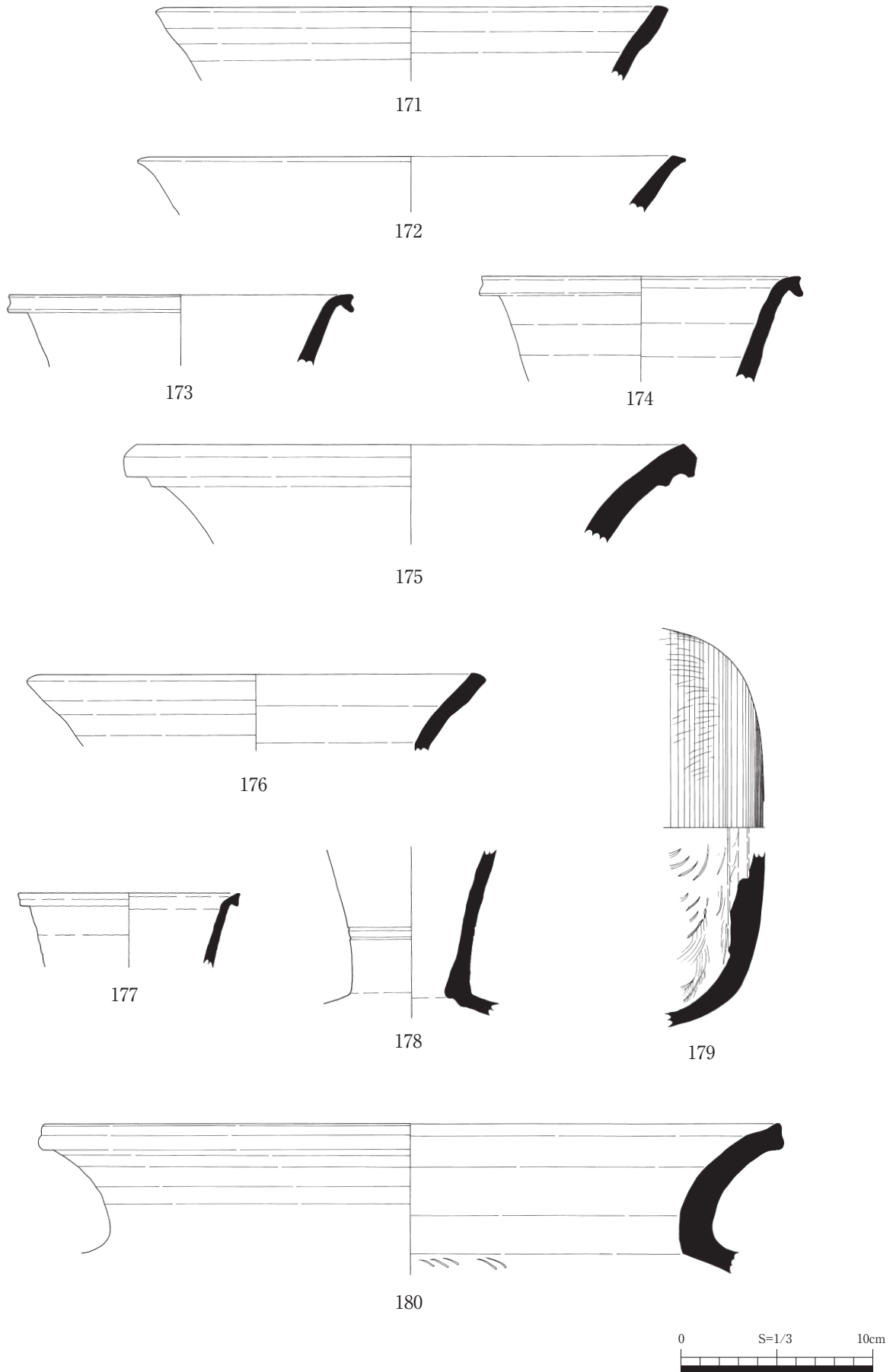
第 88 図 遺物実測図 5 (S=1/3)



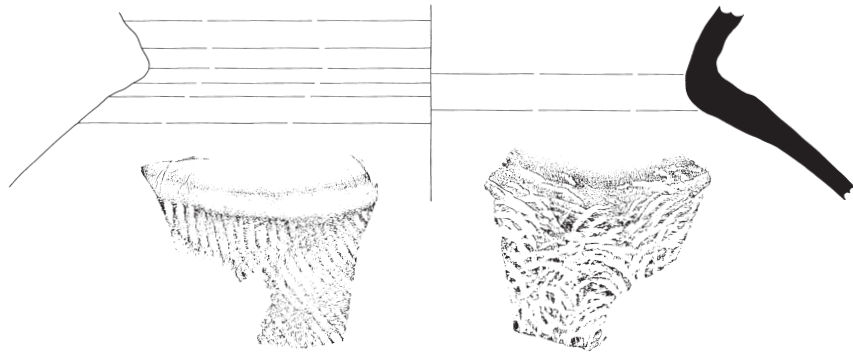
第 89 图 遺物実測図 6 (S=1/3)



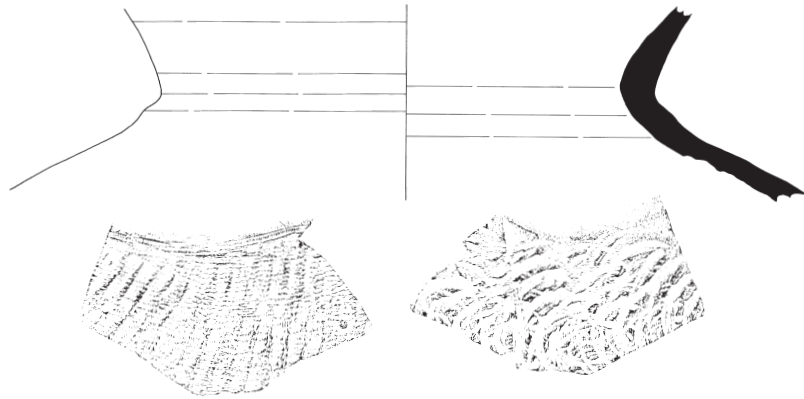
第 90 図 遺物実測図 7 (S=1/3)



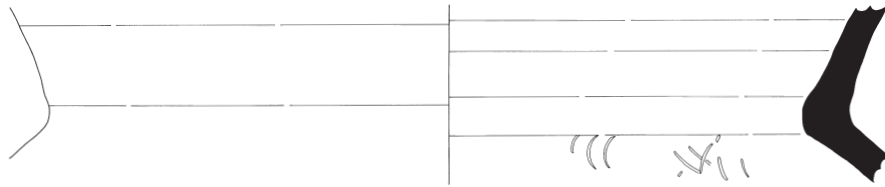
第 91 図 遺物実測図 8 (S=1/3)



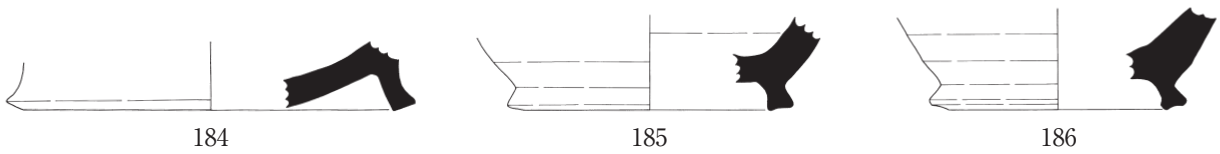
181



182



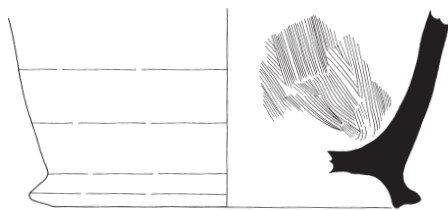
183



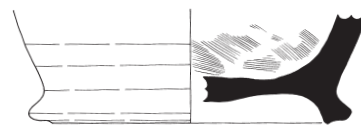
184

185

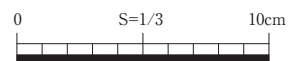
186



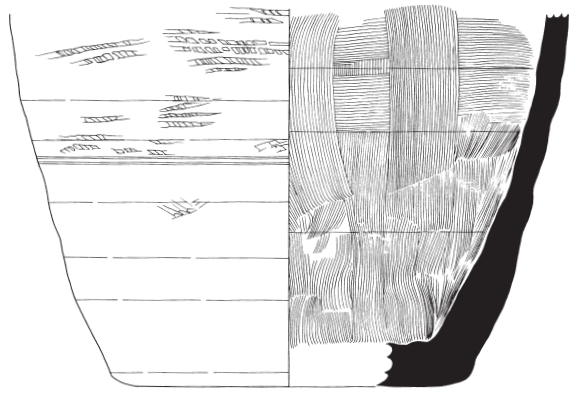
187



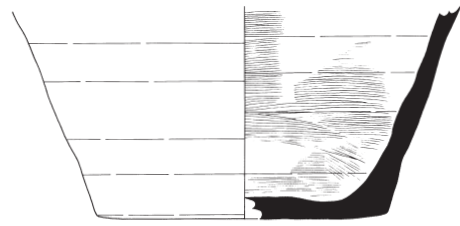
188



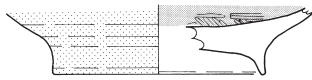
第 92 図 遺物実測図 9 (S=1/3)



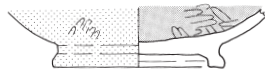
189



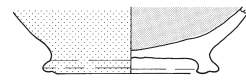
190



191



192



193



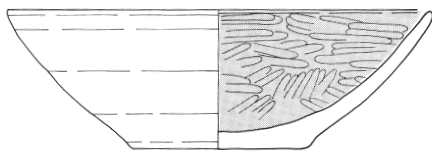
194



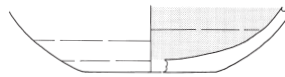
195



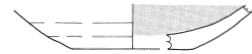
196



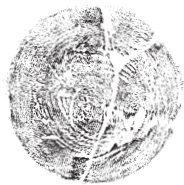
197



198



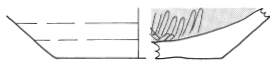
199



200



201



202



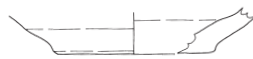
203



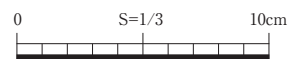
204



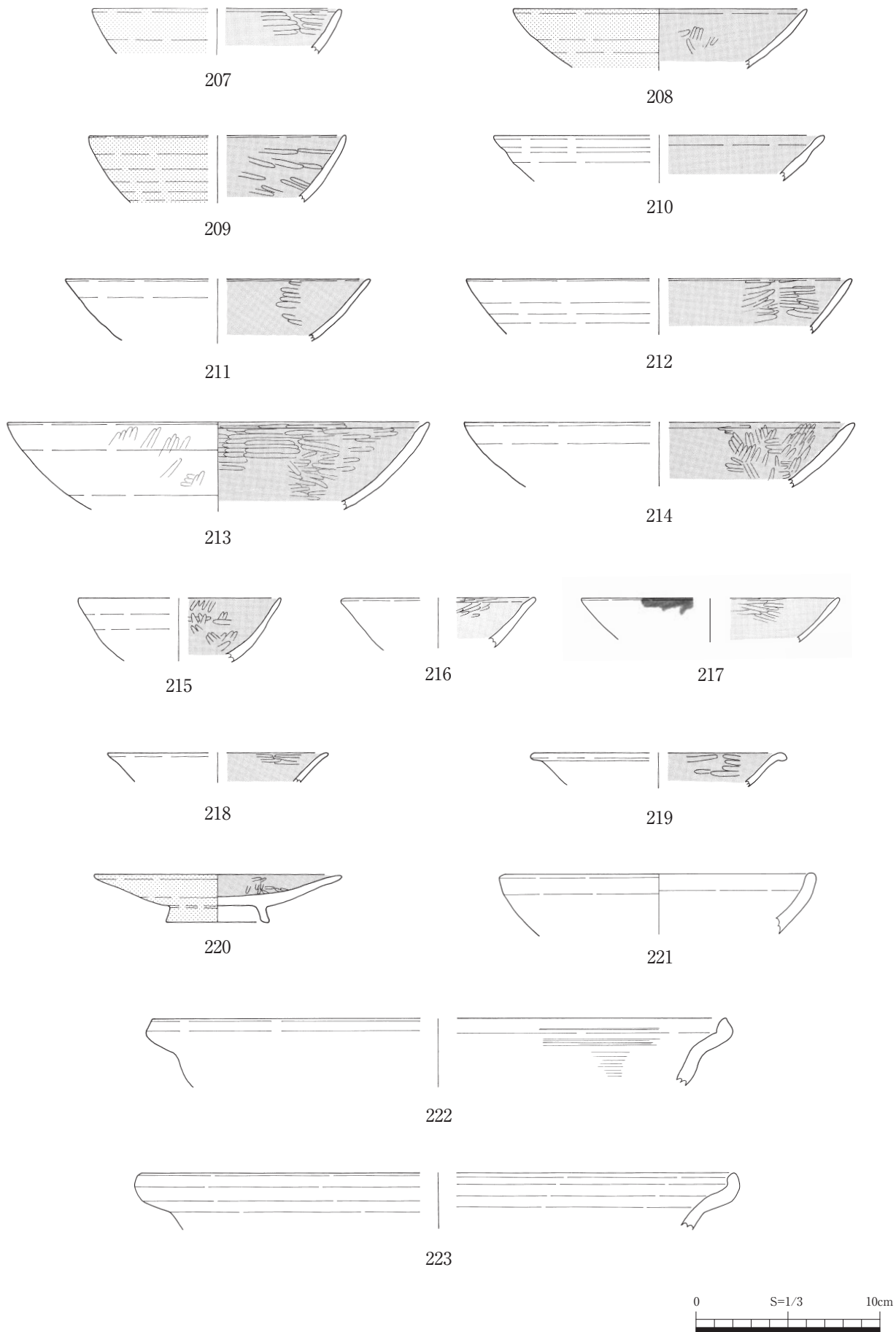
205



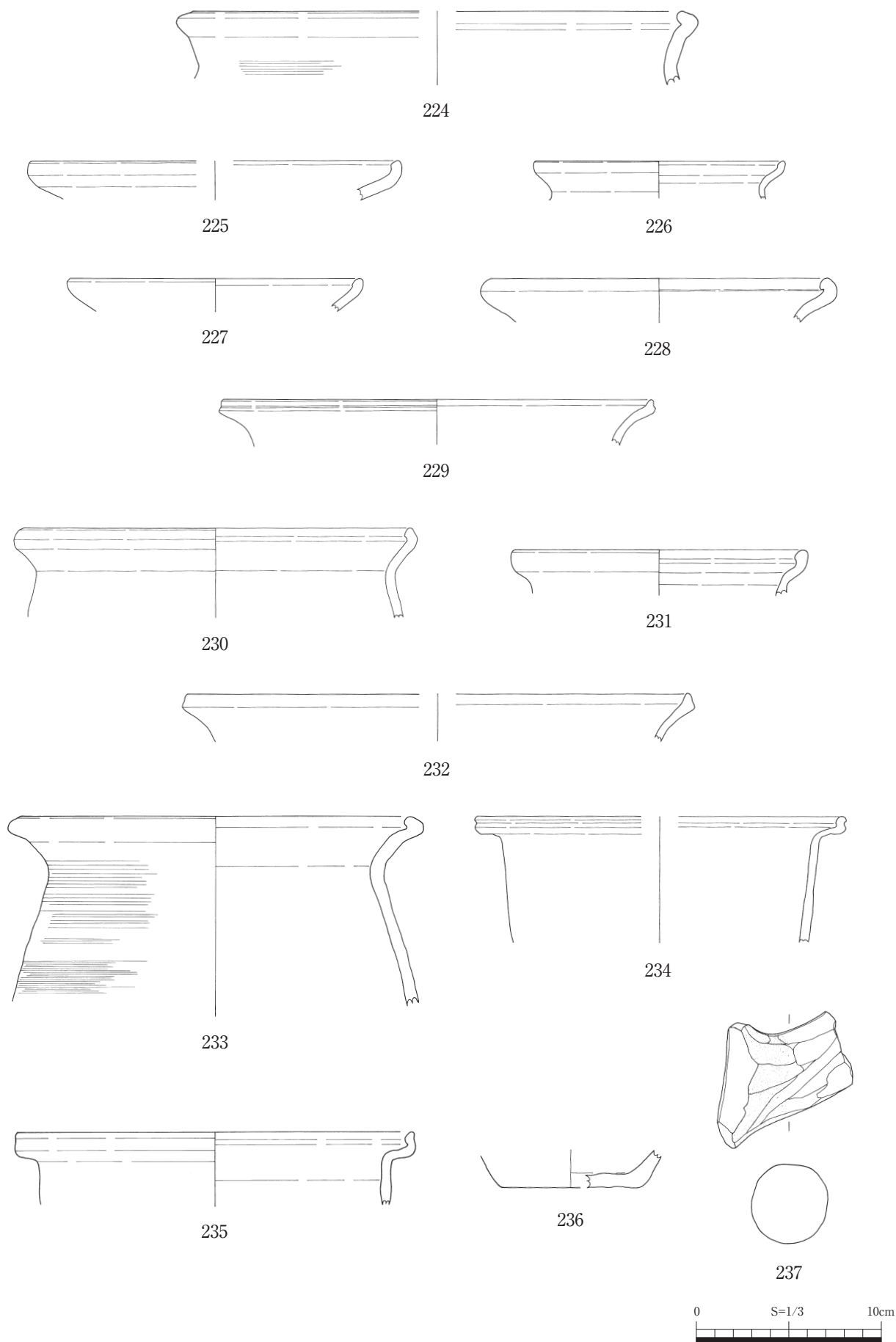
206



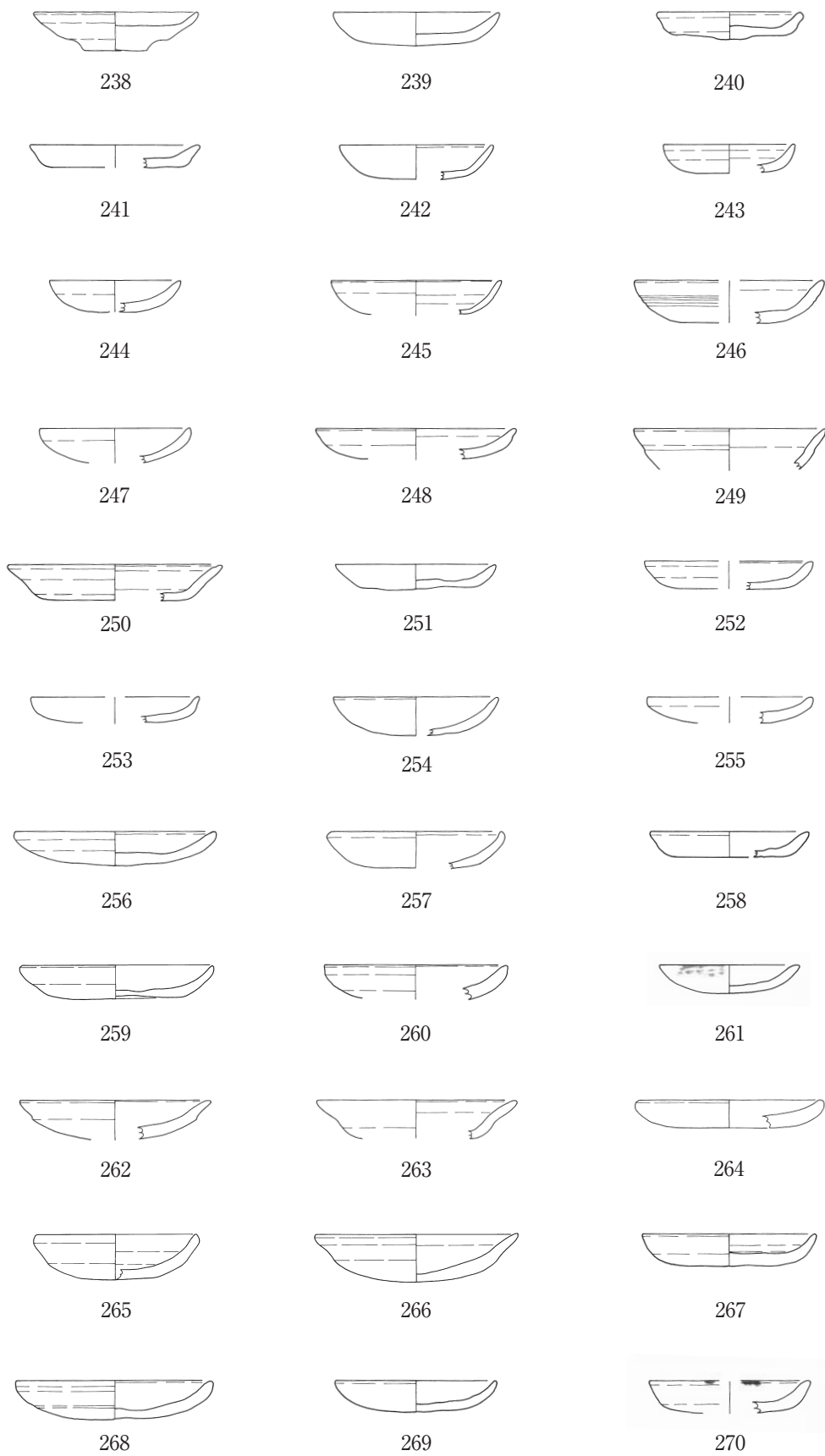
第93図 遺物実測図10 (S=1/3)



第94図 遺物実測図11 (S=1/3)

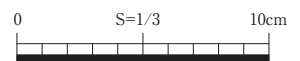
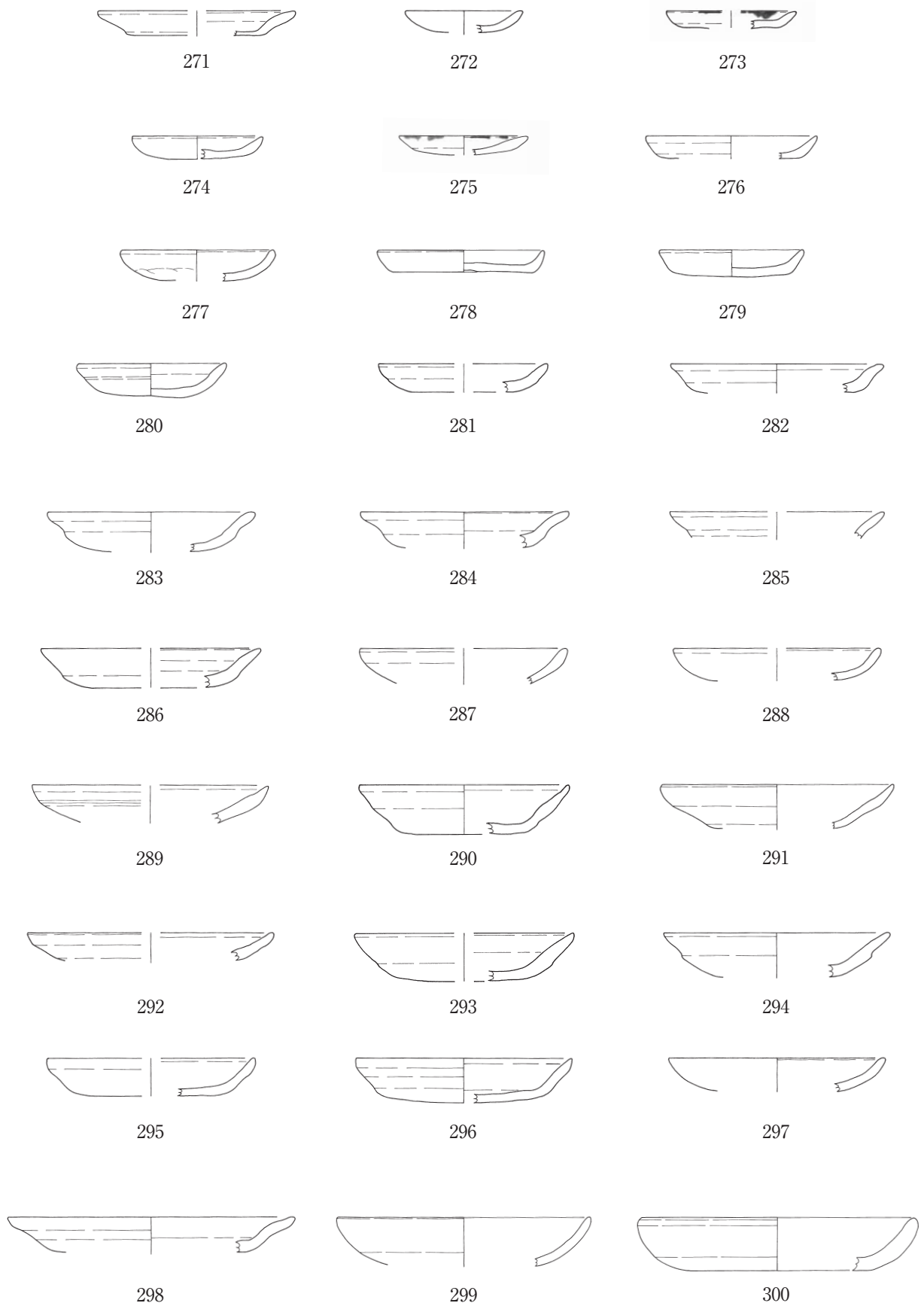


第95图 遺物実測図12 (S=1/3)

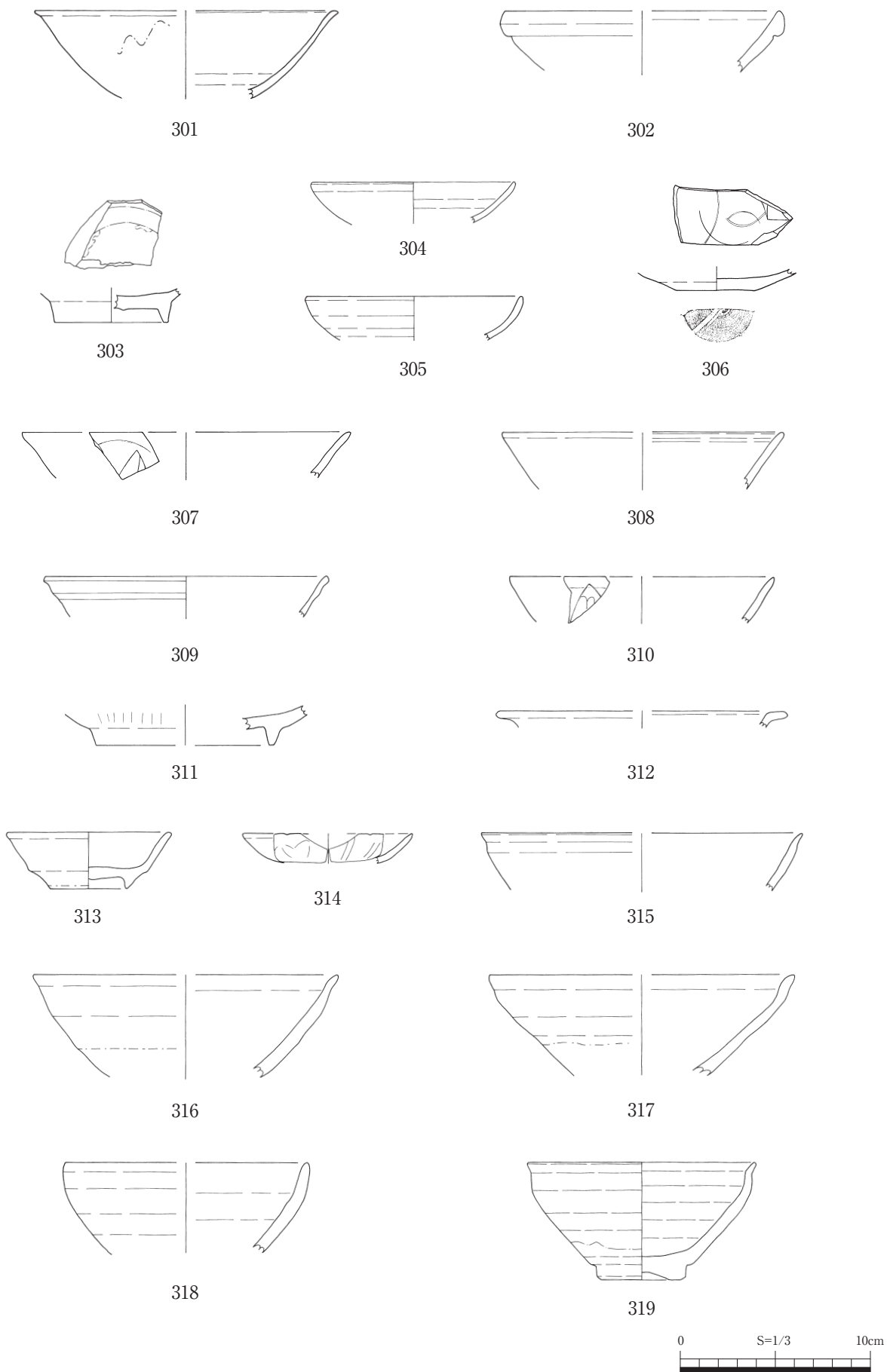


0 S=1/3 10cm

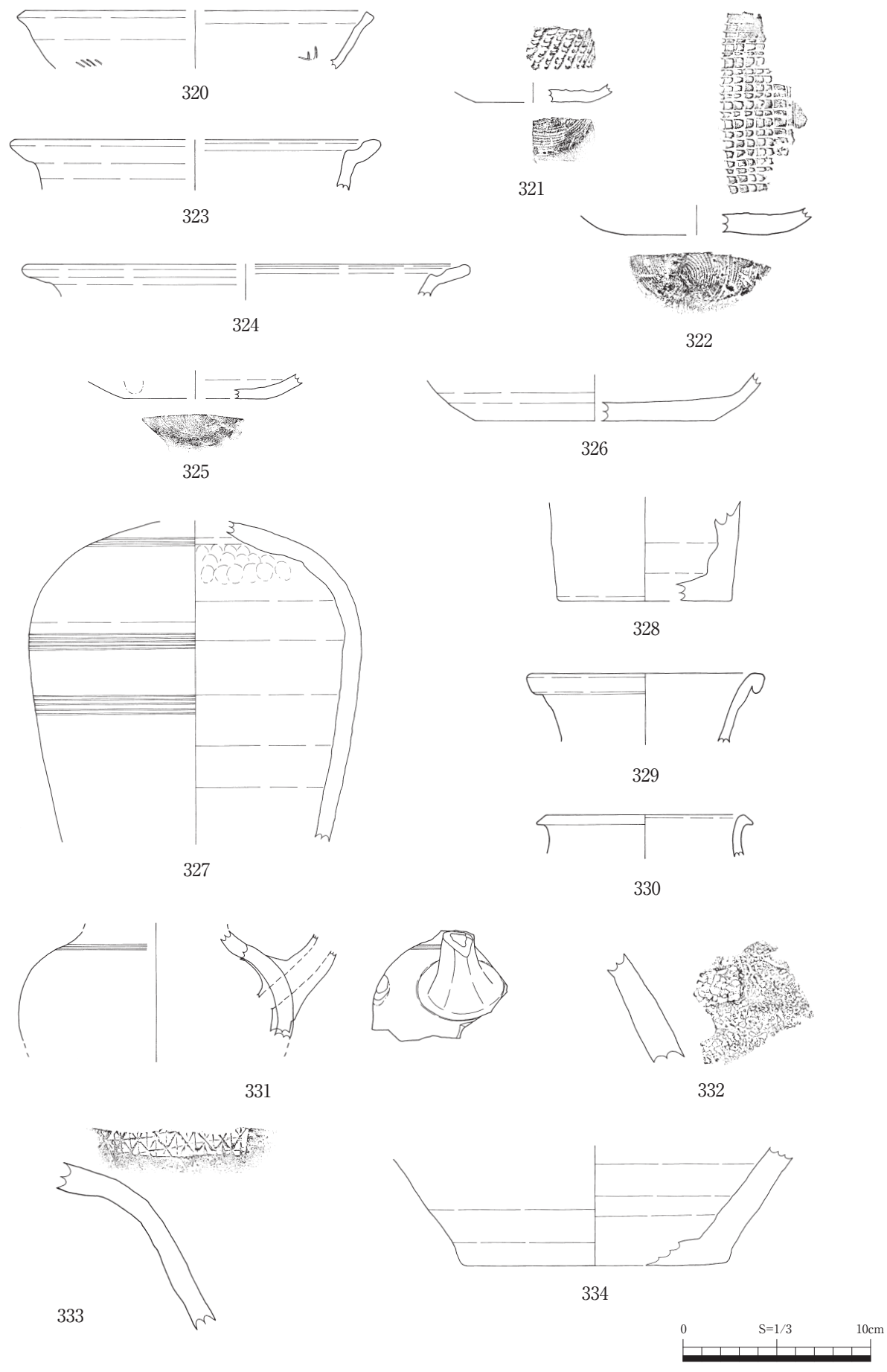
第 96 图 遺物実測図 13 (S=1/3)



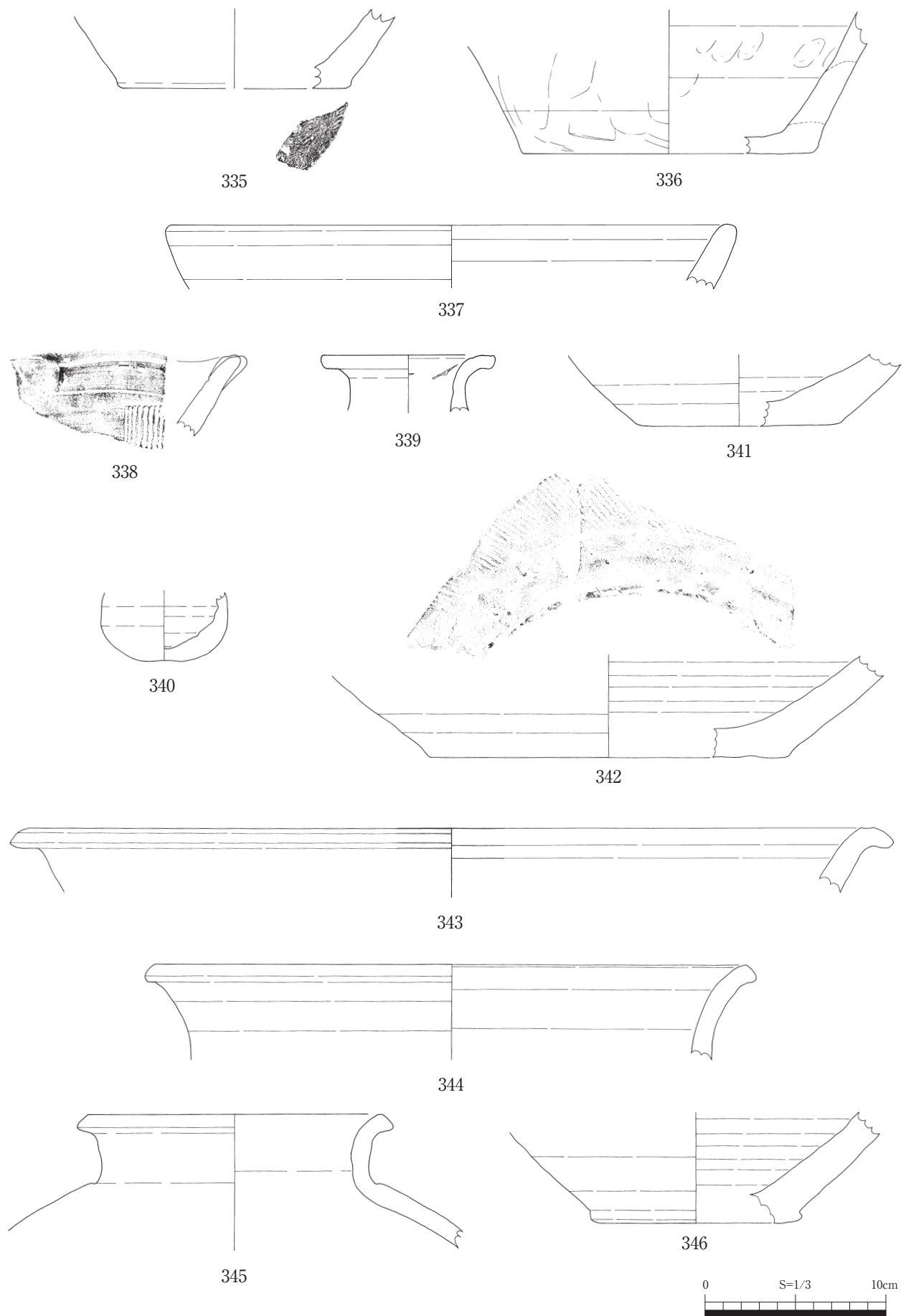
第97图 遺物実測図14 (S=1/3)



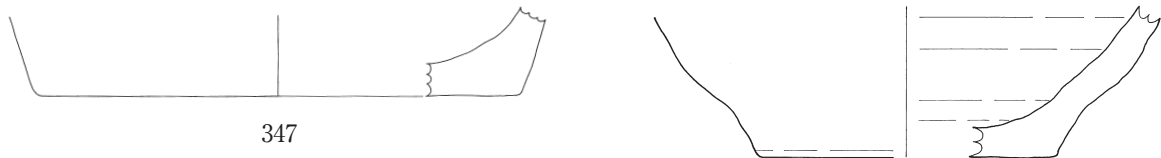
第98図 遺物実測図15 (S=1/3)



第99图 遺物実測図16 (S=1/3)

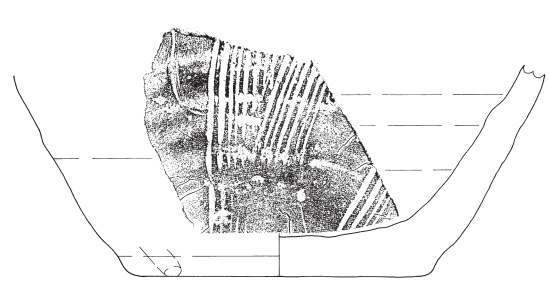


第100図 遺物実測図17 (S=1/3)

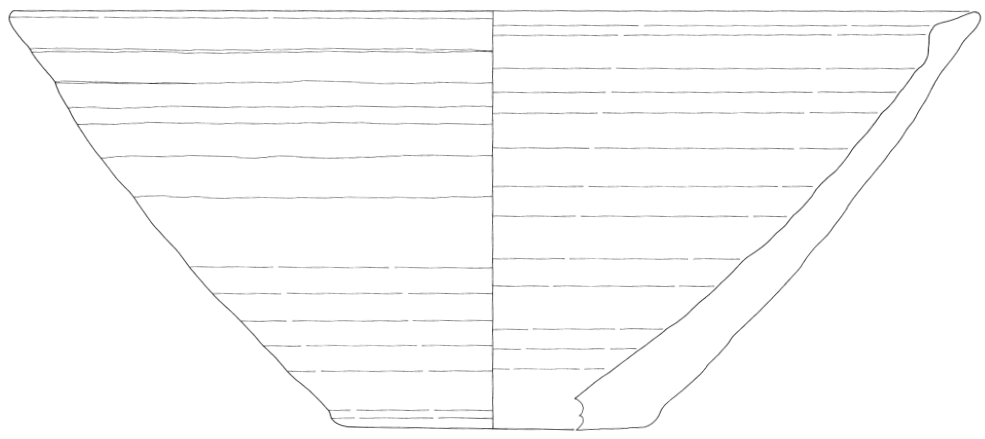
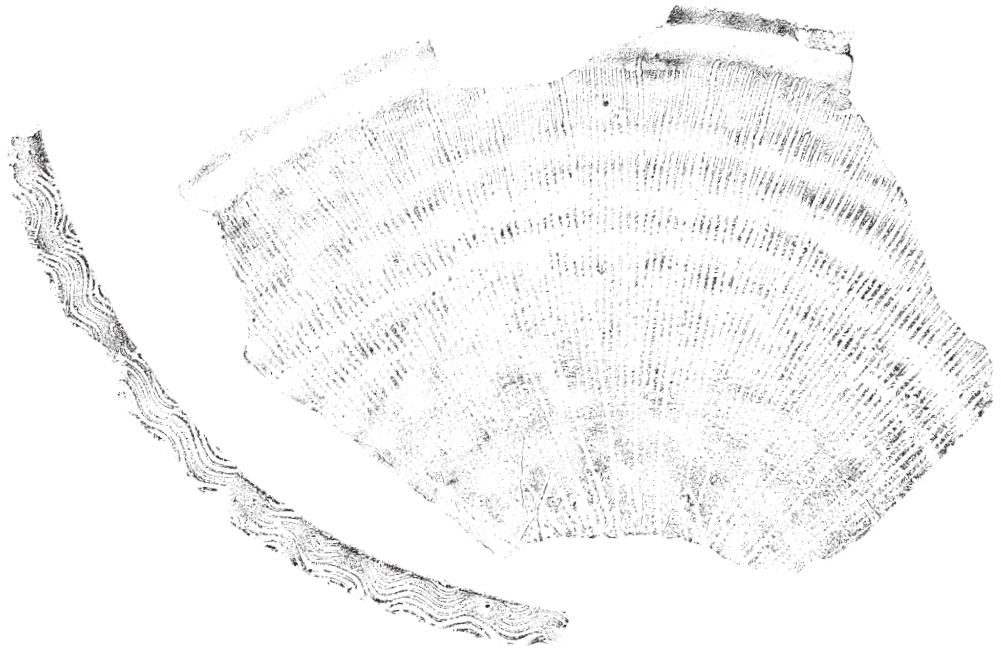


347

348



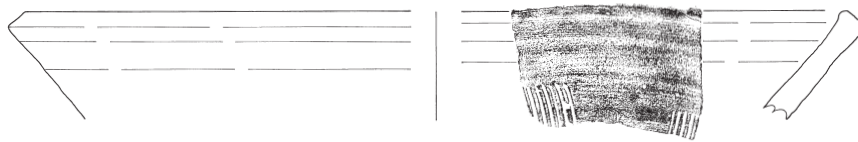
349



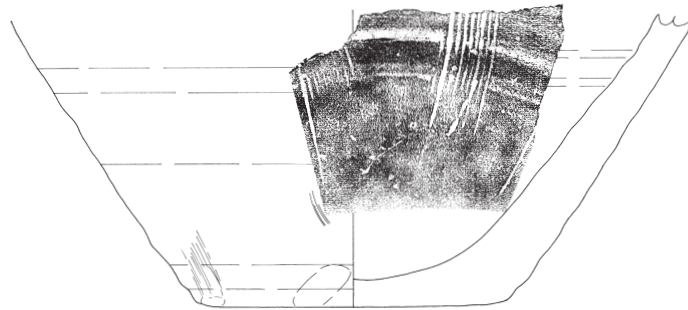
350



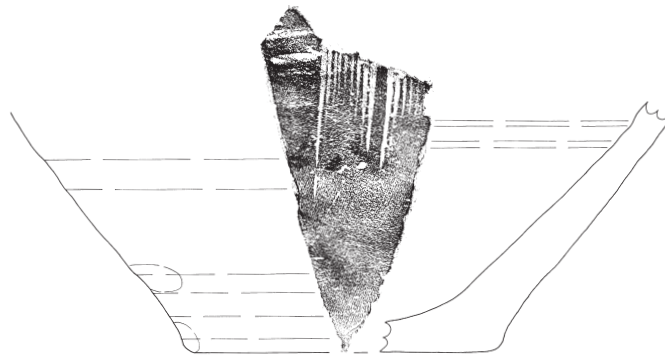
第101図 遺物実測図18 (S=1/3)



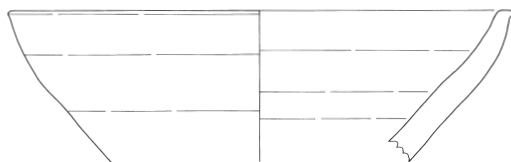
351



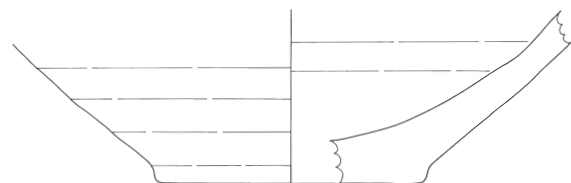
352



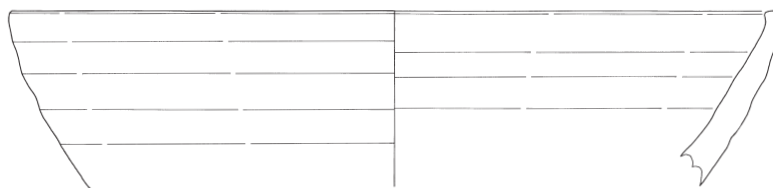
353



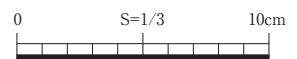
354



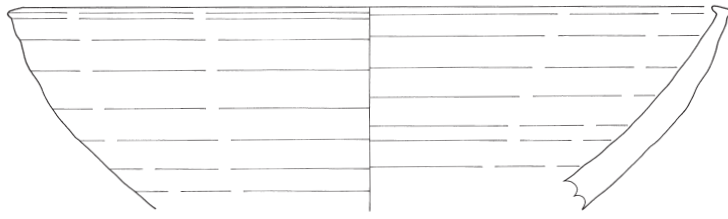
355



356



第102図 遺物実測図19 (S=1/3)



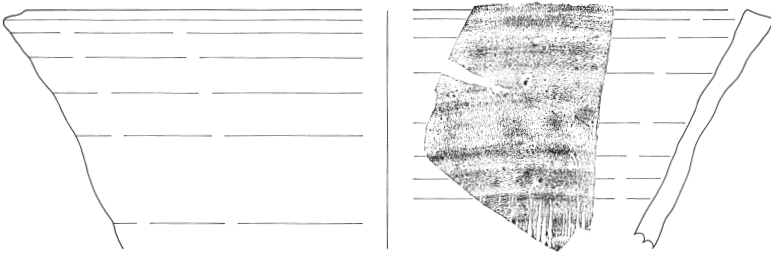
357



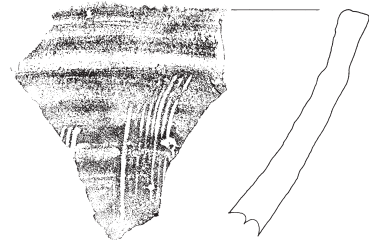
358



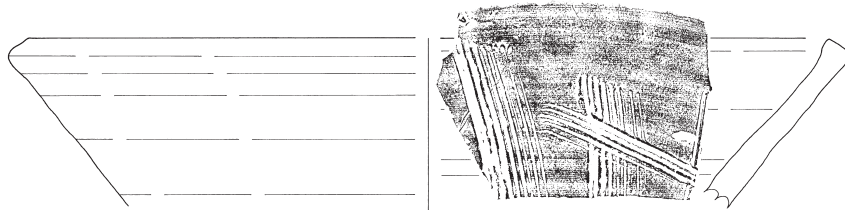
360



359



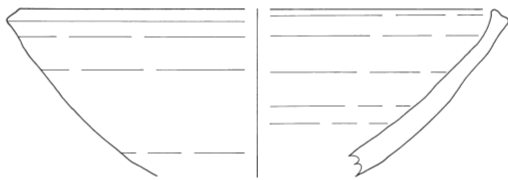
361



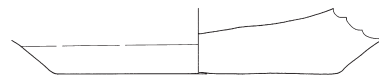
362



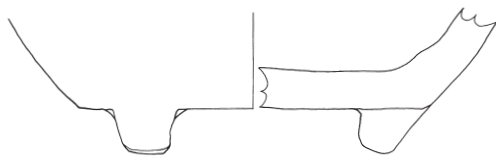
363



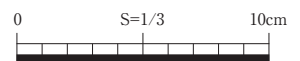
364



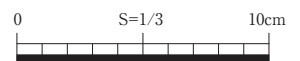
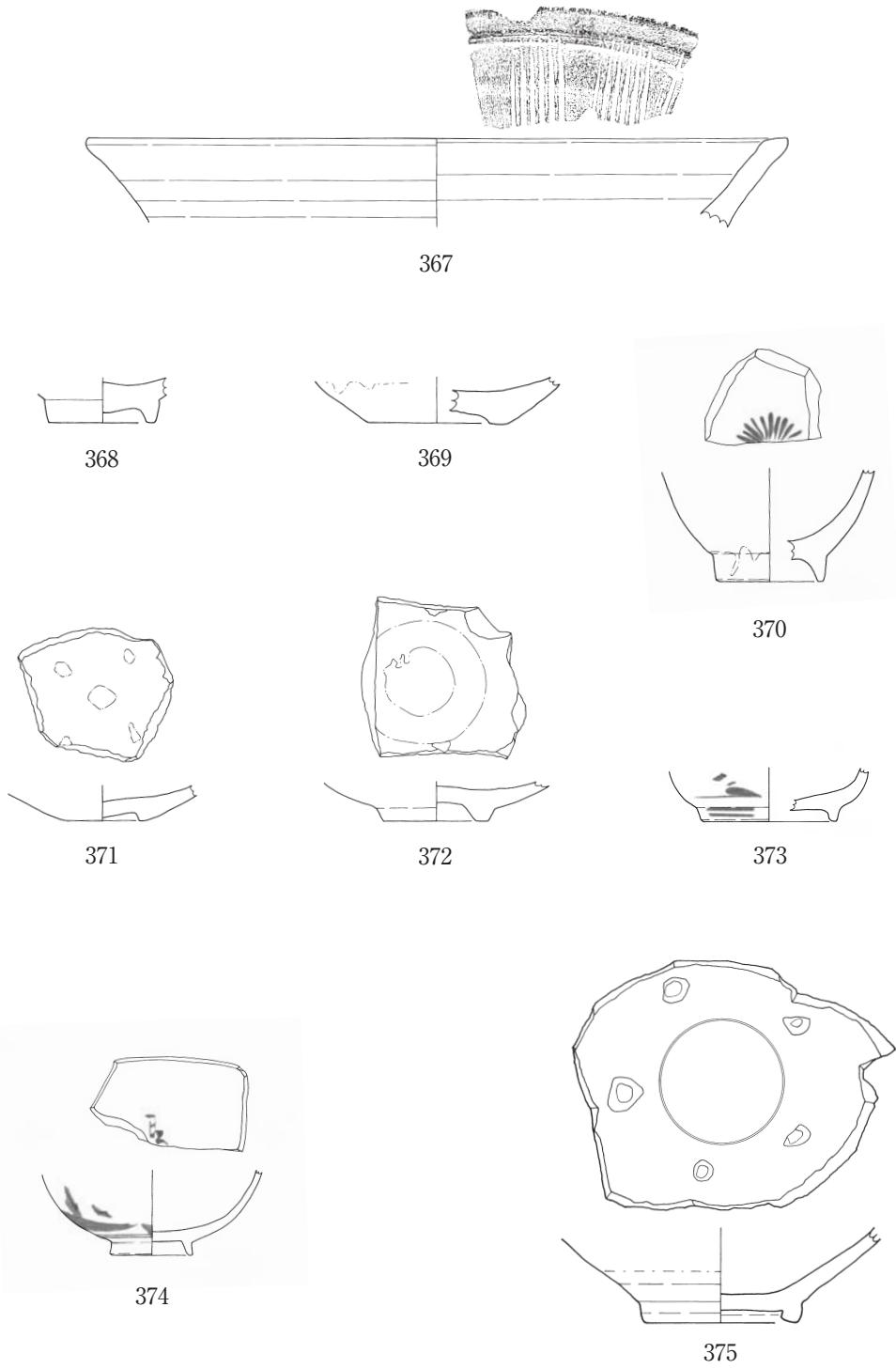
365



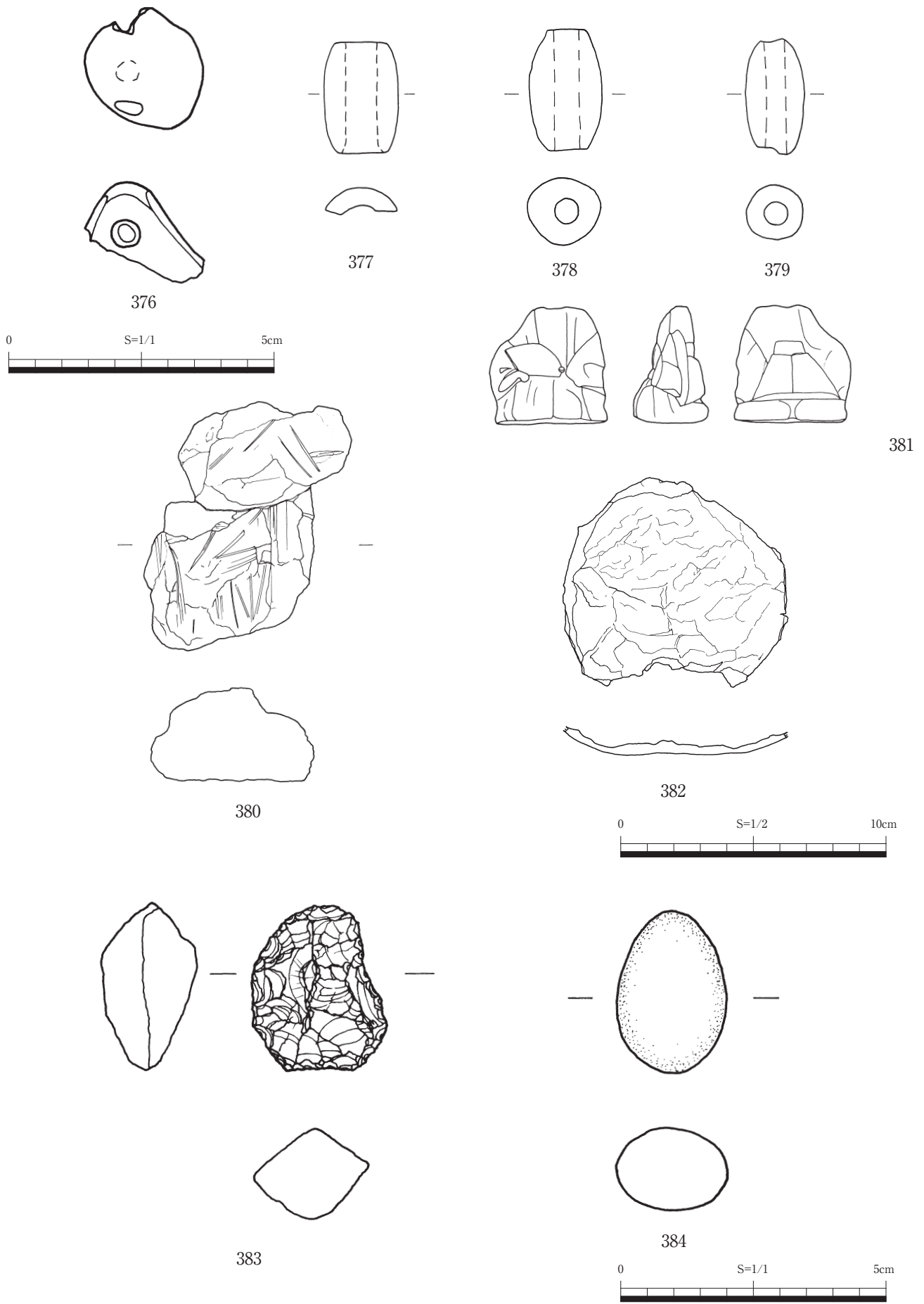
366



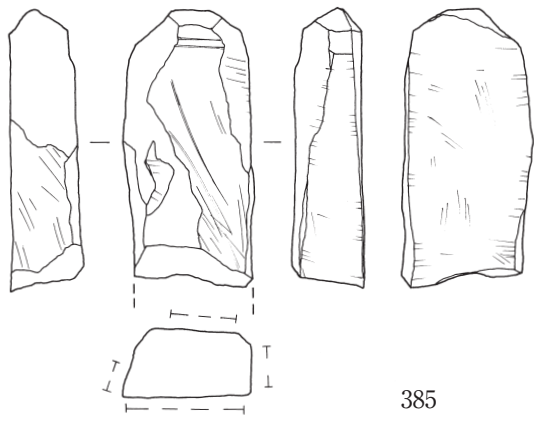
第 103 図 遺物実測図 20 (S=1/3)



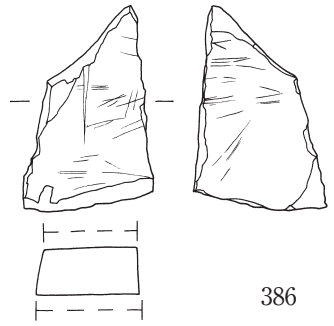
第104図 遺物実測図21 (S=1/3)



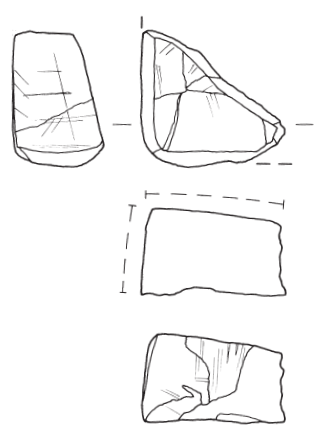
第105図 遺物実測図22 (376、383、384 (S=1/1)、377~382 (S=1/2))



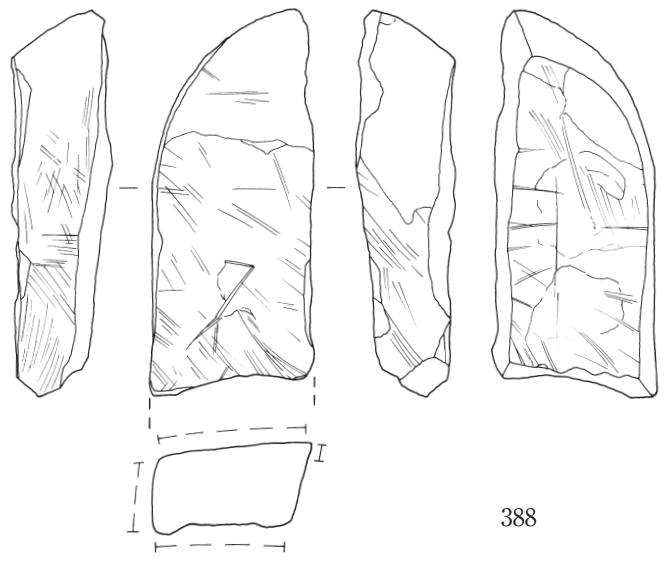
385



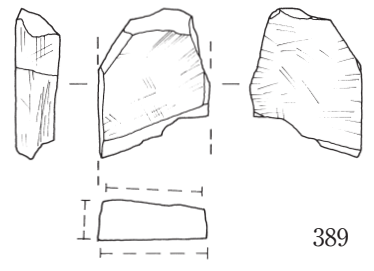
386



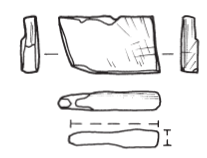
387



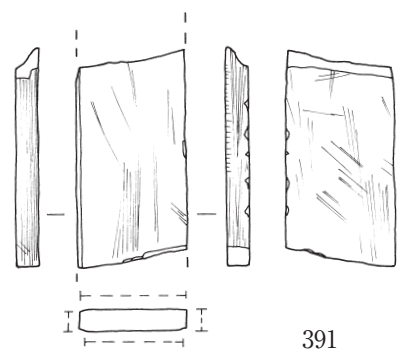
388



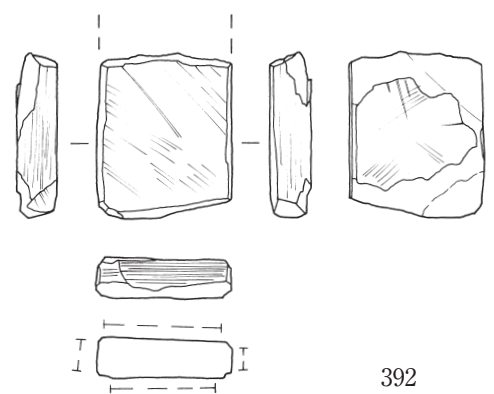
389



390



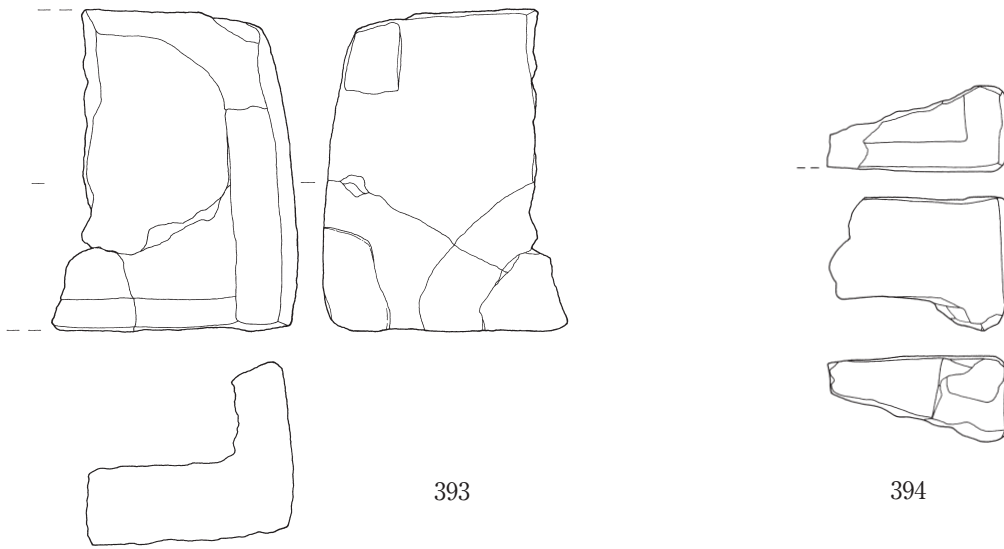
391



392

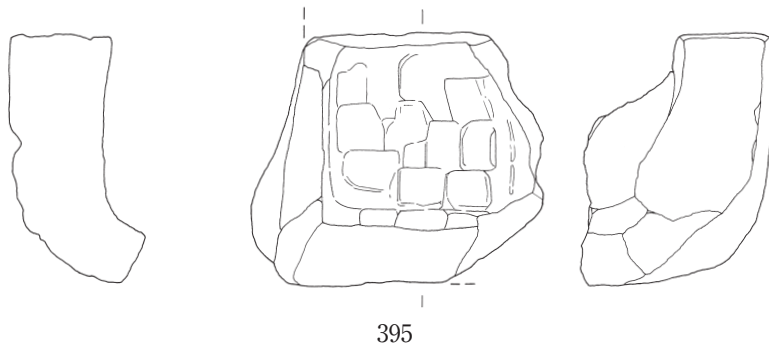


第106図 遺物実測図23 (S=1/2)

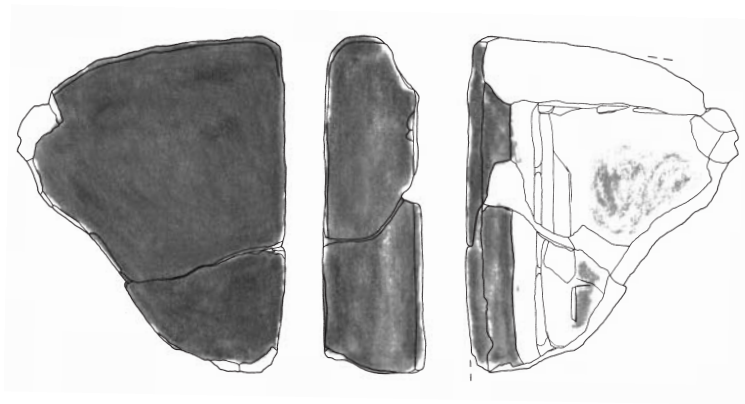


393

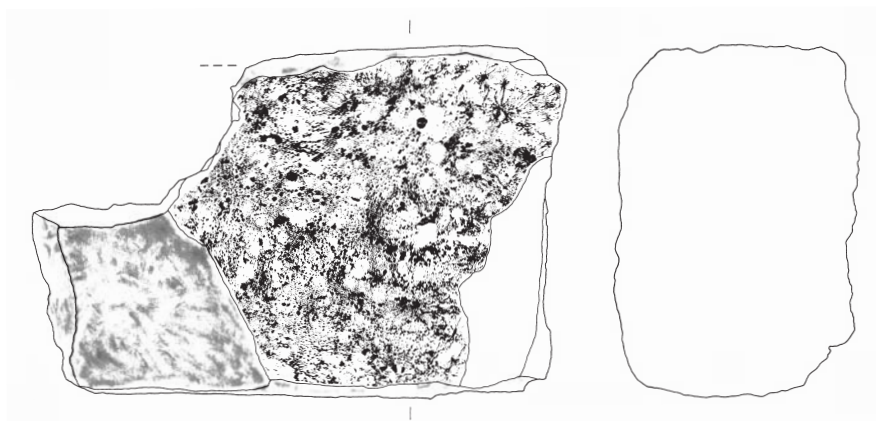
394



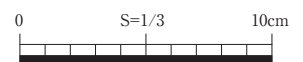
395



396



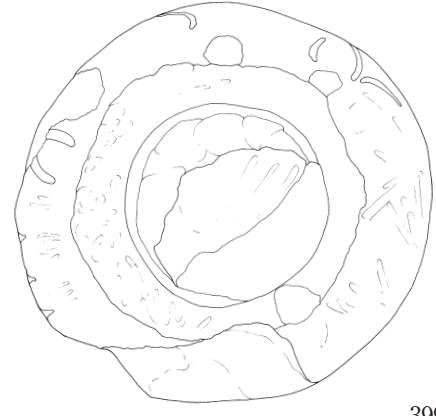
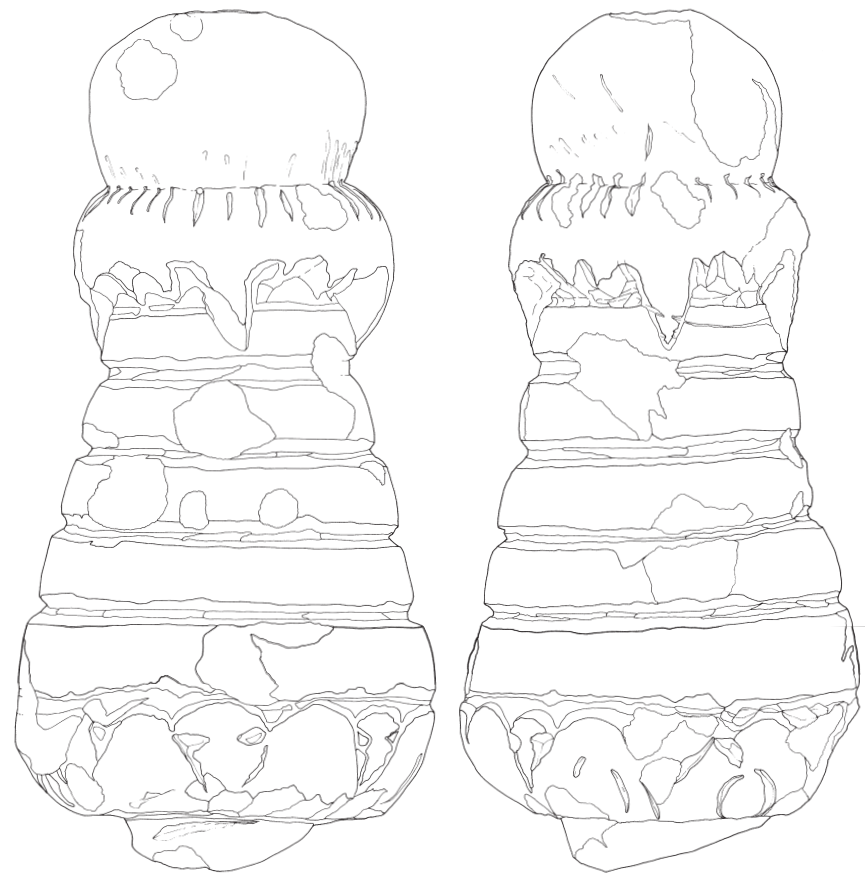
397



第107図 遺物実測図24 (S=1/3)



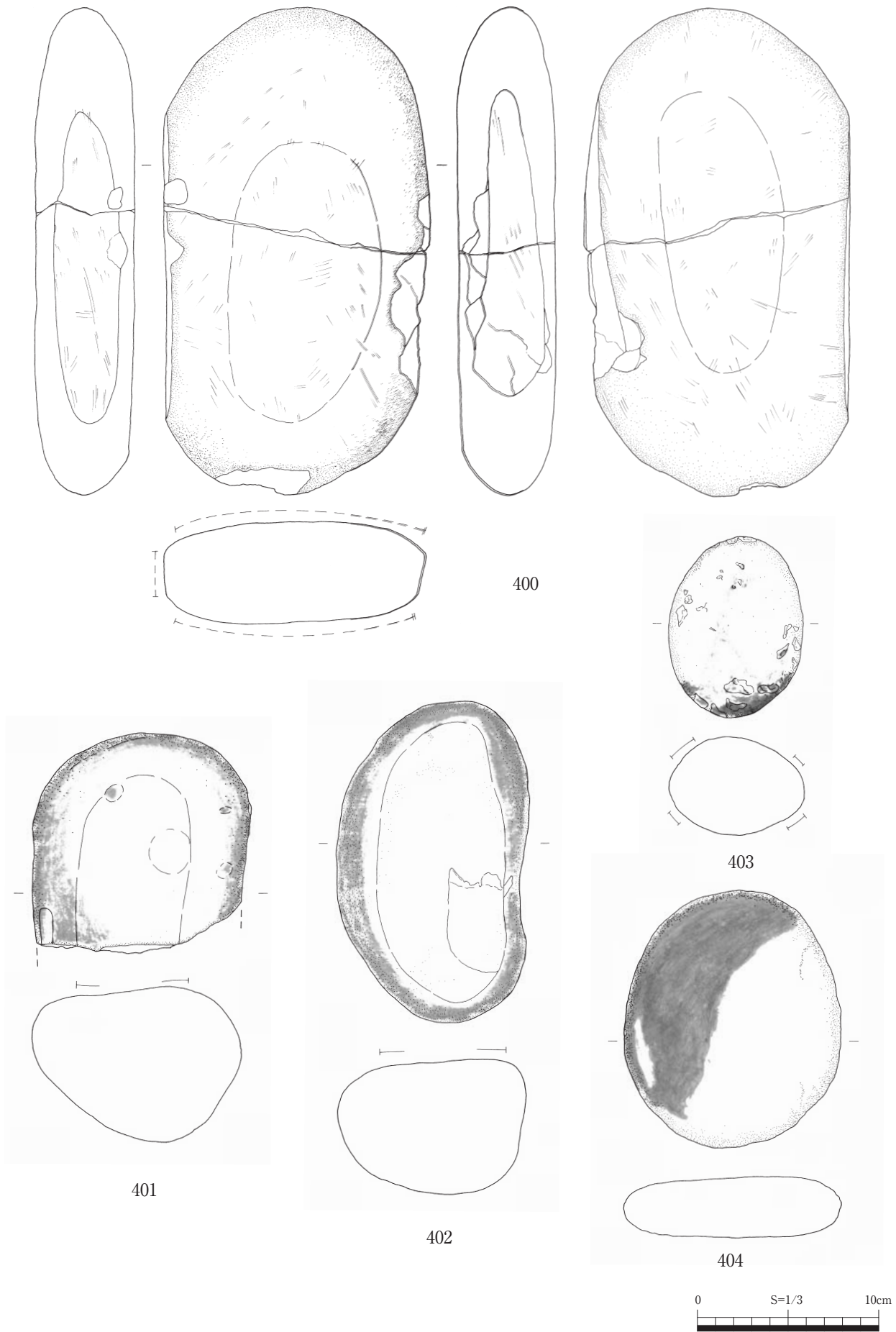
398



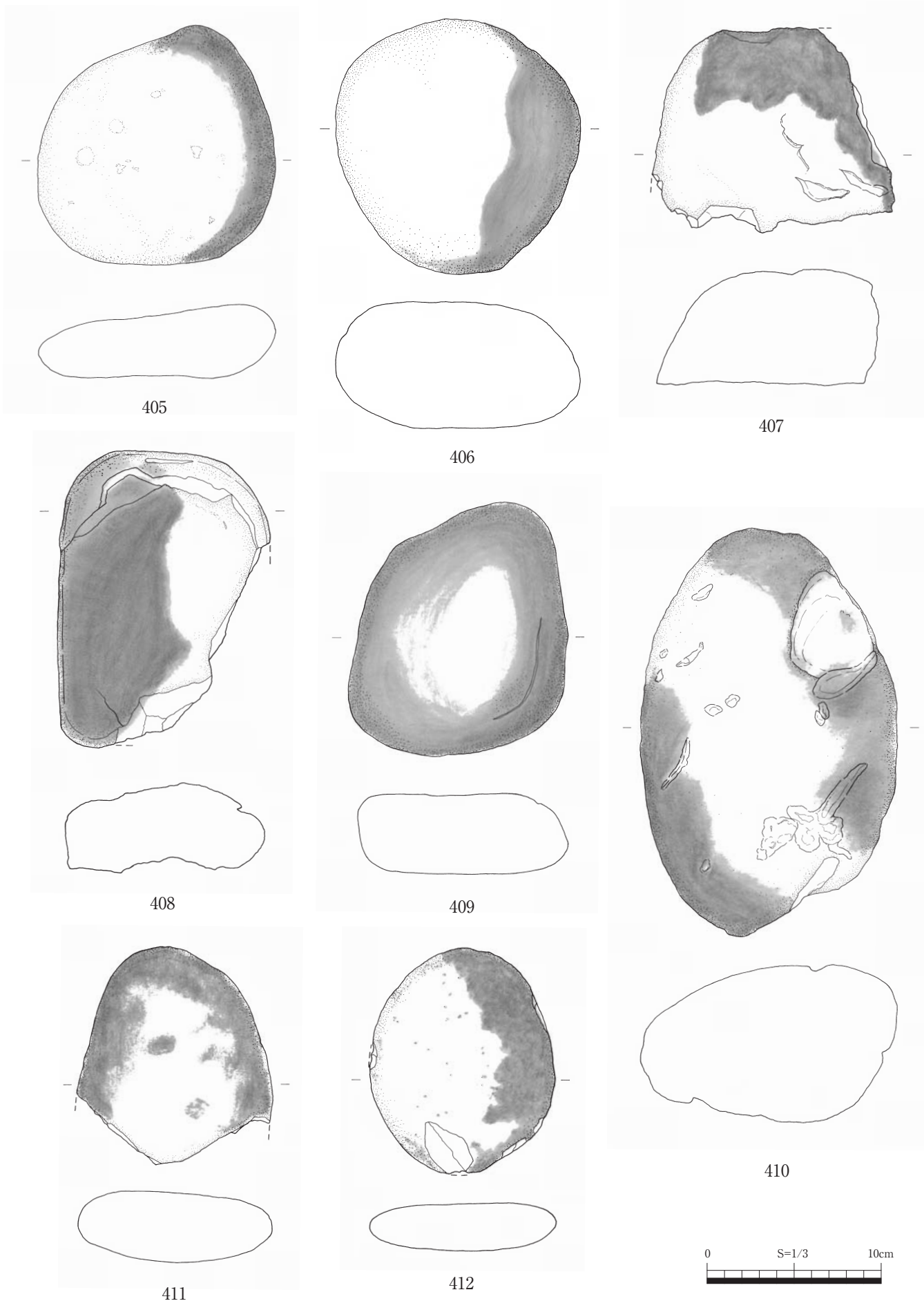
399



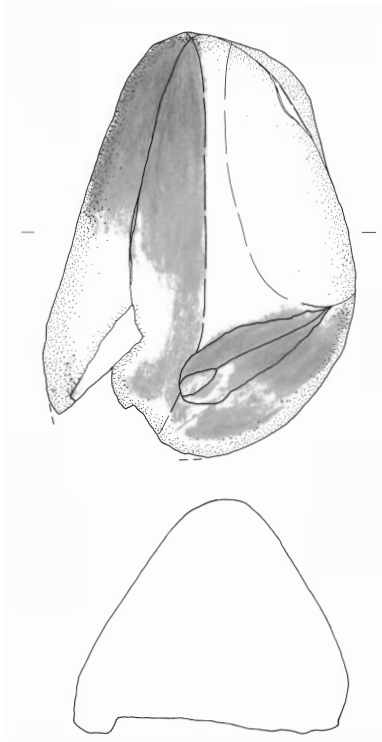
第108図 遺物実測図25 (S=1/3)



第109図 遺物実測図26 (S=1/3)



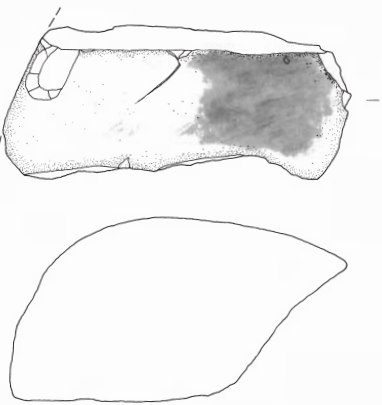
第110図 遺物実測図27 (S=1/3)



413



416



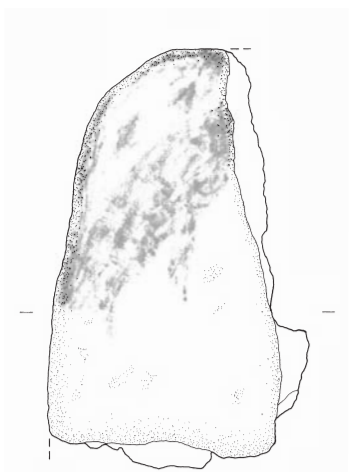
419



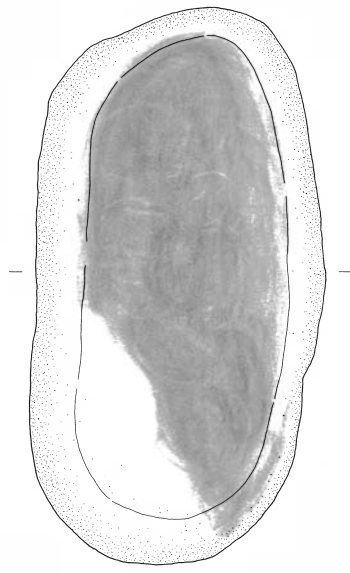
414



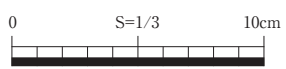
417



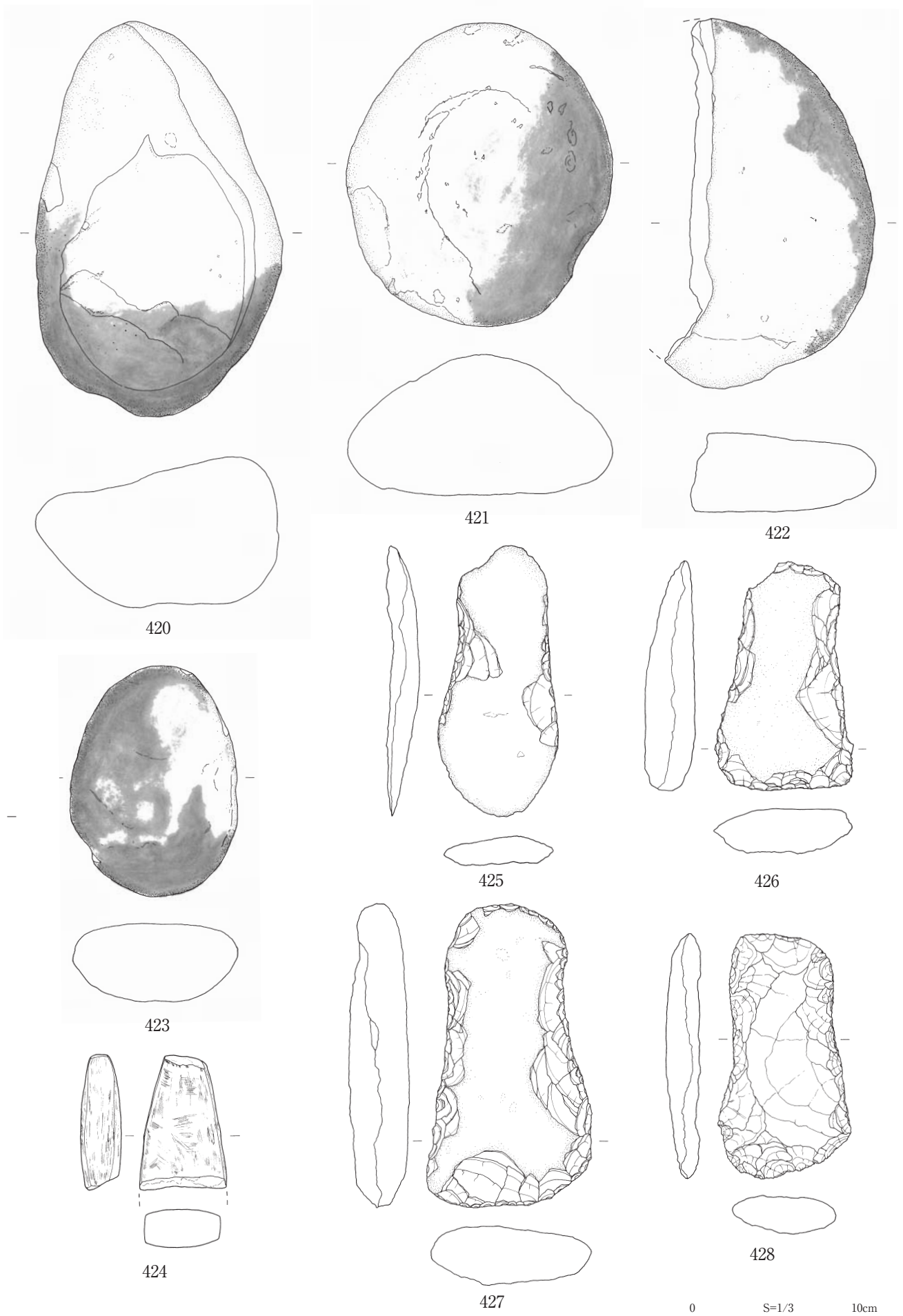
415



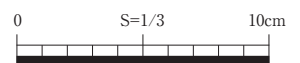
418

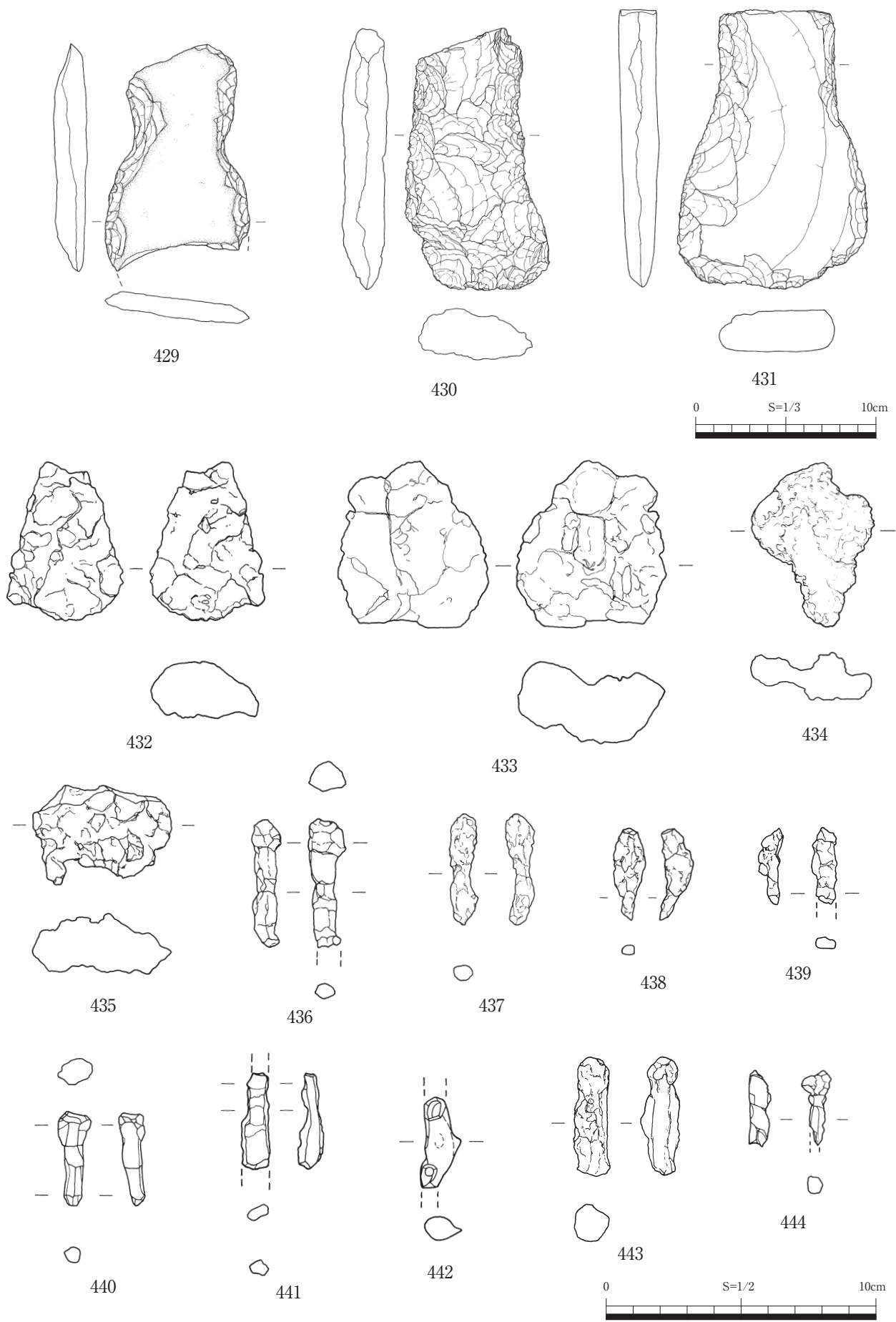


第111図 遺物実測図28 (S=1/3)

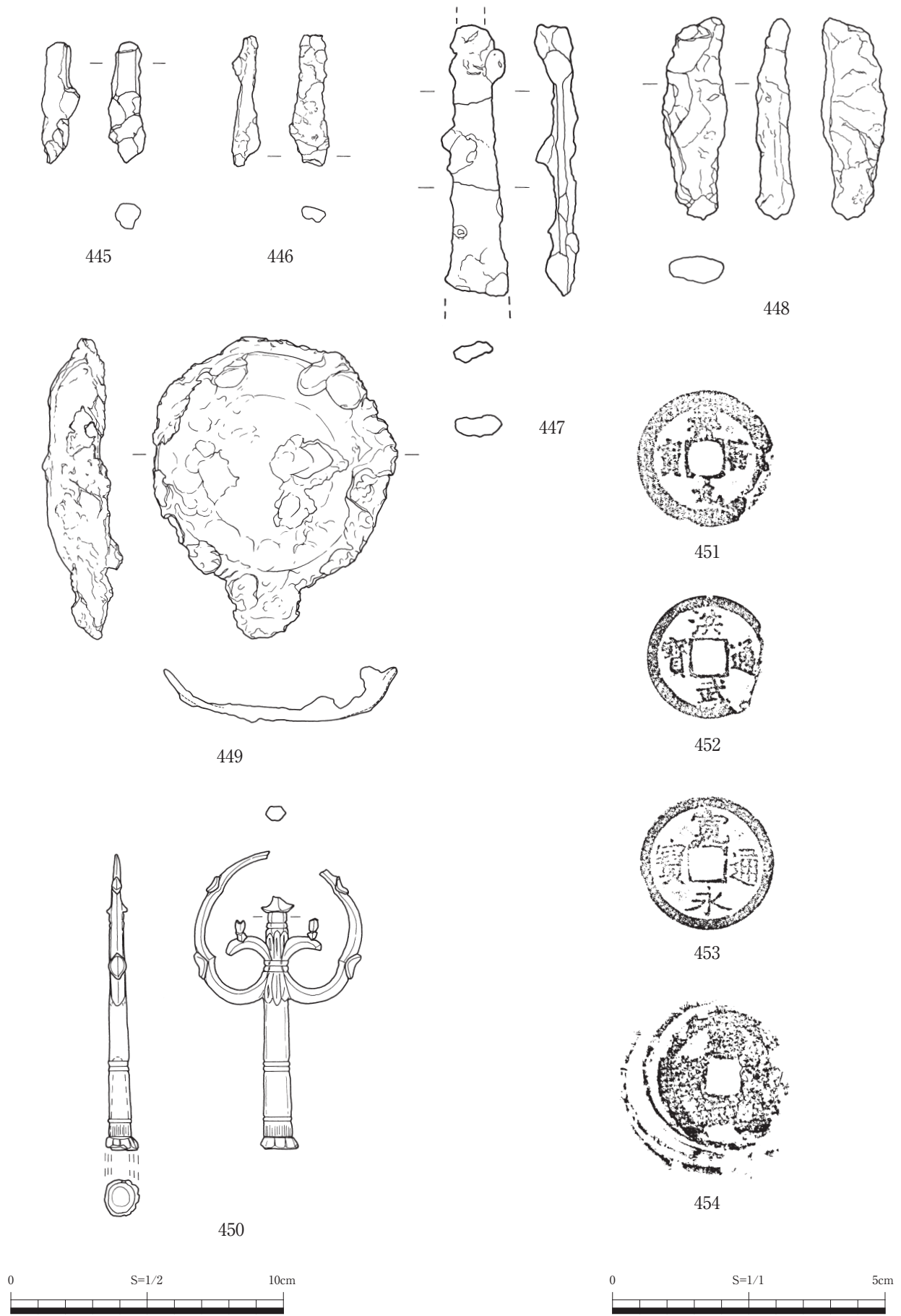


第112図 遺物実測図29 (S=1/3)





第113図 遺物実測図30 (429～431 (S=1/3)、432～444 (S=1/2))



第114図 遺物実測図31 (445～450 (S=1/2)、451～454 (S=1/1))

第4章 総括

《弥生時代》

本調査区における弥生時代は、後期後半を主体とする集落跡である。この時代の遺構は、S I 1～3の竪穴建物、S B 1・2の布掘建物、円形周溝状遺構S D 11などが挙げられ、S D 11を迂回するようにして東西に走るS D 10も当該時期と考えられる。これら弥生時代の遺構は、本調査区の東側に集中している。

郷タボタ遺跡は、本調査区より東方約120mに渡って展開しており、その東方部における発掘調査においても、当該時代の竪穴建物を始めとする遺構や遺物が多く見つかり、集落域が広がっていることを示している。そういう意味では、本調査区で見つかった主要遺構の場所は、集落の西限にあたると考えられる。また、A区中央を南北に流れる旧河道2からも弥生土器を発見している。このことから、集落が機能しているときには、この河は流水していたと思われ、ここが集落の境界になっていたかもしれない。

《古代》

古代の主要な遺構は、S B 3～17の掘立柱建物で、本調査区の北側に集中する。建物のほとんどは南北棟であるが、S B 13～15・17の4棟は東西棟となる。南北棟の建物は、A区西端、この時期には埋まっていたと思われる旧河道2を挟んだ東側、及びB区と、大きく3ヶ所のエリアに分けて建てられていたようである。南北棟建物群がある旧河道2の東エリアと、B区との間には、先述したS B 13～15・17の東西棟建物が存在する。これらの位置関係を見ると、建物群は計画的に配置していたことが想定できる。

建物の中には重複するものあり、複数回建替えがあったようであるが、その前後関係は、柱穴内からの遺物出土数が少なく、切り合いもほとんど見られないことから、判断することは困難を極める。それでも、柱穴の配列や建物位置などから、(S B 3、S B 4、S B 6、S B 8、S B 11、S B 13、S B 14、S B 17)と、(S B 5、S B 10、S B 12、S B 15、S B 17)、(S B 7、S B 9、S B 17)に大別すると考えた。

また、本調査区の東隣にある郷用水は、古代においても同じ箇所でも流水していたことが、東方部の発掘調査で明らかとなっている。B区北東端で検出した大きな落ち込み遺構S X 1は、その遺構の形状から、船着場など郷用水と大きく関わる水利施設にあたると推測している。

時期は、7世紀の須恵器坏など古代の幅のある遺物が出土しているが、全体的な出土量から、9世紀中頃が主体と考えられる。

《中世》

中世は掘立柱建物、竪穴状遺構などで構成される集落跡で、本調査区全般で確認できる。A区南東部、A区中央部より南側、A区南東部、C区中央部、D区南部、E区西端部、E区東部に左記の遺構が集中しており、この地に居宅を構えていたようである。この居宅地にある掘立柱建物や竪穴状遺構の中には、重複するものがあり、建替えが行われていたことを示している。宅地は5間×4間、4間×3間の中規模の掘立柱建物と、3間×2間、2間×2間の小規模掘立柱建物が各1棟で構成され、1基の竪穴状遺構が敷設する箇所としない箇所に分かれる。井戸は確認していない。未調査区に存在していたと思われ、共同利用されていたと推測する。また、A区北端部を東西に走るS D 1・2と、D区南端で認められる東西方向のS D 28・29は、幅1～2mの幅をもつ規模の大きい溝で、排水と同時に集落の境界となる可能性をもっている。時期は14世紀代を中心とする。

A区中央部より西側の一角には、S K 1～27の方形を中心とした土坑が集中して見つかり、土坑の一部からは炭化物や骨片が確認でき、この地で399の宝塔相輪を検出したことから、左記の土坑群は墓坑で、当該地域は墓域であったと考えられる。墓坑群は、古代掘立柱建物S B 7辺りの周囲を囲むようにして掘られている。S B 7付近には墓域の中心となる信仰対象物が設置していたかもしれない。なお、墓坑の一つとされるS K 3内の350の珠洲焼すり鉢が、伏された状態で見つかり、骨蔵器の蓋に転用したと思われる。この墓群は15世紀以降で、集落廃絶後に造成されたと推測する。

参考文献

- 垣内光次郎 1999 「石の文化誌」『中世北陸の石文化Ⅰ』 北陸中世考古学研究会
- 河合忍 安英樹 1999 「石鍬雑考」『石川県考古資料調査・集成事業報告書 農工具』 石川考古学研究会
- 柿田祐司 2006 「加賀・能登の様相」『中世北陸のカワラケと輸入陶磁器・瀬戸美濃製品』 北陸中世考古学研究会
- 櫻井甚一 1990 「福水出土の古密教仏具からみた能登の山林宗教考」『石川県銘文集成研究編 能登加賀の中世文化』 北国新聞社
- 田中照久・木村宏一郎 2005 「越前」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』 全国シンポジウム中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～実行委員会
- 田嶋明人 1988 「古代土器編年軸の設定」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』 石川考古学研究会 北陸古代土器研究会
- 藤澤良祐 2008 『中世瀬戸窯の研究』 高志書院
- 藤田邦夫 1997 「中世加賀国の土師器様相」『中近世の北陸－考古学が語る社会史－』 桂書房
- 宮下幸夫 1997 「在地窯「加賀窯」」『中近世の北陸－考古学が語る社会史－』 桂書房
- 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』 吉川弘文館
- 1998 『富樫館跡Ⅲ』 野々市町教育委員会
- 2009 『郷クボタ遺跡』 野々市町教育委員会
- 2009 『徳用クヤダ遺跡Ⅰ』 野々市町教育委員会

第2表 土器・陶磁器・漆器観察表

番号	遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整 (外)	色調 (外)	残存率	備考	実測 番号
						調整 (内)	色調 (内)			
1	SI 1	弥生甕	164			ヨコナデ、ハケ、ナデ	にぶい黄橙	口縁部 完形	全体的に摩耗	T1
						ヨコナデ、ケズリ、ナデ	にぶい黄橙			
2	SI 1	弥生甕	178			ヨコナデ、ハケ、ナデ	明黄褐	口縁部 完形	内外面に煤付着	T3
						ヨコナデ、ケズリ、ナデ	にぶい黄橙～灰黄			
3	SI 1	弥生甕	188	頸部径 162		ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙	5/36		N40
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙			
4	SI 1	弥生甕	172	頸部径 150		ヨコナデ	灰黄褐、黒褐	1/6	外面に煤付着	N6
						ヨコナデ	にぶい黄橙			
5	SI 1	弥生壺	102			ヨコナデ	にぶい橙、浅黄橙	1/4	内外面 赤彩	T39
						ヨコナデ、ミガキ、ナデ	にぶい橙、浅黄橙			
6	SI 1	弥生高杯	282			ナデ	灰白、褐灰	1/4		T38
						ナデ、ミガキ	明褐灰			
7	SI 1	弥生鉢	174	頸部径 148		ミガキ	黒褐、にぶい黄褐	1/6	外面に煤付着 内外面 赤彩	N5
						ミガキ	赤褐、にぶい黄橙			
8	SI 1	弥生壺	72	76	40	ヨコナデ、ミガキ	にぶい黄橙、黒褐	5/6口縁 頸部～底部まで完形	内面に指頭圧痕	N37
						ミガキ、ナデ	にぶい黄橙、褐灰			
9	SI 2	弥生甕			60	ケズリ、ナデ	にぶい黄褐	1/4		N67
						ケズリ、ナデ	黒褐			
10	SI 2	弥生壺	(82)	頸部径 58		ナデ	橙	1/9		N68
						ナデ	にぶい黄橙、灰黄褐			
11	SI 2	弥生高杯	(214)			ロクロナデ、ミガキ	にぶい橙	1/18	内外面 赤彩	N65
						ミガキ	にぶい橙			
12	SI 2	弥生高杯			脚部最大径 40	ミガキ	にぶい黄橙	小片		N64
						ミガキ	にぶい黄橙			
13	SI 3	弥生甕	260			ヨコナデ、ナデ	浅黄橙	1/4	摩耗著しい 煤付着	T2
						ヨコナデ、ケズリ	浅黄橙			
14	SI 3	弥生甕	162	頸部径 127		ハケ	にぶい黄橙、黒	1/4	外面に煤付着、擬凹線7条 指頭圧痕	N31
						ヨコナデ、ケズリ	浅黄橙、にぶい黄橙			
15	SI 3	弥生甕	170			ヨコナデ、ナデ	にぶい橙	2/9	摩耗著しい 口縁内部 指頭圧痕	T26
						ヨコナデ、ケズリ	浅黄橙			
16	SI 3	弥生甕	168			工具によるナデ、ナデ	にぶい橙	約1/9	擬凹線8条、指頭圧痕	T18
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい橙			
17	SI 3	弥生甕	184			ヨコナデ	浅黄橙、にぶい黄橙	1/9	擬凹線7条	T24
						ヨコナデ、ケズリ	褐灰、灰白			
18	SI 3	弥生甕	166	頸部径 129		ナデ	にぶい褐、黒褐	口縁1/2	擬凹線8条、煤付着 内外面摩耗	N41
						ヨコナデ、ケズリ	橙、にぶい橙			
19	SI 3	弥生甕	174			ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙、浅黄橙	1/4	外面に煤付着 (少量)	T23
						ナデ、ケズリ、ハケ	にぶい黄橙、浅黄橙			
20	SI 3	弥生甕	170			ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙	1/9		T25
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙			
21	SI 3	弥生甕	185	頸部径 157		ヨコナデ	にぶい黄橙、黒褐	1/3	外面に煤付着	N32
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙			
22	SI 3	弥生甕	166			ハケ、工具によるナデ	にぶい黄橙	1/6	全体に摩耗	T20
						ケズリ、ナデ	にぶい橙			
23	SI 3	弥生甕	163	頸部径 136		ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙	1/3	外面摩耗	N33
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい橙			
24	SI 3	弥生甕	188	頸部径 148		ヨコナデ	にぶい黄橙	1/7	一部煤付着	N27
						ヨコナデ	にぶい黄橙			
25	SI 3	弥生甕	188			ヨコナデ	にぶい橙	1/9		T22
						ヨコナデ	にぶい黄橙			
26	SI 3	弥生甕	118			ヨコナデ、ナデ、ハケ	にぶい黄橙、にぶい黄褐	1/6	外面、口縁部に煤付着	T21
						ナデ、ケズリ	にぶい黄橙、浅黄橙			
27	SI 3	弥生高杯	234			ミガキ	浅黄橙	1/9	摩耗著しい	T19
						ミガキ	浅黄橙			
28	SI 3	弥生裝飾器台		台部 140～142		ナデ	橙	4/9	摩耗	N35
						ナデ	橙			
29	SI 3	弥生高杯		口縁部 78	脚部径 34	ナデ、ミガキ	橙	2/3 (台の部分)		N34
						ナデ、ミガキ	橙			

番号	グリッド 遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整 (外)	色調 (外)	残存率	備考	実測 番号
						調整 (内)	色調 (内)			
30	SB2	弥生甕	134			ナデ	灰褐	小片	擬凹線か? 焼成不良	M3
						ナデ	灰褐			
31	SB2	弥生蓋	つまみ部 40			マメツ不明	橙	ほぼ完形	焼成不良	M4
						マメツ不明	橙			
32	SK 25	弥生底部			56	ナデ	橙、浅黄橙	1/2	焼成並	M126
						ナデ	にぶい黄橙			
33	SD 8	弥生甕	165			ヨコナデ	浅黄橙	1/8	焼成並	M153
						ヨコナデ	浅黄橙			
34	SD 18	弥生甕	(148)	頸部径 112		ヨコナデ	にぶい黄橙、黒褐	1/12	擬凹線、煤付着	N99
						ヨコナデ	にぶい黄橙、明黄褐			
35	SD 18	弥生甕	(170)			ナデ	にぶい黄橙	1/9	外面 摩耗	N100
						ヨコナデ	灰黄			
36	SD 18	弥生甕	150	頸部径 118		ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙、褐灰、黒褐	口縁 1/4 頸部 1/2	外面 連続刺突紋、煤付着 内面 連続紋	N94
						ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙、褐灰			
37	SD 18	弥生壺			148	ロクロナデ	にぶい黄橙、明赤褐	13/18	内外面 赤彩 摩耗	N98
						ロクロナデ	にぶい黄橙、黄褐、明赤褐			
38	SD 18	弥生甕			43	ハケ、ナデ	にぶい橙、橙	底部 完形		N96
						ハケ、ナデ	褐灰			
39	SD 18	弥生台付土器		頸部径 48		ナデ、ハケ?	にぶい黄橙	小片	赤彩か? (摩耗)	N97
						ナデ	灰白、褐			
40	SD 18	弥生突孔土器			44~49	ナデ	にぶい橙	底部完形	外面 摩耗、底部歪み あり	N95
						ハケ	にぶい橙			
41	SD 18	弥生高坏			脚部径 (46)	ナデ	浅黄橙	小片	摩耗、しぼり痕	N92
						ナデ	浅黄橙			
42	SD 2	弥生高坏			柱状部径 44	ハケ後ミガキ	にぶい黄橙、橙、褐灰	ほぼ完形	黒斑あり、焼成並	M59
						しぼり目	にぶい橙			
43	SD 12	弥生鉢	139	80	34	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙	口縁 1/6 底部完形	指頭圧痕	N36
						ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙			
44	P14	弥生甕	115			ナデ	灰白	1/6	擬凹線5条、焼成不良	M153
						ナデ、ケズリ	灰白			
45	P23	弥生甕			37	ナデ	にぶい橙	1/2	焼成並	M30
						ナデ	浅黄橙			
46	P43	弥生甕	(192)	頸部径 48		ヨコナデ	橙	1/12	擬凹線12条	N73
						ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙、にぶい橙			
47	P69	弥生甕	(198)			ヨコナデ	にぶい黄橙	口縁 1/18 頸部 1/7	擬凹線8条	N105
						ヨコナデ	にぶい黄橙			
48	SX 1	弥生甕	174	頸部径 146	体部径 192	ヨコナデ	黒、にぶい黄橙	1/6	擬凹線6条、指頭圧痕 摩耗	N30
						ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙			
49	SX 1	弥生器台	158			ヨコナデ	橙	1/12	摩耗	N29
						ヨコナデ	橙			
50	SX 1	弥生高杯			脚部径 44	ミガキ	にぶい黄橙、オリーブ黒	5/12		N28
						ナデ	にぶい黄橙			
51	旧河道2	弥生底部			27	ナデ	灰白	2/3		M175
						ナデ	にぶい黄橙			
52	旧河道2	弥生甕	179			ナデ	にぶい黄橙	1/12	擬凹線7~8条、煤付着 焼成並	M180
						ナデ、ケズリ	灰黄褐			
53	旧河道2	弥生甕	159			ハケ、ナデ	浅黄橙	1/8	指頭圧痕、煤付着 焼成良	M165
						ナデ	灰黄褐			
54	旧河道2	弥生壺	142			ナデ	にぶい橙	1/8	焼成並	M171
						ナデ、ハケ	にぶい橙			
55	旧河道2	弥生壺	136			ナデ	浅黄橙	小片	焼成並	M179
						ナデ	浅黄橙			
56	旧河道2	弥生壺	184			ハケ	橙	1/5	焼成並	M177
						ナデ、ハケ	にぶい黄橙			
57	旧河道2	弥生壺	162		7.6	ナデ	にぶい黄橙、橙	1/6	外面に透穴2、沈線4条 焼成並	M176
						ハケ、ナデ	にぶい黄橙、橙			
58	SD 2	須恵器坏身	149			ロクロナデ	灰	1/8		M63
						ロクロナデ	灰			
59	SK 16	須恵器有台坏			72	ロクロナデ	灰	1/4	焼成並	M9
						ロクロナデ	灰			

番号	グリッド 遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整 (外)	色調 (外)	残存率	備考	実測 番号
						調整 (内)	色調 (内)			
60	SK 25	須恵器有台坏			70	ロクロナデ、ヘラ切り	黄灰、灰	1/3	焼成並	M133
						ロクロナデ	灰			
61	SK 25	須恵器有台坏			67	ロクロナデ	黄灰	ほぼ完形	焼成並	M132
						ロクロナデ	黄灰			
62	SK 25	須恵器有台坏			76	ヘラ切り	灰	1/2	焼成やや不良	M134
						ロクロナデ	灰			
63	SK 25	須恵器有台坏			66	ヘラ切り	灰白	ほぼ完形	焼成不良	M135
						ロクロナデ	灰白			
64	SD 1	須恵器有台坏			70	ヘラ切り	灰	底部完形	焼成良	M111
						ロクロナデ	黄灰			
65	SD 2	須恵器有台坏			70	ロクロナデ、ヘラ切り	灰	2/3	焼成並	M67
						ロクロナデ	灰			
66	SD 2	須恵器有台坏			82	ロクロナデ	黄灰	1/8	焼成並	M66
						ロクロナデ	黄灰			
67	SD 8	須恵器有台坏			59	ロクロナデ、ヘラ切り	灰	1/4	焼成並	M97
						ロクロナデ、ヘラ切り	灰			
68	SD 8	須恵器有台坏	102	43	69	ロクロナデ、ヘラ切り	灰白	1/2	焼成良	M103
						ロクロナデ	灰白			
69	P3	須恵器有台坏			93	ロクロナデ、ヘラ切り	灰	1/5	焼成良	M51
						ロクロナデ	灰			
70	P7	須恵器有台坏	73			ロクロナデ、ヘラ切り	灰	1/3	焼成並	M50
						ロクロナデ	灰			
71	P20	須恵器有台坏			86	ロクロナデ、ヘラ切り	灰白	1/3	焼成並	M44
						ロクロナデ、ヘラ切り	灰白			
72	P26	須恵器有台坏			78	ロクロナデ、ヘラ切り	灰	1/2	焼成並	M34
						ロクロナデ	灰			
73	P37	須恵器有台坏	126	43	80	ロクロナデ	灰、灰白	1/3 口縁	墨書 文字不明瞭	N7
						ロクロナデ	灰白	1/2 底部		
74	P41	須恵器有台坏			105	ロクロナデ	灰	底部完形		N10
						ロクロナデ	灰白			
75	P47	須恵器有台坏			74	ロクロナデ	灰	1/4		N87
						ロクロナデ	灰			
76	SX 1	須恵器有台坏			102	ロクロナデ	灰白、灰	1/4		N16
						ロクロナデ	灰白			
77	SX 1	須恵器有台坏			105	ロクロナデ	灰白	2/9		N13
						ロクロナデ	灰白			
78	SX 1	須恵器有台坏			84	ロクロナデ	灰	1/4		N15
						ロクロナデ	灰			
79	旧河道2	須恵器有台坏			64	ロクロナデ	灰	1/4	重焼痕	N9
						ロクロナデ	灰			
80	旧河道2	須恵器坏			76	ロクロナデ	黄灰、暗灰	1/2	重焼痕	N24
						ロクロナデ	黄灰			
81	旧河道1	須恵器有台坏			70	ロクロナデ、ナデ	灰褐	1/3		N23
						ロクロナデ	灰褐			
82	旧河道2	須恵器有台坏			79	ロクロナデ、ヘラ切り	灰白	1/3	焼成 やや不良	M169
						ロクロナデ	灰白			
83	旧河道3	須恵器有台坏			76	ロクロナデ、ヘラ切り	灰	1/3	焼成並	M170
						ロクロナデ	灰			
84	SI 11	須恵器有台坏			72	ロクロナデ	灰	1/5		N34
						ロクロナデ	灰			
85	包含層	須恵器有台坏			81	ロクロナデ	黄灰	1/8	焼成並	M88
						ロクロナデ	黄灰			
86	包含層	須恵器有台坏			85	ロクロナデ	灰	1/4	焼成並	M152
						ロクロナデ	灰			
87	包含層	須恵器有台坏			86	ロクロナデ	オリーブ黒、灰	1/4		N10
						ロクロナデ	灰			
88	包含層	須恵器有台坏			100	ロクロナデ	黄灰	1/7		N12
						ロクロナデ	黄灰			
89	包含層	須恵器坏			79	ロクロナデ、ヘラ切り	灰	1/4	焼成並	M139
						ロクロナデ	灰			

番号	グリッド 遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整 (外)	色調 (外)	残存率	備考	実測 番号
						調整 (内)	色調 (内)			
90	包含層	須恵器坏			87	ヘラ切り	灰	1/6	焼成良	M140
						ロクロナデ	灰			
91	SK 32	須恵器坏			60	ロクロナデ	灰黄	1/4		N38
						ロクロナデ	灰黄			
92	SD 1	須恵器坏			60	ロクロナデ、ヘラ切り	灰白	1/6	焼成やや不良	M117
						ロクロナデ	灰白			
93	SD 1	須恵器坏			79	ロクロナデ、ヘラ切り	灰白	1/3	焼成やや不良	M107
						ロクロナデ	灰白			
94	SD 2	須恵器坏			70	ロクロナデ、ヘラ切り	灰白	1/4	煤付着 焼成不良	M65
						ロクロナデ	灰白			
95	SD 2	須恵器坏	127	28	84	ロクロナデ、ヘラ切り	黄灰	1/6	焼成並	M64
						ロクロナデ	黄灰			
96	SD 2	須恵器坏	(131)			ロクロナデ	黄灰	1/14	焼成並	M78
						ロクロナデ	黄灰			
97	SD 8	須恵器坏			76	ロクロナデ	灰褐	1/2	焼成並	M104
						ロクロナデ	灰褐			
98	SD 18	須恵器坏	138	35	74	ロクロナデ	灰、灰黄	1/6	摩耗、焼成不良	N102
						ロクロナデ	灰、灰黄			
99	P2	須恵器坏	115	32	66	ロクロナデ、ヘラ切り	灰黄	1/3	焼成並	M56
						ロクロナデ	灰黄			
100	P5	須恵器坏	133	30	94	ロクロナデ、ヘラ切り	灰	1/4	焼成並、歪み大	M49
						ロクロナデ	灰			
101	P9	須恵器坏			98	ヘラ切り	灰白	1/7	焼成不良	M55
						ロクロナデ	灰白			
102	P22	須恵器坏	133	28	80	ロクロナデ、ヘラ切り	灰	1/4	焼成並	M36
						ロクロナデ	灰			
103	P25	須恵器坏	132	31	82	ロクロナデ、ヘラ切り	灰白	1/5	焼成並	M32
						ロクロナデ	灰白			
104	P28	須恵器坏	116			ロクロナデ、ヘラ切り	灰	1/10	焼成並	M20
						ロクロナデ	灰			
105	P28	須恵器坏	110			ロクロナデ	灰	1/4	焼成並	M19
						ロクロナデ	灰			
106	P35	須恵器坏	121	35	77	ロクロナデ、ヘラ切り	褐灰、灰白	3/5	焼成不良 重焼痕	M28
						ロクロナデ	灰白			
107	P37	須恵器坏	126	31	72	ロクロナデ	灰	1/4	内外面に鉄分付着	N8
						ロクロナデ	灰			
108	P38	須恵器坏	132	34	80	ロクロナデ	灰	1/4	工具痕	N11
						ロクロナデ	灰			
109	P46	須恵器坏			64	ロクロナデ	黒褐	1/3	煤付着、摩耗、焼成不良	N84
						ロクロナデ	灰黄褐、黒褐			
110	旧河道1	須恵器坏			78	ロクロナデ	灰	1/4		N43
						ロクロナデ	灰			
111	旧河道1	須恵器坏			76	ロクロナデ	灰白	1/6	焼成不良	N44
						ロクロナデ	灰白			
112	旧河道1	須恵器坏			60	ロクロナデ	灰白	1/4		N45
						ロクロナデ	灰白			
113	旧河道1	須恵器坏			68	ロクロナデ	灰	1/6		N25
						ロクロナデ	灰			
114	包含層	須恵器坏			76	ロクロナデ	灰白	1/4	焼成不良	N11
						ロクロナデ	灰黄			
115	SK 15	須恵器坏	120			ロクロナデ	褐灰	1/8	焼成並、重焼痕	M8
						ロクロナデ	黄灰			
116	SD 8	須恵器坏	155			ロクロナデ	灰	1/8	焼成良	M102
						ロクロナデ	灰			
117	SD 1	須恵器坏	137			ロクロナデ	灰	1/6	焼成良	M109
						ロクロナデ	灰白			
118	P11	須恵器坏	128			ロクロナデ	灰	1/10	焼成並	M47
						ロクロナデ	灰			
119	P13	須恵器坏	128			ロクロナデ	灰	1/8	焼成並、重焼痕	M48
						ロクロナデ	灰			

番号	グリッド 遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整 (外)	色調 (外)	残存率	備考	実測 番号
						調整 (内)	色調 (内)			
120	P24	須恵器坏	167			ロクロナデ	灰	1/8	焼成良	M31
						ロクロナデ	灰			
121	P33	須恵器坏	107			ロクロナデ	灰白	1/12	焼成良、重焼痕	M26
						ロクロナデ	灰			
122	旧河道1	須恵器坏	128			ロクロナデ	灰白	5/18		N41
						ロクロナデ	灰白			
123	包含層	須恵器坏	(180)			ロクロナデ	黄灰	1/18		N18
						ロクロナデ	黄灰			
124	包含層	須恵器坏	134			ロクロナデ	灰白	1/10	重焼痕	N16
						ロクロナデ	灰			
125	包含層	須恵器坏	142			ロクロナデ	黄灰	1/5		N13
						ロクロナデ	黄灰			
126	包含層	須恵器坏	(138)			ロクロナデ	灰	小片		N17
						ロクロナデ	灰			
127	SD 2	須恵器蓋	つまみ部径 26			ロクロナデ	褐灰	1/3	焼成並	M60
						ロクロナデ	褐灰			
128	SD 8	須恵器蓋	149			ロクロナデ	褐灰	1/7	焼成良、重焼痕	M99
						ロクロナデ	黄灰			
129	P28	須恵器蓋	つまみ部径 26			ロクロナデ	灰	つまみ完形	焼成良	M21
						ロクロナデ	灰			
130	包含層	須恵器蓋	つまみ部径 26			ロクロナデ	灰白	つまみ完形 小片		N8
						ロクロナデ	灰白			
131	包含層	須恵器蓋	170	24	つまみ部径 26	ロクロナデ	灰	1/9		N7
						ロクロナデ	灰			
132	包含層	須恵器蓋	つまみ部径 24			ロクロナデ	灰	1/3		N19
						ロクロナデ	灰			
133	P29	須恵器蓋	14			ロクロナデ	灰	1/8	焼成良、重焼痕	M22
						ロクロナデ	灰			
134	P46	須恵器蓋	179	16	130	ロクロナデ	にぶい黄橙	1/9	焼成不良	N81
						ロクロナデ	にぶい黄橙			
135	包含層	須恵器蓋	108			ロクロナデ	灰白	1/12	焼成並	M151
						ロクロナデ	灰白			
136	SK 30	須恵器蓋	(120)			ロクロナデ	灰	1/9		N35
						ロクロナデ	灰			
137	SD 2	須恵器蓋	164			ロクロナデ	青灰	1/8	焼成良	M62
						ロクロナデ	青灰			
138	SD 2	須恵器蓋	143			ロクロナデ	灰白	1/6	焼成並	M61
						ロクロナデ	灰白			
139	SD 8	須恵器蓋	124			ロクロナデ	灰	1/5	焼成良、重焼痕	M95
						ロクロナデ	灰			
140	SD 8	須恵器蓋	179			ロクロナデ	灰	1/3	焼成並、重焼痕	M94
						ロクロナデ	灰			
141	SD 8	須恵器蓋	116			ロクロナデ	灰	1/8	焼成良、重焼痕	M96
						ロクロナデ	灰			
142	P1	須恵器蓋	(128)			ロクロナデ	灰	小片	焼成並	M17
						ロクロナデ	灰			
143	P6	須恵器蓋	(132)			ロクロナデ	灰	小片	焼成並、重焼痕	M16
						ロクロナデ	灰			
144	P10	須恵器蓋	(160)			ロクロナデ	灰黄	小片	焼成不良	M180
						ロクロナデ	灰黄			
145	P17	須恵器蓋	126			ロクロナデ	黄灰	1/5	焼成並、重焼痕	M42
						ロクロナデ	黄灰			
146	P18	須恵器蓋	133			ロクロナデ	灰	1/12	焼成並	M13
						ロクロナデ	灰			
147	P20	須恵器蓋	165			ロクロナデ	灰	1/12	焼成並、重焼痕	M45
						ロクロナデ	灰			
148	P42	須恵器蓋	(139)			ロクロナデ	灰	1/9		N4
						ロクロナデ	灰			
149	旧河道1	須恵器蓋	(170)			ロクロナデ	灰	小片		N42
						ロクロナデ	灰			

番号	グリッド 遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整 (外)	色調 (外)	残存率	備考	実測 番号
						調整 (内)	色調 (内)			
150	旧河道1	須恵器坏蓋	150		90	ロクロナデ	灰	1/12		N47
						ロクロナデ	灰白			
151	旧河道2	須恵器蓋	180			ロクロナデ	灰	1/12	焼成並	M173
						ロクロナデ	灰			
152	包含層	須恵器蓋	(116)			ロクロナデ	褐	小片	焼成並	M150
						ロクロナデ	褐			
153	包含層	須恵器蓋	119	13		ロクロナデ	灰	1/10	焼成良、重焼痕	M146
						ロクロナデ	灰			
154	包含層	須恵器蓋	(109)			ロクロナデ	灰	小片	焼成並	M149
						ロクロナデ	灰			
155	SK 31	須恵器盤	(162)	30	108	ロクロナデ	灰白、灰	1/9	重焼痕	N32
						ロクロナデ	灰黄、黄灰			
156	P4	須恵器盤	163	25	127	ロクロナデ	黄灰	1/8	焼成良	M52
						ロクロナデ	黄灰			
157	P16	須恵器盤	186	24	164	ロクロナデ	灰、灰白	1/9	焼成良、重焼痕	M40
						ロクロナデ	灰白			
158	P23	須恵器盤	159	27	127	ロクロナデ、ヘラ切り	灰黄	1/4	焼成並	M29
						ロクロナデ	灰黄			
159	P30	須恵器盤			105	ロクロナデ	灰	1/3	焼成良	M23
						ロクロナデ	灰			
160	P31	須恵器盤	161	20	120	ロクロナデ、ヘラ切り	灰	1/16	焼成並	M24
						ロクロナデ	灰			
161	SX 1	須恵器盤	(160)			ロクロナデ	灰白、灰	1/12		N14
						ロクロナデ	灰白			
162	旧河道1	須恵器盤	154	20	124	ロクロナデ	灰	1/7	内外面 黒い一本線 重焼痕	N46
						ロクロナデ	灰			
163	旧河道2	須恵器盤	172	22	127	ロクロナデ、ヘラ切り	灰	1/2	焼成良、重焼痕	M168
						ロクロナデ	灰			
164	旧河道2	須恵器盤	144			ロクロナデ、ヘラ切り	灰	1/6	焼成良、重焼痕	M166
						ロクロナデ	灰			
165	旧河道2	須恵器盤	177			ロクロナデ、ヘラ切り	灰	1/6	焼成良、重焼痕、墨書	M174
						ロクロナデ	灰			
166	包含層	須恵器盤	170	24	150	ロクロナデ	にぶい褐、灰白	1/4	外底部 格子状文様	T43
						ロクロナデ	灰、褐灰			
167	包含層	須恵器盤	(140)			ロクロナデ	灰黄	1/9		N14
						ロクロナデ	黄灰			
168	包含層	須恵器盤	138			ロクロナデ	灰	1/7		N15
						ロクロナデ	灰			
169	旧河道1	須恵器有台皿	138	32	66	ロクロナデ	灰	口縁 1/4 底部完形		N40
						ロクロナデ	灰			
170	P38	須恵器小壺	66	51	50	ロクロナデ	黄、黄灰	口縁 1/5 底部 1/2		N12
						ロクロナデ	灰			
171	SK 25	須恵器甕	267			ロクロナデ	黒褐、黄灰	1/14	焼成並	M131
						ロクロナデ	黄灰			
172	SK 25	須恵器甕	286			ロクロナデ	灰	1/10	焼成並	M130
						ロクロナデ	黄灰			
173	SK 25	須恵器瓶	180			ロクロナデ	黄灰	1/10	焼成良	M129
						ロクロナデ	黄灰			
174	SD 8	須恵器瓶	166			ロクロナデ	灰黄	1/8	焼成良、降灰	M100
						ロクロナデ	黄灰			
175	SD 2	須恵器甕	254			ロクロナデ	黄灰	1/20	焼成並	M69
						ロクロナデ	灰白			
176	旧河道2	須恵器甕	239			ロクロナデ	灰、黒褐	小片	焼成並、自然釉降灰	M172
						ロクロナデ	灰オリーブ			
177	P48	須恵器瓶	115			ロクロナデ	黄灰	1/5	自然釉降灰	N80
						ロクロナデ	黄灰			
178	旧河道1	須恵器瓶		頸部径 63		ロクロナデ	黄灰、灰黄	1/2	自然釉降灰	N22
						ロクロナデ	黄灰			
179	SK 6	須恵器横瓶	R(206)			カキ目	灰黄	小片	焼成良、自然釉 指頭圧痕、同心円	M6
						タタキ	灰白			

番号	グリッド 遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整 (外)	色調 (外)	残存率	備考	実測 番号
						調整 (内)	色調 (内)			
180	SD 2	須恵器甕	388			ナデ	灰、灰オリーブ	1/10	降灰	M87
						ナデ、タタキ	灰			
181	SD 8	須恵器甕			216	ナデ、タタキ	黄灰	1/8	焼成良、降灰、同心円	M101
						ナデ	黄灰			
182	P19	須恵器甕		頸部径 195		ナデ、タタキ	黄灰	1/8	焼成並 細かなウロコ状 同心円	M46
						ナデ、タタキ	褐灰			
183	包含層	須恵器甕		頸部径 313		ナデ	黒褐、黄灰	小片	焼成良、降灰、同心円	M91
						ナデ、タタキ	灰			
184	SD 2	須恵器瓶			163	ナデ	灰	1/4	焼成並、降灰	M83
						ナデ	灰			
185	SD 2	須恵器瓶			113	ナデ	褐灰	1/8	焼成並	M80
						ナデ	灰白			
186	P15	須恵器瓶			102	ナデ	灰	1/5	焼成並	M41
						ナデ	灰白			
187	包含層	須恵器瓶	155			ナデ	灰	1/6	焼成並	M89
						ハケ	灰			
188	包含層	須恵器瓶			128	ナデ	灰、灰白	1/4	焼成良	M142
						ハケ	灰			
189	SD 8	須恵器瓶			143	タタキ、ナデ、ハケ	灰	1/5	焼成並	M106
						タタキ、ナデ、ハケ	灰白			
190	SD 9	須恵器瓶			114	ナデ	灰	1/2	焼成良、降灰	M105
						ハケ、ナデ	灰白			
191	旧河道1	土師器有台碗			84	ナデ	にぶい黄橙	1/5	外面 赤彩 内面 黒色	N58
						ミガキ	黒			
192	SX 3	土師器有台碗			69	ミガキ	にぶい褐	8/9	外面 摩耗、赤彩 内面 黒色	N31
						ミガキ	黒			
193	包含層	土師器有台碗			70	ナデ	にぶい黄橙、灰	2/3	外面 赤彩 内面 黒色、剥離	N62
						ナデ	オリーブ黒			
194	SK 25	土師器碗			74	ナデ	にぶい黄橙、にぶい橙	1/4	焼成不良、剥離ぎみ	M127
						ナデ	にぶい橙			
195	旧河道1	土師器有台碗			66	ナデ	にぶい橙	1/5	摩耗	N52
						ナデ	にぶい褐、灰黄褐			
196	SD 6	土師器碗			46	ナデ	にぶい橙	1/8	外面 赤彩 内面 黒色	N69
						ミガキ	オリーブ黒			
197	SK 42	土師器碗	169	55	69	ナデ、回転糸きり後ナデ	にぶい黄橙	底部ほぼ完形 口縁 1/3		N88
						ミガキ	黒			
198	SD 8	土師器碗			53	ナデ	にぶい黄橙	1/3	焼成並、摩耗	M93
						ナデ	褐灰			
199	旧河道1	土師器碗			48	ナデ	にぶい黄橙	1/4		N56
						ナデ	黒			
200	旧河道1	土師器碗			68	ナデ	にぶい黄橙	1/2		N53
						ミガキ	オリーブ黒			
201	旧河道1	土師器坏			68	ナデ	にぶい黄橙、オリーブ黒	底部完形		N63
						ミガキ	黒			
202	包含層	土師器碗			66	ナデ	にぶい黄橙	2/9		N2
						ナデのちミガキ	黒褐			
203	P76	土師器碗			45	ナデ	にぶい黄橙	1/4	内面黒色、焼成並	M14
						ナデ	黒褐			
204	包含層	土師器碗			48	ナデ	にぶい黄橙	1/2		N71
						ミガキ	黒			
205	SK 15	土師器碗			81	ナデ	にぶい黄橙	1/4	焼成並、糸切り痕	M7
						ナデ	にぶい黄橙			
206	SD 1	土師器碗			64	ナデ	橙	1/4	焼成並	M116
						ナデ	橙			
207	P37	土師器碗	(136)			ヨコナデ	にぶい黄橙、橙	1/9	外面 赤彩、摩耗 内面 黒色	N9
						ミガキ	黒			
208	旧河道1	土師器碗	160			ナデ	にぶい黄橙、にぶい黄褐	1/7	口縁部摩耗、赤彩	N59
						ミガキ	黒、にぶい黄橙			
209	包含層	土師器碗	(140)			ヨコナデ	にぶい褐	小片	外面摩耗、赤彩 内面黒色	N3
						ナデ、ミガキ	黒褐			

番号	グリッド 遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整 (外)	色調 (外)	残存率	備考	実測 番号
						調整 (内)	色調 (内)			
210	SD 6	土師器埴	(180)			ナデ	にぶい黄橙	小片	摩耗	N61
						ミガキ	オリーブ黒			
211	P48	土師器埴	(166)			ヨコナデ	浅黄橙、灰	1/12	内外面摩耗	N82
						ミガキ	黒			
212	旧河道1	土師器埴	(210)			ナデ	にぶい黄橙、灰	1/18		N55
						ミガキ	黒			
213	旧河道1	土師器埴	230			ナデ、ミガキ	にぶい黄橙、オリーブ黒	1/3		N51
						ミガキ	黒、オリーブ黒			
214	包含層	土師器埴	(212)			ナデ、ミガキ	にぶい黄橙、オリーブ黒	1/9	内面黒色	N54
						ミガキ	オリーブ黒、黒			
215	包含層	土師器埴	(110)			ヨコナデ	黒褐、浅黄橙	小片	外面摩耗	N1
						ナデ、ミガキ	黒			
216	包含層	土師器埴	(107)			ナデ	灰白、褐灰	小片	焼成並、黒斑	M27
						ミガキ	黒褐			
217	包含層	土師器埴	(141)			ナデ	黒褐、にぶい黄橙	小片	焼成並、煤付着	M54
						ミガキ	黒褐			
218	包含層	土師器埴	(120)			ロクロナデ	にぶい黄橙、褐灰	1/12	内面黒色	N60
						ミガキ	黒			
219	包含層	土師器皿	(140)			ヨコナデ	褐灰、にぶい黄橙	小片	内面黒色	N6
						ナデ、ミガキ	黒			
220	旧河道1	土師器皿	145	26	56	ロクロナデ	にぶい褐	口縁 わずか 底部 1/4	外面 赤彩 内面 黒色	N57
						ミガキ	黒			
221	SK 15	土師器鉢	172			ナデ	浅黄橙	1/12	焼成良	M121
						ナデ	浅黄橙			
222	SK 30	土師器埴	(310)			ナデ	にぶい黄橙	小片		N36
						ナデ、カキ目	にぶい黄橙			
223	SD 2	土師器甕	(331)			ナデ	灰白	小片	焼成不良	M84
						ナデ	灰白			
224	SD 16	土師器甕	(282)			ナデ	にぶい黄橙	小片		N37
						ナデ	にぶい黄橙			
225	SD 8	土師器甕	(200)			ナデ	浅黄橙、にぶい黄褐	小片	焼成良、煤付着	M98
						ナデ	浅黄橙、にぶい黄褐			
226	P8	土師器甕	136			ナデ	にぶい褐、黒褐	1/8	焼成不良	M53
						ナデ	にぶい褐、黒褐			
227	P20	土師器甕	160			ナデ	にぶい黄褐	1/12	焼成良	M12
						ナデ	にぶい黄褐			
228	P21	土師器甕	183			ヨコナデ	浅黄橙	1/10	焼成並	M38
						ヨコナデ	浅黄橙			
229	P21	土師器甕	233			ヨコナデ	浅黄橙	1/10	焼成並、煤付着	M39
						ヨコナデ	浅黄橙			
230	P21	土師器甕	212			ヨコナデ	浅黄橙、にぶい黄橙	1/4	焼成並、煤付着	M37
						ヨコナデ	にぶい褐、浅黄橙			
231	P32	土師器甕	160			ナデ	にぶい橙	1/14	焼成並	M11
						ナデ	にぶい橙			
232	P34	土師器甕	(275)			ナデ	にぶい橙	小片	焼成良	M25
						ナデ	にぶい橙			
233	包含層	土師器甕	224	頸部径 180		ナデ、カキ目	にぶい黄橙	1/4	内外面摩耗	N70
						ナデ	にぶい黄橙			
234	包含層	土師器甕	(201)			ヨコナデ	にぶい橙	小片	焼成並	M156
						ヨコナデ	にぶい橙			
235	包含層	土師器甕	216	頸部径 190		ヨコナデ	浅黄橙	小片	内面摩耗	N46
						ヨコナデ	浅黄橙			
236	旧河道1	土師器甕			76	ナデ	灰黄	1/4		N21
						ナデ	にぶい黄橙			
237	SD 8	土師器甌				ナデ	にぶい黄橙		把手、煤付着	M154
							にぶい橙			
238	旧河道2	土師器皿	77			ナデ	にぶい黄橙、褐灰	1/2	焼成並 全体の3/4くらい黒斑	M157
						ナデ	褐灰、にぶい橙			
239	SI 5	土師器皿	78	16	48	ナデ	にぶい黄橙	1/4		N63
						ナデ	にぶい黄橙			

番号	グリッド 遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整 (外)	色調 (外)	残存率	備考	実測 番号
						調整 (内)	色調 (内)			
240	SI 5	土師器皿	68	13	54	ヨコナデ	にぶい橙	口縁 1/12 底部 1/3	歪み	N84
						ナデ、ヨコナデ	にぶい橙			
241	SI 5	土師器皿	80	11	64	ナデ	橙、にぶい橙	1/6	内外面摩耗	N85
						ナデ	橙、にぶい橙			
242	SI 6	土師器皿	72	16	46	ヨコナデ	にぶい黄橙	1/6		N16
						ナデ	にぶい黄橙			
243	SI 6	土師器皿	62	13	38	ヨコナデ	にぶい黄橙	1/6		N17
						ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙			
244	SI 6	土師器皿	62	15	30	ヨコナデ	にぶい黄橙	1/6		N21
						ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙			
245	SI 6	土師器皿	80			ヨコナデ	にぶい黄橙	1/6		N23
						ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙			
246	SI 6	土師器皿	(90)	24		ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙	小片		N14
						ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙			
247	SI 6	土師器皿	72			ナデ	にぶい黄橙	1/5	内外面摩耗	N20
						ナデ	にぶい黄橙			
248	SI 6	土師器皿	94			ヨコナデか	にぶい黄橙、褐灰	1/7	内外面摩耗	N18
						ヨコナデか	にぶい黄橙			
249	SI 6	土師器皿	90		10	ヨコナデ	にぶい黄橙	1/7		N19
						ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙			
250	SI 6	土師器皿	101	17	70	ヨコナデ	灰黄褐、にぶい黄橙	1/6		N11
						ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙			
251	SI 9	土師器皿	76	8~12	53	ナデ	にぶい橙	1/2	内外面摩耗、歪み	N52
						ナデ	にぶい橙			
252	SI 9	土師器皿	80	13	52	ナデ	にぶい橙	1/9	内外面摩耗	N53
						ヨコナデ	にぶい橙			
253	SI 9	土師器皿	(80)	12	50	ナデ	にぶい橙	1/7	内外面摩耗	N54
						ナデ	にぶい橙、灰褐			
254	SI 10	土師器皿	78	18	40	ナデ	にぶい橙	ほぼ完形	摩耗	N30
						ナデ	にぶい橙			
255	SI 10	土師器皿	78			ナデ	にぶい黄橙	1/5	摩耗	N31
						ヨコナデ	にぶい橙			
256	SI 12	土師器皿	95	16	50	ナデ	にぶい黄橙	1/7	摩耗	N35
						ヨコナデ	にぶい橙			
257	SI 12	土師器皿	84	17	40	ヨコナデ、ナデ	浅黄橙、黒褐、褐灰	口縁 1/6 底部 5/12		N36
						ナデ、ヨコナデ	灰白、黒褐、褐灰			
258	SI 13	土師器皿	74	12	54	ナデ	浅黄橙	1/4	内外面摩耗	N106
						ナデ	にぶい橙			
259	SK 16	土師器皿	91	16		ナデ	にぶい橙、にぶい黄橙	ほぼ完形	焼成不良	M10
						ナデ	にぶい黄橙			
260	SK 30	土師器皿	86			ヨコナデ	にぶい黄橙	1/6		N34
						ナデ	にぶい黄橙			
261	SK 31	土師器皿	66	13	20	ナデ	にぶい橙、灰褐	1/6	内外面摩耗、煤付着 灯明痕	N30
						ナデ	橙、灰褐			
262	SK 37	土師器皿	90			ナデ	にぶい黄橙	1/4	内面摩耗	N45
						ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙			
263	SK 37	土師器皿	94			ヨコナデ	にぶい黄橙	1/7		N46
						ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙			
264	SD 1	土師器皿	89	13		ナデ	橙	1/5	焼成良	M114
						ナデ	橙			
265	SD 1	土師器皿	77	21		ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙	1/6	焼成良、指頭圧痕	M113
						ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙			
266	SD 2	土師器皿	95	22		ナデ	灰白	1/4	焼成並	M58
						ナデ	にぶい橙			
267	SD 14	土師器皿	82	15	50	ヨコナデ、ナデ	にぶい橙	1/3		N77
						ヨコナデ、ナデ	橙			
268	SD 14	土師器皿	93	18	40	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙	1/7	歪み	N76
						ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙、黒褐			
269	SD 29	土師器皿	68~75	15	40	ナデ	にぶい黄橙	3/4	内外面摩耗	N101
						ナデ	にぶい黄橙			

番号	グリッド 遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整 (外)	色調 (外)	残存率	備考	実測 番号
						調整 (内)	色調 (内)			
270	P55	土師器皿	(76)	15	50	ヨコナデ	にぶい橙、黒褐	1/9	油煤付着	N92
						ナデ、ヨコナデ	浅黄橙、黒褐			
271	P56	土師器皿	(104)	13	74	ヨコナデ	にぶい橙	1/9	外面摩耗	N89
						ヨコナデ	にぶい橙			
272	P58	土師器皿	62	12	30	ヨコナデ	にぶい橙	2/9	内外面摩耗	N104
						ヨコナデ	にぶい橙			
273	P62	土師器皿	(69)	90	50	ヨコナデ、ナデ	浅黄橙、黒	1/9	内外面煤付着	N93
						ナデ、ヨコナデ	浅黄橙、黒			
274	P66	土師器皿	70	12	40	ヨコナデ	にぶい黄橙	1/5	摩耗により調整不明瞭	N69
						ヨコナデ	にぶい黄橙、灰黄褐			
275	P67	土師器皿	68	10~12		ヨコナデ	にぶい橙	2/9	内外面摩耗、油煤付着 歪み	N101
						ヨコナデ	黒			
276	P70	土師器皿	90	12	70	ヨコナデ	にぶい黄橙、にぶい橙	1/6	摩耗	N98
						ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙、にぶい橙			
277	SX 2	土師器皿	82	16		ヨコナデ、指頭圧痕	にぶい褐	1/4	焼成並 指頭圧痕、掌の痕?	M5
						ナデ	灰褐			
278	旧河道2	土師器皿	88	12	76	ナデ	にぶい橙、褐灰	4/5	指頭圧痕	M158
						ナデ	橙			
279	旧河道2	土師器皿	76	14		ナデ	灰黄橙	1/6	焼成不良、指頭圧痕	M159
						ナデ	にぶい褐			
280	旧河道2	土師器皿	79	18		ナデ	浅黄橙	ほぼ完形	焼成良	M164
						ナデ	浅黄橙			
281	包含層	土師器皿	90	15	54	ヨコナデ、ナデ	にぶい橙	1/9		N72
						ヨコナデ、ナデ	にぶい橙			
282	SI 5	土師器皿	113			ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙	1/9		N65
						ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙			
283	SI 5	土師器皿	110			ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙	1/5		N64
						ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙			
284	SI 5	土師器皿	110			ヨコナデ	にぶい黄橙	1/9		N66
						ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙			
285	SI 6	土師器皿	(114)			ヨコナデ	にぶい黄橙	1/7		N22
						ヨコナデ	にぶい黄橙			
286	SI 6	土師器皿	116	21	66	ヨコナデ	にぶい黄橙	1/2		N12
						ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙			
287	SI 6	土師器皿	(110)			ナデ	にぶい黄橙	小片		N15
						ナデ	にぶい黄橙			
288	SI 11	土師器皿	110			ナデ	浅黄橙、灰白	1/6	内外面摩耗	N33
						ナデ	浅黄橙、灰白			
289	SI 12	土師器皿	(125)			ナデ、ヨコナデ	にぶい橙	小片	内面摩耗	N37
							にぶい橙			
290	SI 14	土師器皿	112	26	68	ヨコナデ	にぶい黄橙	1/6	摩耗、外面剥離	N109
						ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙			
291	SD 2	土師器皿	123			ナデ	橙	1/8	焼成並	M57
						ナデ	橙			
292	SD 17	土師器皿	(130)			ロクロナデ	にぶい黄橙	1/12		N50
							にぶい黄橙			
293	SD 30	土師器皿	105	25	70	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙	1/3		N91
						ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙、灰黄褐			
294	SX 5	土師器皿	120			ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙	1/12		N50
						ナデ、ヨコナデ	にぶい橙、黒褐			
295	包含層	土師器皿	110	20	80	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙、灰白	1/6	外面摩耗	N125
						ヨコナデ	にぶい黄橙			
296	包含層	土師器皿	114	24	82	ヨコナデ	にぶい黄橙	1/4	付着物多い	N131
						ヨコナデ	にぶい黄橙			
297	包含層	土師器皿	114			ヨコナデ	にぶい黄橙	1/9	外面摩耗	N130
						ヨコナデ	にぶい黄橙			
298	SI 12	土師器皿	152			ヨコナデ	にぶい黄橙	1/7	内外面摩耗	N38
						ヨコナデ	にぶい橙			
299	SD 1	土師器皿	135			ナデ	浅黄橙、にぶい黄橙	1/8		M108
						ナデ	浅黄橙			

番号	グリッド 遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整 (外)	色調 (外)	残存率	備考	実測 番号
						調整 (内)	色調 (内)			
300	SD 1	土師器皿	148			ナデ	橙	1/8	焼成並、指頭圧痕	M115
						ナデ	橙			
301	P50	白磁碗	(160)			白磁釉	灰白	1/18		N83
						白磁釉	灰白			
302	P74	白磁碗	(150)			白磁釉	灰白	1/12		N97
						白磁釉	灰白			
303	包含層	白磁碗			60	白磁釉	灰白	1/3	蛇ノ目釉剥ぎ アルミナ付着	M148
						白磁釉	灰白			
304	SD 2	白磁皿	108			白磁釉	灰白	1/16		M185
						白磁釉	灰白			
305	P72	白磁皿	114			白磁釉	灰白	1/6		N99
						白磁釉	灰白			
306	P49	白磁皿			40	白磁釉	灰白、灰オリーブ	1/2	糸切り痕	N86
						白磁釉	灰白、灰			
307	SI 5	青磁碗	(172)			青磁釉	オリーブ灰	1/18		N56
						青磁釉	オリーブ灰			
308	SI 5	青磁碗	(148)			青磁釉	灰オリーブ	1/12		N57
						青磁釉	灰オリーブ			
309	P71	青磁碗	150			青磁釉	灰	1/7		N79
						青磁釉	灰			
310	P57	青磁碗	(140)			青磁釉	灰オリーブ	小片	蓮弁文	N103
						青磁釉	灰オリーブ			
311	P54	青磁碗			94	青磁釉	明緑灰	1/9	内外摩耗、釉剥ぎ	N100
						青磁釉	明緑灰			
312	SI 8	青磁皿	(154)	2.8		青磁釉	灰オリーブ	1/18	蓮弁文	N51
						青磁釉	灰オリーブ			
313	SI 10	青磁皿	88	30	40	青磁釉	明オリーブ	口縁 1/4 底部 1/2強	釉剥ぎ	N27
						青磁釉	オリーブ灰			
314	SI 4	青磁皿	80			青磁釉	明緑灰	小片		M125
						青磁釉	明緑灰			
315	SI 6	瀬戸平碗	170			灰釉	灰オリーブ	1/2		N2
						灰釉	灰オリーブ			
316	SK 37	瀬戸平碗	(160)			灰釉	灰オリーブ、灰白	1/18	露胎	N43
						灰釉	灰オリーブ			
317	SD 19	瀬戸平碗	(162)			灰釉	オリーブ黄、灰黄	1/18	露胎	N124
						灰釉	オリーブ黄			
318	SI 5	瀬戸天目 茶碗	(130)			鉄釉	黒、にぶい褐	1/18		N57
						鉄釉	黒、にぶい褐			
319	SK 25	瀬戸天目 茶碗	120	62	46	鉄釉	暗赤褐、赤黒	ほぼ完形	釉に光沢が無い	M137
						鉄釉	にぶい赤褐			
320	SI 5	瀬戸卸皿	(190)			灰釉	灰白	1/18	卸目わずかに残る	N1
						灰釉	灰白			
321	SI 6	瀬戸卸皿			(62)		にぶい黄橙	小片	卸目、回転糸切り痕	N3
							にぶい黄橙、褐			
322	P75	瀬戸卸皿			(78)		淡黄	小片	卸目、回転糸切り痕	N111
							灰白			
323	P59	瀬戸折縁 皿	(198)			灰釉	灰オリーブ	1/18		N102
							オリーブ灰			
324	P66	瀬戸大皿	(240)				灰白	1/9		N68
							灰白			
325	SI 5	瀬戸皿			(76)		灰白	1/7	回転糸切り痕	N59
							灰白			
326	SI 5	瀬戸直縁 大皿			130		にぶい黄橙	1/4	回転糸切り痕	N60
							灰白			
327	P65	瀬戸瓶子	体部最大径 178			灰釉	灰オリーブ	口縁なし 体部 2/3程度	指頭圧痕	N77
							灰黄			
328	包含層	瀬戸瓶子			94		にぶい黄橙	1/4		N114
							にぶい黄			
329	SI 13	瀬戸壺	127				オリーブ黄	小片	漆継ぎ	N105
							灰オリーブ			

番号	グリッド 遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整 (外)	色調 (外)	残存率	備考	実測 番号
						調整 (内)	色調 (内)			
330	SD 17	瀬戸壺	116			灰釉	黄と灰オリーブ混合	1/9		N49
						灰釉	灰オリーブ			
331	SK 38	瀬戸水注				灰釉	灰オリーブ、灰白	小片		N280
							灰白、灰			
332	SK 31	加賀甕					灰オリーブ	小片		N33
							灰黄			
333	SD 29	加賀甕					灰	小片		N108
							灰			
334	SK 26	越前甕			142		にぶい橙	1/6	焼成並、降灰	M123
							明褐			
335	SK 37	越前甕			(130)		灰褐、黒褐、灰褐	小片		N47
							暗灰褐			
336	SD 1	越前甕			161		褐灰	1/4	板状具痕、指頭圧痕 焼成並	M118
							にぶい黄橙			
337	SD 2	越前 すり鉢	315				にぶい黄橙	小片	焼成並	M82
							にぶい黄橙			
338	SD 2	越前 すり鉢					にぶい黄橙	小片	焼成並、卸目9本	M71
							灰白			
339	SK 29	越前壺	96				灰オリーブ、にぶい黄褐	1/4	自然釉、接合痕	N26
							灰オリーブ、にぶい黄褐			
340	SK 37	珠洲小壺	体部最大径 70				灰、灰白	4/9		N40
							灰白			
341	SD 2	珠洲甕			112		灰黄	1/3	焼成並	M75
							灰白			
342	SD 2	珠洲甕			197		灰白	1/4	焼成並	M74
							灰			
343	SD 2	珠洲甕	487				オリーブ黒、灰	小片	焼成並	M81
							オリーブ黒、灰			
344	包含層	珠洲壺					灰	小片	焼成良	M90
							灰			
345	P73	珠洲壺	175				灰	1/4	自然釉	N87
							灰			
346	SD 2	珠洲壺			117		灰	1/12	焼成並	M76
							灰			
347	SD 2	珠洲壺			192		灰	1/8	焼成並	M72
							灰			
348	包含層	珠洲壺			120		灰	1/6	静止糸切り痕	N115
							灰			
349	SI 6	珠洲 すり鉢			(120)		灰白	1/2	静止糸切り痕、指頭圧痕、 卸目	N7
							灰白			
350	SK 3	珠洲 すり鉢	384	130	165		灰	ほぼ完形	櫛目波状文、卸目9本	M1
							黄灰			
351	SI 10	珠洲 すり鉢	(340)				灰	小片	卸目	N29
							灰			
352	SK 37	珠洲 すり鉢			126		灰白、黄灰	1/4	工具痕、指頭圧痕、卸目	N41
							灰			
353	SK 37	珠洲 すり鉢			(124)		灰	1/9	指頭圧痕、卸目	N42
							灰白、灰			
354	SD 2	珠洲 すり鉢	200				灰	1/8	重焼痕、焼成並	M79
							灰			
355	SD 2	珠洲 すり鉢			107		灰	1/2	焼成並、 回転糸切り痕	M73
							灰白			
356	SD 2	珠洲 すり鉢	360				灰白	1/12	焼成並	M70
							灰白			
357	SD 17	珠洲 すり鉢	288				灰	1/7		N48
							灰			
358	SD 28	珠洲 すり鉢	(238)				灰	小片	骨針 卸目	N110
							灰			
359	P64	珠洲 すり鉢	(304)				灰	1/12	卸目	N78
							灰			

番号	グリッド 遺構	器種	口径 (mm)	器高 (mm)	底径 (mm)	調整 (外)	色調 (外)	残存率	備考	実測 番号
						調整 (内)	色調 (内)			
360	旧河道2	珠洲 すり鉢					黄灰 黄灰	小片	焼成並	M167
361	SX 5	珠洲 すり鉢					灰 灰	小片	卸目	N49
362	壁面	珠洲 すり鉢	(334)				灰 灰、暗黄灰	1/9	卸目	N127
363	包含層	珠洲 すり鉢	272				灰 灰	1/8	焼成並	M144
364	包含層	珠洲 すり鉢	(200)				灰黄 黄灰、灰黄	1/18		N132
365	包含層	珠洲 すり鉢			114		灰白 灰白	1/3	焼成不良、静止糸切り	M141
366	SK 45	瓦質火鉢			138		にぶい黄橙 黄灰	1/3		N104
367	包含層	越前 すり鉢	297				灰褐、にぶい橙 にぶい橙、灰褐	1/9	焼成良、卸目6本	M145
368	SD 3	肥前碗			45	施釉	灰白、にぶい橙 灰	1/2		N27
369	SD 3	唐津碗			58	透明釉 透明釉	にぶい橙 灰黄	1/4	露胎	N29
370	包含層	肥前碗			45	透明釉 透明釉	オリーブ灰 明緑灰	1/4	見込みに染付菊花文	M147
371	SI 4	肥前皿			32	透明釉 露胎	灰白、橙 灰白、橙	ほぼ完形	焼成並 煤附着、碁笥底	M124
372	包含層	肥前皿			44	透明釉 透明釉	灰白、にぶい橙 灰白、にぶい橙	ほぼ完形	畳付全面に砂付着 蛇ノ目釉剥ぎ	M120
373	SK 25	肥前碗			57	透明釉 透明釉	青灰 青灰	1/8	染付	M136
374	SK 27	肥前碗			35	透明釉 透明釉	灰白 灰白	1/2	色絵 見込みに赤銅色で文字	M122
375	SK 46	瀬戸平碗			65	灰釉 灰釉	オリーブ灰、灰白 オリーブ灰	完形	露胎、砂目	N90
382	SI 6	漆器皿			52	黒漆 黒漆				N9

第3表 土製品観察表

番号	グリッド	器種	最大長	最大幅	最大厚	色調	備考	実測 番号
	遺構		(mm)	(mm)	(mm)			
376	SK 25	土鈴		18.0	15.0	橙、浅黄橙 にぶい褐	焼成並、中空 手捏ね	M128
377	SI 6	土錘	42.0	28.0	7.0	にぶい黄橙 橙		N13
378	P44	土錘	45.0	27.0	25.0	にぶい褐 灰黄褐		N85
379	包含層	土錘	44.0	21.0	21.0	灰白		N74
380	SI 6	壁土	94.0	78.0	39.0		工具痕	N26
381	SD 3	土人形	44.0	44.0	28.0	にぶい黄橙 にぶい黄橙	男性座像、刀穴有り 底部穿孔有り	N28

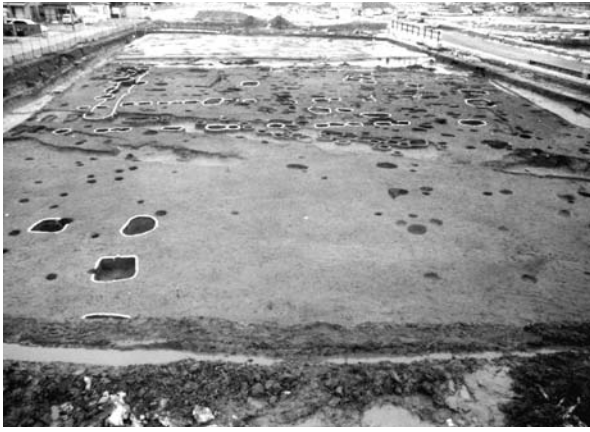
第4表 石製品観察表

番号	グリッド	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	石 材	備 考	実測 番号
	遺構		(mm)	(mm)	(mm)	(g)			
383	SK 37	火打石	32.0	26.0	17.0	13	石英		N44
384	P96	基石 (白)	30.0	21.0	16.0	13.5	頁岩		N96
385	P60	砥石	74.0	35.0	19.0	66.5	凝灰岩	中砥石	N83
386	SD 2	砥石	51.0	34.0	13.0	30	緑色凝灰岩	中砥石	M86
387	P45	砥石	36.0	38.0	24.0	37.6	凝灰岩	中砥石	N39
388	壁面	砥石	102.0	44.0	27.0	127.5	凝灰岩	中砥石	N126
389	SI 10	砥石	40.0	29.5	12.0	15	粘板岩	仕上砥	N32
390	SI 6	砥石	15.0	27.0	5.0	2.6	粘板岩	仕上砥	N4
391	SI 5	砥石	58.0	29.0	6.0	20.6	粘板岩	仕上砥	N55
392	壁面	砥石	44.0	36.0	11.0	26.3	粘板岩	仕上砥	N128
393	SI 7	砥石	130.0	99.0	76.0	330	凝灰岩	煤付着、剥離	N67
394	SK 37	行火	53.0	71.0	34.0	63.8	凝灰岩		N75
395	SD 19	行火	116.0	101.0	77.0	339	凝灰岩		N122
396	SD 19	行火	108.0	133.0	41.0	209	凝灰岩	剥離	N123
397	SI 6	炉縁石	212.0	140.0	102.0	2,020	凝灰岩	煤付着、剥離	N5
398	SX 4	炉縁石	185.0	127.0	110.0	1,830	凝灰岩	煤付着、剥離	N89
399	包含層	相輪	342.0	164.0	158.0	6,900	緑色凝灰岩	宝篋印塔	M2
400	SI 12	砥石	279.0	148.0	56.0	3,650	砂岩	荒砥	N117
401	SK 38	砥石	122.0	121.0	91.0	1,960	粗流凝灰岩	荒砥	N95
402	P65	砥石	178.0	107.0	79.0	2,000	凝灰岩		N86
403	SK 37	磨石類	100.0	75.0	54.0	540	火山礫凝灰岩	煤付着	N71
404	SI 6	自然石	143.0	120.0	34.0	915	火山礫凝灰岩	煤付着	N25
405	SI 6	自然石	138.0	138.0	50.0	1,120	火山礫凝灰岩	煤付着	N24
406	SI 12	自然石	147.0	141.0	73.0	2,130	火山礫凝灰岩	煤付着	N111
407	SI 12	自然石	118.0	140.0	72.0	1,320	凝灰岩	煤付着	N108
408	SI 12	自然石	171.0	122.0	61.0	1,580	火山礫凝灰岩	煤付着	N121
409	SI 12	自然石	147.0	127.0	52.0	1,335	凝灰岩	煤付着	N110
410	SI 12	自然石	235.0	148.0	92.0	4,700	火山礫凝灰岩	煤付着	N112
411	SI 12	自然石	125.0	113.0	42.0	760	粗流凝灰岩	煤付着	N107
412	SI 12	自然石	130.0	107.0	29.0	510	凝灰岩	煤付着	N120

番号	グリッド	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	石 材	備 考	実測 番号
	遺構		(mm)	(mm)	(mm)	(g)			
413	SI 12	自然石	169.0	124.0	95.0	1,990	安山岩	煤付着 剥離	N109
414	SI 12	自然石	236.0	108.0	105.0	3,330	火山礫凝灰岩	煤付着	N116
415	SI 12	自然石	166.0	104.0	102.0	1,829	凝灰岩	煤付着	N119
416	SI 12	自然石	162.0	138.0	70.0	1,900	火山礫凝灰岩	煤付着	N115
417	SI 12	自然石	195.0	143.0	83.0	3,200	緑色凝灰岩	煤付着	N106
418	SI 12	自然石	221.0	118.0	68.0	278	火山礫凝灰岩	煤付着	N118
419	SK 37	自然石	61.5	138.0	73.0	790	砂岩	煤付着	N76
420	SK 37	自然石	228.0	142.0	96.0	3,500	火山礫凝灰岩	煤付着	N72
421	SK 37	自然石	175.0	154.0	82.0	2,600	火山礫凝灰岩	煤付着	N73
422	SK 38	自然石	214.0	122.0	55.0	1,330	緑色凝灰岩	煤付着	N94
423	SK 37	自然石	133.0	97.0	47.0	905	凝灰岩	煤付着	N74
424	SI 1	磨製石斧	111.0	50.0	23.0	150	蛇紋岩		T42
425	SI 2	打製石斧	155.0	70.0	19.0	190	緑色凝灰岩		N66
426	SI 3	打製石斧	132.0	81.0	29.0	330	火山礫凝灰岩	完形	T17
427	P68	打製石斧	175.0	95.0	35.0	690	火山礫凝灰岩		N82
428	SD 1	打製石斧	140.0	75.0	22.0	272	火山礫凝灰岩		M119
429	SD 29	打製石斧	126.0	81.0	19.0	201	火山礫凝灰岩		N107
430	旧河道2	打製石斧	144.0	174.0	28.0	346	凝灰岩		M182
431	包含層	打製石斧	154.0	104.0	25.0	495	粗流凝灰岩		M155

第5表 鉄製品・銅製品観察表

番号	グリッド	器種	最大長	最大幅	最大厚	質量	備考	実測 番号
	遺構		(mm)	(mm)	(mm)	(g)		
432	SD 14	鉄滓	58.0	43.0	27.0	53.0		N79
433	SD 14	鉄滓	61.0	56.0	33.0	102.1		N78
434	P27	鉄製品	60.0	45.0	18.0	30.8		M35
435	P63	鉄滓	37.0	52.0	22.5	43.6		N88
436	SI 5	釘	48.0	14.0	11.0	7.6		N61
437	SI 5	釘	48.0	11.0	11.0	3.5		N62
438	SI 6	釘	34.0	12.0	13.0	2.6		N10
439	SK 36	釘	23.0	10.0	9.0	1.4		N48
440	SK 38	釘	35.0	13.0	10.0	3.2		N81
441	SK 46	棒状製品	36.0	11.0	10.5	3.9		N113
442	SD 18	釘	34.0	15.5	9.0	2.4		N103
443	P56	釘	44.0	14.0	14.0	8.3		N90
444	P56	釘	28.0	11.0	8.00	1.2		N91
445	包含層	釘	44.0	15.0	14.0	8.3		N129
446	包含層	刀子	48.0	15.0	11.0	6.4		N20
447	SK 46	刀子	99.0	24.5	16.0	27.6		N112
448	P66	刀子	74.0	24.0	14.0	22.7		T 30
449	SK 25	皿	109.0	90.0	3.0	148.8		M138
450	SI 6	錫杖	109.0	61.0	14.0	30.4		N133
451	SD 4	銅銭	径 25.0			2.0	祥符通宝 北宋銭	N161
452	旧河道2	銅銭	径 25.0			2.1	洪武通宝 明銭	N162
453	P12	銅銭	径 23.0			1.2	寛永通宝 古寛永	N160
454	SD 2	銅銭				13.8	不明 被熱受け5枚接着	N163



A区 西側全景 (西から)



E区 全景 (西から)



C区 全景 (西から)



E区 東側全景 (南西から)



D区 北側全景 (北西から)



F区 全景 (北から)



D区 南側全景 (南から)



B区 SI 1 (南西から)



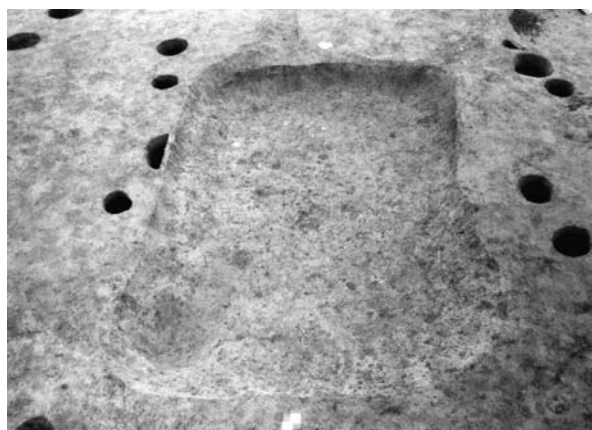
D区 SI 2 (南西から)



E区 SI 6 錫杖出土状況



B区 SI 3 (南西から)



E区 SI 8 (北から)



A区 SI 4 (南から)



E区 SI 9 (南から)



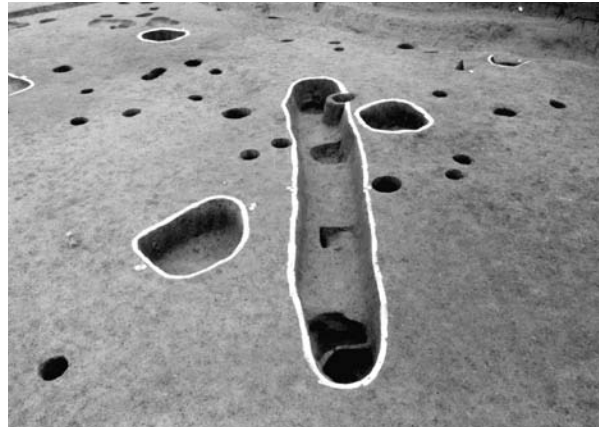
E区 SI 6 (北西から)



E区 SI 9～12、SD22・23 (南から)



E区 SI 12 石礫堆積状況



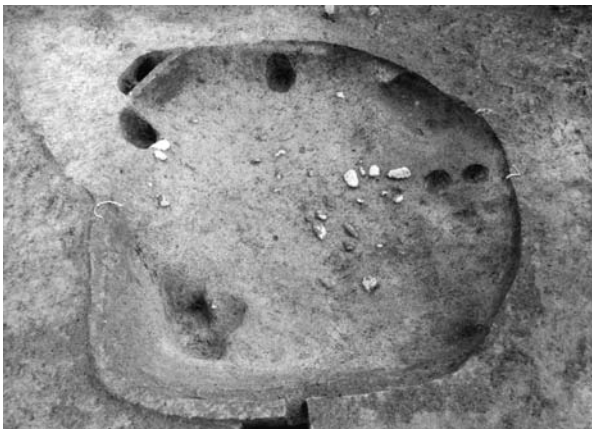
A区 SB1 (北西から)



D区 SI 13 (北から)



A区 SB2 (東から)



D区 SI 14 (西から)



A区 SB3 (南から)



D区 SI 15 (北から)



A区 SB4・5 (北から)



A区 SB5・6 (南から)



B区 SB16 (北から)



A区 SB8 (北から)



C区 SB30 (北から)



A区 SB10～12 (北から)



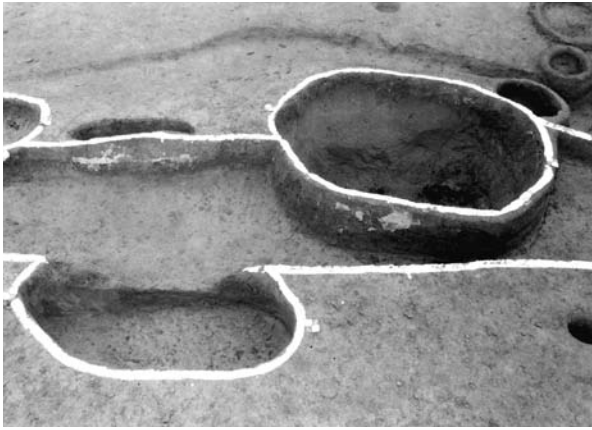
E区 SI 7、SB38・39、SK36・37 (南東から)



A区 SB11・12 (南から)



D区 SB44・45 (北から)



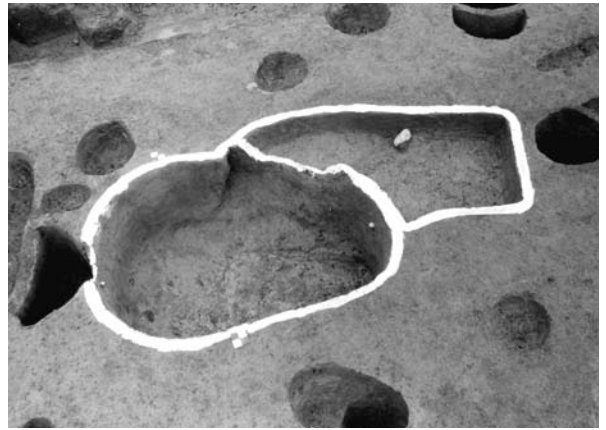
A区 SK3・9 (南から)



A区 SK15～17 (西から)



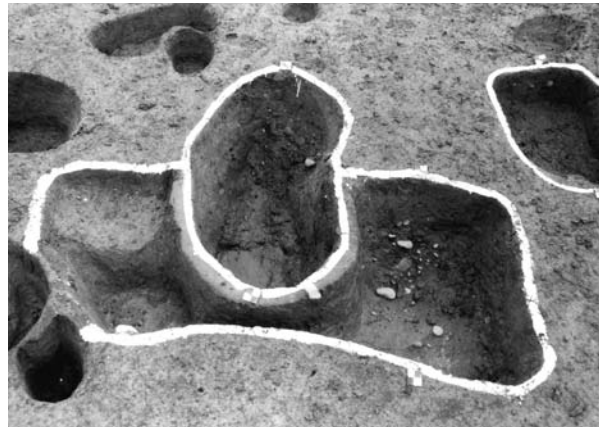
A区 SK3 珠洲焼すり鉢出土状況



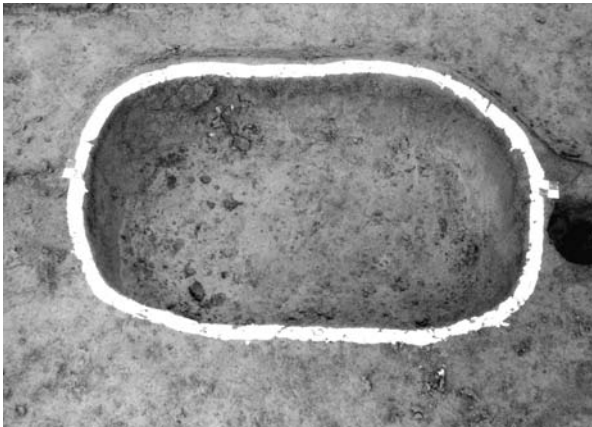
A区 SK18・19 (西から)



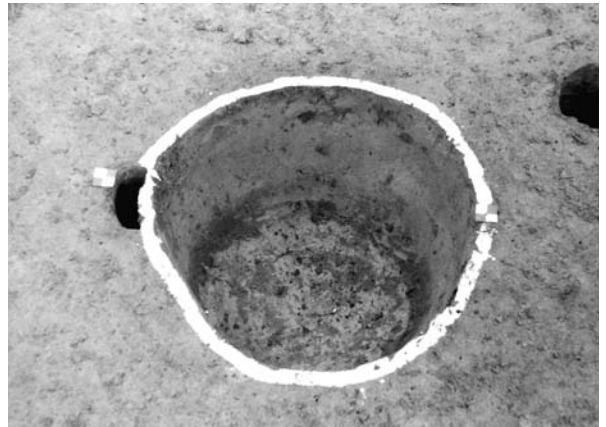
A区 SK4～8 (南から)



A区 SK20・21 (北から)



A区 SK12 (南から)



A区 SK24 (南から)



A区 SK26 (東から)



E区 SK35 (北東から)



A区 SK27 (西から)



E区 SK38 (南から)



C区 SK29 (南から)



D区 SK39 (北から)



C区 SK31 (東から)



D区 SK40 (西から)



D区 SK41 (北東から)



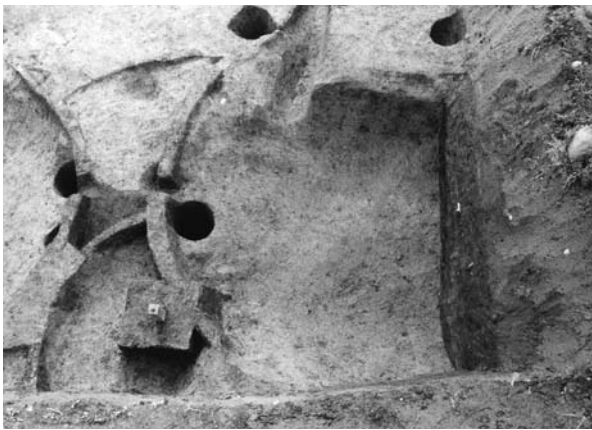
A区 SD1 (西から)



D区 SK44 (西から)



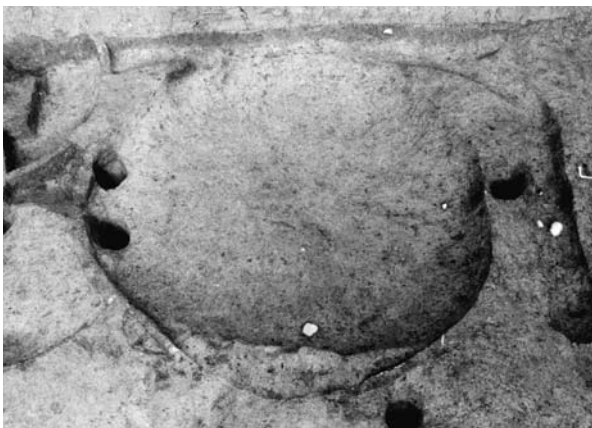
A区 SD2 (東から)



F区 SK45 (北から)



A区 SD4 (西から)



F区 SK46 (南から)



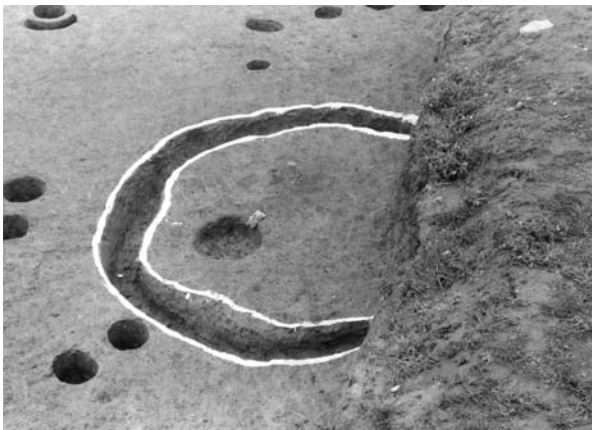
A区 SD5~8 (北から)



D区 SD9 (南から)



D区 SD28・29 (東から)



A区 SD11 (南から)



B区 SX1 (東から)



C区 SD13 (東から)



E区 P65 瀬戸焼瓶子出土状況



D区 SD27 (北西から)



A区 相輪出土状況



1



2



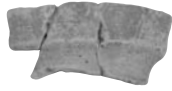
3



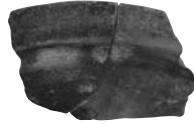
4



6



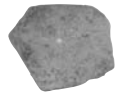
5



7



9



10



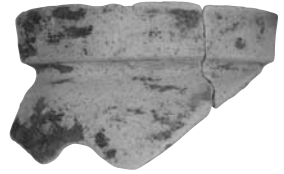
8



11



12



13



14



15



16



20



17



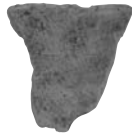
18



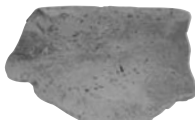
19



21



22



23



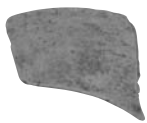
24



25



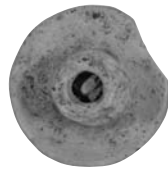
26



27



28



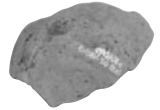
29



30



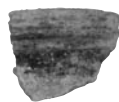
31



32



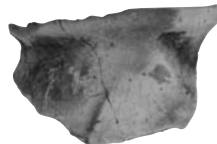
33



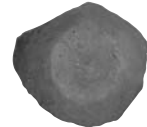
34



35



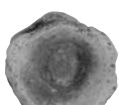
36



38



41



39



40



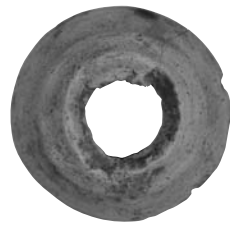
44



45



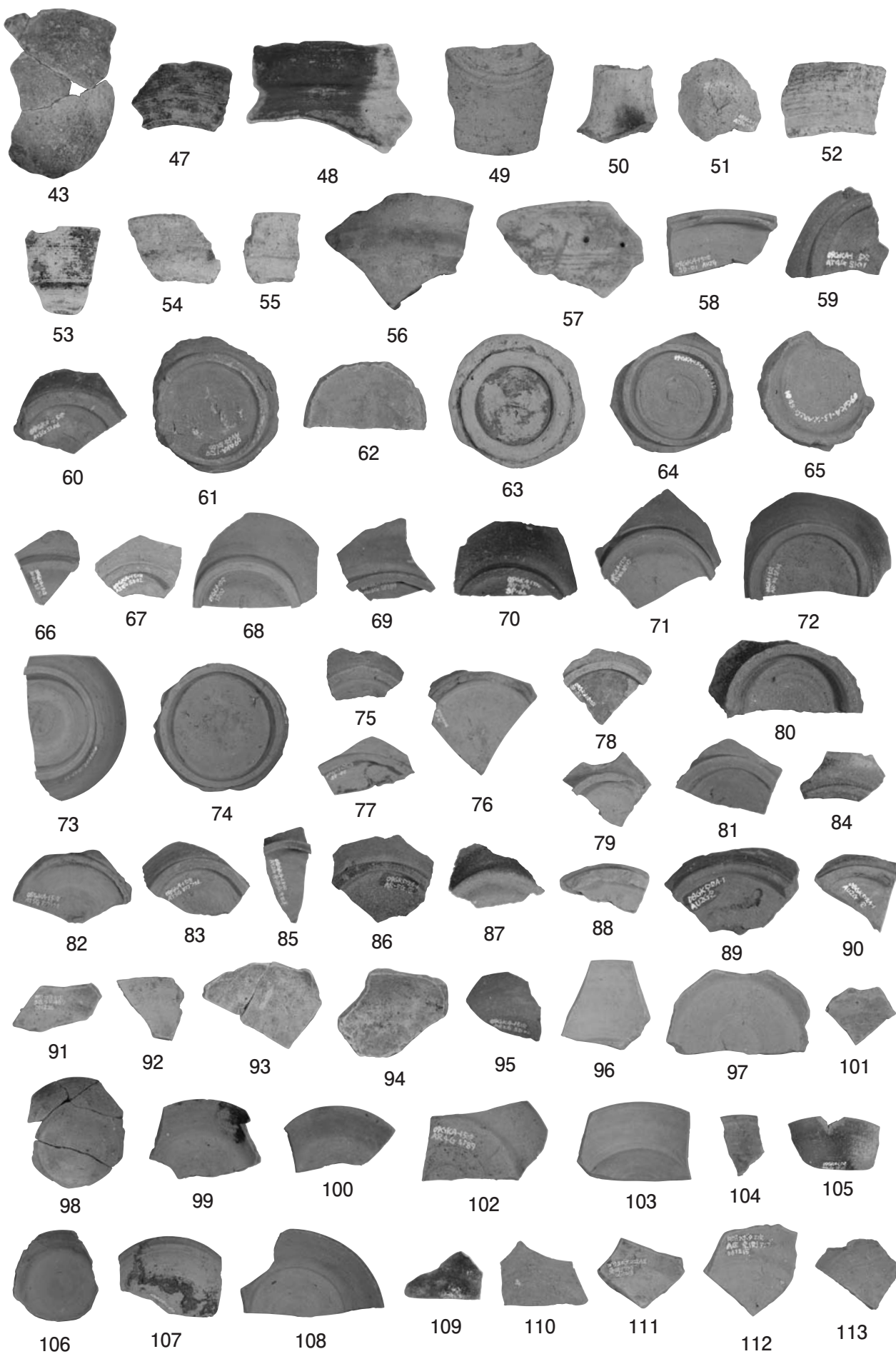
46

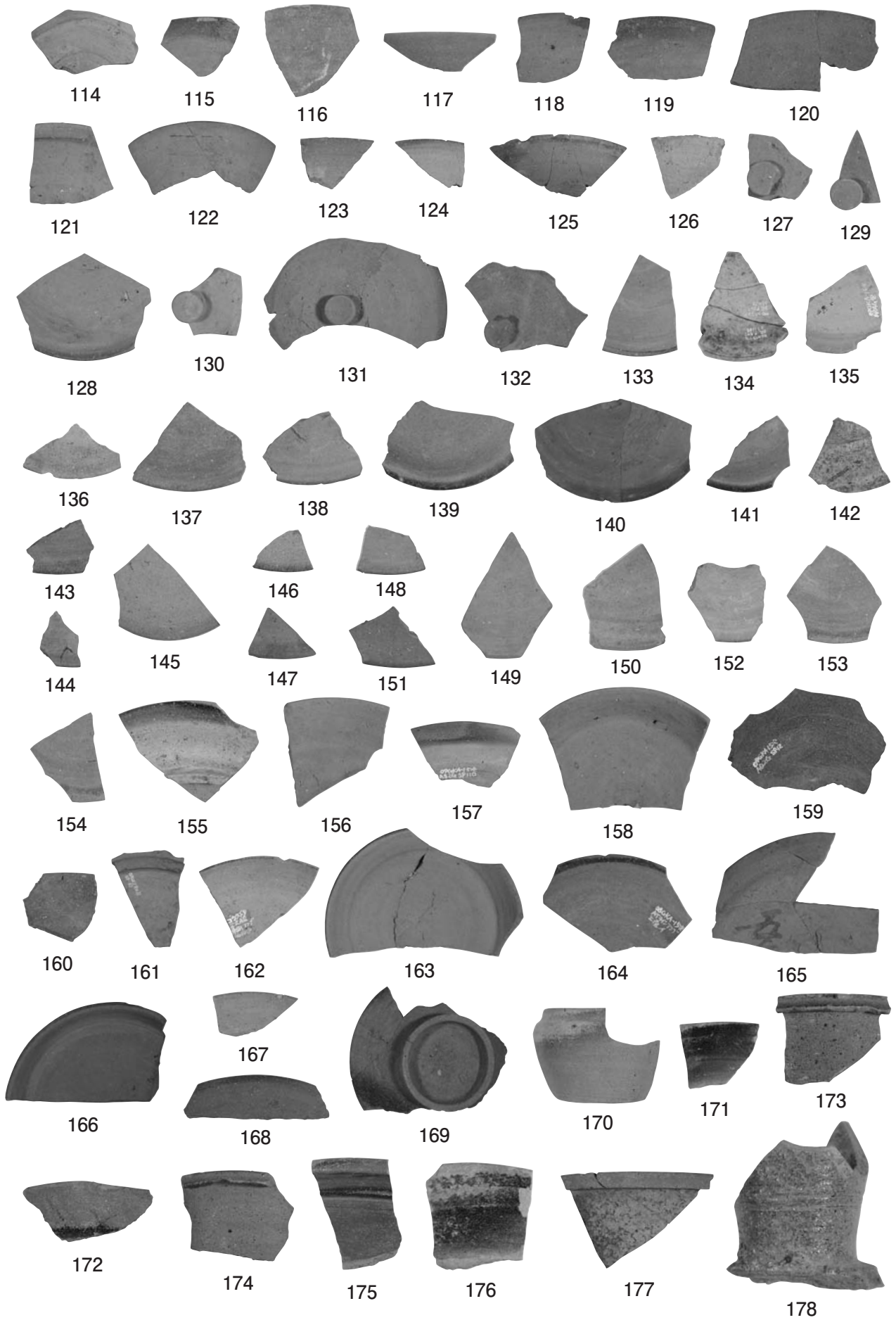


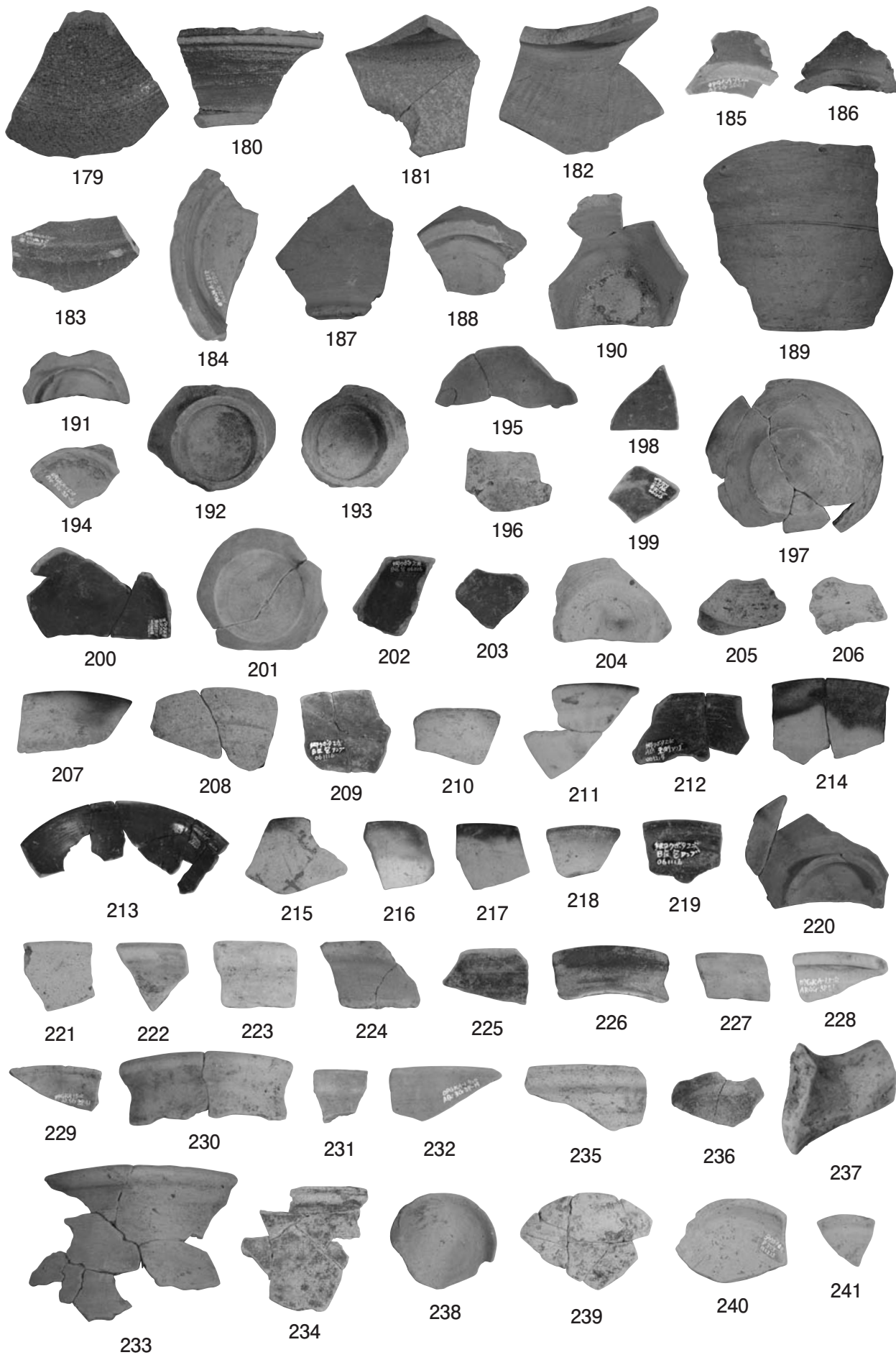
37

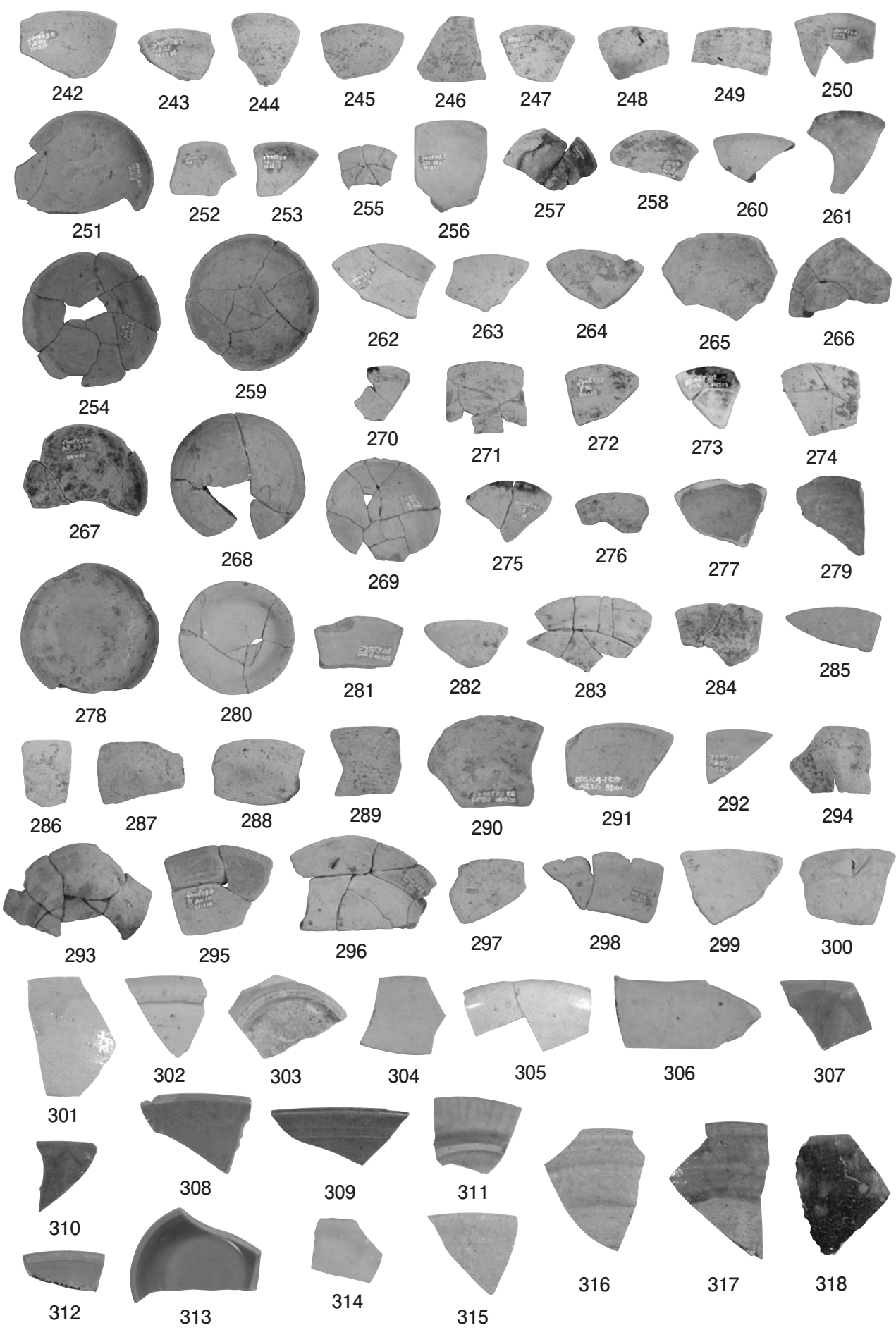


42











319



320



321



323



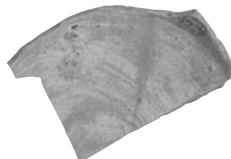
324



322



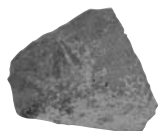
325



326



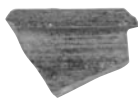
327



328



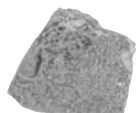
329



330



331



332



335



336



333



334



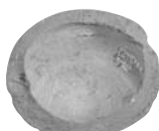
337



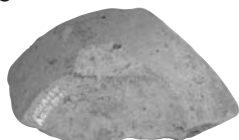
338



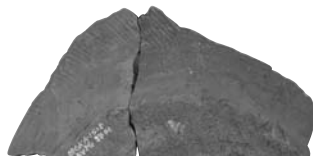
339



340



341



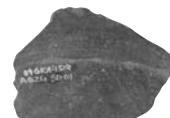
342



343



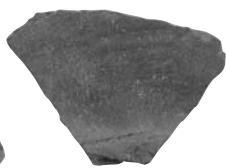
344



347



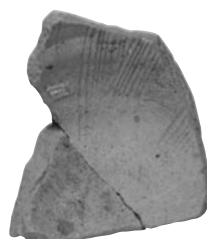
345



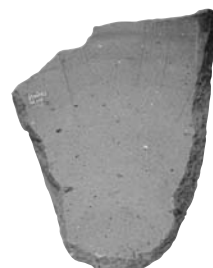
346



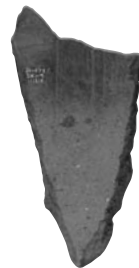
348



349



352



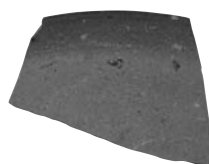
353



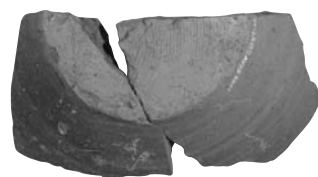
350



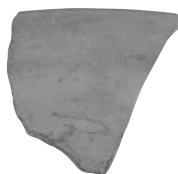
351



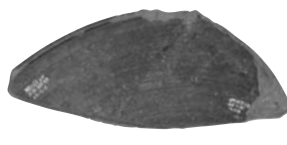
354



355



356



357



358



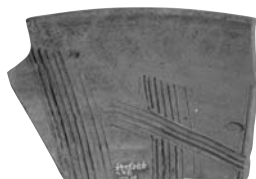
359



360



361



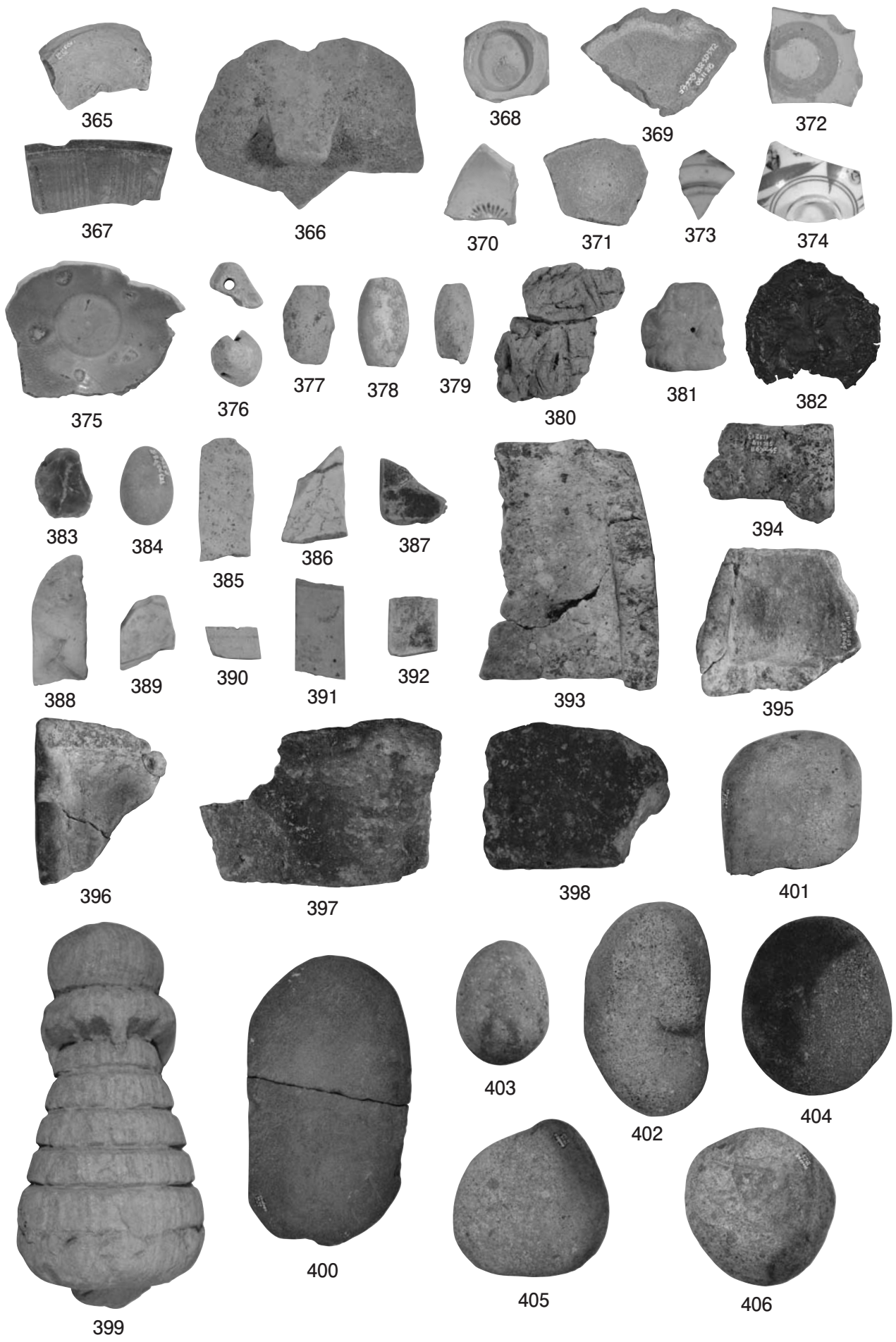
362

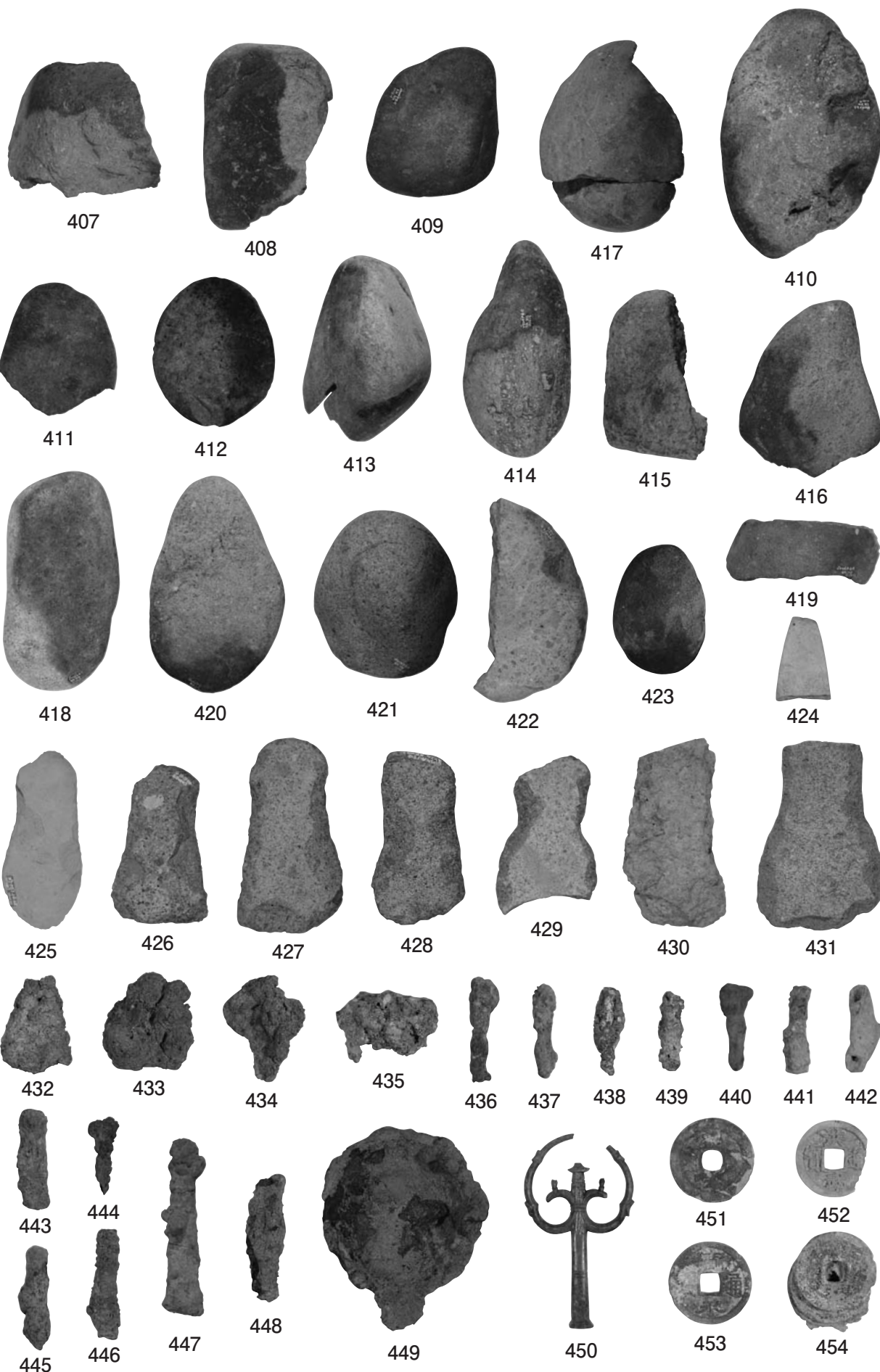


363



364





報告書抄録

ふりがな	ごうくぼたいせき							
書名	郷クボタ遺跡2							
副書名								
シリーズ名	北西部土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	9							
編著者名	田村昌宏							
編集機関	野々市市教育委員会							
所在地	〒921-8510 石川県野々市市三納一丁目1番地 TEL076-227-6122							
発行年月日	西暦 2014年3月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 〇'〇"	東経 〇'〇"	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
郷クボタ遺跡 2次調査	石川県 野々市市 郷町	17344	1201803	36° 32' 9"	136° 35' 20"	20061002 ～ 20070112	2,249	記録保存 調査
郷クボタ遺跡 3次調査	石川県 野々市市 郷町	17344	1201803	36° 32' 11"	136° 35' 20"	20070821 ～ 20070926	662	記録保存 調査
郷クボタ遺跡 5次調査	石川県 野々市市 郷町	17344	1201803	36° 32' 10"	136° 35' 18"	20080916 ～ 20090205	2,132	記録保存 調査
郷クボタ遺跡 8次調査	石川県 野々市市 郷町	17344	1201803	36° 32' 8"	136° 35' 19"	20111115 ～ 20111221	452	記録保存 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
郷クボタ遺跡 2次調査	集落	弥生 古代 中世	竪穴建物、竪穴状遺構、 掘立柱建物、土坑、溝		弥生土器、土師器、須恵器、 中世陶磁器			
郷クボタ遺跡 3次調査	集落	弥生 古代	竪穴建物、掘立柱建物、溝		弥生土器、土師器、須恵器			
郷クボタ遺跡 5次調査	集落 墓	弥生 古代 中世	竪穴状遺構、掘立柱建物、 土坑、溝		弥生土器、土師器、須恵器、 中世陶磁器、打製石斧、 宝塔相輪			
郷クボタ遺跡 8次調査	集落	中世	竪穴建物、掘立柱建物、 土坑、溝		中世陶磁器、錫杖			
要約	<p>弥生時代後期後半、古代、中世の集落跡を確認した。弥生時代では、竪穴建物3棟、布掘建物2棟を確認し、弥生土器や打製石斧をはじめとする石製品が出土した。遺構・遺物は調査区の東側に集中し、本調査区東方における発掘調査でも竪穴建物跡を複数確認していることから、本調査区は当該時期における集落の西端にあたと考えられる。</p> <p>古代では、15棟の掘立柱建物を確認した。建物は4間×2間、5間×2間の南北棟が主体で、複数回の建て替えがあった。また、建物の配置は計画的に建っており、倉庫群であった可能性をもつ。遺物は須恵器、土師器が主で、須恵器の一部には墨書が認められる。</p> <p>中世においては、散村形態をもつ集落跡を確認した。主要な遺構は竪穴状遺構12棟、掘立柱建物28棟である。掘立柱建物2棟と竪穴状遺構1基で構成された居宅地が散在した景観が復元できる。竪穴状遺構から、銅製の錫杖が見つかった。発掘調査で見つかった錫杖は、県内4例目、市内2例目である。集落廃絶後、調査地一角に土坑墓群を形成した墓地跡を確認した。</p>							

2014年3月28日 発行

北西部土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書9

郷クボタ遺跡2

著作権所有 石川県野々市市三納一丁目1番地

発行者 野々市市教育委員会

印刷者 石川県野々市市矢作三丁目18

高桑美術印刷株式会社